加須市埋蔵文化財調査報告書　第19集

埼玉県加須市

騎西城跡

第13次調査

－中近世編－

遺物 1

2026
加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書　第19集

埼玉県加須市

騎西城跡（きさいじょうあと）

第13次調査

－中近世編－

遺物 1

2026
加須市教育委員会



褐釉四耳壺（表）



褐釉四耳壺（裏）



(480･477)
断面

口絵２



祖母懐壺（表）



祖母懐壺（裏）



(70･516)
断面


1
57
80
81
98
106
221
259
301
302
307
316
449
474
317
422
465
473
475
476

白磁


194
195
324
649
470
471
472

青磁


41
56
99
100
107
108
165
109
167

染付

口絵 4


179
196
245
261
282
284
308
309
357
401
434
440
444
466
485
486
487
488
489

染付 2


6
111
168
169
170
223
281

Ⅲ









Ⅲ









天目茶碗

口絵 6



小坏



碗







擂鉢



瀬戸美濃大窯　Ⅲ１



瀬戸美濃大窯　Ⅲ２

口絵 8



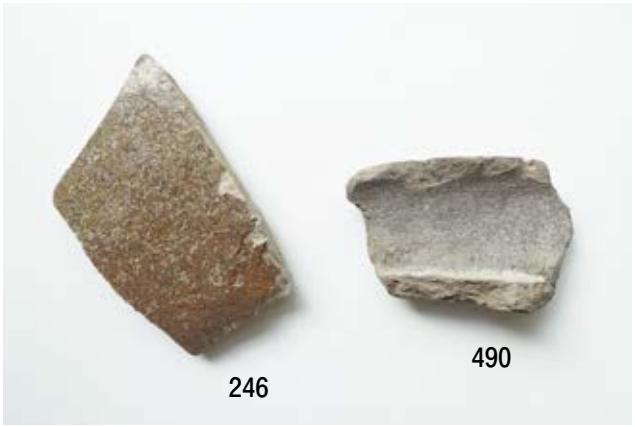
瀬戸美濃大窯　他



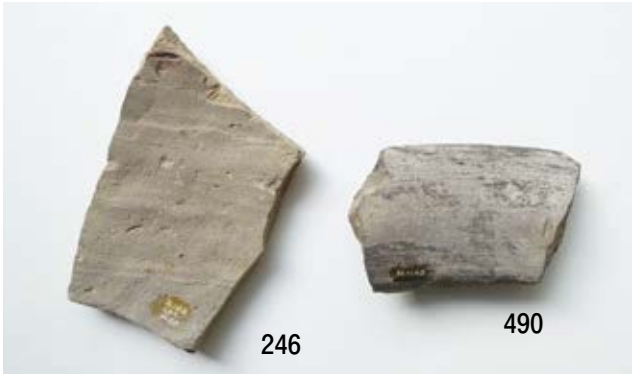
古瀬戸



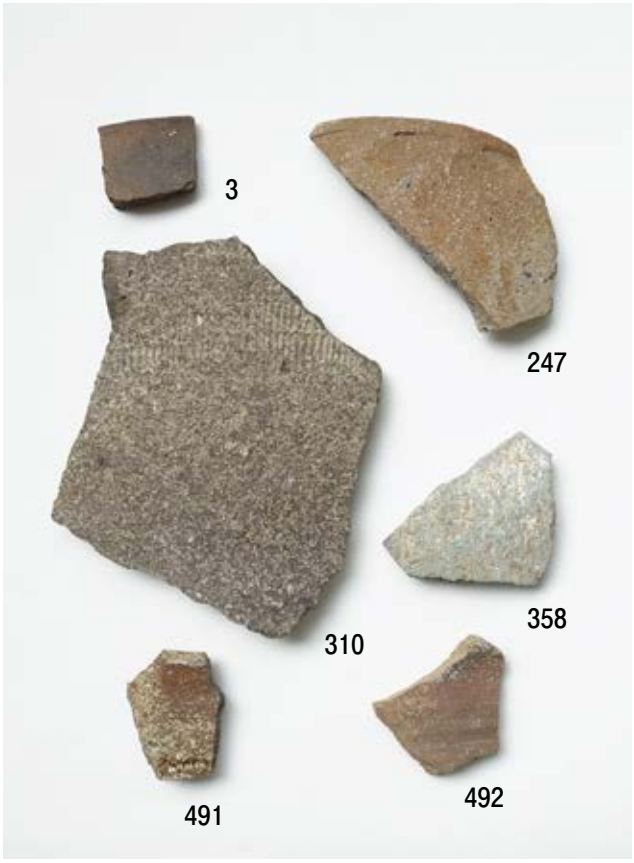
志戸呂・初山・肥前



渥美（表）



渥美（裏）



常滑



肥前磁器

口絵 10





墨書かわらけ



墨書かわらけ



かわらけ（白色物質付着）



かわらけ（スス・炭化物付着）



火鉢

口絵 12





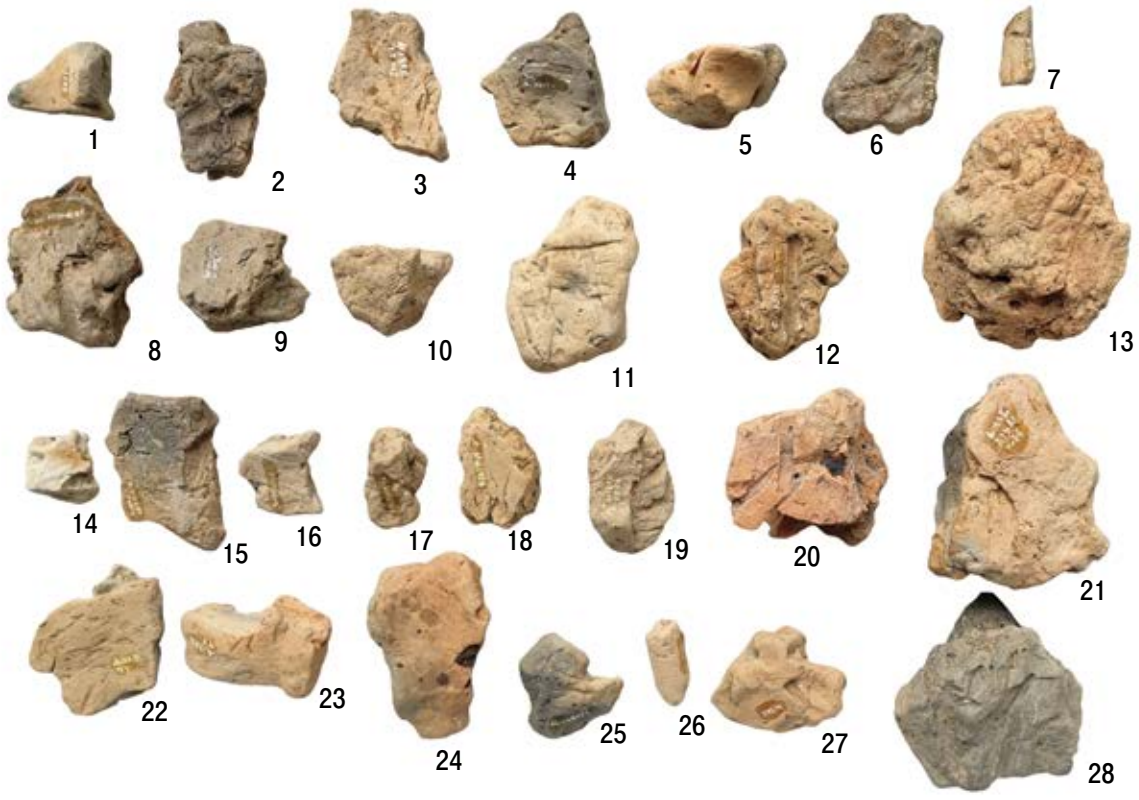
土製製品



平瓦（永福寺 1 期併行）

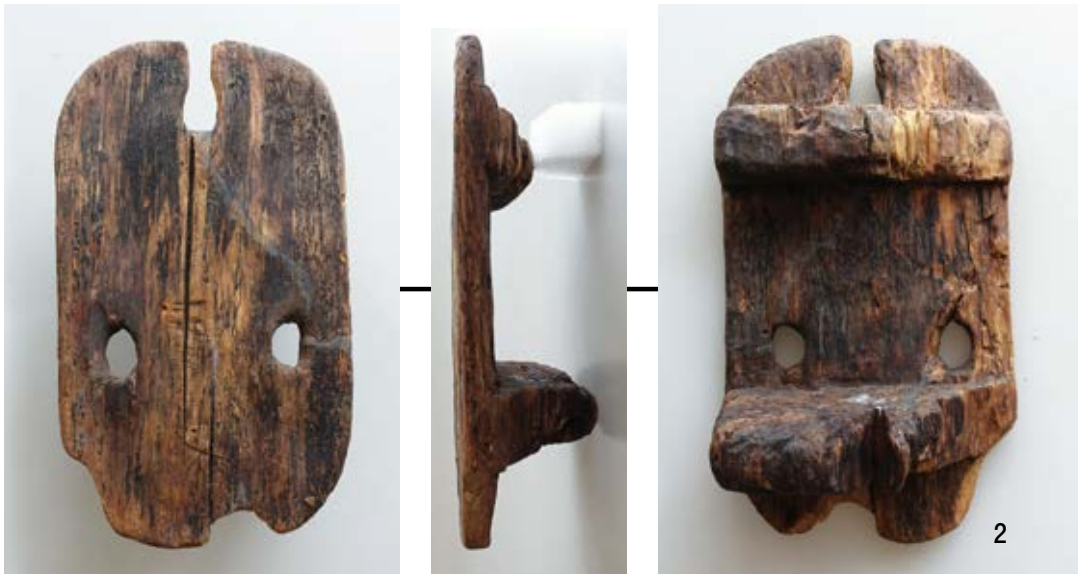


灯芯押さえ



土壁

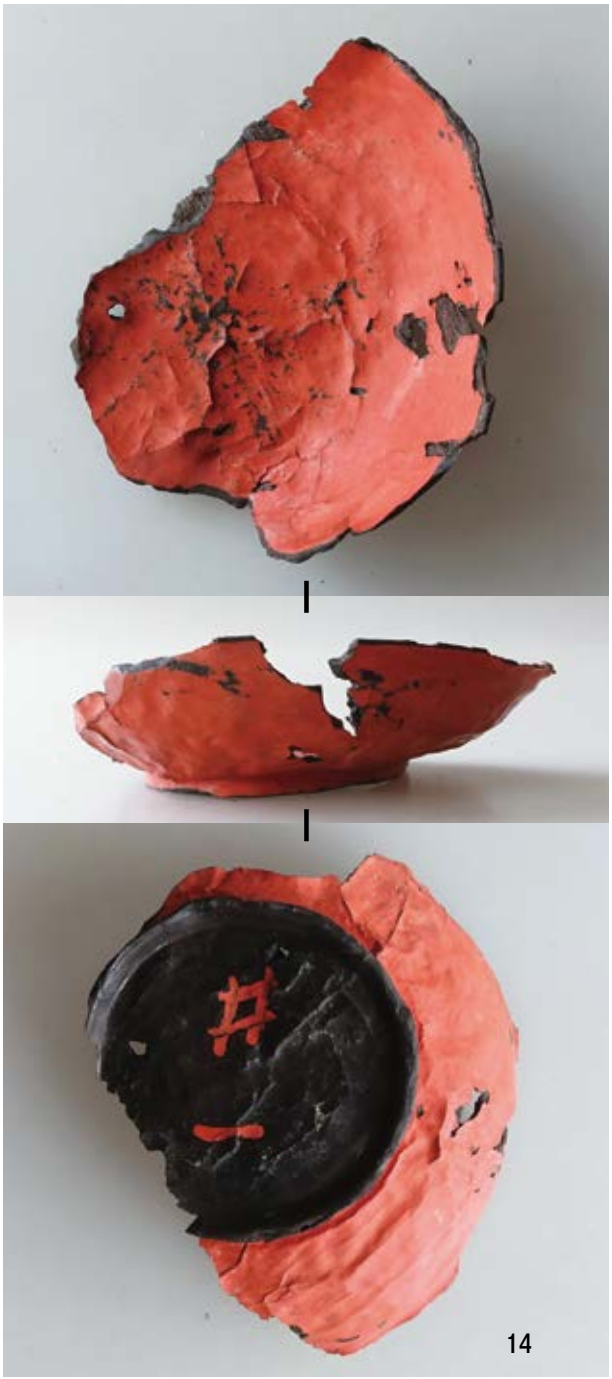






下駄

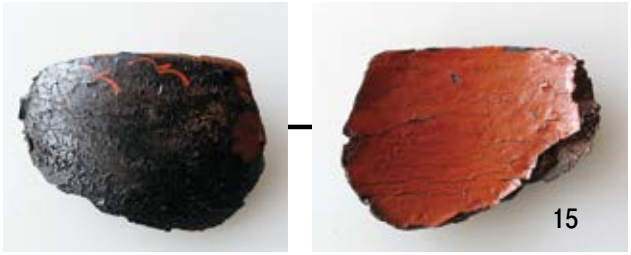
口絵 14

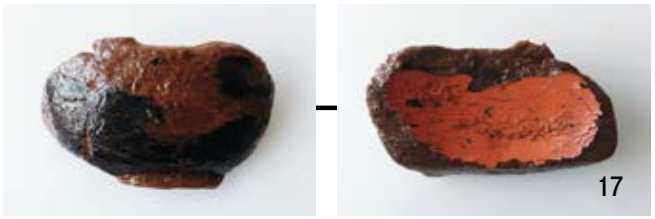


Ⅲ



椀





椀

漆器類



皿



椀



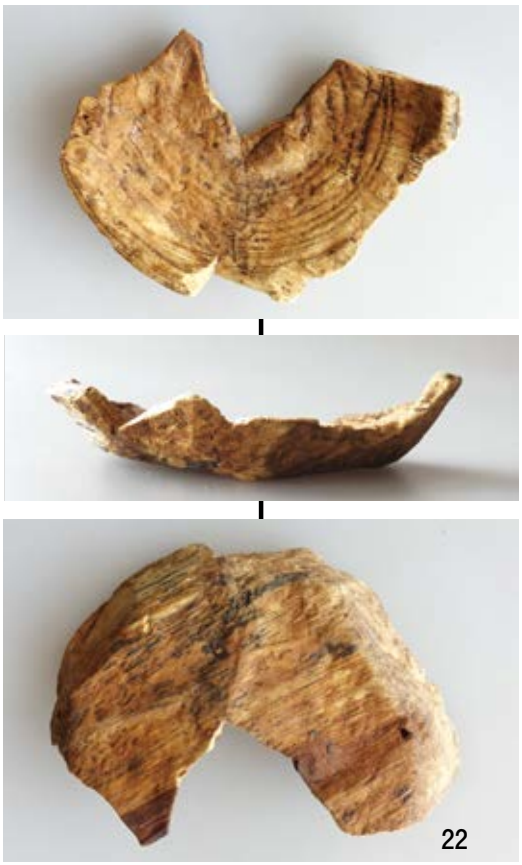
椀（取上直後）



椀

漆器類

口絵 16





白木皿





漆椀















漆椀

口絵 18



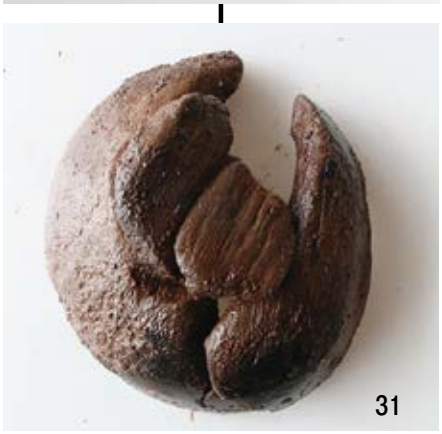






椀





椀



椀ヵ

（※写１～４は取上直後
第24表参照）



皿ヵ



椀ヵ



小坏ヵ



炭化椀ヵ

漆器類・炭化椀



杓子ヵ（取上直後　第24表参照）

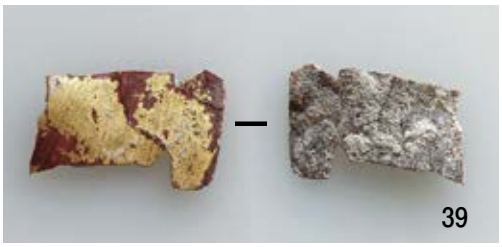


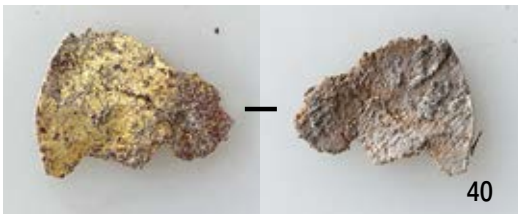
杓子状製品



白色物質付着板

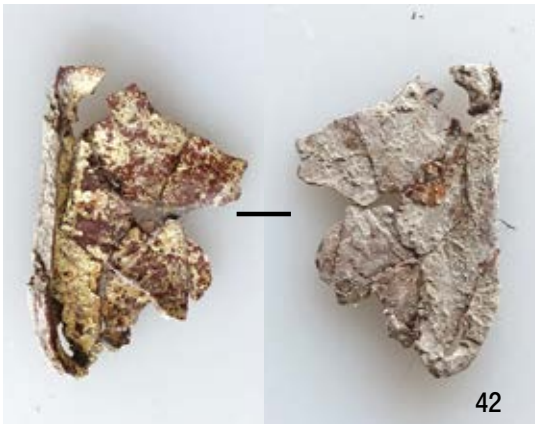
口絵 20

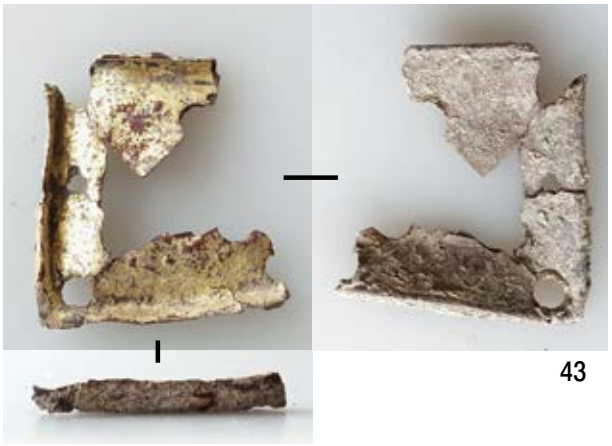




武具ヵ

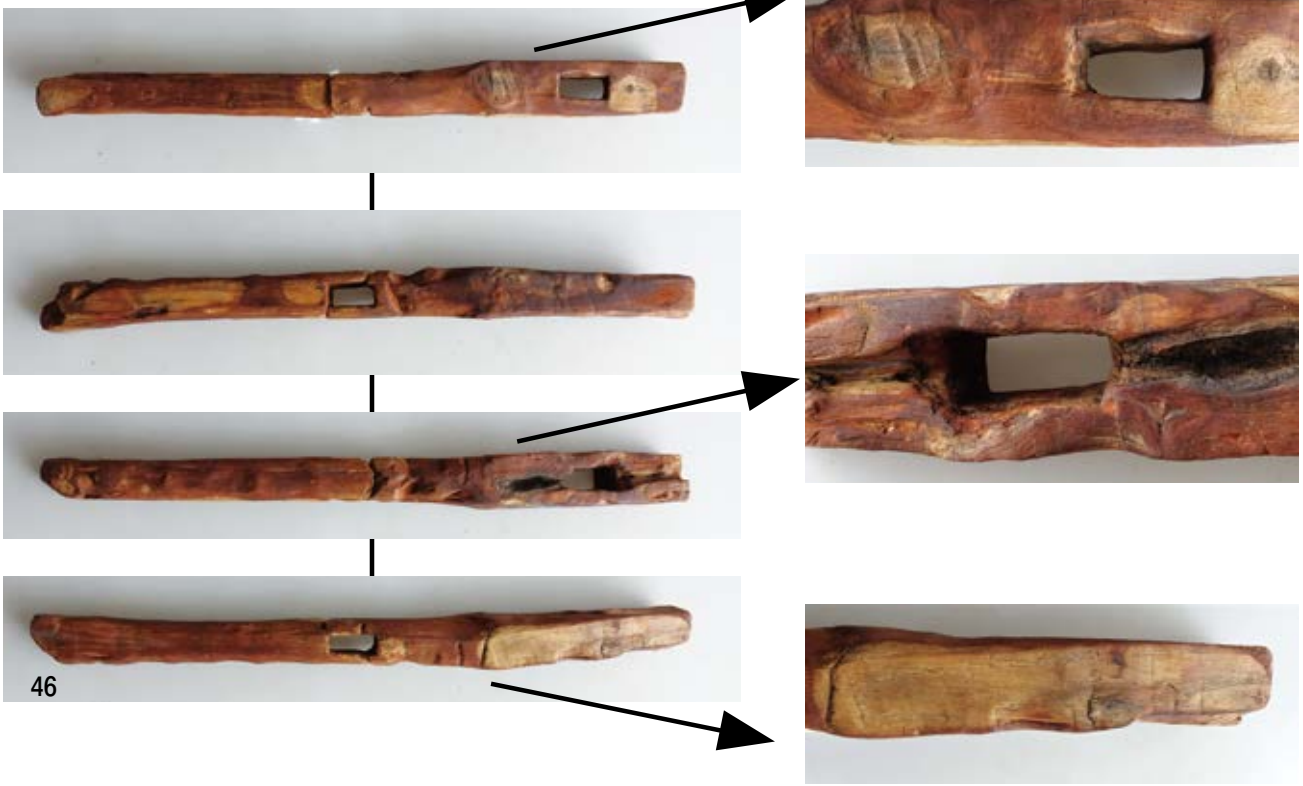






馬鎧

拡大



部材



火箸



皿（木質付着）



筒状製品

口絵 22

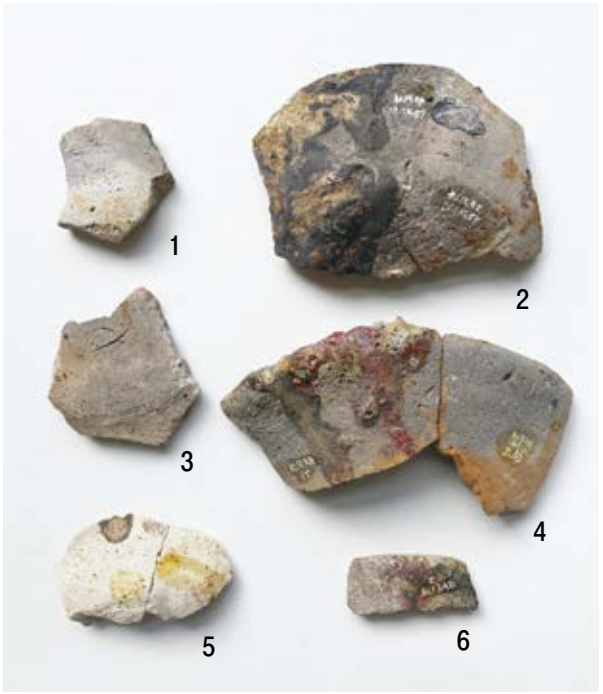


非鉄金属製品

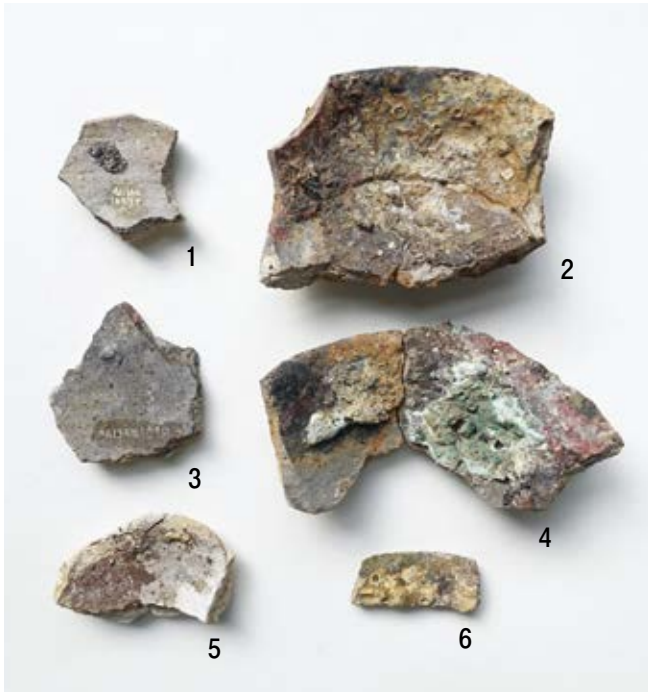


野沓

取付金具拡大

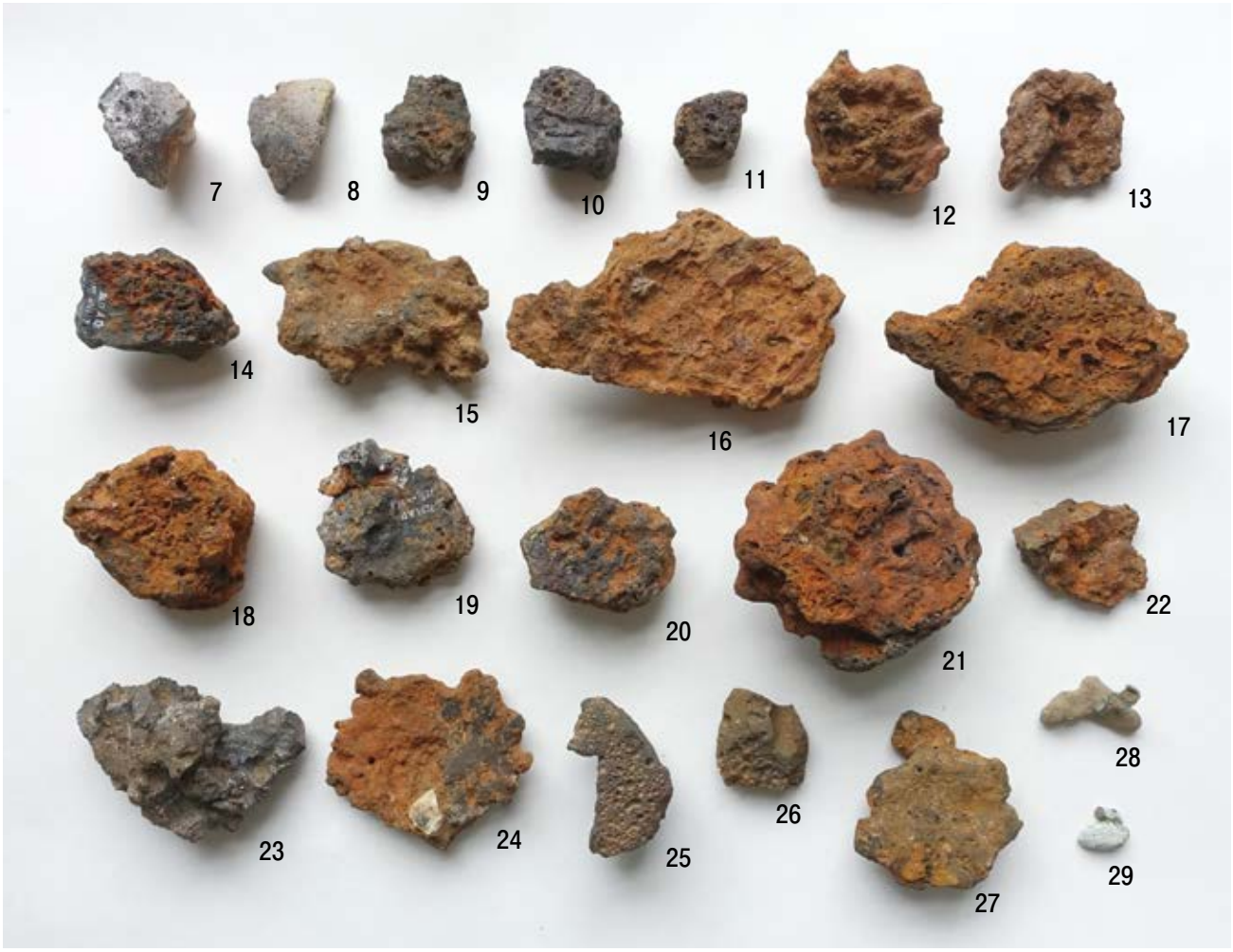


表

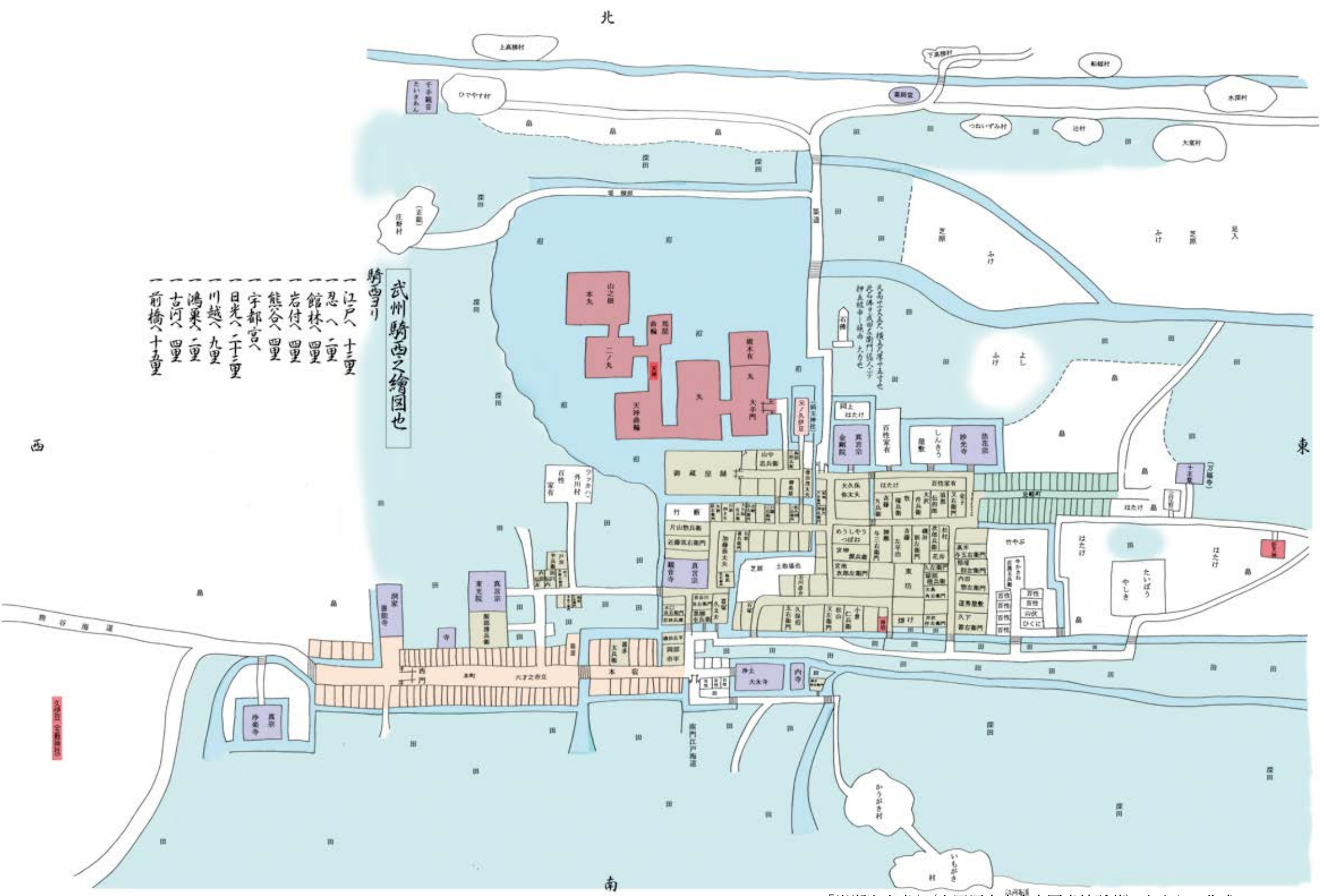


裏

熔融物付着土器



羽口（7・8） 滓（9～29）



口絵24　武州騎西之絵図

「岩瀬家文書」（小田原市立中央図書館所蔵）をもとに作成

序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯です。

市の南部に位置する騎西地域はその中央に騎西領48ヵ村の総鎮守といわれた久伊豆神社（玉敷神社）が鎮座し、源頼朝の上洛に従った多賀谷氏や道智氏という武蔵武士が居館を構えた歴史のある地域であります。

地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数所在しており、進行する都市化にともなう開発によりこれまで事前に発掘調査を実施しております。

今回の調査報告は、平成14年に実施された根古屋地区に所在する騎西城跡第13次調査の記録です。当調査区は城郭部に位置し、調査の結果、戦国時代の障子堀・橋の跡・炭化物層が検出され、墨書されたかわらけ・下駄や漆椀・武器や馬具などが出土しました。その多様で大量の遺物が一つの堀から出土したのは、騎西城の発掘調査の中でも希有な例です。

これらの調査成果は城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

令和８年３月

加須市教育委員会

教育長　小野田　誠

例　言

1　本書は埼玉県加須市騎西地域に所在する騎西城跡遺跡の発掘調査報告書である。時間・紙幅の都合で石製品・遺構については次年度報告する予定である。

2　発掘調査は騎西町生涯学習センター（現騎西文化・学習センター）建設に先立つもので、平成14年に実施したものである。

3　本書の刊行に際して次のように作業に当たった。

（1）執筆

第Ⅰ・Ⅱ章、Ⅲ章　第1・2・4・5節　嶋村英之

第Ⅲ章　第3節　木製品　嶋村薫

（2）写真撮影は、発掘調査時の遺構等は調査担当者が、木製品は嶋村薫、その他は嶋村英之のもと遺物整理者が行った。

（3）出土品の整理・図版の作成は嶋村英之の指示のもと、整理協力員・遺物整理者が行った。木製品の整理・図版の作成は嶋村薫が行った。

但し土器類の一部は島村範久の指示による（～平成23年度）。土器類の産地・時期については島村範久のデータを基に嶋村英之が確認・修正した。

『騎西町史考古資料編1』掲載のものは、本報告を優先する。土器類、木・金属製品の一部は『騎西町史考古資料編1』を修正転載した。

4　遺物の注記は以下の通り　A列障子堀→A列／1堀イかわらけ集中→1堀イ東／1堀ニほうろく集中→1堀ニ東／私13A区　南東→SE・南→S・南西→SW・西→W

A区B1堀は調査時1堀と命名し、遺物の取り上げ、撮影を行った。

5　遺跡の基準点測量及び空中撮影は中央航業株式会社（平成14年度）に、木製品樹種同定はパリノサーベイ株式会社（平成14～16年度）、木製品の保存処理は株式会社東都文化財研究所に委託した。

6　本書の編集は嶋村英之が行った。

7　資料は加須市教育委員会が保管している。

8　「騎西」城は「私市」城等と記すが武家屋敷が存在した時期の絵図により「騎西」城とする。

9　スラグという語は既報告では「金属加工に伴う非金属製のカス」を指していたが、スラグ(鉱滓)は本来「鉱石を溶錬する際に生じるもの」とされ、不適切な用語と考えられるため「金属加工滓」とする。

10　調査及び報告に際して下記の方々からご指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

（敬称略）

石川安司　豊田勝彦　故富田勝治

小田原市立中央図書館

調査組織

1　発掘調査組織（平成13・14年度）

調査主体者　騎西町教育委員会

担当者　島村範久（2月18日～4月23日）

主任　嶋村英之（4月9日～10月1日）

調査協力員

梓沢ユキ子　新井富子　荒井正博　五十嵐喜一郎
五十嵐米太郎　小川征子　河田昌子　栗原政子
斉藤昌三　佐藤ヨシ　清水静子　関口守男
舘野紀正　角田アサ子　長浜日出夫　馬場豊
福島利男　正木洋之　山崎芙美子　渡辺サヨ

整理協力員

上野由里子　嶋村薫　野口二三子　馬場タチ子
松村順子

2　整理組織（令和7年度）

整理主体者　加須市教育委員会
教育長　小野田　誠
生涯学習部　部　長　斉藤千恵美
生涯学習課　課　長　蓮見晴美
文化財担当　主　幹　坂本征男
主　事　高橋杜人
会計年度職員・一般事務補助員
嶋村英之

遺物整理者（会計年度職員・一般事務補助員）　　小川美津子　嶋村薫　長谷川恵　松村順子

凡　例

1　本文および表について

○（　）の数値は残存値である

○※は不確定な推定復元値

○煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。

□号堀→□堀。□号溝→□溝。□号土壙→□壙

○銭貨の文字は、欠損等しているが確定できるものは明記した。一部不明な文字は□とし上部より右回りに記載した。

2　挿図について

○縮尺は以下の通りである

遺物　土器類１／３～４（火鉢１／４）　木製品１／１～６　（馬鎧１／１・杭１／６）　金属製品１／１～２（弾丸・筒状製品・銭貨１／１）

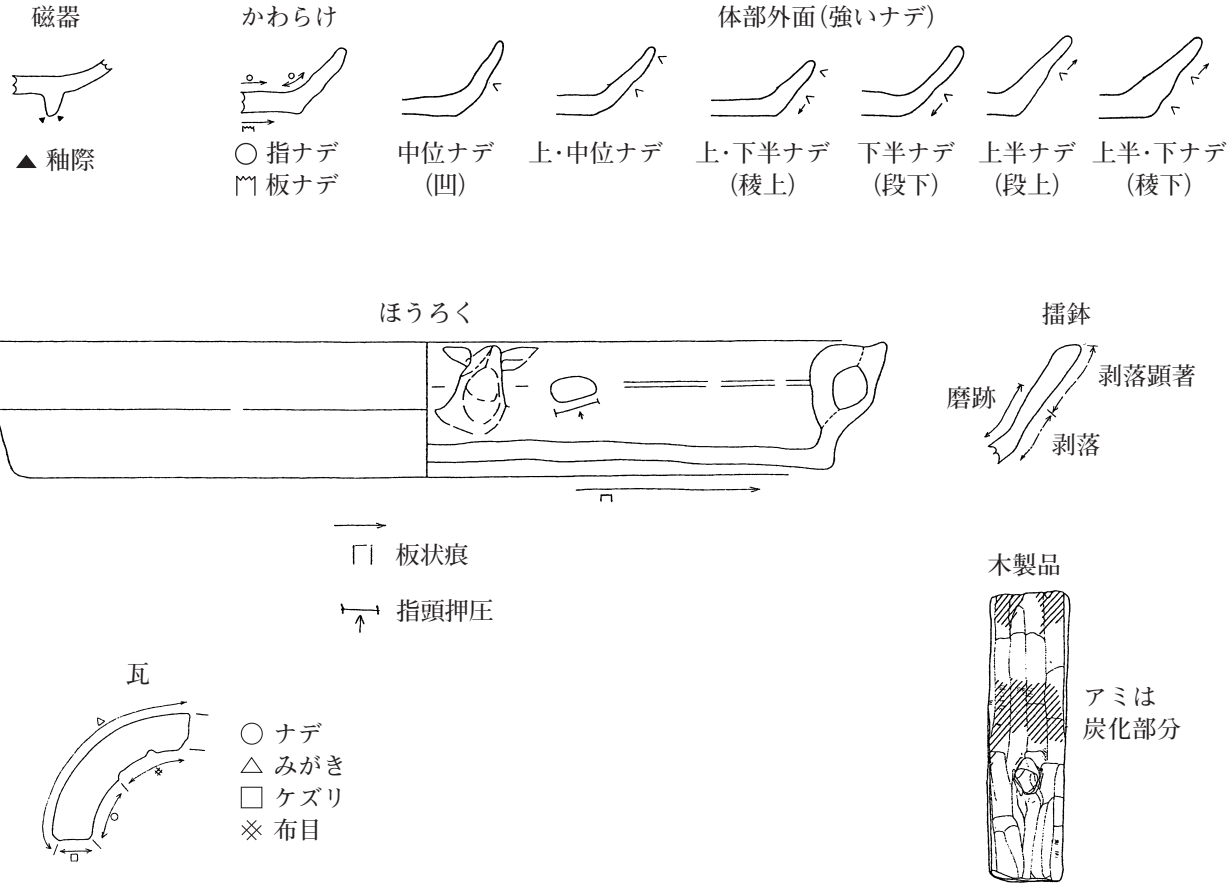
○遺物の図ナンバーは製品毎に通しとした。必要に応じて遺物のNo.に種別の略号を冠した。土器類＝土、木製品＝木、金属製品＝金、金属生産＝生

○B１・２号堀は、発掘調査時途中までは１・２号堀として遺物の取上などを行った。遺物注記は１・２堀。

○遺物図に付した記号は以下の通りである。

かわらけは、これまで体部外面の整形について「段は△」、「強いナデは▲」を使用していた。今回は詳細な観察により、その細別ではなく他の整形を含め再検討し下記凡例のとおり分類する。

※段下、段上は下半あるいは上半を凹むほど強くナデて、段が作出される。稜上は稜が上位にあり、稜下は同下位にある。分類不明瞭なものがあるが、今後に向け試みる。



目　次

序／例言／目次

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境
　第１節　遺跡の位置……１
　第２節　遺跡の地理的環境……２
　第３節　遺跡の歴史的環境……３
　第４節　これまでの調査……７

第Ⅱ章　調査の概要
　第１節　調査に至る経過……11
　第２節　調査区の位置……11
　第３節　遺構の位置……11

第Ⅲ章　出土した遺物
　第１節　土器類……19
　第２節　土壁片……69
　第３節　木製品類……73
　　（１）概要……73
　　（２）自然科学分析……96
　第４節　金属製品……102
　　（１）鉄製品……102
　　（２）非鉄金属……102
　　（３）銭貨……103
　第５節　金属の生産……118

図版／報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置（騎西地域）……１
第２図　城郭部の範囲……１
第３図　騎西城周辺の地形と城……２
第４図　騎西城を取り巻く勢力図……３
第５図　武州騎西之絵図……５
第６図　これまでの発掘調査地点……10
第７図　本報告調査区の位置……12
第８図　周辺の調査完掘図……13
第９図　遺構位置図（Ａ区）……15
第10図　遺構位置図（Ｂ区）……17
第11図　かわらけ分類図……21
第12図　土器類１（Ａ区Ｂ１堀１）……23
第13図　土器類２（Ａ区Ｂ１堀２）……24
第14図　土器類３（Ａ区Ｂ１堀３）……25
第15図　土器類４（Ａ区Ｂ１堀４）……26
第16図　土器類５（Ａ区Ｂ１堀５）……27
第17図　土器類６（Ａ区Ｂ１堀６）……28
第18図　土器類７（Ａ区Ｂ１堀７）……29
第19図　土器類８（Ａ区Ｂ１堀８）……30
第20図　土器類９（Ａ区Ｂ１堀９）……31
第21図　土器類10（Ａ区Ｂ１堀10）……32
第22図　土器類11（Ａ区Ｂ１堀11）……33
第23図　土器類12（Ａ区Ｂ１堀12）……34
第24図　土器類13（Ａ区Ｂ１堀13）……35
第25図　土器類14（Ａ区Ｂ１堀14）……36
第26図　土器類15（Ａ区Ｂ１堀15）……37
第27図　土器類16（Ａ区Ｂ１堀16）……38
第28図　土器類17（Ａ区Ｂ１堀17）……39
第29図　土器類18（Ａ区Ｂ１堀18）……40
第30図　土器類19（Ａ区Ｂ２堀・Ａ２堀１）……41
第31図　土器類20（Ａ区Ａ２堀２）……42
第32図　土器類21（Ａ区Ａ２堀３）……43
第33図　土器類22（Ａ区Ａ３ａ堀１）……44
第34図　土器類23（Ａ区Ａ３ａ堀２・Ａ３ｂ堀１）……45
第35図　土器類24（Ａ区Ａ３ｂ堀２）……46
第36図　土器類25（Ａ区Ａ３ｂ堀３）……47
第37図　土器類26（Ａ区ﾄﾚﾝﾁ・遺構外１）……48
第38図　土器類27（Ａ区遺構外２）……49
第39図　土器類28（Ａ区遺構外３）……50
第40図　土器類29（Ｂ区１堀・遺構外／土製品）……51
第41図　土壁片１……70
第42図　土壁片２……71

第43図　木製品類１（下駄１）……78
第44図　木製品類２（下駄２）……79
第45図　木製品類３（下駄３・桶）……80
第46図　木製品類４（桶類）……81
第47図　木製品類５（漆椀１）……82
第48図　木製品類６（漆椀２）……83
第49図　木製品類７（漆椀３・他）……84
第50図　木製品類８（漆椀４・他）……85
第51図　木製品類９（折敷・武具ヵ・馬鎧）……86
第52図　木製品類10（名称不明製品）……87
第53図　木製品類11（加工材１）……88
第54図　木製品類12（加工材２）……89
第55図　木製品類13（加工材３）……90
第56図　木製品類14（加工材４）……91
第57図　木製品類15（杭）……92
第58図　木製品樹種同定資料……98
第59図　金属製品類１（鉄１）……104
第60図　金属製品類２（鉄２）……105
第61図　金属製品類３（鉄３）……106
第62図　金属製品類４（鉄４）……107
第63図　金属製品類５（鉄５）……108
第64図　金属製品類６（非鉄金属１）……109
第65図　金属製品類７（非鉄金属２）……110
第66図　金属製品類８（非鉄金属３）……111
第67図　金属製品類９（銭貨１）……112
第68図　金属製品類10（銭貨２）……113
第69図　金属製品類11（銭貨３）……114
第70図　金属加工滓１……119
第71図　金属加工滓２……120

写真

写真１　木製品　顕微鏡写真１……99
写真２　木製品　顕微鏡写真２……100
写真３　木製品　顕微鏡写真３……101

表目次

第１表　発掘調査一覧表（騎西城跡・騎西城武家屋敷跡／区画整理道路）……８
第２表　発掘調査一覧表（騎西城跡／住宅他）…８
第３表　発掘調査一覧表（騎西城武家屋敷跡／住宅他）……９
第４表　遺構一覧表……17
第５表　土器類一覧表１……52
第６表　土器類一覧表２……53
第７表　土器類一覧表３……54
第８表　土器類一覧表４……55
第９表　土器類一覧表５……56
第10表　土器類一覧表６……57
第11表　土器類一覧表７……58
第12表　土器類一覧表８……59
第13表　土器類一覧表９……60
第14表　土器類一覧表10……61
第15表　土器類一覧表11……62
第16表　土器類一覧表12……63
第17表　土器類一覧表13……64
第18表　土器類一覧表14……65
第19表　土器類一覧表15……66
第20表　土器類一覧表16……67
第21表　土器類一覧表17……68
第22表　土壁片出土地点別重量集計表……71
第23表　土壁片一覧表……72
第24表　木製品一覧表１……93
第25表　木製品一覧表２……94
第26表　木製品一覧表３……95
第27表　木製品樹種同定結果……98
第28表　金属製品一覧表１（鉄製品）……115
第29表　金属製品一覧表２（鉄製品・非鉄金属）…116
第30表　金属製品一覧表３（銭貨）……117
第31表　金属加工滓出土地点別重量集計表……118
第32表　金属生産関連遺物一覧表……121

図版目次

図版１　出土遺物　土器類１（かわらけ１）
図版２　出土遺物　土器類２（かわらけ２）
図版３　出土遺物　土器類３（かわらけ３）
図版４　出土遺物　土器類４（かわらけ４）
図版５　出土遺物　土器類５（かわらけ５）
図版６　出土遺物　土器類６（かわらけ６）
図版７　出土遺物　土器類７（かわらけ７）
図版８　出土遺物　土器類８（かわらけ８）
図版９　出土遺物　土器類９（かわらけ９）
図版10　出土遺物　土器類10（かわらけ10）
図版11　出土遺物　土器類11（かわらけ11）
図版12　出土遺物　土器類12（かわらけ12）
図版13　出土遺物　土器類13（かわらけ13）
図版14　出土遺物　土器類14（かわらけ14）
図版15　出土遺物　土器類15（かわらけ15）
図版16　出土遺物　土器類16（かわらけ16）
図版17　出土遺物　土器類17（かわらけ17）
図版18　出土遺物　土器類18（かわらけ18）
図版19　出土遺物　土器類19（かわらけ分類）
図版20　出土遺物　土器類20（ほうろく１）
図版21　出土遺物　土器類21（ほうろく２）
図版22　出土遺物　土器類21（ほうろく３）
図版23　出土遺物　土器類22（火鉢）
図版24　出土遺物　土器類23（在地擂鉢）
図版25　出土遺物　木製品１（下駄）
図版26　出土遺物　木製品２（桶類）
図版27　出土遺物　木製品３（折敷・他）
図版28　出土遺物　木製品４（加工材１）
図版29　出土遺物　木製品５（加工材２）
図版30　出土遺物　木製品６（加工材３）
図版31　出土遺物　木製品７（加工材４）
図版32　出土遺物　木製品８（杭１）
図版33　出土遺物　木製品９（杭２）
図版34　出土遺物　木製品10（杭３・ヒョウタン）
図版35　出土遺物　金属製品１
図版36　出土遺物　金属製品２
図版37　出土遺物　Ｘ線写真



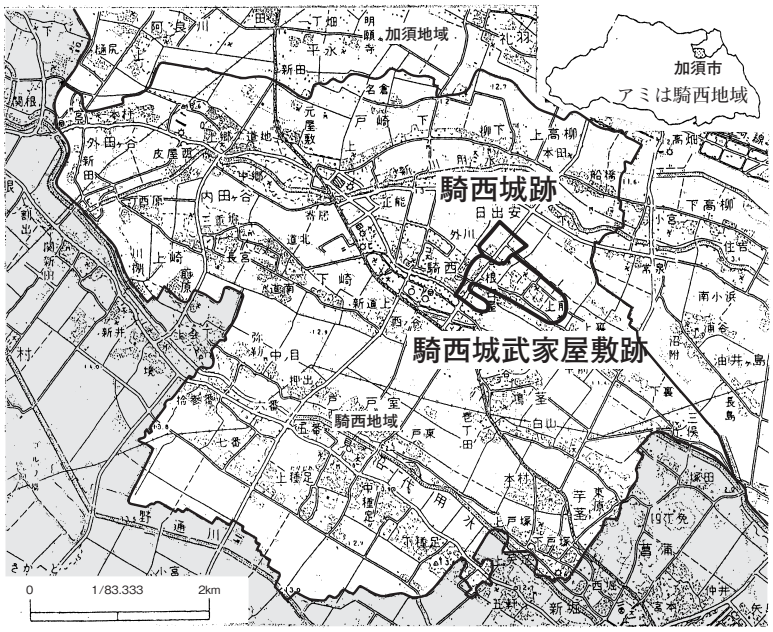
調査区周辺（南東より）

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境

第１節　遺跡の位置

騎西城跡・騎西城武家屋敷跡は、埼玉県北東部に位置する加須市の南にあたる騎西地域のほぼ中央に所在する。

当遺跡は、戦国から江戸時代初めの城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」（以下『絵図』）（口絵24）などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。騎西城跡は、騎西文化・学習センターが南西隅に位置し、遺跡の範囲は、東西450ｍ、南北300ｍである。武家屋敷跡は城郭の南東に広がり、加須鴻巣県道から東へ1.2km、南北は約0.5kmである。行政上では加須市根古屋、牛重、騎西に所在する（第１図）。旧小字では根古屋は道上・道下・中宿・前、牛重は上裏・上前・中前、騎西は町並に分けられる。



第１図　遺跡の位置（騎西地域）

また、明治９年の「改正地引番号全図　根古屋」の水田部分を堀（網掛け部分）とすると、全図作成当時の城郭跡が浮かび上がる。（黒塗りは土手・土揚場＝中央は土塁跡）。『絵図』の形状と合わせて現在の都市計画図に落とすと、土塁の崩壊による拡大などが想定されるが、おおよその城郭部の形状・配置が推定できる（第２図）。

城郭部は、微高地が沼に張り出した一角をその範囲とし、南に堀を巡らせ城下との境となし守りを固めている。



改正地引番号全図　根古屋　　都市計画図

第２図　城郭部の範囲

第２節　遺跡の地理的環境（第３図）

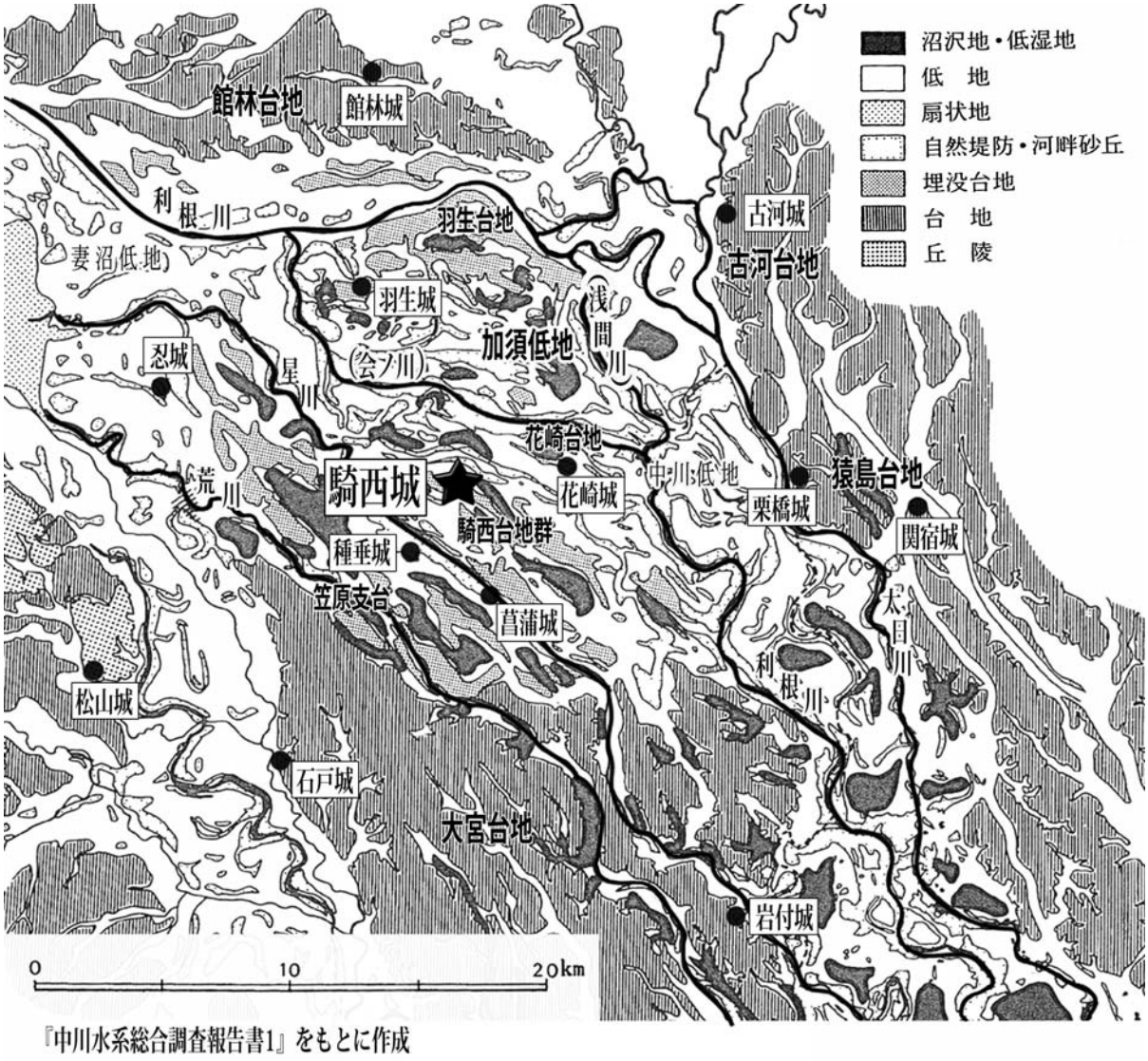
騎西城跡は、大宮台地（北足立台地）の北東、加須低地の南に位置する騎西台地群主部に所在する。騎西台地群は比高差の無い微高地で、大宮台地笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地である。加須低地北の羽生台地・東の花崎台地も騎西台地群と同様の微高地で、いずれもかつて館林－大宮台地の一部であった当地周辺の台地が関東造盆地運動によって沈降したものである。その上に利根川などの氾濫による土砂が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。現在、自然堤防や埋没ローム台地が微高地となっている。

これまで、騎西地域内で発掘調査されている原始から古代までの住居跡等が低地に埋没し、中世城館跡が微高地上にあることから、古代から中世初期までに騎西城段階の景観が形成されたものと思われる。

また、騎西城周辺の地形を広域に見ると、北方、西から東に妻沼・加須・中川低地が広がり、その北に館林台地、東に古河台地・猿島台地、南西には大宮台地が所在する。

戦略的交通路としてみると、騎西城は、大宮台地の北東端にあり、大宮台地から北と東の台地へつながる低地の入口であり、また館林・古河・猿島台地から低地を渡った到着点にあたる。

参考　1975　埼玉県企画財政部土地対策課　利根・県南開発地域　土地分類基本調査　鴻巣



『中川水系総合調査報告書1』をもとに作成

第３図　騎西城周辺の地形と城

第３節　遺跡の歴史的環境（第４図）

文献によると騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永９年（1632）廃城となり姿を消す。

【享徳の乱】

享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に康正元年（1455）崎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものであろう。当初上杉方の先鋒であったと思われるが、扇谷上杉氏家宰の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのであろう。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。謙信が関東の足掛かりとした羽生城は、利根川（現会ノ川）を挟み騎西城の間近にあり、騎西城は２度の戦火を被っている。

「伊藤本文書」では、永禄６年（1563）、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落させたとある。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から北条氏康との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活により、再び北条・上杉の合戦が再開された。天正２年（1574）には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・騎13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行ったものであろう。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行っているものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備えており、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。



享徳の乱初期



氏康・謙信の頃（永禄・天正年間）

第４図　騎西城を取り巻く勢力図

騎西城周辺年表

康正元年（1455）　足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・庁鼻和氏など）を攻略する「武家事記」
文正元年（1466）　足利成氏、南多賀谷（田ケ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ「賜蘆文庫文書」
文明３年（1471）　上杉方と対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり「鎌倉大草紙」
文亀２年（1502）　騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）の雲祥寺を再興「武蔵国郡村誌」
年不詳　忍城（行田市）主成田親泰の子助三郎（朝興）を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
天文８年（1539）　騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
永禄３年（1560）　長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略
永禄４年（1561）　騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する。
永禄６年（1563）　北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略「伊藤本文書」
永禄12年（1569）　上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
天正２年（1574）　上杉謙信、羽生の関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城を焼き払う「名将之消息」
天正４年（1576）　成田泰喬（あるいは氏長）、家臣に知行を宛がう
天正５年（1577）　小田大炊頭、古河公方足利義氏への年頭の挨拶を行う「喜連川文書案」
天正６年（1578）　小田大炊頭、古河公方足利義氏への年頭の挨拶を行う「喜連川文書案」。謙信没
天正18年（1590）　徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西領二万石を与える
文禄２年（1593）　松平康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる
慶長７年（1602）　この頃大久保忠常、騎西領二万石を拝領する
慶長16年（1611）　忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西領二万石を拝領する
慶長19年（1614）　大久保忠隣改易となり小田原・羽生を没収、孫の騎西城主忠職は閉門に処せられる
寛永２年（1625）　忠職、赦免される
寛永９年（1632）　忠職、三万石加増され、美濃の加納へ転封し五万石を拝領する。騎西城廃され、代官所が置かれる

武州騎西之絵図（第５図・口絵24）

本図は、武州騎西之絵図（岩瀬本　注１）をトレースし、不明瞭な箇所は故冨田勝治氏に判読して頂いたもので、解説の便宜上着色した。（城郭＝赤紫色、武家屋敷＝黄緑色、足軽屋敷＝緑色、町場＝橙色、寺＝群青色、神社＝赤色、沼・堀・水路＝水色、田＝青色）

絵図原本は、横113cm縦76cm、大久保忠常・忠職父子が騎西城城主であった慶長７年（1602）～寛永９年（1632）の間に作成されたもので、久伊豆神社（玉敷神社）の移転や家臣名から寛永初期と推定されている（注２）。

図は上が北である。城及び武家屋敷・町場の北と南は田・ふけ(深け)と低湿地であり、島状台地いっぱいに占地している。武家屋敷の西には町場の裏（北）まで水路が巡り（浅い谷が入り）西限とする。

城郭は、絵図中央やや上にあり沼に張り出す微高地を利用している。山之根・本丸、二ノ丸、馬屋曲輪、天神曲輪、丸、丸と６つの曲輪を連郭状に構成し、本丸を一番奥（西北）に置く。天神曲輪北部に天神があり、大手門は東端に位置する。城は沼に囲まれる。

城郭すぐ南には御蔵屋舗・御馬屋が配置され、東の大手門前には町場の西端に移転した久伊豆社の故地がある。その北方に立つ「石佛」は「凡（およそ）高サ一丈五尺　横五尺厚サ五寸之此石仏ヲ　成田左衛門佐一人ニテ押立被申候　大力也」と成田左右衛門佐（泰喬ヵ）にまつわるものと伝えている。城郭の南から東方に武家屋敷が広がる。武家名記名地が47軒、寺（金剛院・妙光寺・観音寺）、神社（神明）、宗教関連施設ヵ（めうしょうつぼねー名匠局ヵー・東坊・道秀屋敷・しんきうー鍼灸ヵー屋敷）の他に、百姓家・畑・竹藪・土取場・芝原・無記名地30区画がある。また、武家地の東に柵を介して足軽町が38軒(別の絵図では37軒)、足軽町の南に庄屋・百姓・山伏・比丘尼の一角、さらに十王堂（別図には左に高尾野）・新天神・たいぼうやしきー大房屋敷ヵーが見られる。田・水路を挟んだ南には大永（英）寺、百姓家、武家地３軒があるが町場の東端ともいえる。家老である服部清兵衛、杉浦平太夫、加藤孫太夫のうち服部は町場東光院の南、加藤は観音寺の東に屋敷があり、町場・武家屋敷の要所に居を構える。

武家屋敷に入る道は、南からは町場の東端から北

へ橋を渡り観音寺に向かう道、西からは東光院方向から橋を渡り観音寺の南を抜ける道、北東からは足軽町を経由し柵を抜ける道、北からは元ノ久伊豆と金剛院との間の門をくぐる道である。いずれも門・柵・橋を経由する。東からの2本の道は、門・柵が見られず防御が手薄の感がするが、道を迂回させ足軽町・牛かさね庄屋を配置し、水路を巡らせ障壁としたか。武家屋敷の主要道は、南門をくぐり、観音寺から屈曲を繰り返し、武家屋敷を東西方向に縦断し、足軽町へ至る道が相当しよう。中程で北へ分かれ御馬屋・御蔵屋舗・大手門へつながる。

堀・水路について見ると、御蔵屋舗の南の堀が北へ曲がり城郭外縁部の南東部外堀とし、城郭を二重の堀で囲むこととなる。この堀の屈曲部から堀は南に向かい、城の南を南北に区画する。また、金剛院から南に延び主要道を切る堀、庄屋の東に城下との境となる堀を南北に巡らせる。

町場に目を転じると、東の本宿には町屋が17軒(別の絵図では22軒)、水路西の本町には町屋58軒（同59軒)、東端に籠屋があり、南門・西門が設けられ六歳市が立つことを記す。町場には寺（東光院・善能寺・浄楽寺・寺）や神社（久伊豆）が周囲に配され、武家地が町場内やその北側に8軒見られる。町場の南門から江戸海道、西門からは熊谷海道につながる。

本図左の空間には、表題「武州騎西之繪圖也」、「騎西より　江戸へ13里、忍へ2里、館林へ4里、岩付へ同、熊谷へ同、宇都宮へ（記載無し)、日光へ23里、川越へ9里、鴻巣へ2里、古河へ4里、前橋へ15里」とある。

「旧大字根古屋」の範囲は明治9年作成の「改正地引番号全図　根古屋」と比較すると、ほぼ武家屋敷の範囲ではある。しかし東側の牛重地区との境は北のしんきう屋敷の東から南は東坊の東あたりまでを結ぶラインで、必ずしも絵図にある武家屋敷の範囲とは一致しない。廃城後のラインの変更かあるいは絵図以前の武家地(宿などを含むか)の範囲を示すものか。

現在、騎西城跡・武家屋敷跡西部は区画整理が完了し景観が一変したが、城・城下・町場の範囲では、



第5図　武州騎西之絵図

絵図と比べ寺社はほぼ同位置に、道・水路は一部重なり、町場は現在商店街となっている。

注１　「岩瀬家文書」　小田原市立中央図書館所蔵
注２　『騎西町史　中世資料編』



A区調査



B区調査

第４節　これまでの調査

１　調査の経過（第１～３表・第６図）

騎西城跡・騎西城武家屋敷跡の発掘調査は、根古屋・外川土地区画整理事業実施を控え、昭和55年（1980）に騎西城跡の内容把握のため実施された、二ノ丸の本調査及び外堀の試掘に始まる。昭和57年には、個人住宅建設に先立ち私市（騎西）城武家屋敷第１～４次調査が実施された。

昭和58年（1983）より土地区画整理事業に伴う道路分の調査を開始した。私市（騎西）城跡第２次と幅12～16mで延長40～68m調査区面積1,000～1,500㎡のKB大英寺区・KB１区の調査で、当遺跡としては初期の大規模な調査である。道路分は毎年2,000㎡前後を目途としたが、並行して区画整理地内の保留地や個人住宅・民間開発（アパート・分譲住宅等）建設に伴う調査も実施した。大規模な道路の調査は平成４年（1992）のKB19区をもって終了した。保留地は私市（騎西）城武家屋敷跡第48次調査が平成７年（1995）まで行われ、区画整理に伴う調査は足掛け13年を要した。区画整理に伴う調査区の遺跡内での位置は、騎西城郭部南部分、武家屋敷跡の西１／４部分である。その後も個人住宅・生涯学習センター・道路建設などに伴い調査を実施している。騎西城跡は15次、区画整理道路分（KB）は20次、騎西城武家屋敷跡（道路以外）は56次と合わせて91次を数える。他に町史編さんや開発に伴い、試掘調査を実施した。

また埼玉県埋蔵文化財調査事業団により、平成８年に騎西郵便局建設に先立ち調査が実施されている。

２　調査の成果

出土遺物の量については、整理前のカウントで土器・石器類は27L入り収納箱800箱を超え、木製品・金属製品はデータベース化したものでそれぞれ1172点・990点、他に選外の鉄製品や金属加工滓・動植物遺体が出土している。

時代別に見ると、旧石器時代では、尖頭器を含むフレイク・チップの石器集中、角錐状石器・ナイフ形石器・尖頭器・荒屋型彫刻器などが出土する。縄文時代では、早期炉穴・中期加曽利Ｅ期の住居、早期から晩期の土器や草創期の有舌尖頭器や石鏃・打製石斧・石冠などが出土する。

弥生時代以降では、弥生後期の土器、弥生時代後期末～古墳時代前期の住居跡・土器、古墳時代後期の住居跡、前期・後期の土師器・須恵器・埴輪片・切子玉が出土する。奈良時代の住居跡・土師器・須恵器、平安時代末の小金銅仏が出土する。

中世では、濃淡があるが時代を通して遺物が出土する。12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。遺構・遺物の主体は15～17世紀初めで騎西城に伴うものであろう。

遺構は、調査時の認定では、障子堀が14の調査地点で、溝状遺構670条・土壙1,276基・井戸状遺構381基・橋跡４ヶ所などが確認されている。障子堀は城を二重に囲む。溝はおよそ幅40cm～６m、深さ20cm～1.5m。屋敷の周囲や境に設けられたものもあると思われ、かわらけだまりやほうろくの集中出土も見られる。城郭南に断続的に続く防御を想定させる溝もある。井戸は平面円形、素堀で深さ２mくらいまで。護符や復元完形の志野皿など呪術・儀礼的なものが出土する。土壙は銭貨・かわらけを副葬する墓壙がある。障子堀は最大幅48mの箇所があり、炭化物層や多様な遺物の出土する地点はいくさに伴う処理が想定される。

遺物は、戦場及び生活・生産の場として、生活・生業・信仰・流通・武器武具に関するものが出土する。地下水位が高く木製品の遺存が良い。**生活品**では、下駄・櫛・毛抜き・鏡・鉄鍋・桶・漆器類・杓子・折敷・灯明皿・火打金・火打石・天目茶碗・湯釜・将棋の駒・煙管・碁石・硯など、**生業**では、竪杵・横杵・木錘・砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・坩堝・羽口・熔融物付着土器（金・銀・亜鉛・鉛・ビスマスを検出）・木製椀未製品・漆付着皿など、**信仰**では護符・呪符・舟形・位牌・銅鋺・数珠・板碑・五輪塔など、**経済流通**では金貨・袋入り銭貨・荷札・分銅など、**いくさ**では、兜・前立・小札・笄金物・腰刀・刀装品・小柄・笄・鉄鏃・槍先・火縄挟み・弾丸・竹束・馬鎧・馬面・轡・四方

手・野沓・薙鎌・石製円盤などがある。

そのなかで陶磁器類は、12世紀から19世紀にかけてのもので、16～17世紀前半ものがまとまった出土量を示す。瀬戸美濃窯製品が最も多いが、他に朝鮮瓶・中国青磁・白磁・染付・褐釉四耳壺をはじめ、常滑・肥前系陶器・志戸呂・初山・備前・丹波信楽・京都信楽・在地産かわらけ・ほうろく・擂鉢・土鍋・火鉢などがある。

	調査時略称	報告略称	調査年	原因	面積（㎡）	報告シリーズ名・番号	発行年
1	KB大英寺区	KB大	1983	区画整理	520	加須市２集	2011
2	KB１区（私武前）	KB１	1983-1984	区画整理	1,440	加須市２集	2011
3	KB２区（私武前２）	KB２	1984	区画整理	1,100	加須市２集	2011
4	KB３区（私武前３）	KB３	1984-1985	区画整理	840	加須市４集	2012
5	KB４区	KB４	1985	区画整理	960	加須市６集	2013
6	KB５区	KB５	1985-1986	区画整理	595	加須市６集	2013
7	KB６区	KB６	1985-1986	区画整理	110	加須市４集	2012
8	KB７区	KB７	1986	区画整理	470	加須市９集	2016
9	KB８区	KB８	1986	区画整理	440	加須市９集	2016
10	KB９区	KB９	1986	区画整理	586	加須市４集	2012
11	KB10区	KB10	1986-1989	区画整理	2,050	加須市10・11集	2017 2018
12	KB11区	KB11	1987	区画整理	230	加須市９集	2016
13	KB12区	KB12	1987-1988	区画整理	540	加須市９集	2016
14	KB13区	KB13	1988-1989	区画整理	770		
15	KB14区	KB14	1989	区画整理	1,380	加須市14集	2021
16	KB15区	KB15	1989-1990	区画整理	1,830	加須市15・16集	2022 2023
17	KB16区	KB16	1990	区画整理	1,001		
18	KB17区	KB17	1990-1991	区画整理	400		
19	KB18区	KB18	1990-1991	区画整理	580		
20	KB19区	KB19	1991-1992	区画整理	1,995	加須市17・18集	2024 2025

※加須市＝加須市埋蔵文化財調査報告書

第１表　発掘調査一覧表（騎西城跡・騎西城武家屋敷跡／区画整理道路）

	調査時略称	報告略称	調査年	原因	面積（㎡）	報告シリーズ名・番号	発行年
1	私（K）	騎１	1980	学術調査	502	騎西町１集	1981
2	私２	騎２	1983	道路建設	150		
3	私３	騎３	1987	個人住宅建設	210	加須市７集	2014
4	私４	騎４	1990	区画整理（保留地）	29.5		
5	私５	騎５	1990	分譲住宅建設	79	騎西町調査会５集	2009
6	私６	騎６	1990-1991	分譲住宅建設	69	騎西町調査会５集	2009
7	私７	騎７	1993	区画整理（保留地）	68.52		
8	私８	騎８	1993	区画整理（保留地）	192		
9	私９	騎９	1994	個人住宅建設	65	加須市３集	2012
10	私10	騎10	1994	個人住宅建設	90	加須市３集	2012
11	私11	騎11	1994-1995	区画整理（保留地）	170.47		
12	私12	騎12	1999	個人住宅建設	36	加須市７集	2014
13	私13	騎13	2002	生涯学習センター建設	1,250	加須市19集	2026
14	私14	騎14	2002	個人住宅建設	92	加須市７集	2014
15	私15	騎15	2011	個人住宅建設	41	加須市７集	2014
16	騎西城土塁跡		1993	町史編さん	19.0		
17	騎西城土塁跡		1996	町史編さん	13.3		

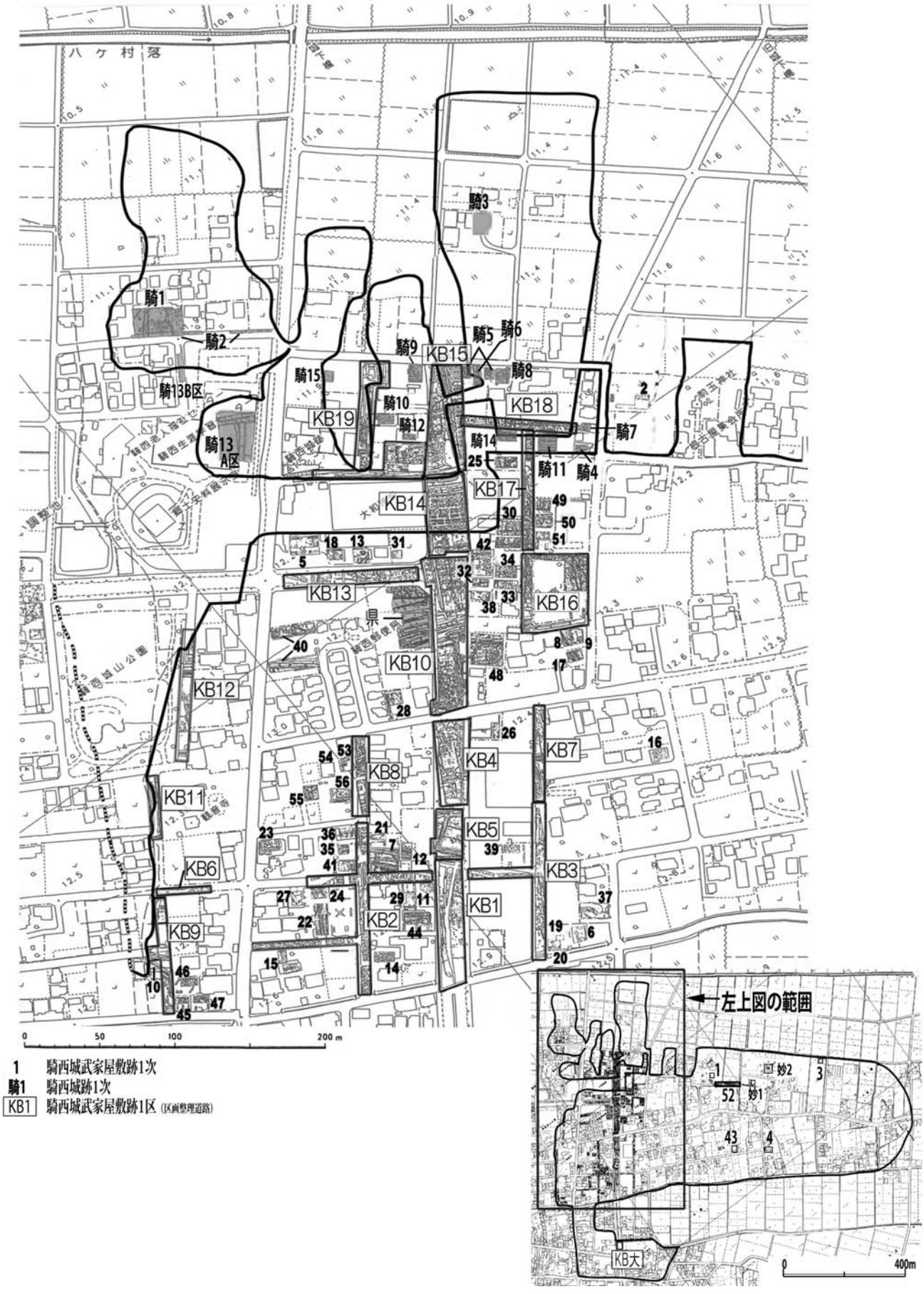
※騎西町＝騎西町埋蔵文化財調査報告書
※加須市＝加須市埋蔵文化財調査報告書
※騎西町調査会＝騎西町遺跡調査会報告書

第２表　発掘調査一覧表（騎西城跡／住宅他）

	調査時略称	報告略称	調査年	原因	面積(㎡)	報告シリーズ名・番号	発行年
1	私武 1 （金剛院）	騎武01	1982	個人住宅建設	175		
2	私武 2	騎武02	1982	個人住宅建設	130	加須市 7 集	2014
3	私武 3	騎武03	1982	個人住宅建設	120	加須市 7 集	2014
4	私武 4	騎武04	1982	個人住宅建設	115	加須市 5 集	2013
5	私武 5	騎武05	1986-1987	個人住宅建設	200	加須市 5 集	2013
6	私武 6	騎武06	1987	個人住宅建設	75	加須市 5 集	2013
7	私武 7	騎武07	1988	分譲住宅建設	360	騎西町調査会 1 集	1996
8	私武 8	騎武08	1988	個人住宅建設	78	加須市 7 集	2014
9	私武 9	騎武09	1988	個人住宅建設	60	加須市 7 集	2014
10	私武10	騎武10	1988	個人住宅建設	54	加須市 5 集	2013
11	私武11	騎武11	1989	個人住宅建設	57	加須市 5 集	2013
12	私武12	騎武12	1989	個人住宅建設	76	加須市 5 集	2013
13	私武13	騎武13	1989-1990	個人住宅建設	112.5	加須市 3 集	2012
14	私武14	騎武14	1990	個人住宅建設	104	騎西町 5 集	2010
15	私武15	騎武15	1990	区画整理（保留地）	116.5	加須市 6 集	2013
16	私武16	騎武16	1990	区画整理（保留地）	62	加須市 9 集	2016
17	私武17	騎武17	1990	個人住宅建設	67	加須市 1 集	2011
18	私武18	騎武18	1990	個人住宅建設	76	加須市 3 集	2012
19	私武19	騎武19	1990	区画整理（保留地）	60	加須市 4 集	2012
20	私武20	騎武20	1990	区画整理（保留地）	56	加須市 4 集	2012
21	私武21	騎武21	1991	区画整理（保留地）	66	加須市 4 集	2012
22	私武22	騎武22	1991	分譲住宅建設	188	騎西町調査会 4 集	2009
23	私武23	騎武23	1991	区画整理（保留地）	298	加須市 9 集	2016
24	私武24	騎武24	1991	分譲住宅建設	88	騎西町調査会 4 集	2009
25	私武25	騎武25	1991	個人住宅建設	112	加須市 3 集	2012
26	私武26	騎武26	1991-1992	区画整理（保留地）	89	加須市 6 集	2013
27	私武27	騎武27	1992	個人住宅建設	69	騎西町 5 集	2010
28	私武28	騎武28	1992	個人住宅建設	93	加須市 1 集	2011
29	私武29	騎武29	1992	区画整理（保留地）	117	加須市 4 集	2012
30	私武30	騎武30	1992	区画整理（保留地）	306		
31	私武31	騎武31	1992	区画整理（保留地）	38.35		
32	私武32	騎武32	1992	個人住宅建設	48	加須市 3 集	2012
33	私武33	騎武33	1992	個人住宅建設	165	加須市 3 集	2012
34	私武34	騎武34	1992	個人住宅建設	110	加須市 3 集	2012
35	私武35	騎武35	1992	個人住宅建設	63	加須市 1 集	2011
36	私武36	騎武36	1992	個人住宅建設	86	加須市 1 集	2011
37	私武37	騎武37	1992-1993	区画整理（保留地）	193.63		
38	私武38	騎武38	1993	個人住宅建設	72	加須市 3 集	2012
39	私武39	騎武39	1993	個人住宅建設	93	加須市 1 集	2011
40	私武40	騎武40	1993	アパート	442	騎西町調査会 6 集	2009
41	私武41	騎武41	1994	個人住宅建設	83	加須市 1 集	2011
42	私武42	騎武42	1994	区画整理（保留地）	231	加須市12集	2019
43	私武43	騎武43	1994	個人住宅建設	119	加須市 1 集	2011
44	私武44	騎武44	1994	個人住宅建設	160	騎西町 5 集	2010
45	私武45	騎武45	1994	個人住宅建設	55.2	騎西町 5 集	2010
46	私武46	騎武46	1994-1995	個人住宅建設	87.3	加須市 5 集	2013
47	私武47	騎武47	1994-1995	個人住宅建設	59.5	加須市 5 集	2013
48	私武48	騎武48	1995	区画整理（保留地）	462	加須市12集	2019
49	私武49	騎武49	1996	個人住宅建設	60	加須市 3 集	2012
50	私武50	騎武50	1996	個人住宅建設	132.2	加須市 7 集	2014
51	私武51	騎武51	1996	個人住宅建設	214.5	加須市 7 集	2014
52	私武52	騎武52	1996-1997	道路建設	260		
53	私武53	騎武53	1998	個人住宅建設	35.2	加須市 5 集	2013
54	私武54	騎武54	1998	個人住宅建設	8.33	加須市 5 集	2013
55	私武55	騎武55	2001-2002	個人住宅建設	105	加須市 5 集	2013
56	私武56	騎武56	2004	個人住宅建設	121	加須市 5 集	2013
57	妙光寺 1	騎武妙 1	1986	墓地造成	114	騎西町調査会 2 集	1997
58	妙光寺 2	騎武妙 2	1987	本堂建設	169	騎西町調査会 2 集	1997

※騎西町＝騎西町埋蔵文化財調査報告書
※加須市＝加須市埋蔵文化財調査報告書
※騎西町調査会＝騎西町遺跡調査会報告書

第 3 表　発掘調査一覧表（騎西城武家屋敷跡／住宅他）



第6図　これまでの発掘調査地点

第Ⅱ章　調査の概要

第１節　調査に至る経過

旧騎西町は、首都圏50㎞圏内に位置し、急激な人口の増加に伴う開発を見込み、計画的な都市整備の一環として大字根古屋及び外川における土地区画整理事業を実施した。まさに土地区画整理地を中心とする町づくりが進行する中、町民の学習意欲の多様化、高度化の進行に対応し、生涯にわたり学習できる環境を整えるべく、平成２年の第３次騎西町総合計画では、生涯学習施設建設の検討が謳われた。平成12年度には、町民待望の図書館を併設した生涯学習施設の建設・活用が第４次騎西町総合計画に位置づけられた。

一方、町教育委員会では町内遺跡群分布調査によって町内に15ヶ所の遺跡が所在することを確認しており、とくに騎西城については小田原市に所蔵されていた『武州騎西之絵図』と対照すると、江戸時代初期、根古屋・牛重地区に城と武家屋敷が広がっていたことが明らかとなっている。

昭和55年から実施されている騎西城跡・武家屋敷跡の発掘調査、なかでも土地区画整理事業に伴う発掘調査では、障子堀や兜を始めとする戦国時代から江戸時代初めの遺構・遺物が確認され、騎西城は質量共に埼玉県内は元より全国的な価値を有する城郭であることが広く認知されてきていた。

生涯施設の建設予定地は中央公民館と旧町営住宅周辺で、『絵図』では騎西城郭内の二ノ丸・天神曲輪に相当し、重要な遺構・遺物が埋蔵されていることは十分に想定された。しかしながら、長年の懸案であった生涯学習施設の建設・整備は町の重要施策であり、当地での計画の中止及び変更は困難な状況であった。

そこで町教育委員会では町部局と協議を重ね、試掘調査を実施し遺構・遺物が遺存する範囲を確定し、生涯学習施設施工に先立ち、新たに破壊される区域について発掘調査を実施することとした。

文化財保護法に基づき騎西町から埋蔵文化財発掘通知、騎西町教育委員会から埋蔵文化財発掘調査通知を埼玉県教育委員会教育長に堤出した。市町村報告は14騎教社発第228号平成14年２月28日・14騎教社発第327号平成14年３月27日である。

調査は平成14年２月18日より島村範久を主担当者として開始し、４月24日より嶋村英之を主担当者として10月１日まで実施された。所在地は大字根古屋633-３～５・７・10・11である。

第２節　調査区の位置（第７・８図）

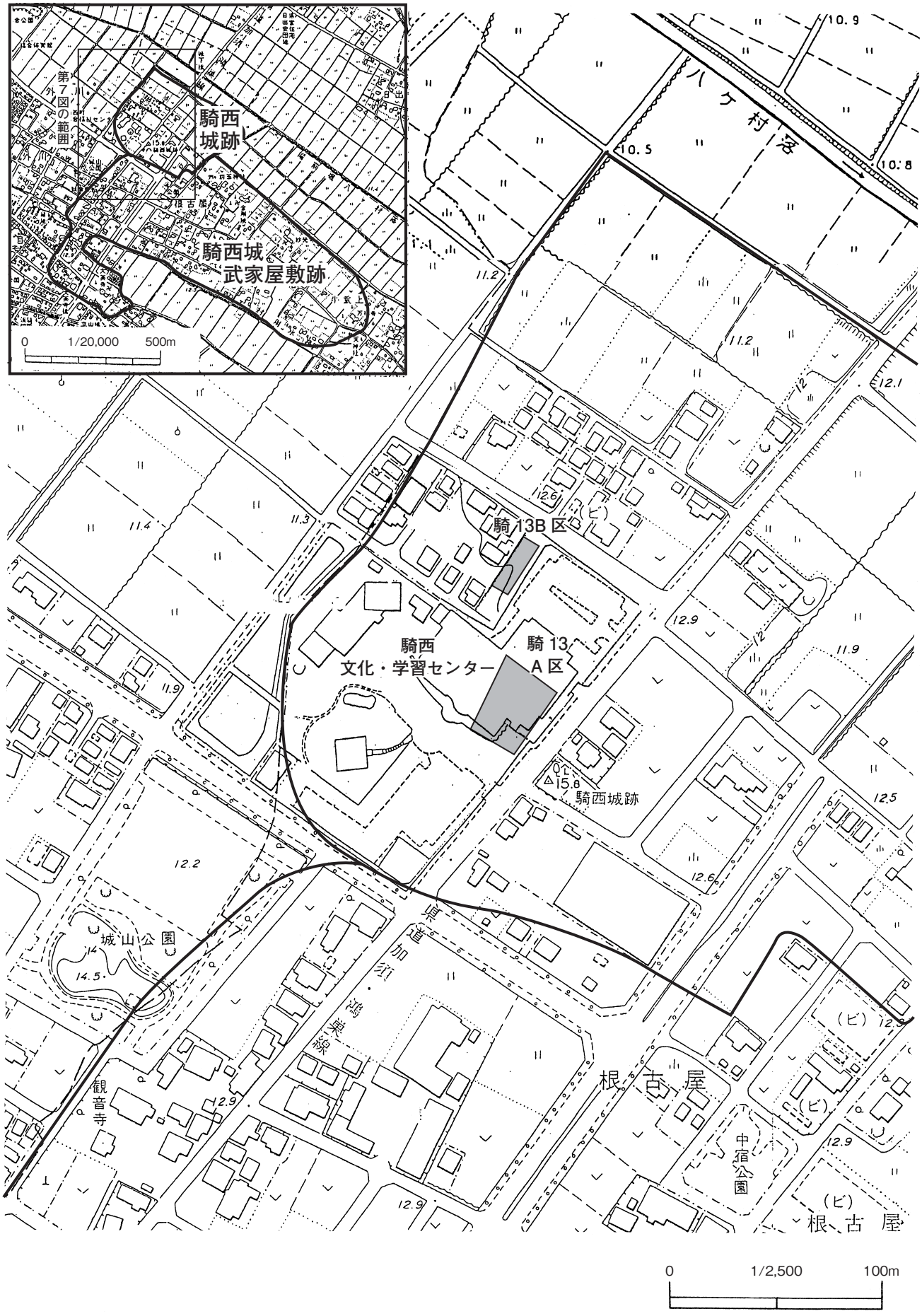
調査区は、騎西文化・学習センター周辺で、建物部分はＡ区、西側南北道路はＢ区とした。西側は遊水池及び水田で、県道を挟んだ東側に、かつて東西・南北方向に延びていた土塁が市指定史跡「騎西城土塁跡」として所在する。遺跡内での位置は騎西（私市）城跡の南西隅にあたり、現状と『武州騎西之絵図』の城郭部を対照すると天神曲輪内の西寄りに相当する。

発掘調査は、北側で騎西城跡１・２次調査、東側で15次・KB19区調査、南東で騎西城武家屋敷跡５・13・18次、KB13区調査が実施されている。

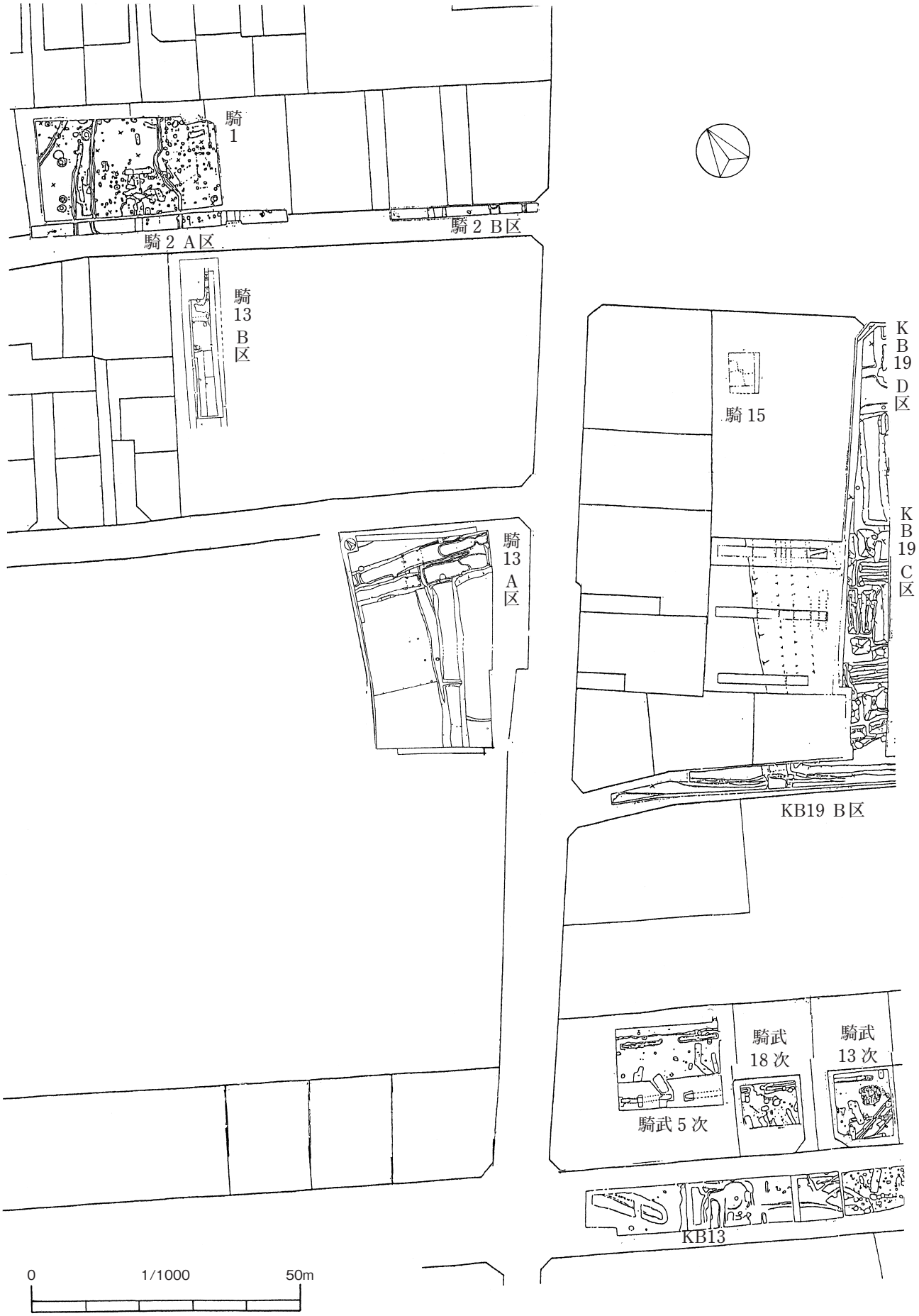
第３節　遺構の位置（第９・10図）

遺構については、現在整理中で確定はしていないが、Ａ区で堀５条、橋跡１箇所、溝１条、Ｂ区で堀１条が検出されている。本報告時現在の遺構・トレンチの位置を掲載する。Ａ区Ｂ１号堀は調査時では１号堀としていた。

周辺の調査の詳細及び第13次調査の経過・遺構と遺物の出土状況は第20集（来年度刊行予定）参照。



第7図　本報告調査区の位置



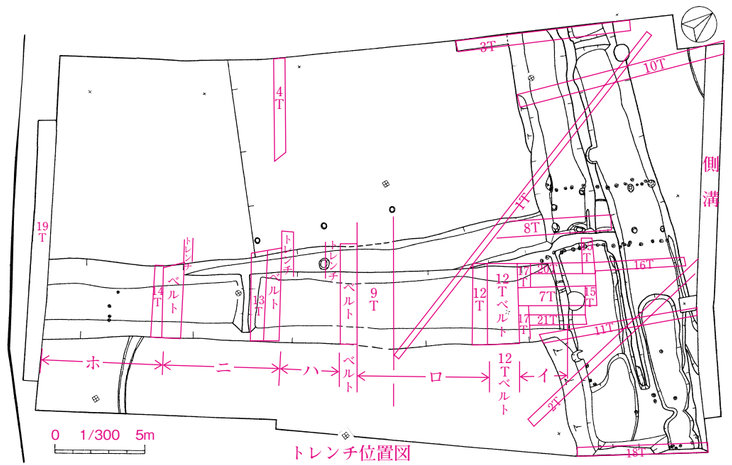
第 8 図　周辺の調査完掘図



A区完掘　空中

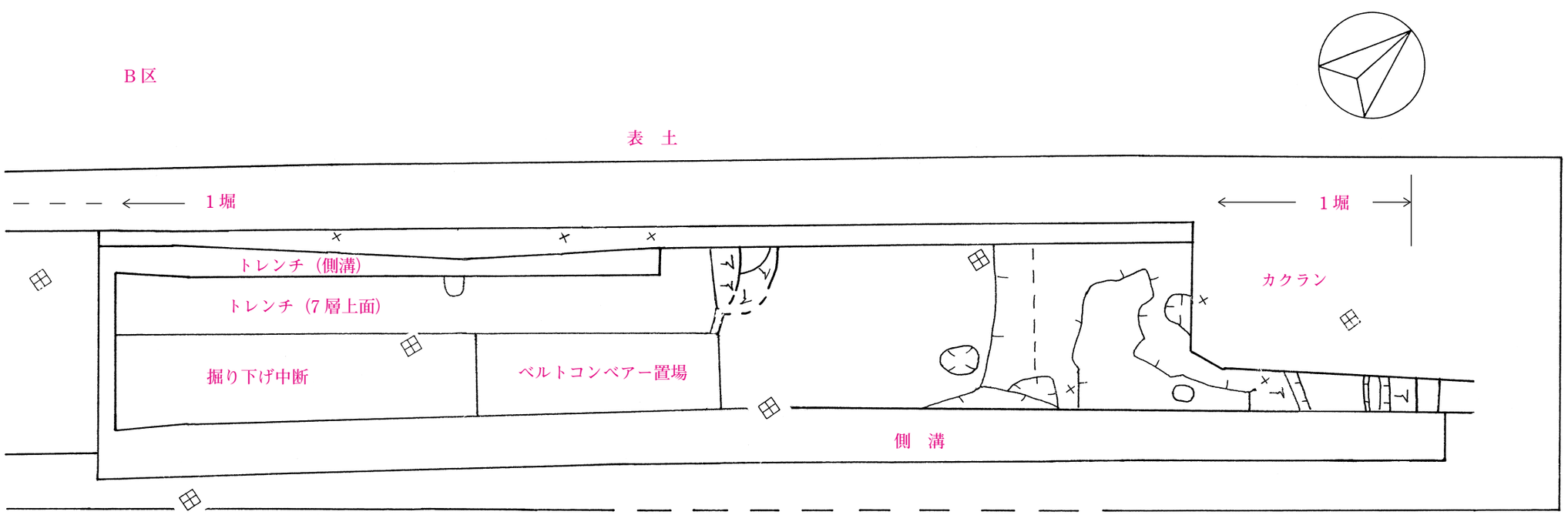


障子堀　完掘



トレンチ位置図

第9図　遺構位置図（A区）



調査区	遺構名	位置	備考
A区	A１号堀	北	
	A２号堀	北	
	A３a号堀	北	
	A３b号堀	北	
	B１号堀	南	
	B２号堀	南	
	１号溝	南	
B区	１号堀	―	

第４表　遺構一覧表

第10図　遺構位置図（B区）

第Ⅲ章　出土した遺物

第１節　土器類

騎西城跡で出土している土器類は大略以下の通りに分類できる。

胎質では磁器・陶器・土器、生産地では国外産である輸入品・国内産、器種は多様である。

これらの要素により時代等を加味し、掲載順は、輸入品では青磁・白磁・染付・朝鮮陶器・陶器・その他、国産品では渥美・常滑・瀬戸美濃・肥前系陶器・志戸呂・初山・備前・丹波信楽・京都信楽・ほか・産地不明・肥前系磁器・瀬戸美濃系磁器・在地産土器とする。その他で土製品を扱う。

今回報告する土器類は主に以下の通りで細片は省略している。

【輸入陶磁】

〈青磁〉碗がＢ２堀（324）・Ａ区遺構外（469）で出土した。

○龍泉窯系　碗がＢ１堀（194）・Ａ区遺構外（470・471）で、皿がＢ１堀（195）・Ａ区遺構外（472）で出土した。

〈白磁〉皿がＢ１堀（１・57・80・81・98・106・221・259・301・302・307・316・317）・Ａ３ｂ堀（422・449）・７Ｔ（465）・Ａ区遺構外（473～476）で出土。

〈染付〉碗がＢ１堀（41・99・107・167・284・308）・Ａ２堀（357）・Ａ３ｂ堀（401）で、皿がＢ１堀（56・100・108・165・179・196・245・282・309）・Ａ３ｂ堀（434・440・444）・７Ｔ（466）・Ａ区遺構外（485～489）で、小坏がＢ１堀（109・261）で出土した。

〈陶器〉褐釉四耳壺がＢ１堀（49・82・83・260）・Ａ３ｂ堀（400）・Ａ区遺構外（477～484）で出土した。複数個体分と思われる。口縁部・耳部・胴部・底辺部の細片で黒褐色～暗赤褐色を呈する。内外面光沢はないが、49・83・482にやや光沢がみられる。胎土に細かい粒子が少量見られやや粗く、重く感じる。焼成時の火のまわりによるものか、断面内面側が灰色味が強いものがある（82・477・479・483・484）。13点中11点の断面凸部に潰れが見られ使用痕か。中国窯産か。

【国産】

〈渥美〉甕の口縁部がＡ区遺構外（490）・胴部がＢ１堀（246）で出土した。

〈常滑〉片口鉢がＢ１堀（３・247＝Ｂ２堀ヵ）・Ａ区遺構外（491・492）で、甕がＢ１堀（310）で、壺がＡ２堀（358）で出土した。

〈瀬戸美濃〉

○古瀬戸後期　天目茶碗がＢ１堀（45・110）・Ａ２堀(371)で、縁釉小皿がＢ１堀(255)・Ａ２堀(333)・Ａ区遺構外（496）で、卸目付大皿が７Ｔ（467）で、擂鉢がＢ１堀（319）・Ａ区遺構外（508）で、壺ヵがＢ２堀（325）で、瓶子がＢ２堀（326）で出土した。

◎大窯１・２　ほぼ完形の天目茶碗や、稜皿・端反皿が比較的多く出土している。天目茶碗がＢ１堀（４・131・215・234・285)131は残存90％・Ａ２堀(332)・Ａ３ａ堀（391・393）・Ａ３ｂ堀（398）で、丸碗がＢ１堀（276）で、端反皿がＢ１堀（111・132・168・214・222・281・248＝Ｂ２堀）・Ａ２堀（376）・Ａ３ａ堀(378)・Ａ３ｂ堀(399・402)・Ａ区遺構外(494・495・498)で、縁釉小皿がＢ１堀（312）・Ａ区遺構外（497）で、丸皿がＢ１堀（85）・１Ｔ（459）で、稜皿がＢ１堀（５・６・159・169・170・180・197・223・277・283・318）223は残存75％で、擂鉢がＢ１堀（７・59・112・113・171・235・263）・Ａ２堀（343）・１Ｔ（460）・Ａ区遺構外（507）で、小坏がＡ区遺構外（505）で出土した。171は内面に炭化物が付着する。

◎大窯３・４　天目茶碗がＢ１堀(84・206・262)・Ａ３ｂ堀(445)・Ａ区遺構外(493)・Ｂ区１堀(548)で、丸碗がＢ１堀（207）で、志野丸皿がＡ区遺構外（500・501）で、稜皿がＢ区１堀（549）で、丸皿がＢ１堀（86・101・198・199）で、折縁皿がＢ１堀（47）で、皿がＢ１堀（160）で、大皿がＡ３ａ堀（394）で、建水がＡ３ｂ堀（450）で、擂鉢がＢ１堀（235・278・313）・Ａ区遺構外（509）で、徳利がＢ１堀（286）で、茶入ヵがＢ１堀（314）・Ａ２堀（359）で、鉄絵鉢がＡ区遺構外（506）・Ｂ区遺

構外（551）で出土。
◎大窯　天目茶碗がB１堀(311)、皿がA３b堀(403)・A区遺構外（499）で、祖母懐壺がB１堀（70・87～91・102・114)・A３a堀（377)・A区遺構外（515・516）で出土した。頸部から底部に至るもので胎土は緻密で１～３mmの白色粒子（長石等）を含む。胴下半まで褐色釉がかかり底辺部は露胎で、断面・露胎部は灰色を呈する。水注ヵがB１堀(69)で、建水ヵがB１堀（264）で、徳利がA２堀（342）で、茶入がA区遺構外（510）で出土した。
●登窯期　灯明皿がA区遺構外（502～504）で、香炉がA区遺構外（512・513）で、片口ヵがA区遺構外（514）で出土した。
〈肥前系陶器〉鉢がA区遺構外（517）で出土した。
〈志戸呂〉皿がB１堀（46)・A区遺構外（518）で、香炉がB区遺構外（552）で出土した。
〈初山〉天目茶碗が１T（461）で、袋物が４T（464）で出土した。
〈備前〉徳利がB１堀（208）で、徳利ヵがB１堀（92）で、壺ヵがB１堀（249＝B２堀）で、水指がA３a堀（392）で出土、遺構に伴う。備前系擂鉢がA区遺構外（519・520）で出土、廃城後のものか。
〈萬古系〉急須がA区遺構外（528）で、茶入ヵがA区遺構外（529）で、蓋がA区遺構外（530）で出土した。
〈肥前系磁器〉碗がA区遺構外（521～524）で、皿がA区遺構外（525）で、残存75％の小坏がA区遺構外（526）で、鉢がA区遺構外（527）で出土した。

陶磁器類で被熱しているものは、59・112・113・278・313・403・467・497・500・508・510である。
漆継ぎの可能性のあるものは、108・168・302で、断面に赤褐色・黒色の付着物がある。
〈在地産土器〉
○かわらけ
かわらけは、ほぼすべての遺構から出土した。
今回B１堀では『騎西城』の中でも１遺構当たりの土器類出土量が多く、かわらけの比率が高い。そこでB１堀中の層位的傾向を見るため、口縁・底部のみの破片でも図化した。
完形のものは、B１堀(37・76・149・252・288)・A３b堀（417・430）で出土した。
残存90～95%のものは、B１堀(10・13・15・18・31・38・51・60・61・134・138・151・184・185・189・192・224・254・305)・B２堀（330)・A２堀（334)・A３a堀（381)・A３b堀（410）で出土した。
残存75%以上のものは、B１堀（77・115・136・140・141・145・190・191・303)・B２堀（328)・A２堀（345・374)・A３a堀（382)・A３b堀（409・423・426・436・448)・A区遺構外（532）で出土した。
灯芯油痕が認められるものは、B１堀（15・52・136・181・225・254・280)・A２堀（347)・A３b堀（423・430）で出土した。
ス・タール付着は、B１堀(52・143・175・185・205・250・267・280・287・303)・B２堀（330)・A２堀（334)・A３a堀（379)・A３b堀（426・448・453・454・457）で出土した。
炭化物付着は、B１堀（236・303・330)・B２堀（330）に見られた。236は底部外面にス・粟状の小粒子炭化物が付着する。303は内外面にタール・ス、内面一部と底部外面にワラと粟状炭化物が付着する。330は半分で割れ、内面に薄く、底部外面に厚く粟状の炭化物が付着する。
白色物質付着がB１堀（136）に見られた。半分に割れ片方のみの内面に付着する。他方には灯心油痕がある。科学分析は次集報告予定。
熔融物付着は、B１堀(55・124・164・211・212・536）に見られた。164には金粒子が付着する。第５節金属の生産で再掲・詳述する。
墨書が認められたものが、B１堀（145・151・191）で出土した。いずれも埦形で内面にロクロ痕が、145・151は外面にロクロ痕も強く残る。墨書は底部内面に細く行書で書かれる。145は新五郎ヵ、151はめうほん、191は幸二郎殿ヵ。151・191は墨痕鮮やかで、145はかすれる。

外面整形による細別　現在報告整理中の騎西城跡第２次調査（第21集報告予定）で体部外面整形の特徴的なものが確認され、比較のため体部外面整形の

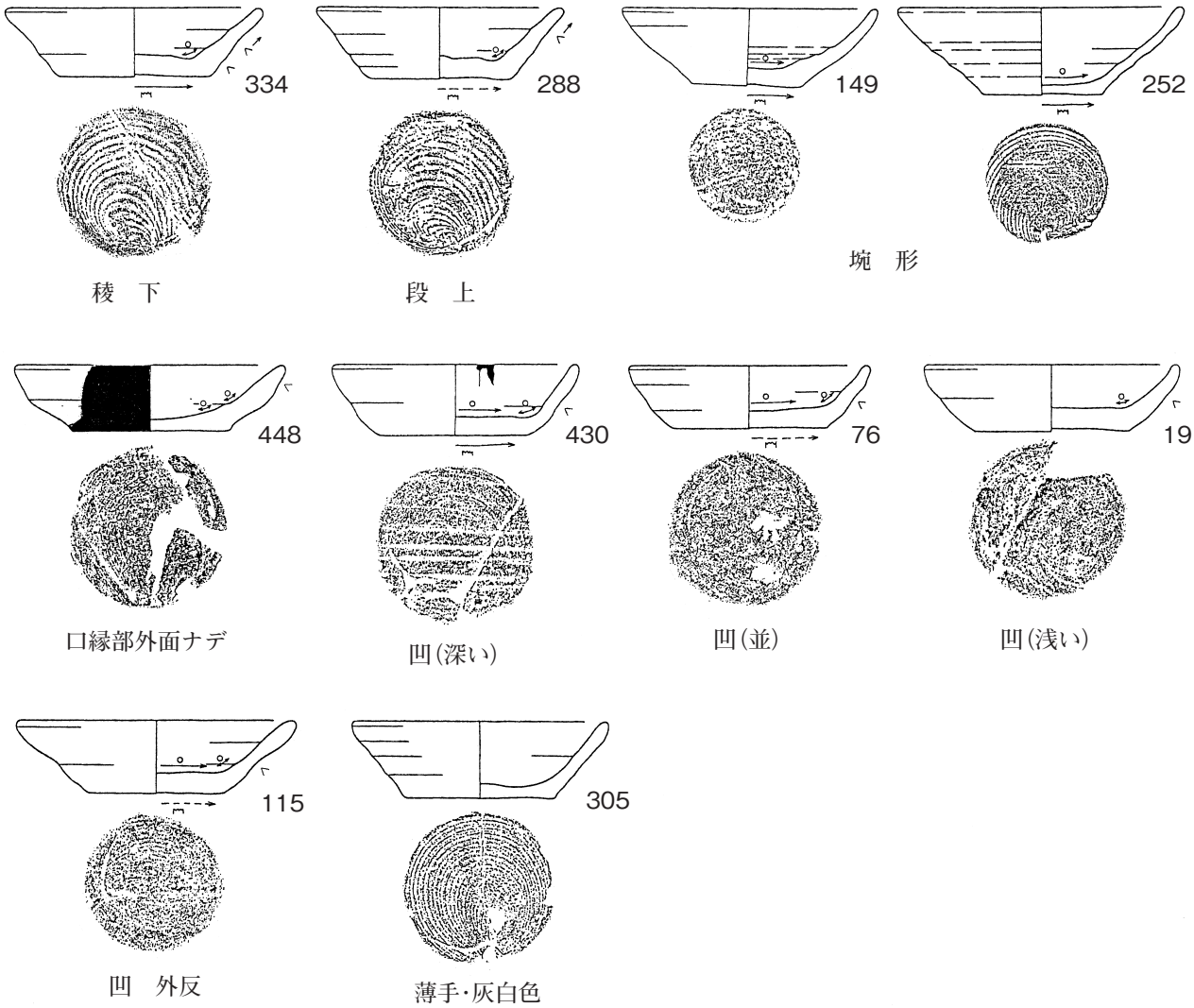
細別を試みた。中位ナデ(凹)、上・中位ナデ、上・下半ナデ（稜上)、下半ナデ（段下)、上半ナデ（段上)、上半・下ナデ（稜下）とし、図・表に表示・記載した。※凡例参照。

しかし、不明瞭なものや押圧加減により他の整形としてしまったもの（凹と屈曲、凹と段下、上・中位ナデと稜上など)、全周しないもの（段下、稜下など）があり、見直しが必要である。また、内面の中・下位ナデや胎土についてルーペで確認できる微細な金雲母（金雲母ヵも含む）などの観察を試みた。以上の観察・検討は総合的なものでは無く、今後分類する類型と有機的関連を見いだせない可能性があるが、今後の検討・備忘の為以下に記す。

ここでは、体部整形分類の一部に加え、他の特徴的なかわらけを観る。現在のところ、**稜下、段上、口縁部外面ナデ、椀形**が一定量まとまりをもって認識できる。また、**凹、薄手・灰白色**のものは器形・整形等は多様であるが観察結果を記す。

稜下（50・51・103・116・120・173・224・227・334・406・413・415・417・533・534）は、体部は直線的に外傾し、外面刷毛状ロクロ痕、内面体底部境ナデ、底部糸切り右回転、胎土は緻密で粉っぽく微細な金雲母を含むなどが見られる。色調は浅黄橙～淡橙。

段上（48・61・267・288・412・419・426）としたものは、器形・整形・糸切り・胎土は稜下と同様で、稜下の下ナデが弱いか稜が摩耗した稜下と思われる。色調は浅黄橙～淡橙。288は焼成堅緻。記号無表示で稜下と同じと思われるものは104・432・532で、61は器形は内湾し底部立ち上がりが丸みを帯びる。



第11図　かわらけ分類図

口縁部外面ナデ（133・142・250・448）は凡例にはないが、記号「＜」を口縁部に付けた。ナデにより口唇部が尖り口縁下に稜ができる。体部内面は、中位と下位にロクロナデを施し境に稜が形成される。底部糸切り左回転、胎土は緻密で粉っぽく、微細な金雲母を含む。色調は灰白色～浅黄橙。類似するものは44・137・163・339・365である。

埦形（77・141・145～149・151・152・177・182・184・185・187・189～191・252・303・382）は器高が2.8～3.7cmでKB10区出土のもの（注１）より低いものを含む。小型厚手と大型薄手などがあり、底部糸切り右回転11点・左回転７点で、内面にロクロ痕が強く残る。器形は直線・内湾・内湾し底部が立つ（逆市女笠形）・外反である。330・328も埦形か。

凹は体部中位を強くナデ、凹を巡らせるもので、上・中位ナデや段下と判別しにくいものがある。器形は多様で整理しえないが、ここではナデの深さなどから類別を試みる。ナデが深く凹の上下に稜が見えるものは、27・407・430で体部が立ち気味のものである。ナデは並で上下に縁ラインが見えるものは、11・14・16～18・23・24・32・34～36・40・62・76・79・96・117・409・423・424で、体部が立ち気味・外傾し多様な形態である。ナデが浅く凹の上下の縁ラインが見えないものは８・19・29・410で、外形気味である。他にナデが並で体部中位の器厚が薄いものは、43・52・54・115・121・290・425で口縁が外反するように見える。凹は無いが同様な外反する器形は118・136・455である。今のところ凹における有意なまとまりは見出せない。

薄手・灰白色のもの（42・66・135・138・140・150・161・172・188・237・270・271・292～294・305・345・374・381・396・447・535）は、胎土緻密・糸切明瞭・底縁明瞭で42・66・140・369は外傾が強く口縁がやや肥厚し、135・138・150・161・172・188・237・270・271・292～294・305・345・381・447で体部が直線的で外傾する。345は小型。292・293は体部下半が厚く体部が大きく開く。体底部境をナデるもの（150・237・270・293・374）があり底部内面整形は渦巻ナデや凹凸・平坦、糸切は左右の別がある。

ロクロ回転方向　今回、底部に残る糸切痕からロクロ回転方向の判別を試みた。同心円の中心が右に寄るものを「左回転」、左は「右回転」とした。糸切を確認できるが回転方向が判別できないものは「糸切有」、摩滅等で糸切りが確認できないものは「不見」とした。糸切後整形しているものが数点見られた。また、中心が左右に偏らず中央に位置するものがあり（135・361・374・408・441）、このうち135・374は薄手で灰白色・胎土が緻密なものである。

○ほうろく　ほぼすべての遺構から出土した。残存90％のものはＡ２堀（348）、残存75％以上のものはＢ１堀（228・241）で出土した。内耳が残るもので、下端を底部に取り付けるものはＡ区遺構外（539・540）で、そのほかは、体部に収まるものである。

○土鍋　Ｂ１堀（105）で出土した。

○火鉢　Ｂ１堀（193）・Ａ３ｂ堀（438）で出土した。いずれも方形で193は無文で50％遺存だが完形復元、438は破片であるが三つ巴・花文ヵ・格子目文が施される。

○擂鉢　Ｂ１堀（78・127～130・157・158・203・240・243・244・258・275・279・300・323）・Ａ２堀（349・369・370）・Ａ３ａ堀（389）・Ａ３ｂ堀（421・439・443）・Ｂ区遺構外（554）で出土した。底部外面に127・243・323・443はススが、157・389は厚く炭化物が付着する。

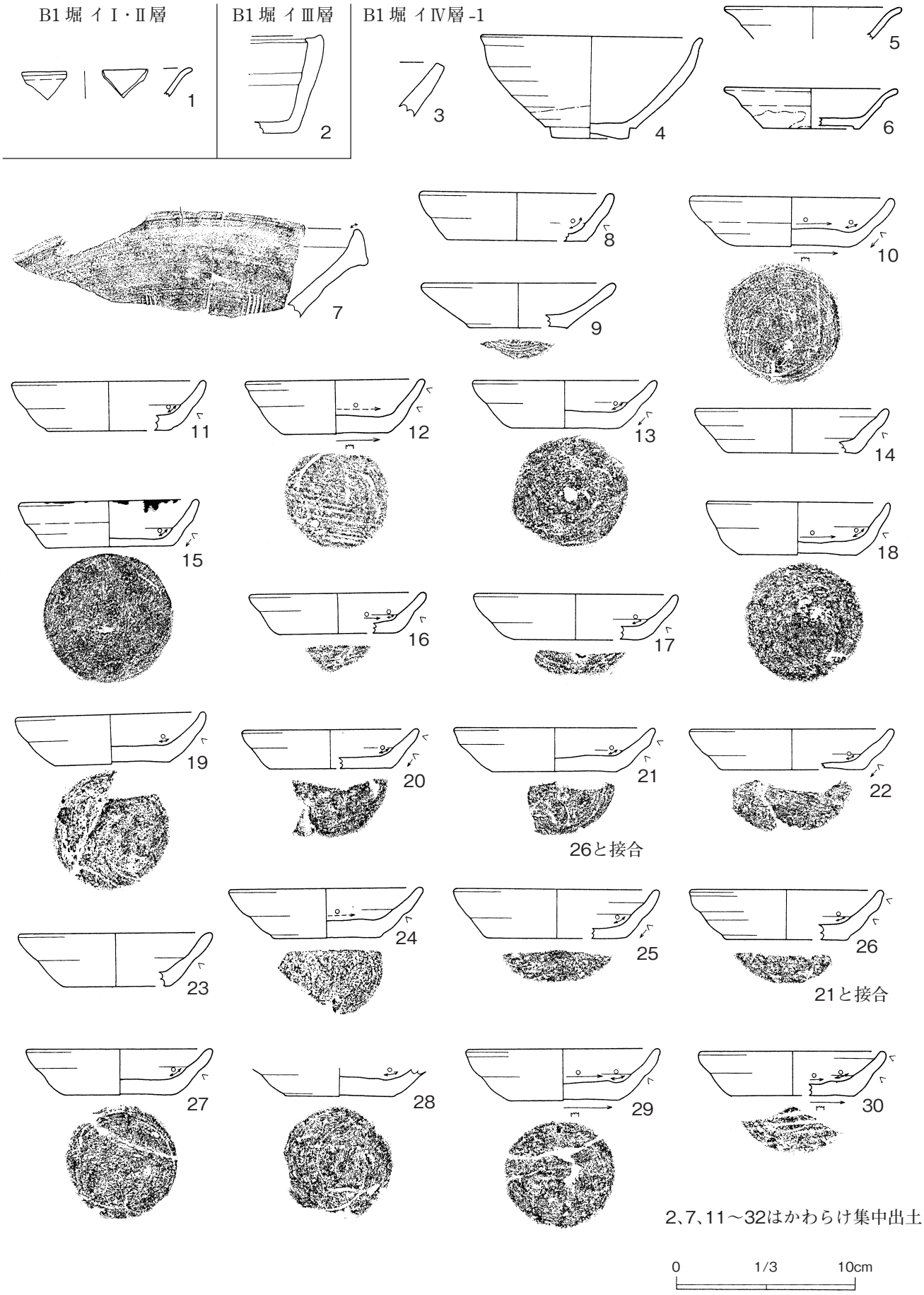
○片口鉢　Ｂ１堀（156）・Ａ区遺構外（547）で出土。

○土釜　Ｂ１堀（315）で出土した。

○瓦　Ｂ２堀（329）で出土した。永福寺式１期併行の平瓦。白色粒子を含む。児玉地域で生産か。

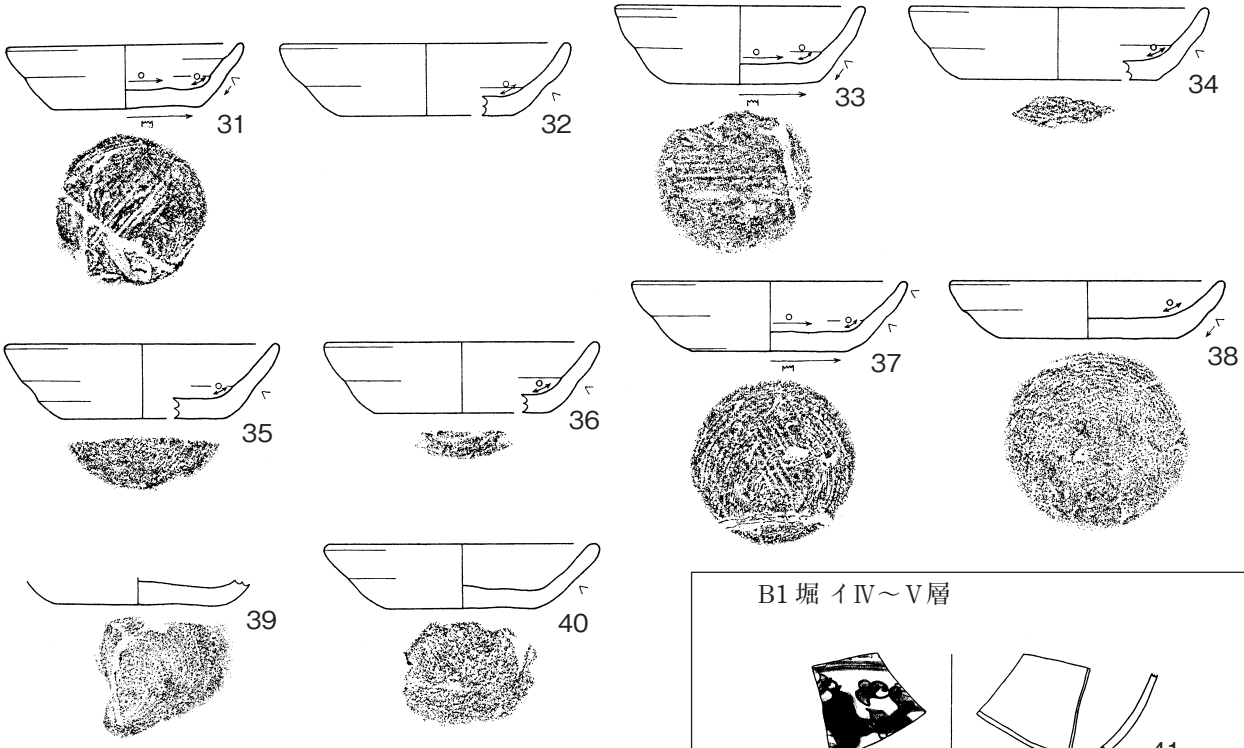
【その他】土製製品がＢ１堀（555）で出土した。周縁が方形に盛り上がり封泥状で裏面は凹凸である。灯芯押さえは騎西城唯一でＢ１堀（556）、在地の甕を加工した土製円盤がＡ区遺構外（557）で出土した。

注１　加須市埋蔵文化財調査報告書　第12集　第73図Ⅱ類・第74図Ⅱ類



第12図　土器類１（A区B１堀１）

B1 堀 イⅣ層 -2

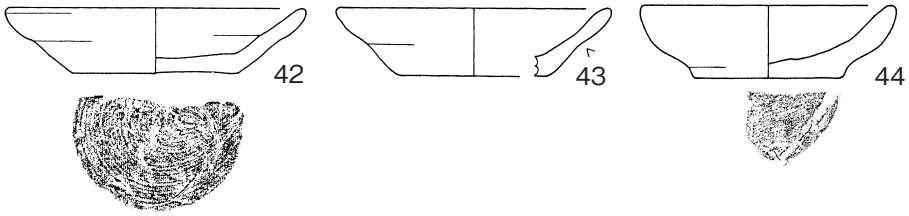


33～39、42はかわらけ集中出土

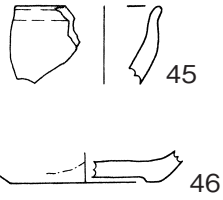
B1 堀 イⅣ～Ⅴ層

平置実測

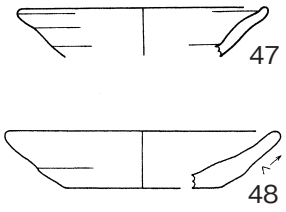
B1 堀 イⅤ層



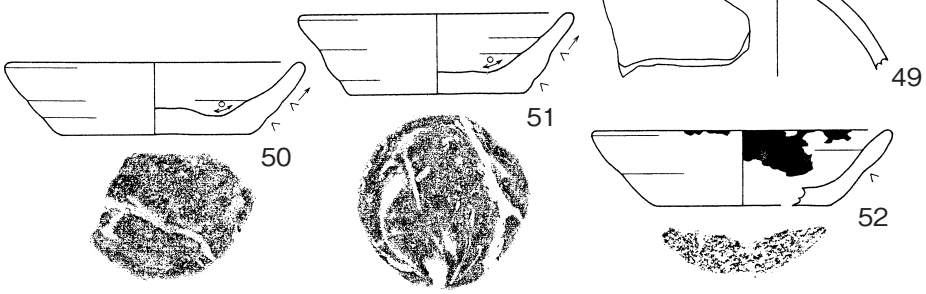
(B1 堀) 7T イⅠ層



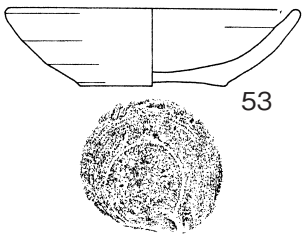
(B1 堀) 7T イⅢ層



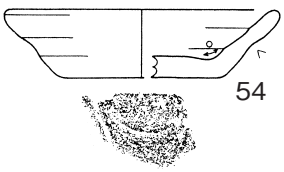
(B1 堀) 7T イⅣ層



B1 堀 17T イⅠ層



★(B1 堀)7T イⅠ層



B1 堀 17T イ



アミは熔融物付着

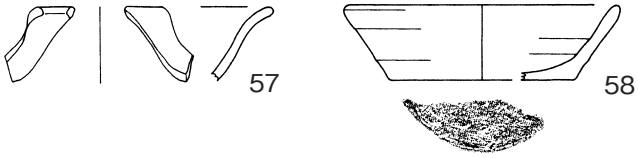
0 1/3 10cm

第13図　土器類２（A区Ｂ１堀２）

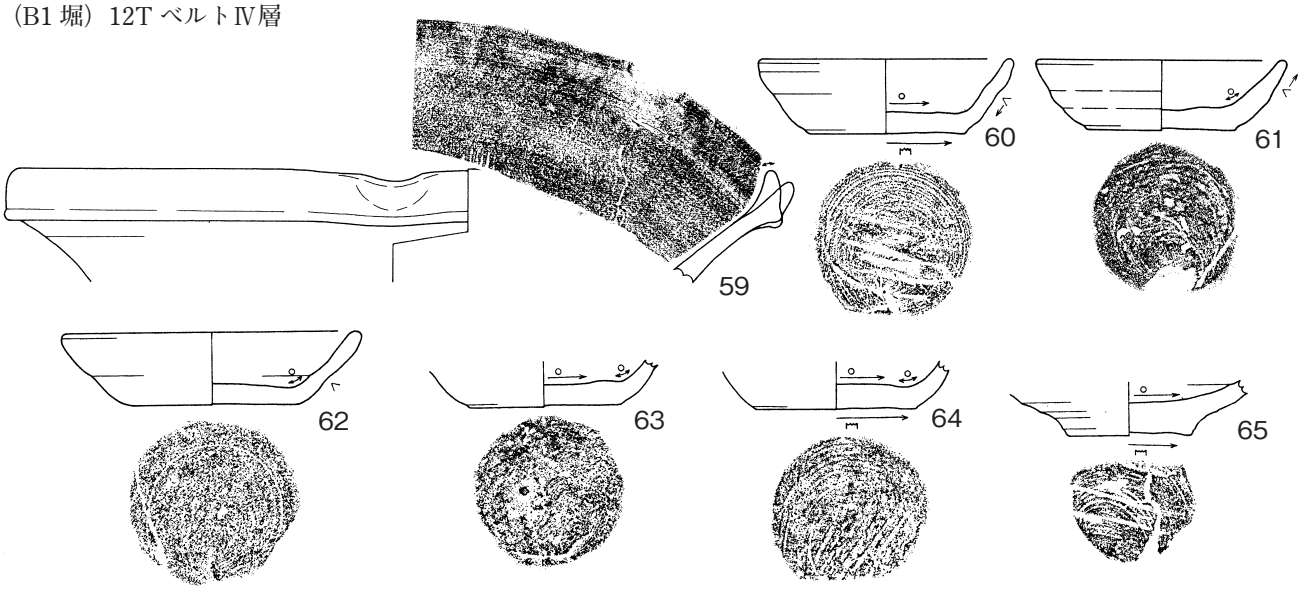
B1 堀 イ東（かわらけ集中）



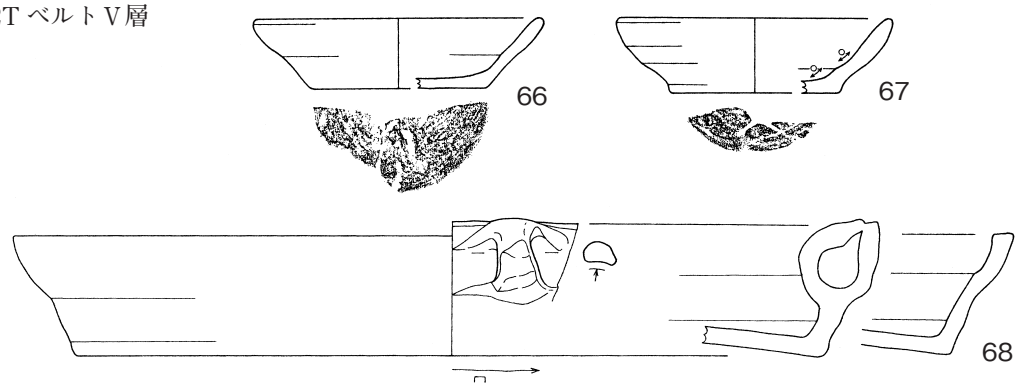
B1 堀 イ



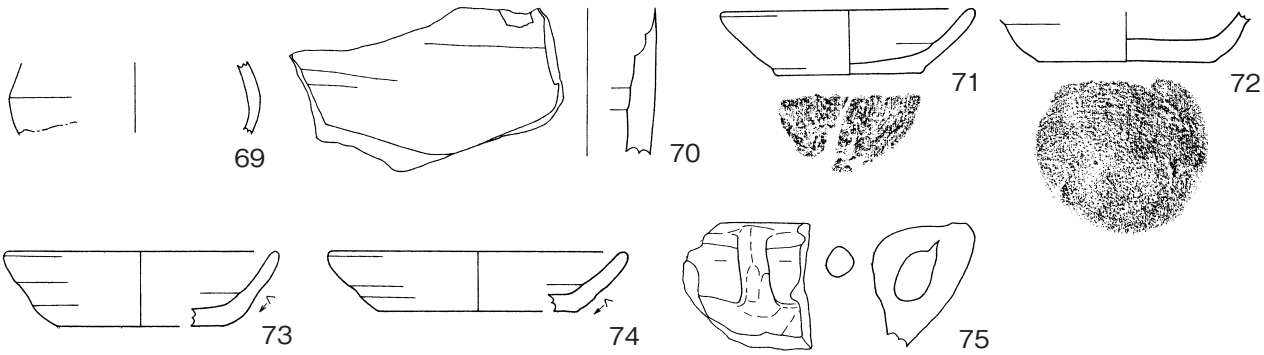
（B1 堀）12T ベルトⅣ層



（B1 堀）12T ベルトⅤ層

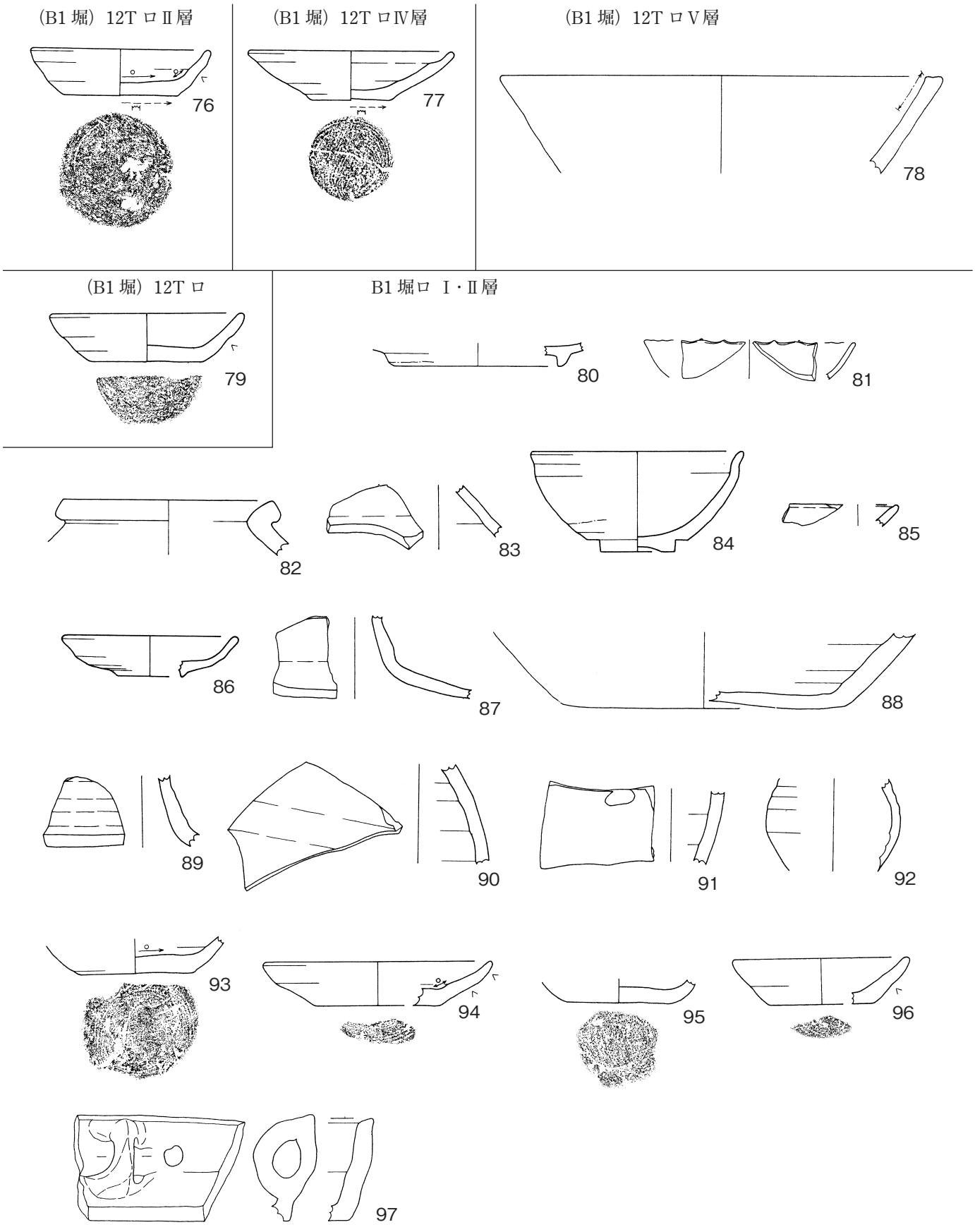


（B1 堀）12T ベルト

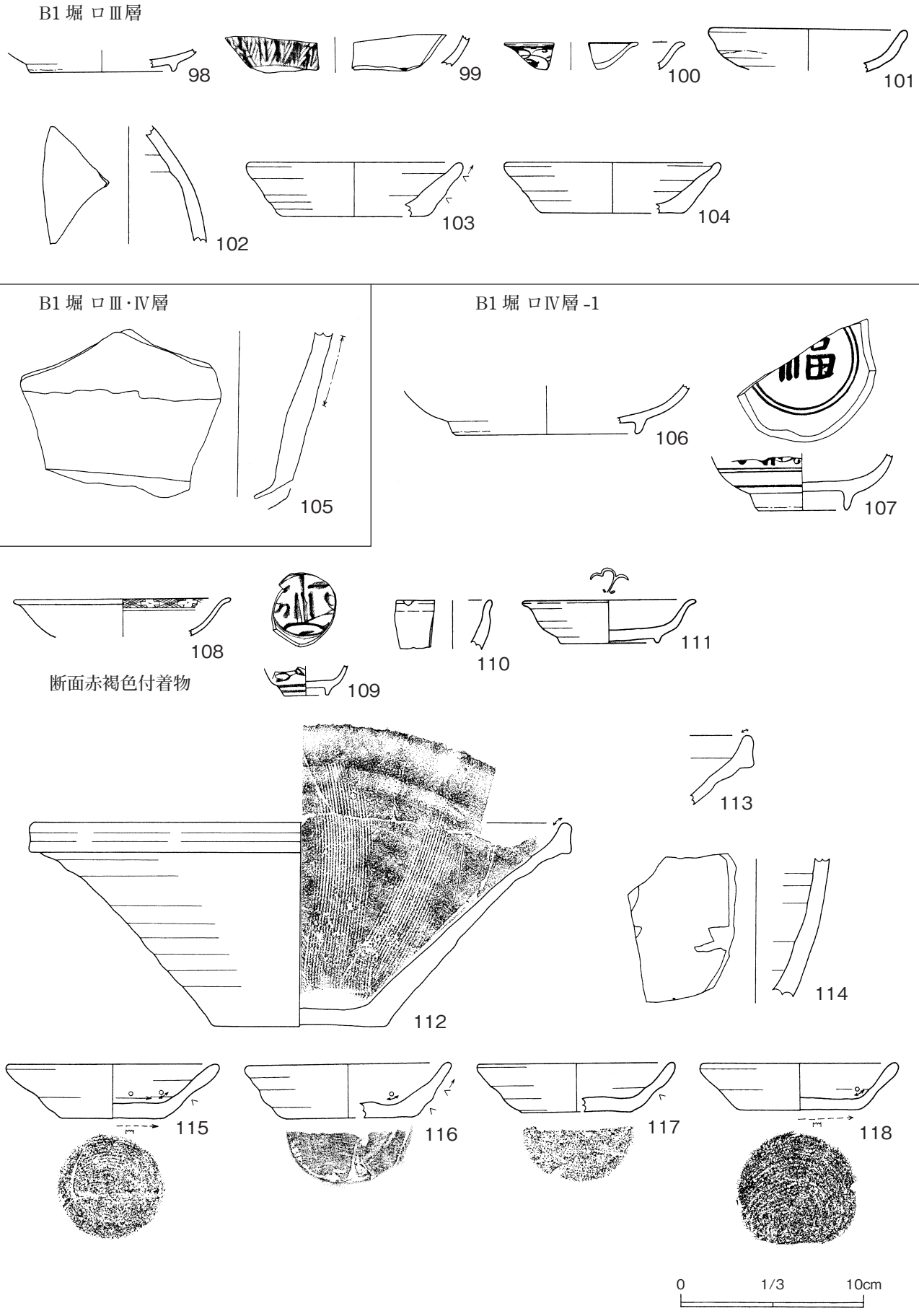


0　1/3　10cm

第14図　土器類３（A区B１堀３）

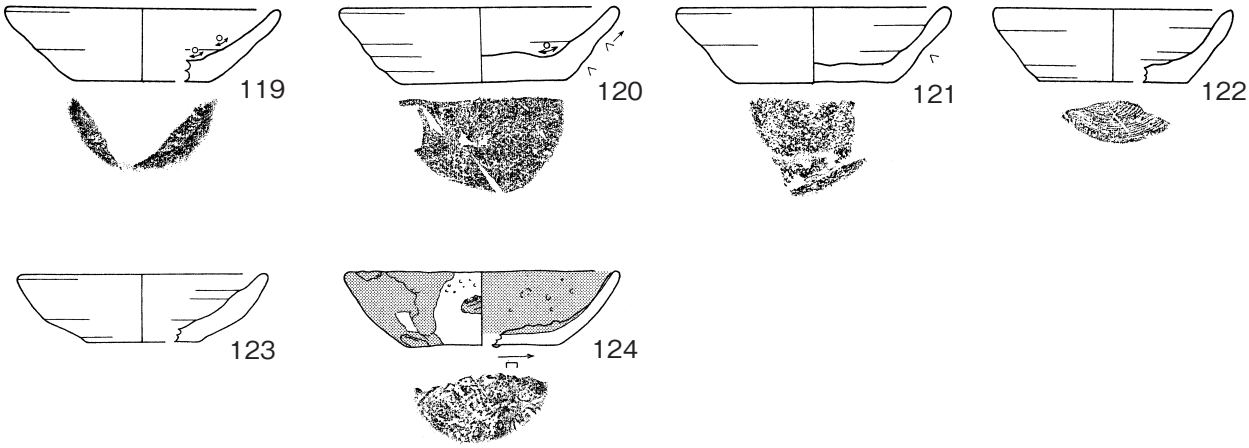


第15図　土器類４（A区Ｂ１堀４）

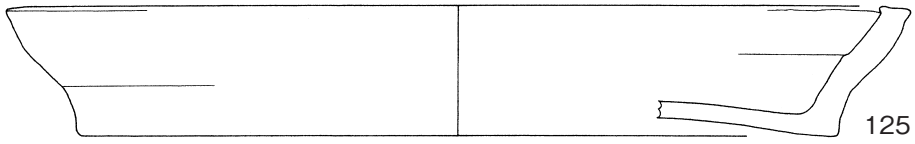


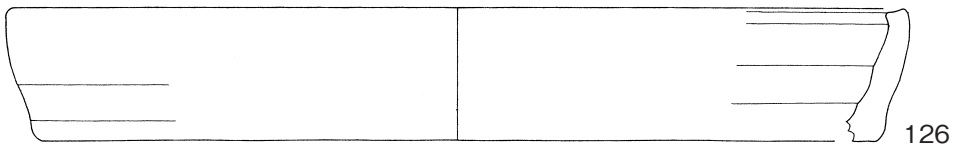
第16図　土器類５（A区B１堀５）

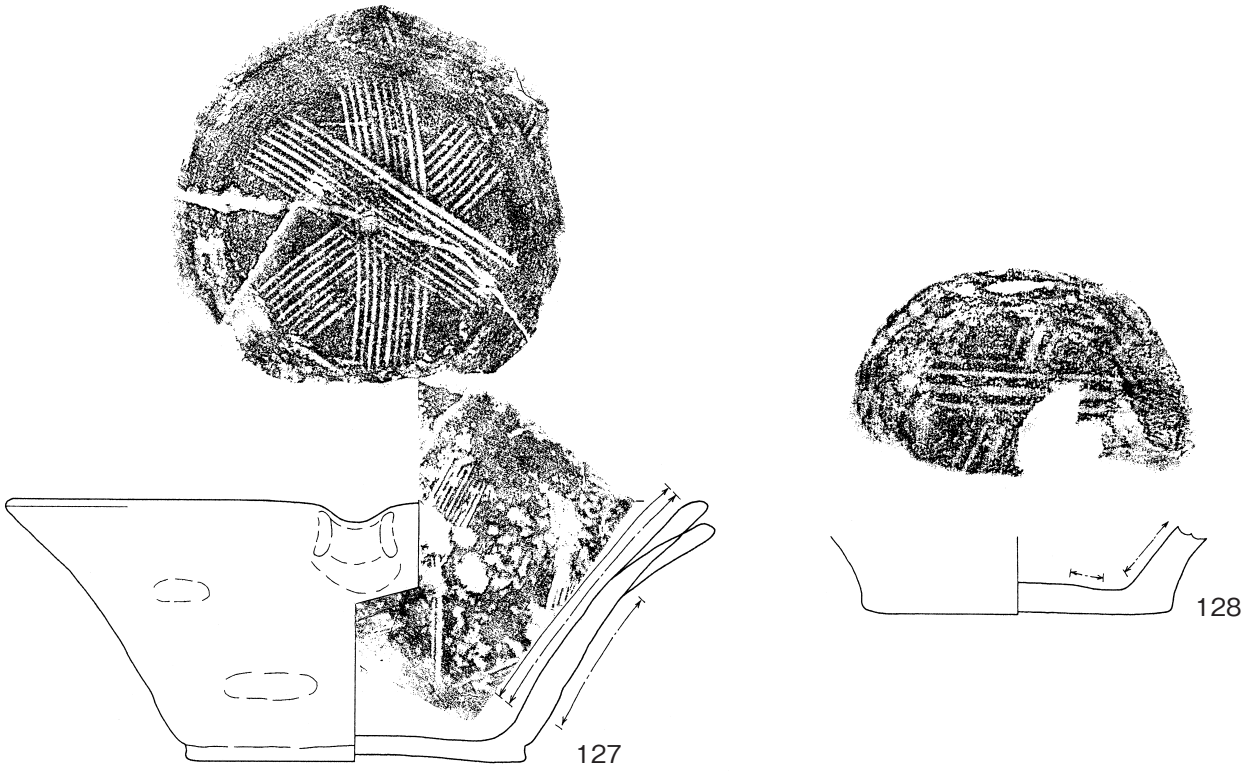
B1 堀 ロⅣ層 -2



アミは熔融物付着

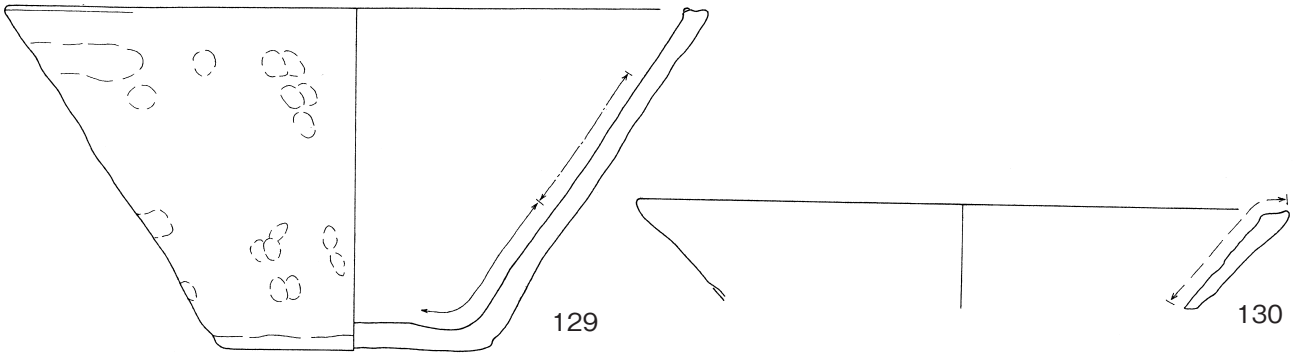




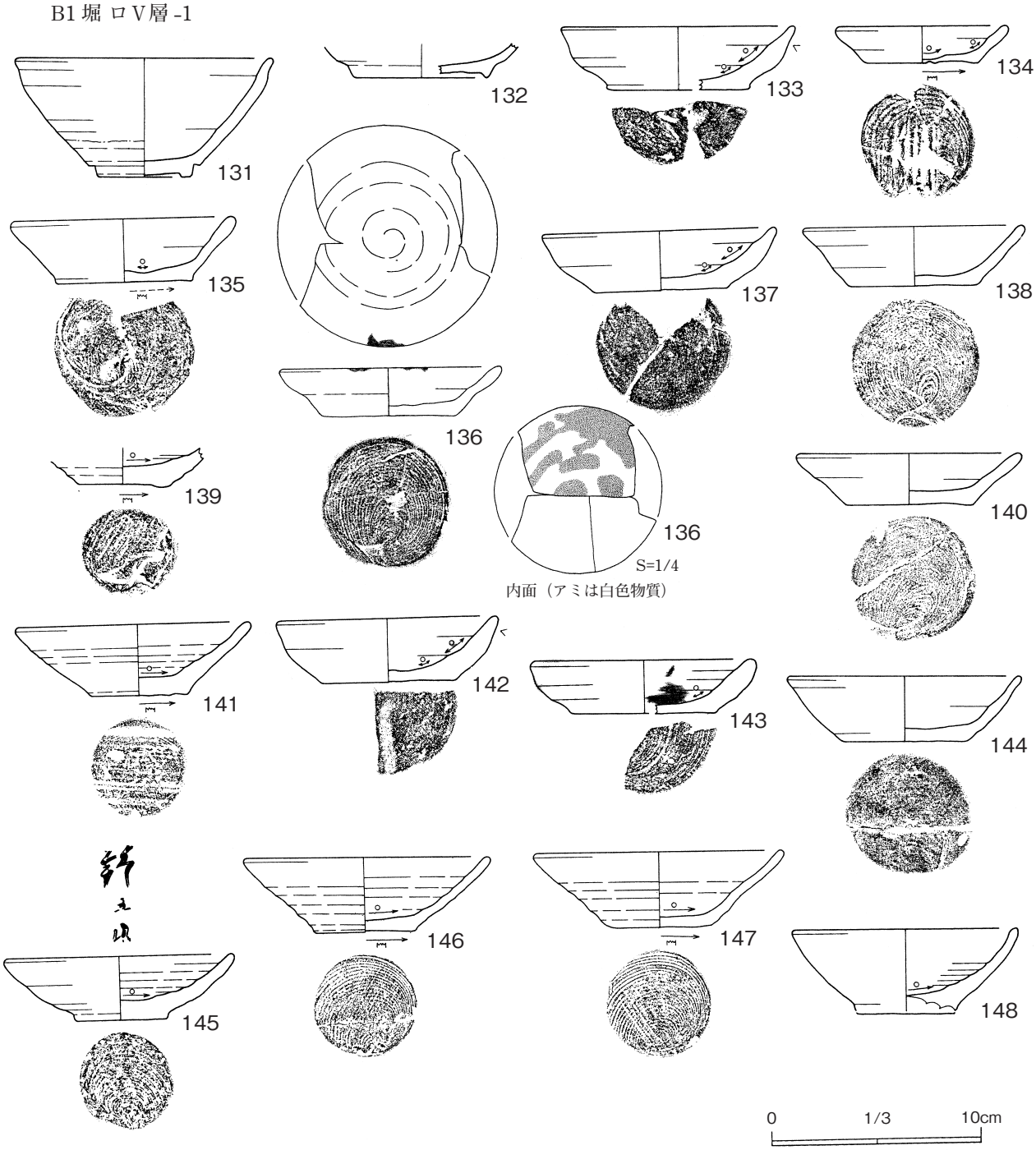


第17図　土器類６（A区Ｂ１堀６）

B1 堀 ロⅣ層 -3

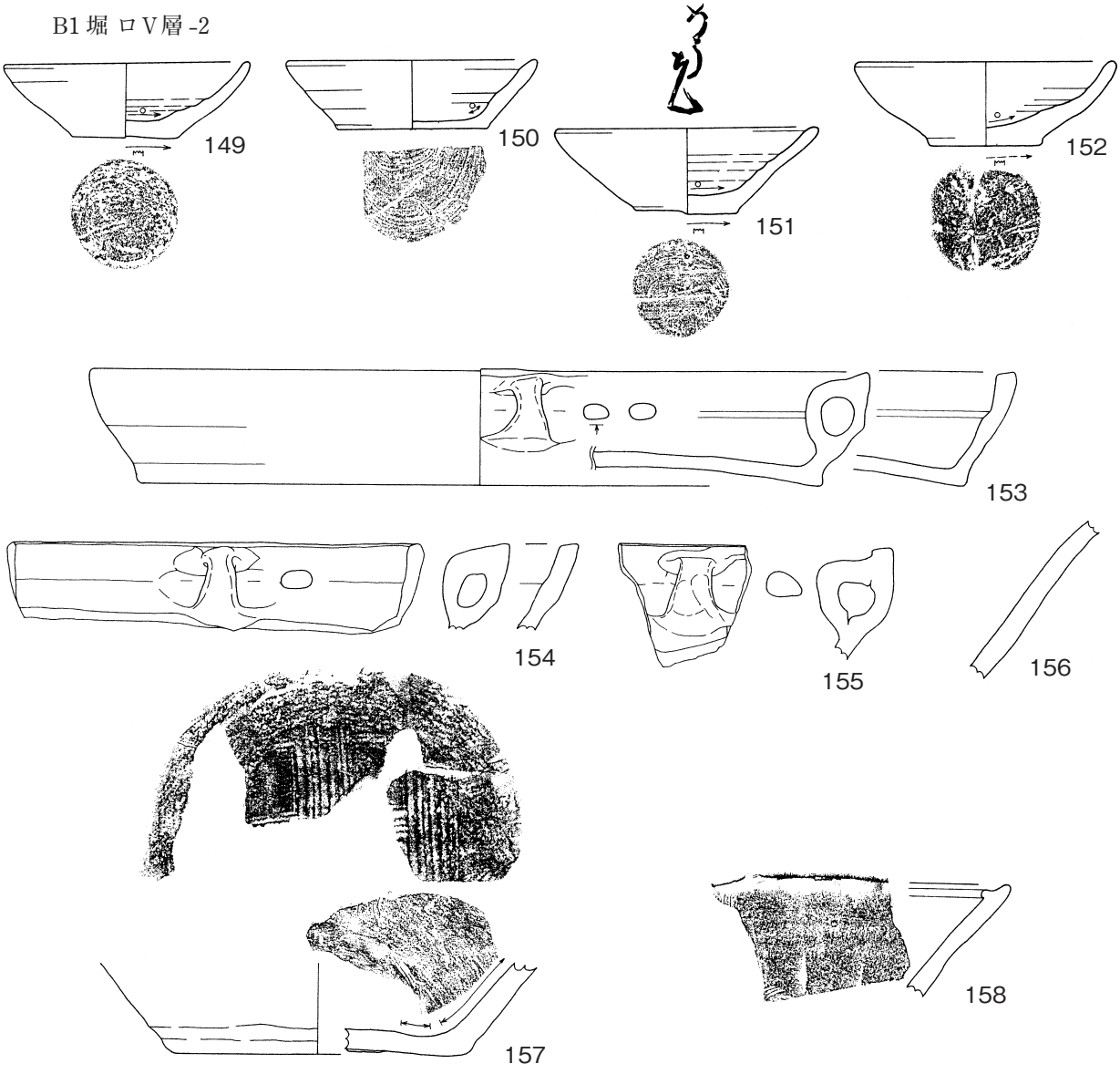


B1 堀 ロⅤ層 -1

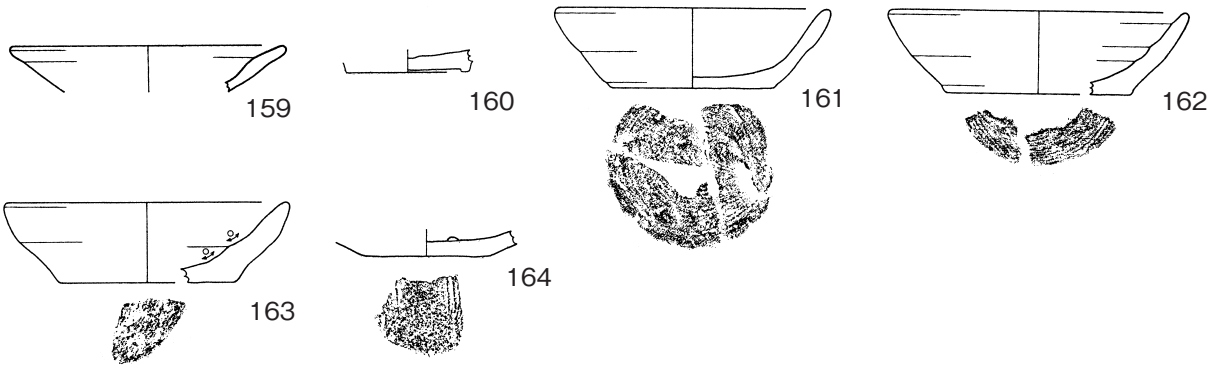


第18図　土器類７（A区B１堀７）

B1 堀 ロV層 -2



B1 堀 ロ

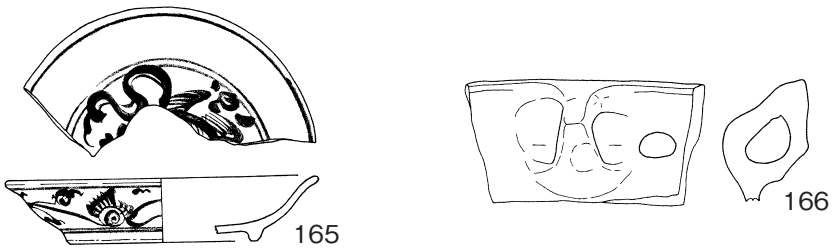


金
熔融物付着

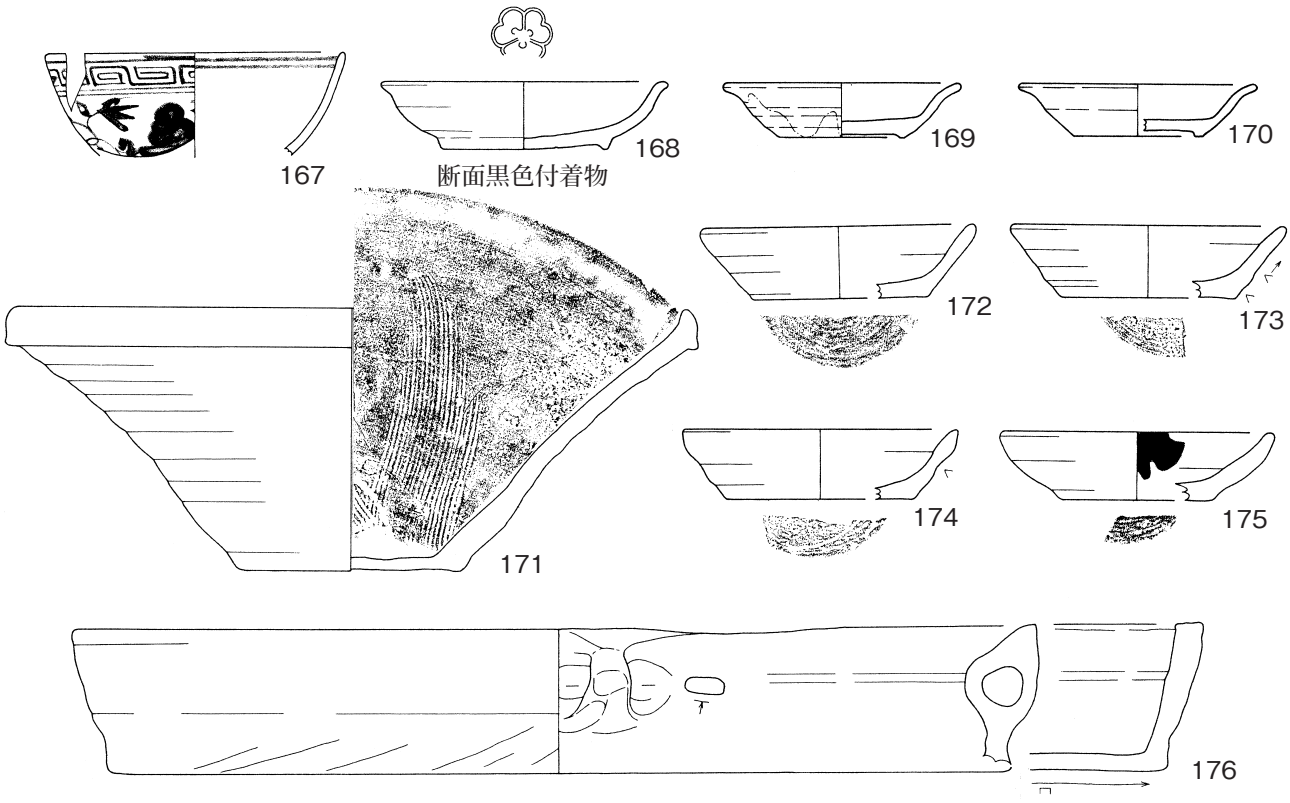
0 1/3 10cm

第19図　土器類 8 （A区 B 1 堀 8 ）

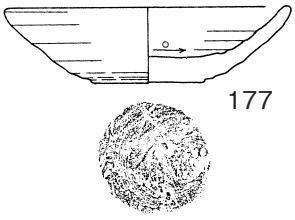
(B1 堀) 9T ロⅢ層



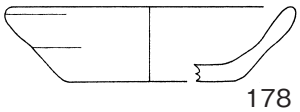
(B1 堀) 9T ロⅣ層



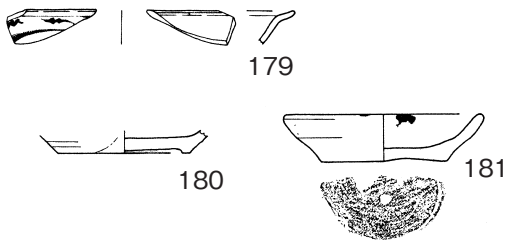
(B1 堀) 9T ロⅤ層

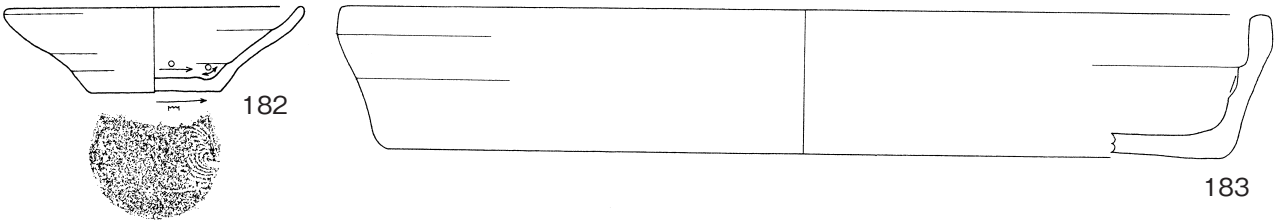


(B1 堀) 9T ロ



B1 堀 ハⅣ層

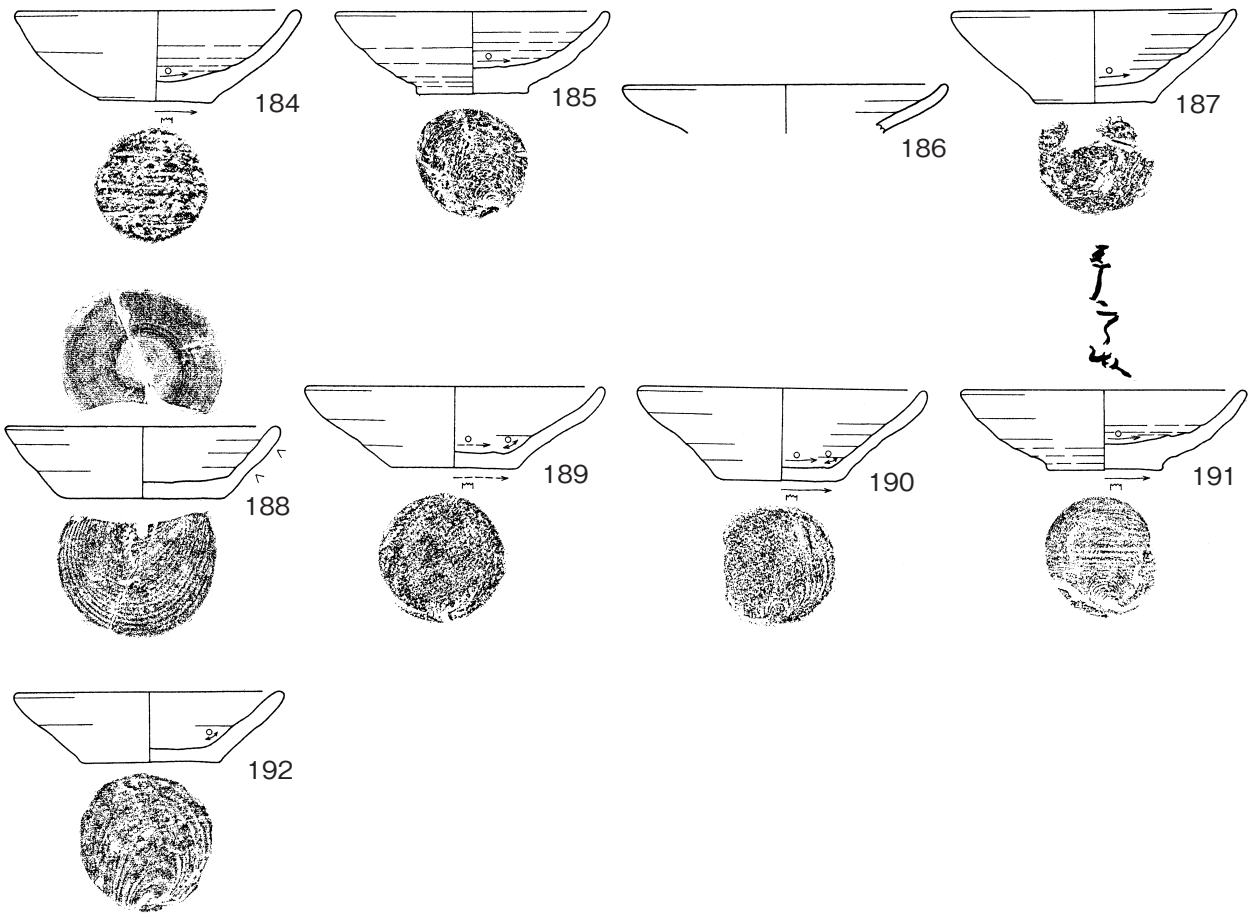




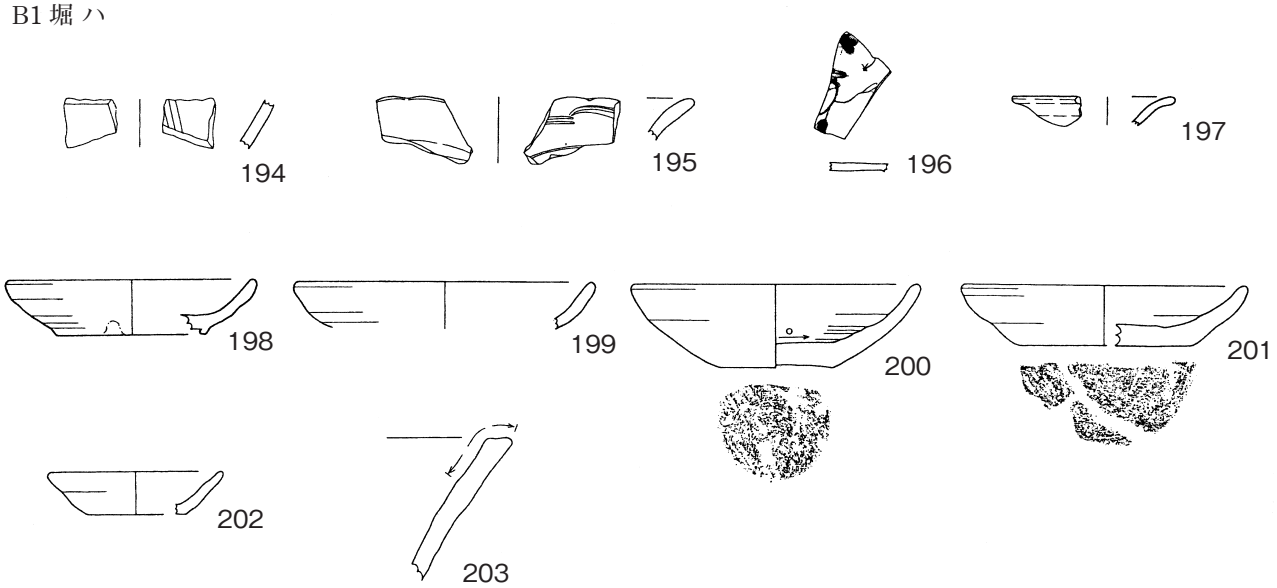
0 1/3 10cm

第20図　土器類９（A区Ｂ１堀９）

B1 堀 ハV層 -1



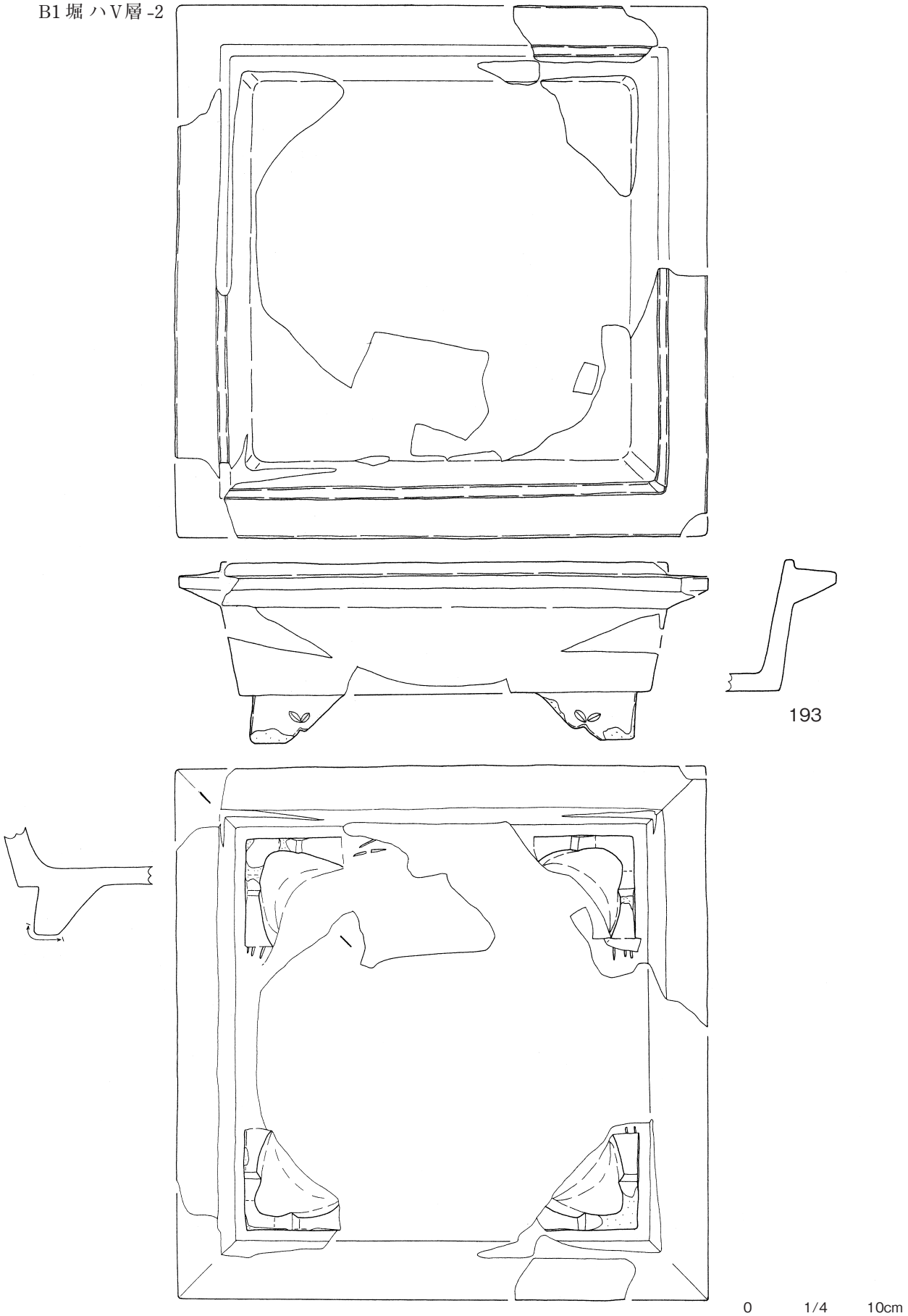
B1 堀 ハ



0 1/3 10cm

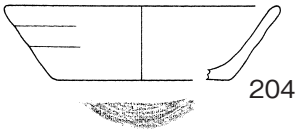
第21図　土器類10（A区B１堀10）

B1 堀 ハV層 -2



第22図　土器類11（A区B１堀11）

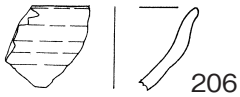
(B1 堀) 13T ニⅢ層



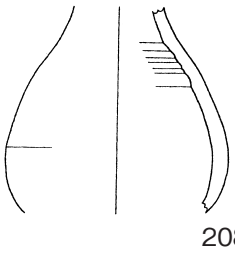
(B1 堀) 13T ニ

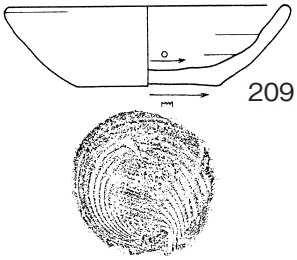


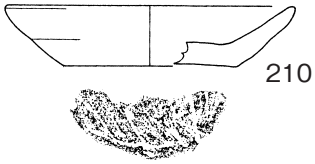
B1 堀 ニⅡ層



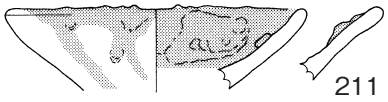








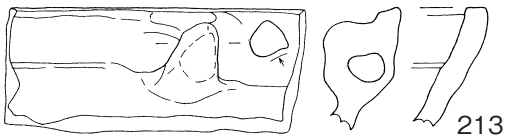
B1 堀 ニⅢ層



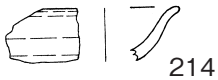


アミは熔融物付着

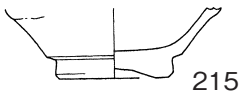
B1 堀 ニⅣ層

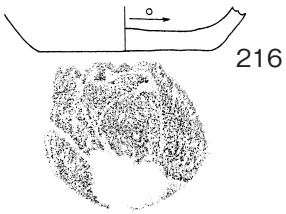


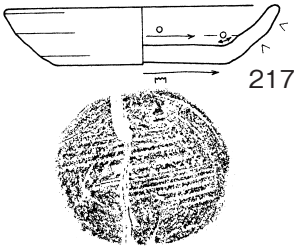
B1 堀 ニⅤ層

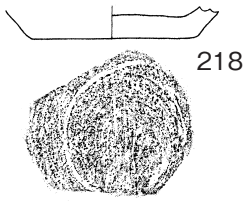


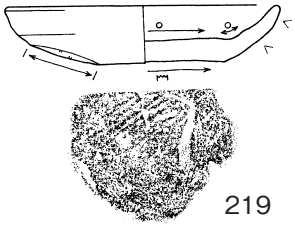
B1 堀 ニ縦 11 層（Ⅱ～Ⅲ層ヵ）

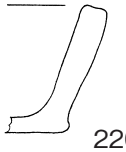




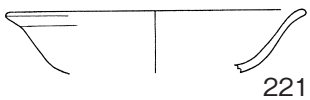


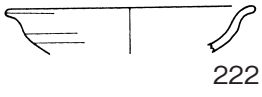


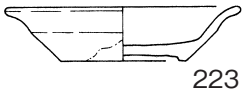


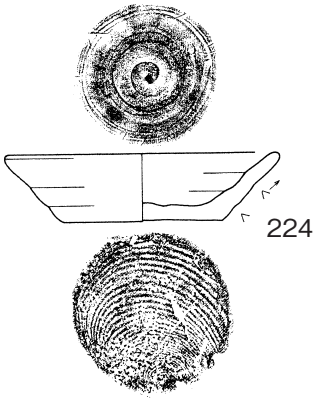


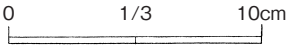
B1 堀 ニ縦 4 層（Ⅲ層ヵ）-1





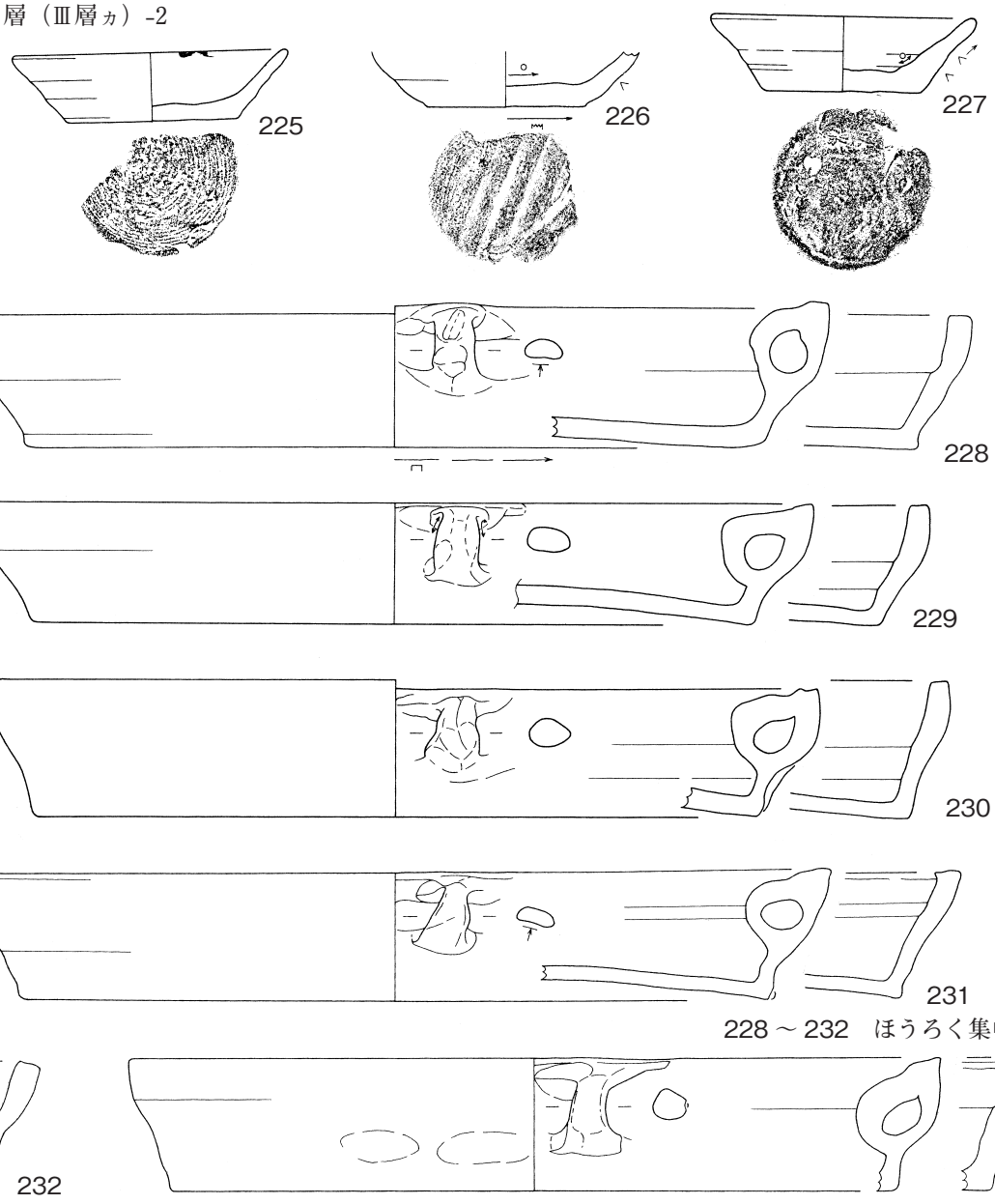






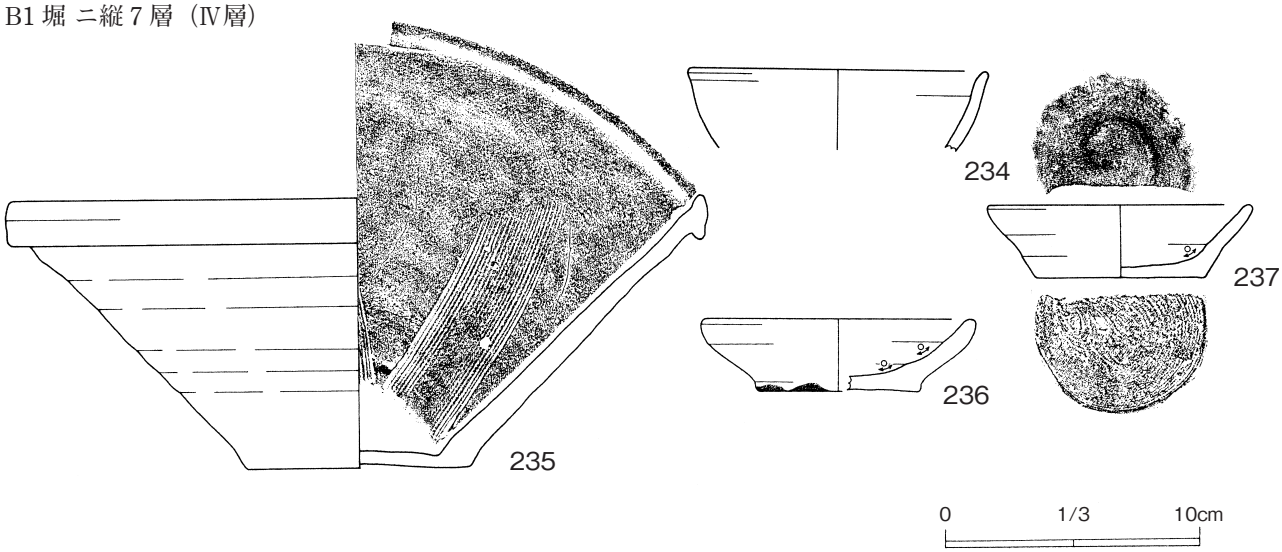
第23図　土器類12（A区Ｂ１堀12）

B1 堀 ニ縦 4 層（Ⅲ層ヵ）-2



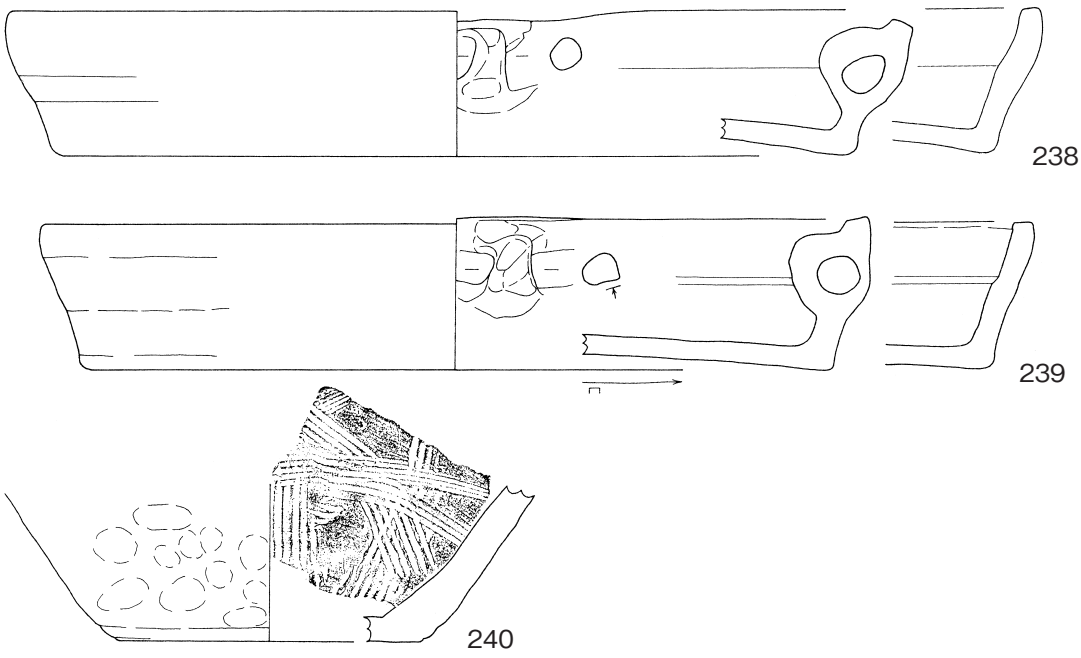
228 ～ 232　ほうろく集中出土

B1 堀 ニ縦 7 層（Ⅳ層）

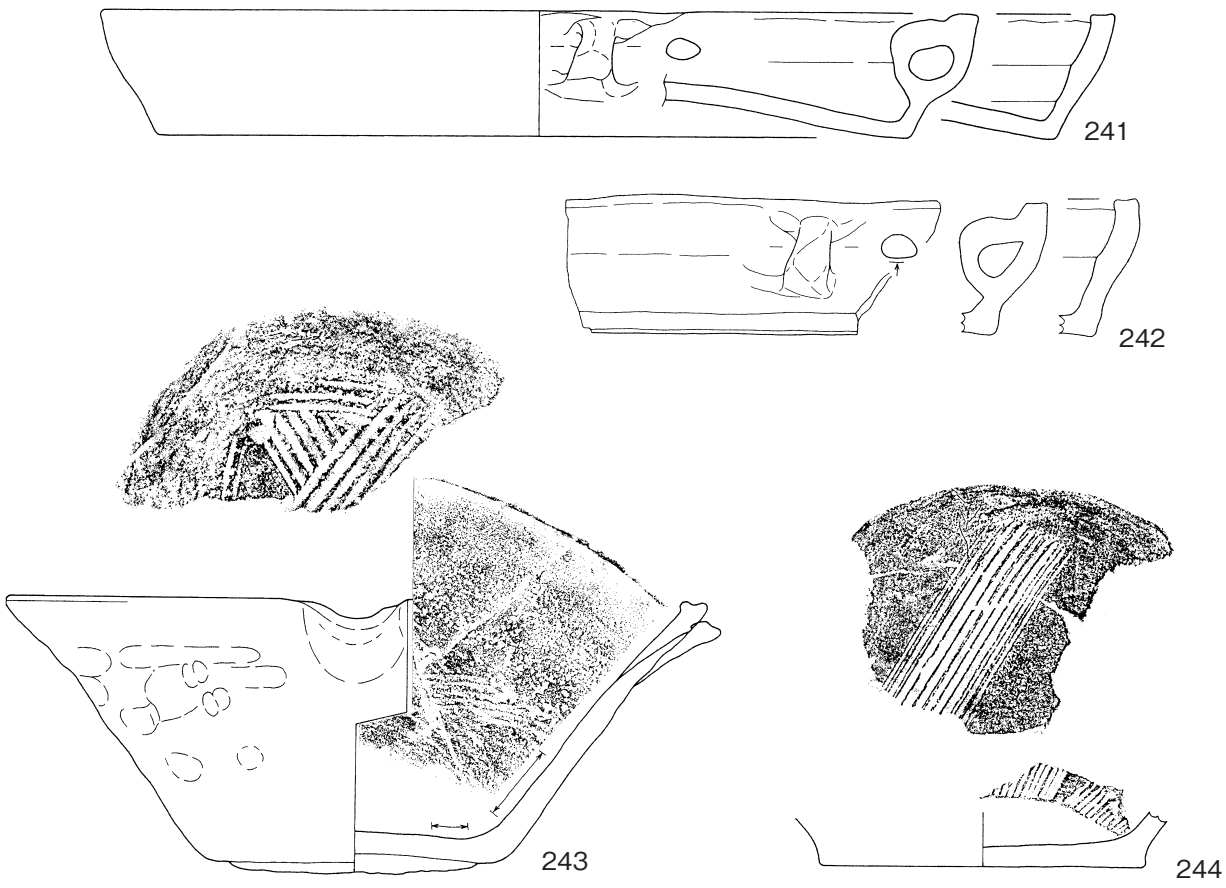


第24図　土器類13（A区B１堀13）

B1 堀 ニ縦 8 層（Ⅳ層）



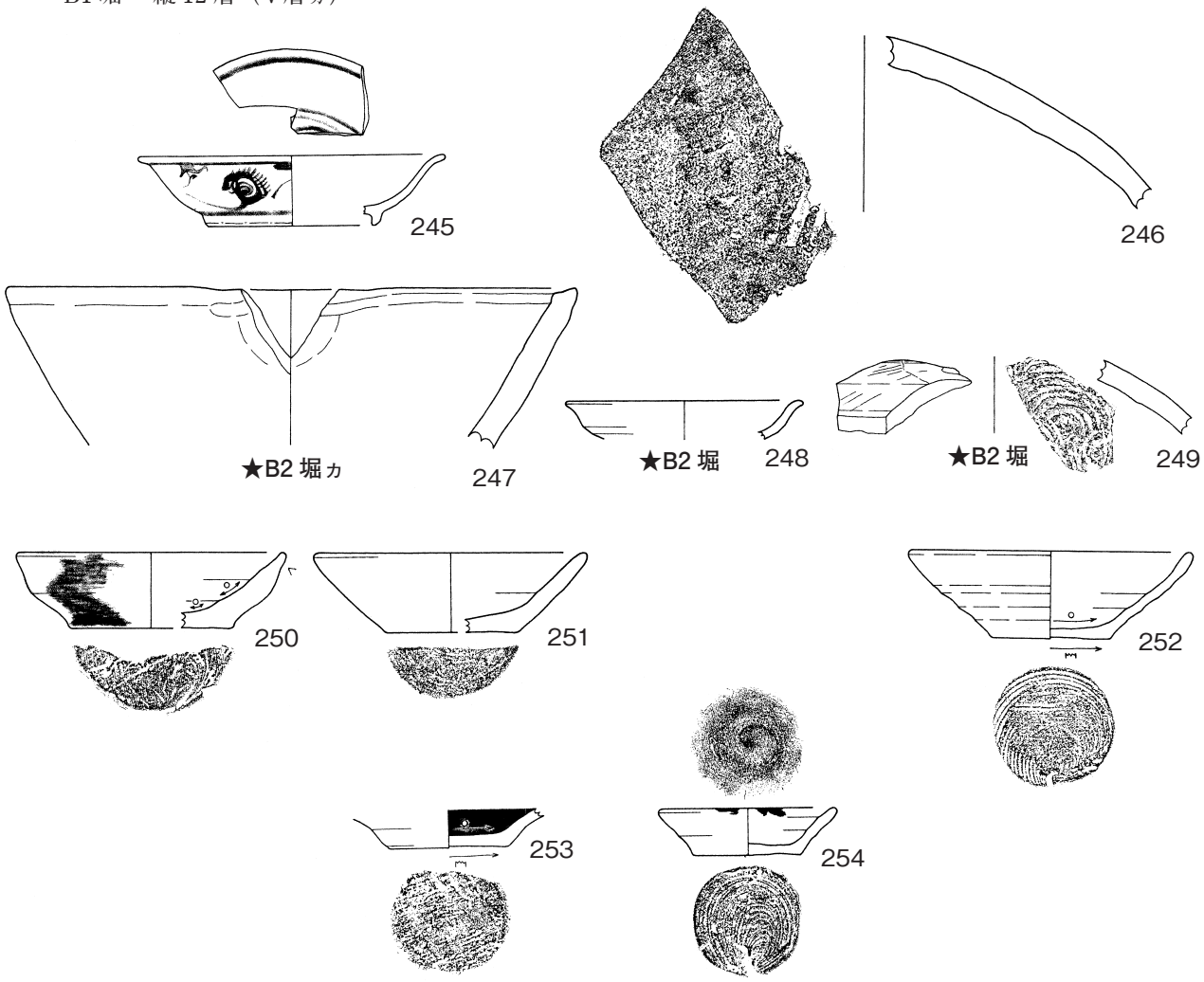
B1 堀 ニ縦 10 層（Ⅴ層）



0 1/3 10cm

第25図　土器類14（A区B 1 堀14）

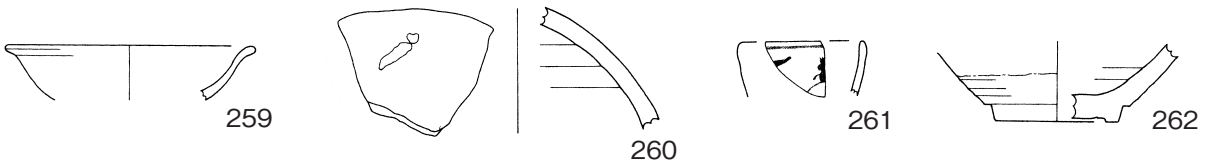
B1 堀 ニ縦 12 層（V層ヵ）



B1 堀 ニ東（ほうろく集中）



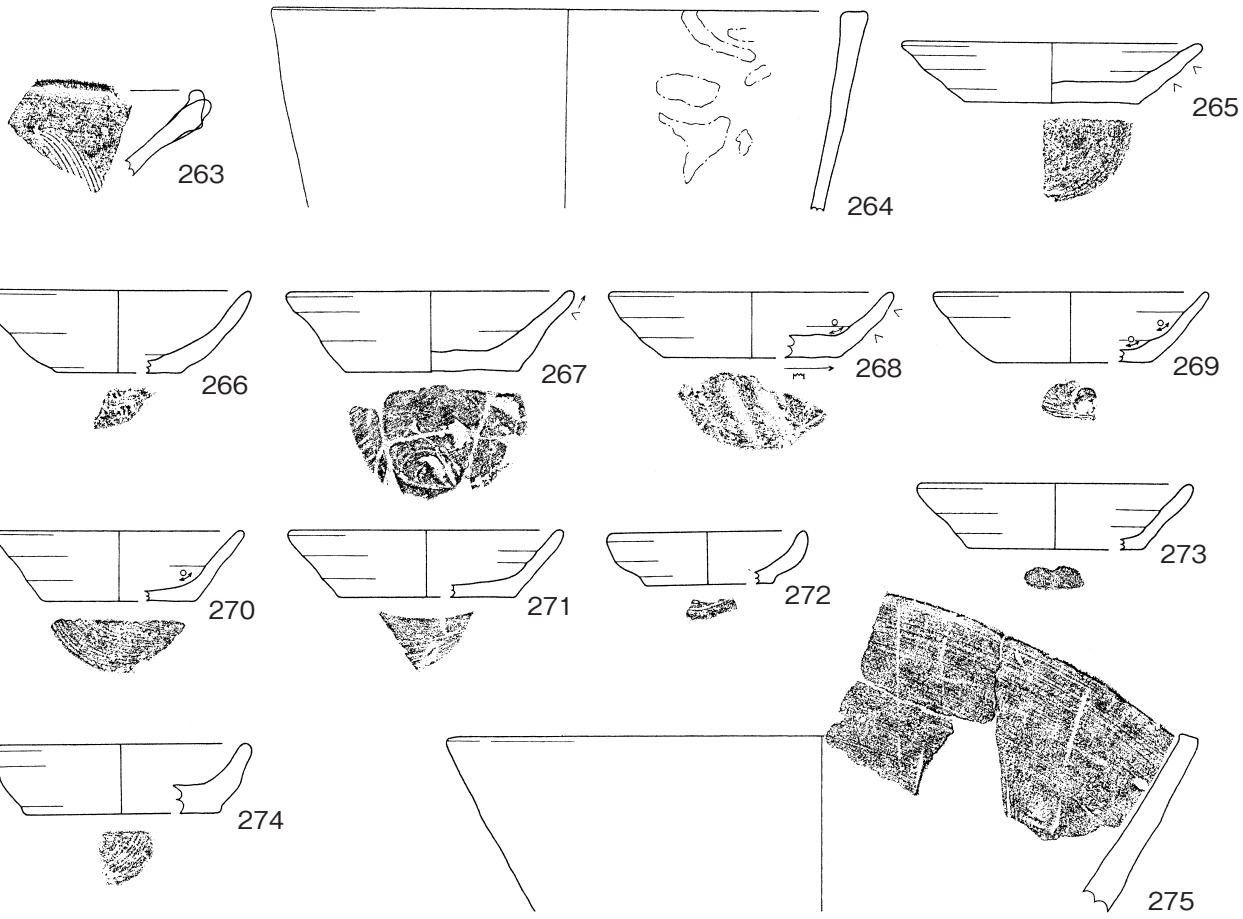
B1 堀 ニ -1



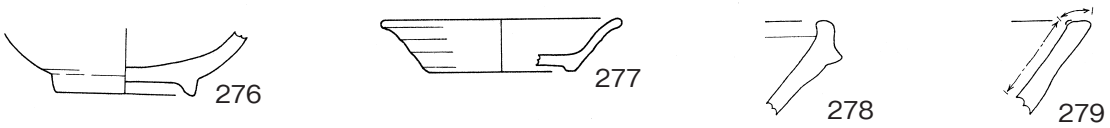
0 1/3 10cm

第26図　土器類15（A区B１堀15）

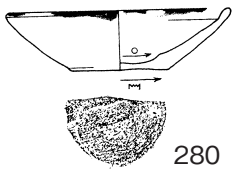
B1 堀 ニ -2



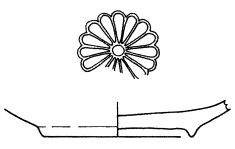
B1 堀 ホⅡ層



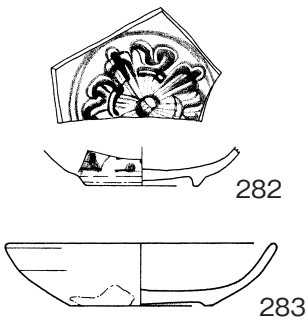
B1 堀ホ Ⅳ層

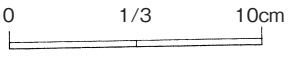


B1 堀 ホⅣ層？



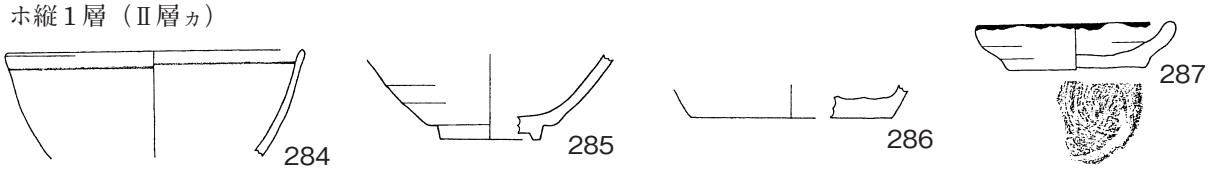
B1 堀 ホⅤ層



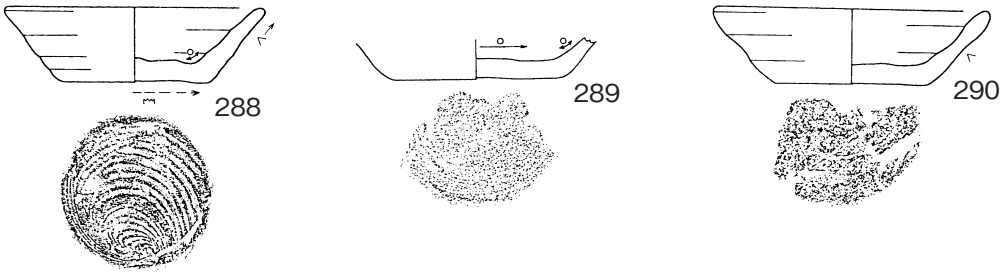


第27図　土器類16（A区B１堀16）

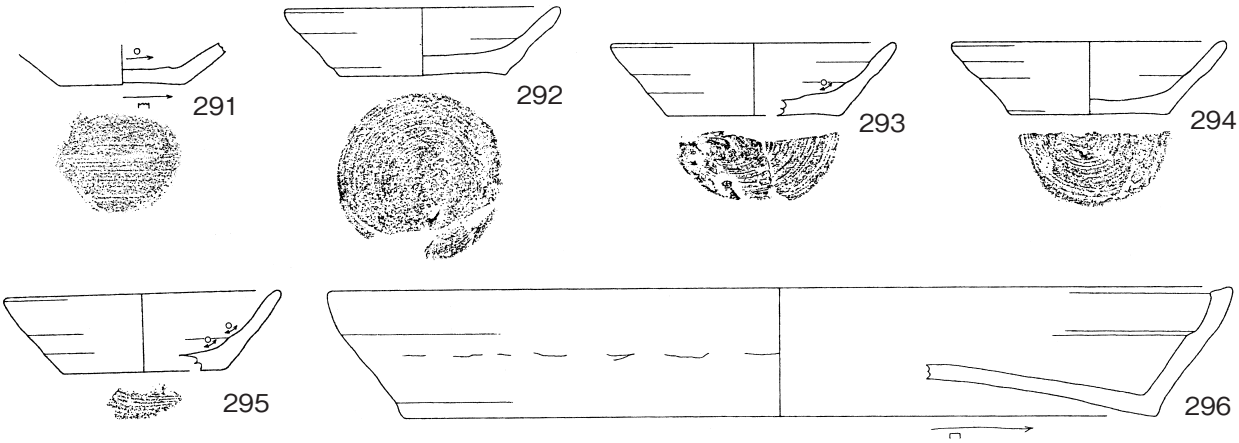
B1 堀 ホ縦１層（Ⅱ層ヵ）

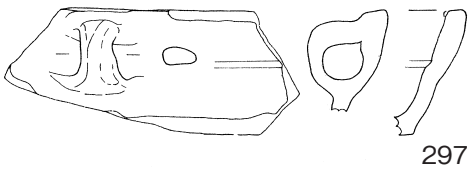


B1 堀 ホ縦 10 層（Ⅱ層ヵ）

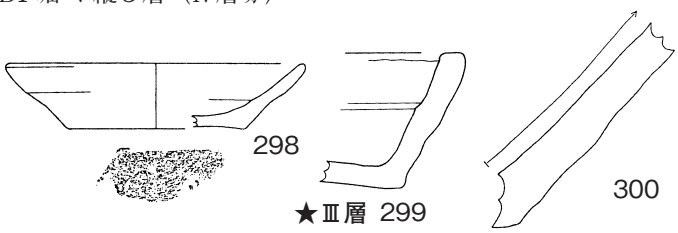


B１堀 ホ縦２層(Ⅳ層ヵ)

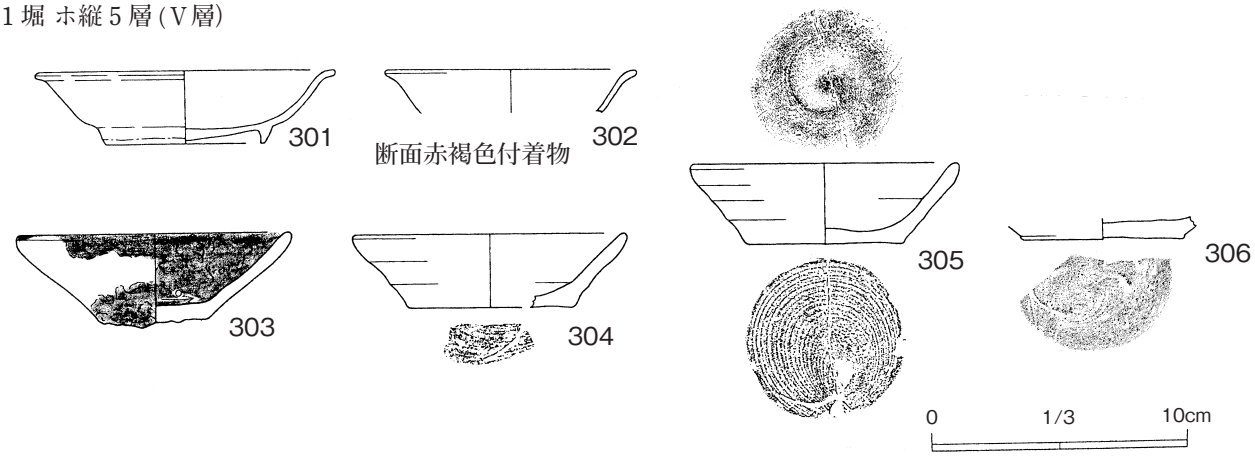




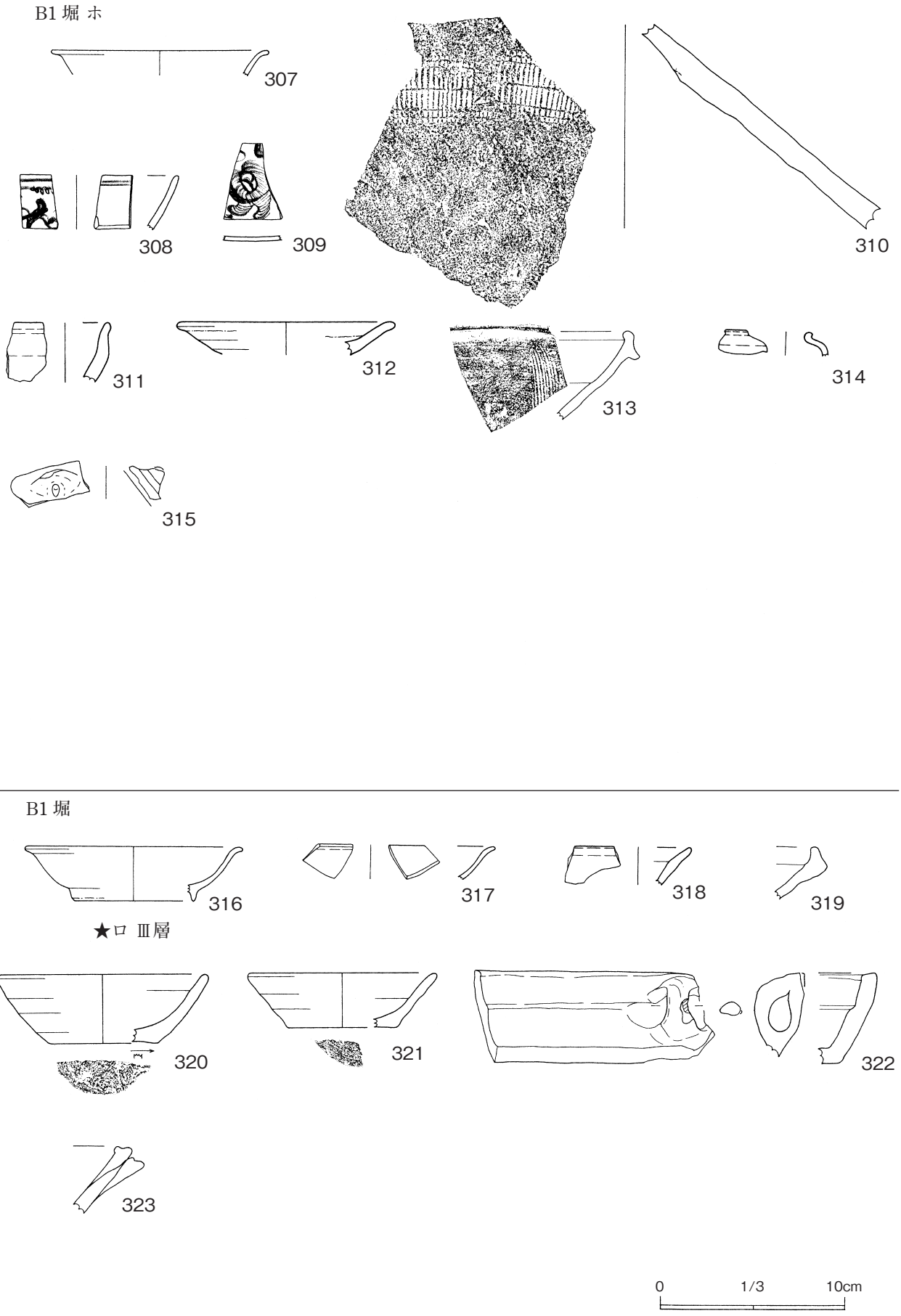
B1 堀 ホ縦３層（Ⅳ層ヵ）



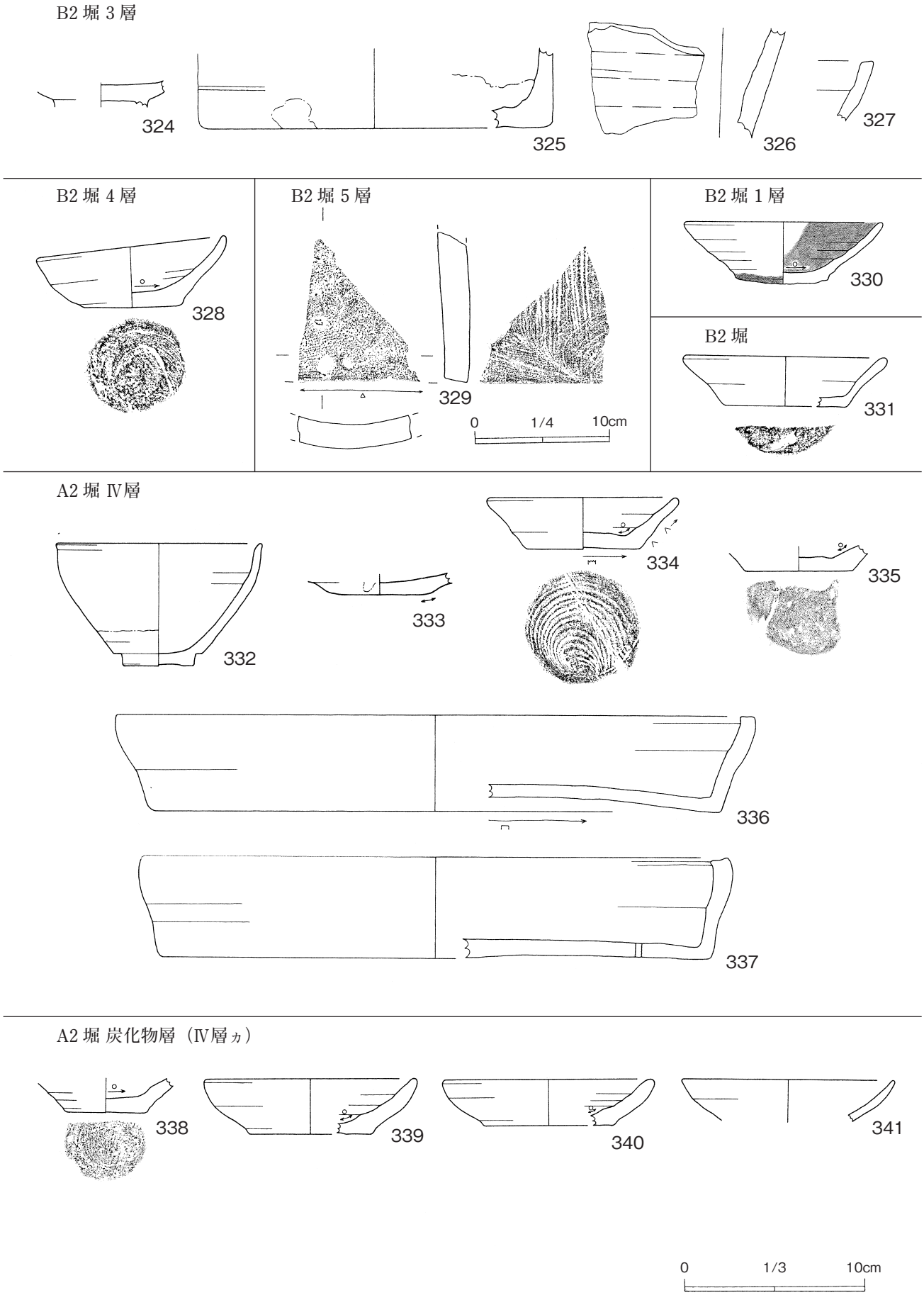
B1 堀 ホ縦５層(Ⅴ層)



第28図　土器類17（A区B１堀17）

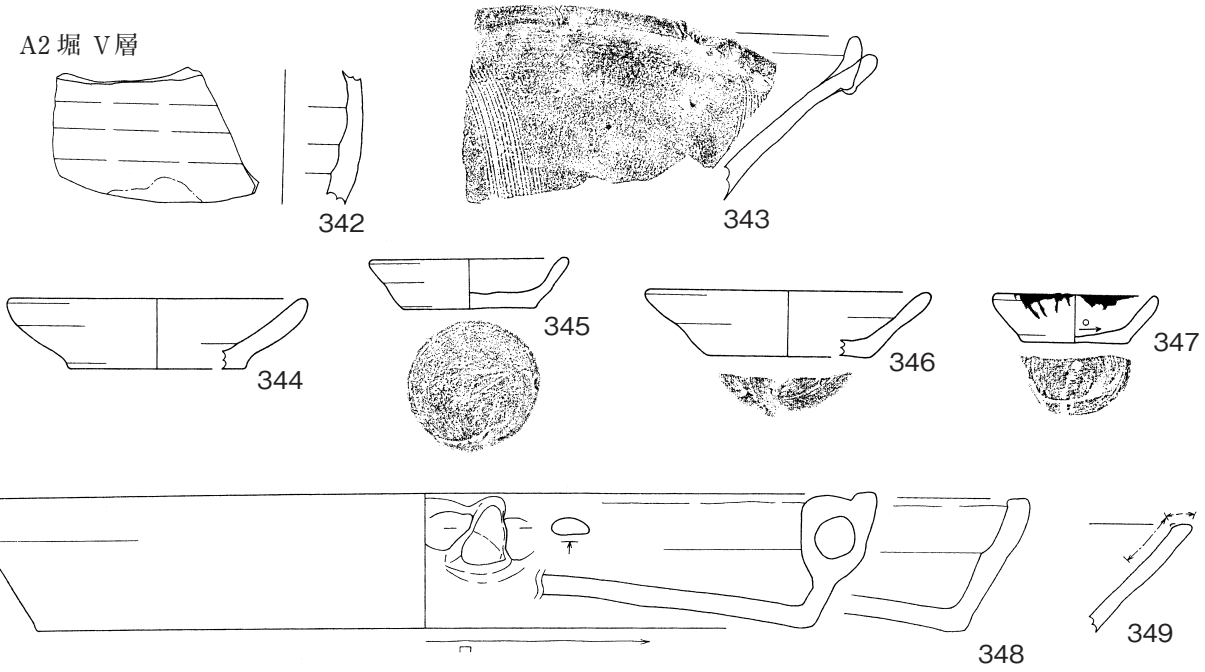


第29図　土器類18（A区B１堀18）

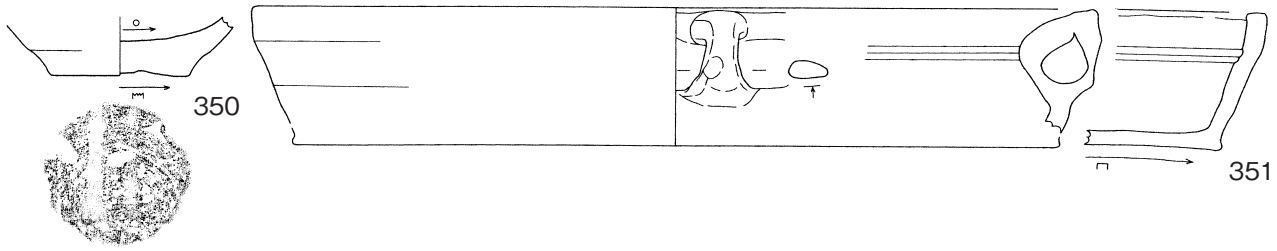


第30図　土器類19（A区B２堀・A２堀１）

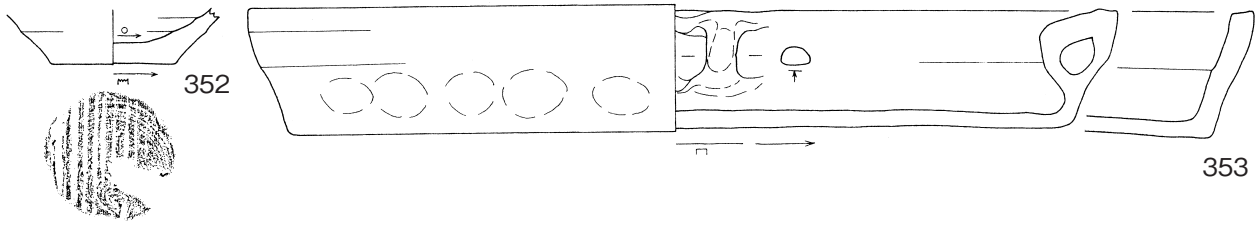
A2 堀 V層



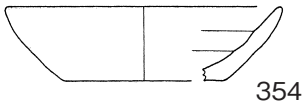
A2 堀 I ライン 4 層（V層類似）



A2 堀 堀底面



（A2 堀）8T



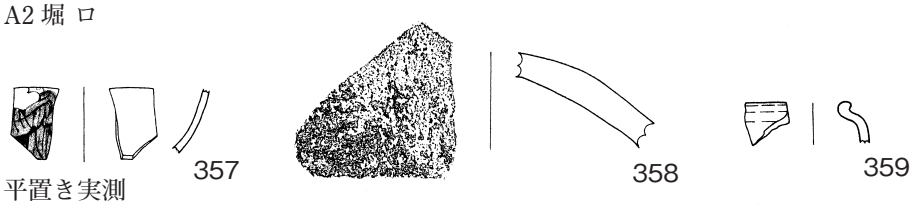
A2 堀 イ



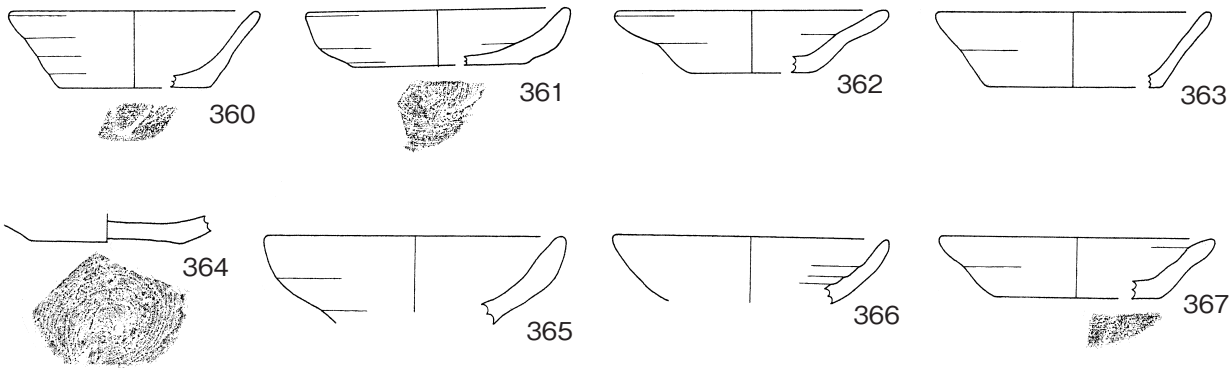
0　1/3　10cm

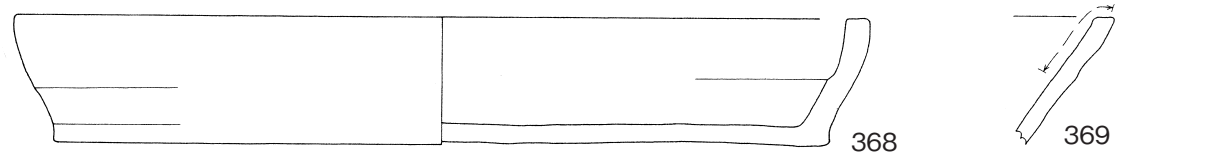
第31図　土器類20（A区A 2 堀 2 ）

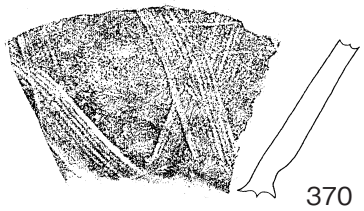
A2 堀 ロ



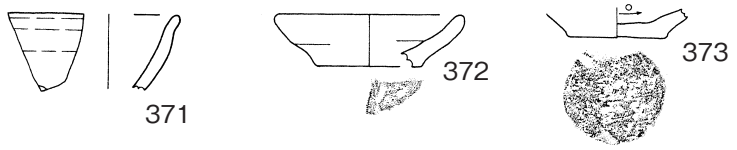
平置き実測



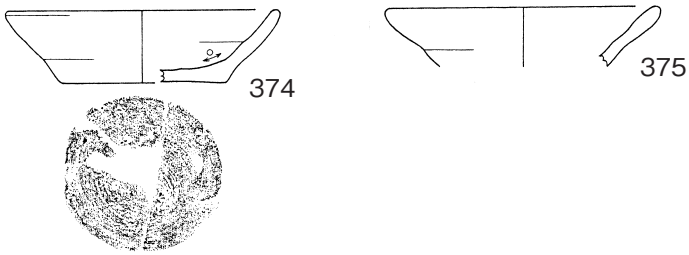




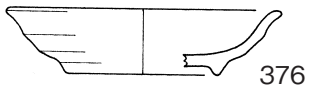
A2 堀

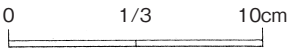


A2 堀 V層（別の溝ヵ）

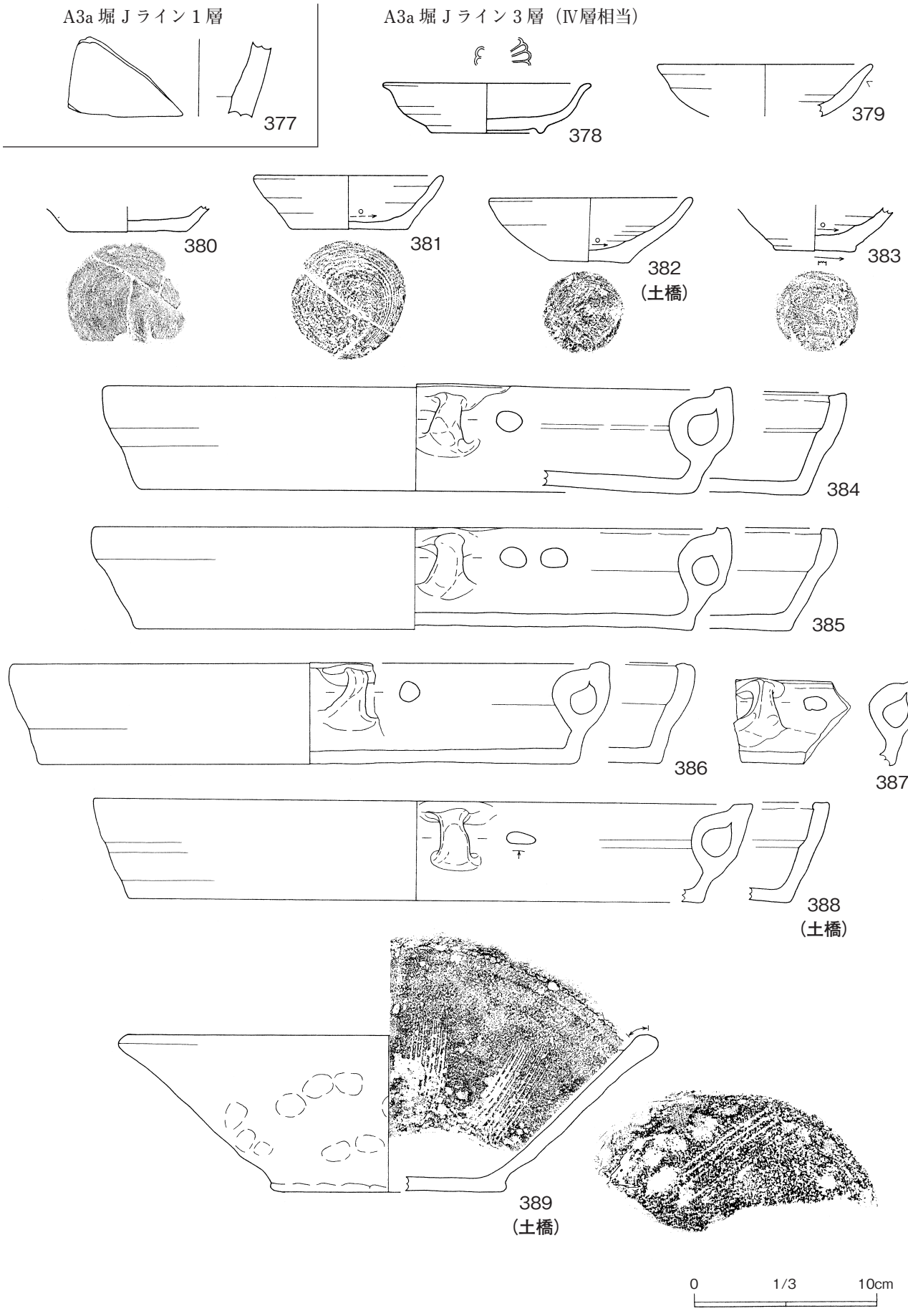


A2 堀 ？層（カクラン？）

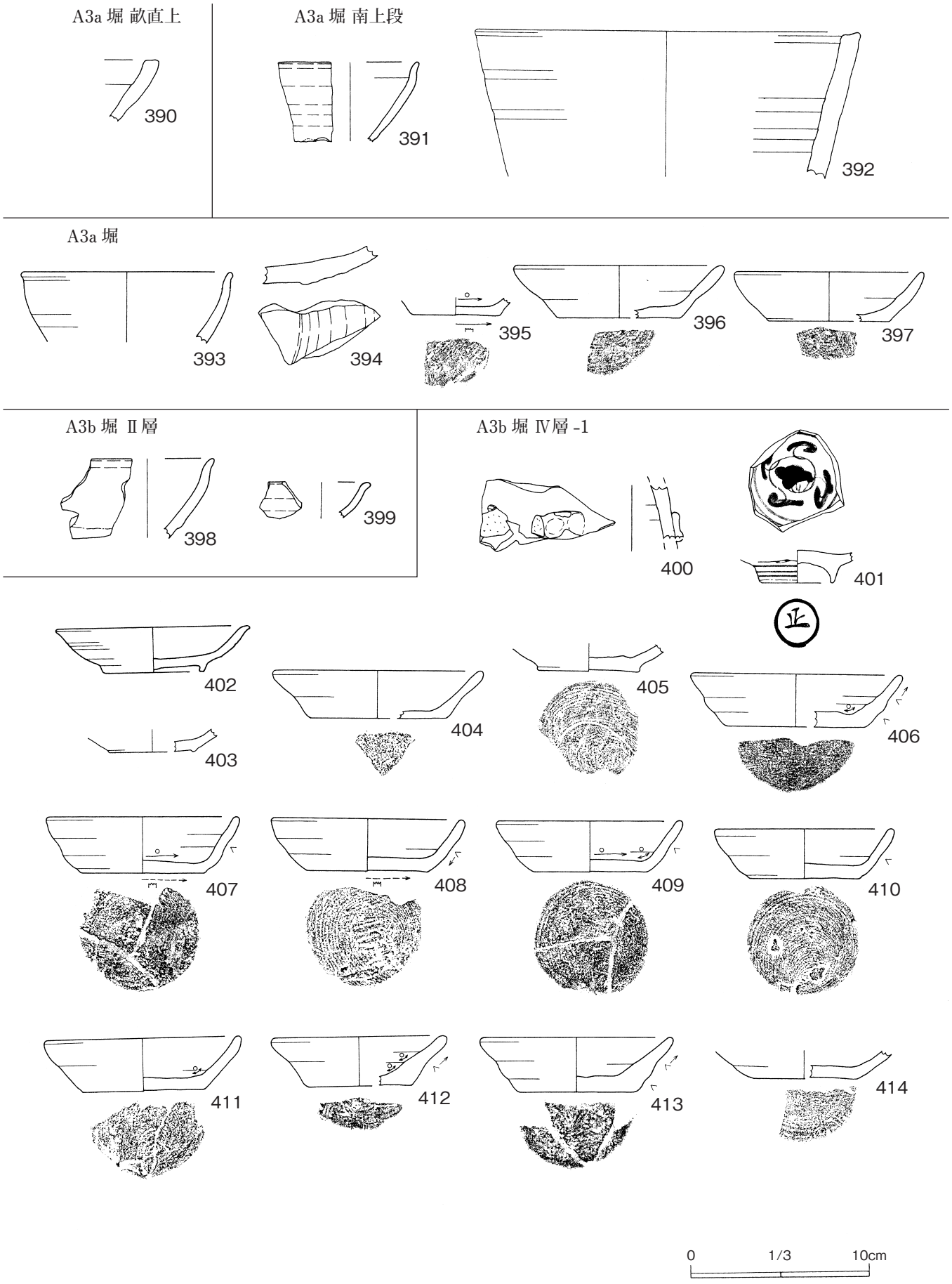




第32図　土器類21（A区A２堀３）

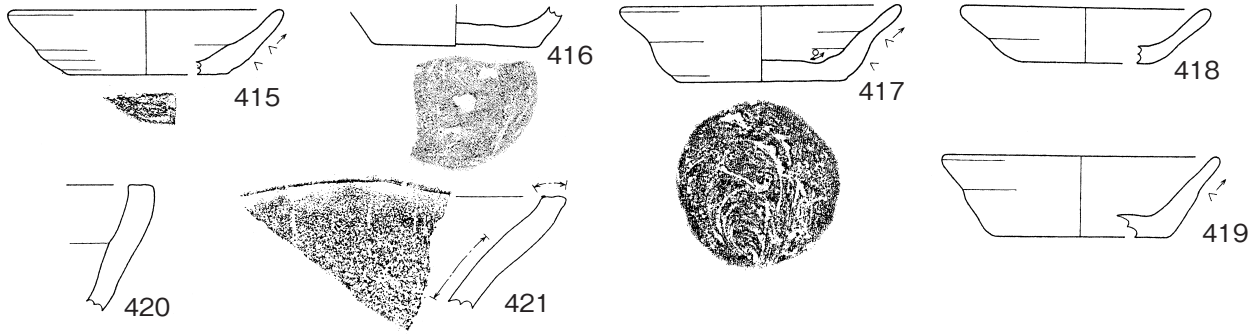


第33図　土器類22（A区A３a堀１）

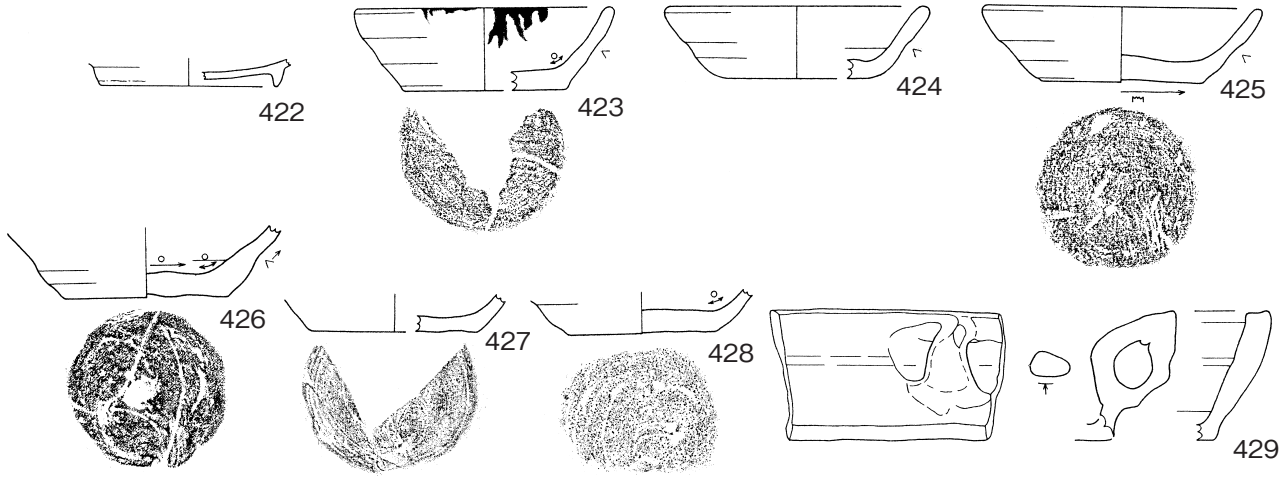


第34図　土器類23（A区A３a堀２・A３b堀１）

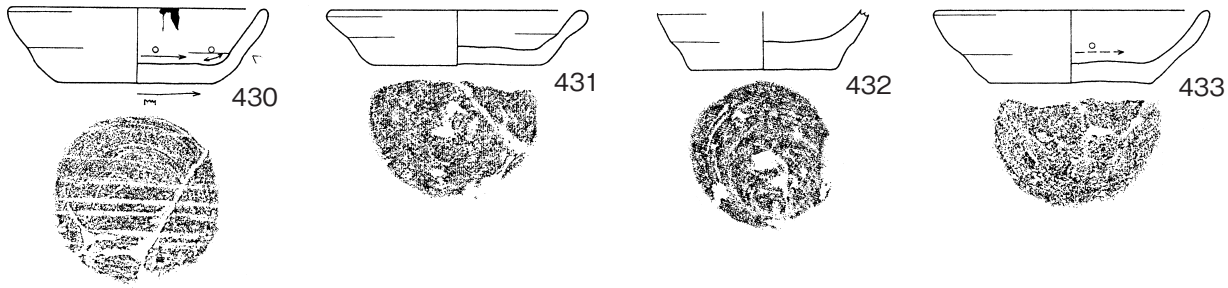
A3b 堀 Ⅳ層 -2



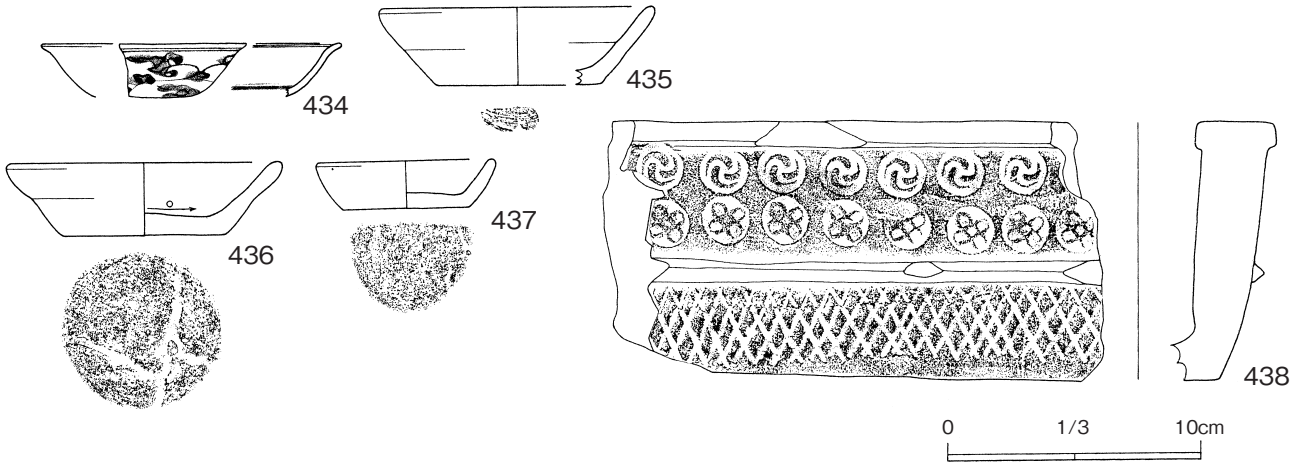
A3b 堀 M ライン 1 層（Ⅳ層相当）



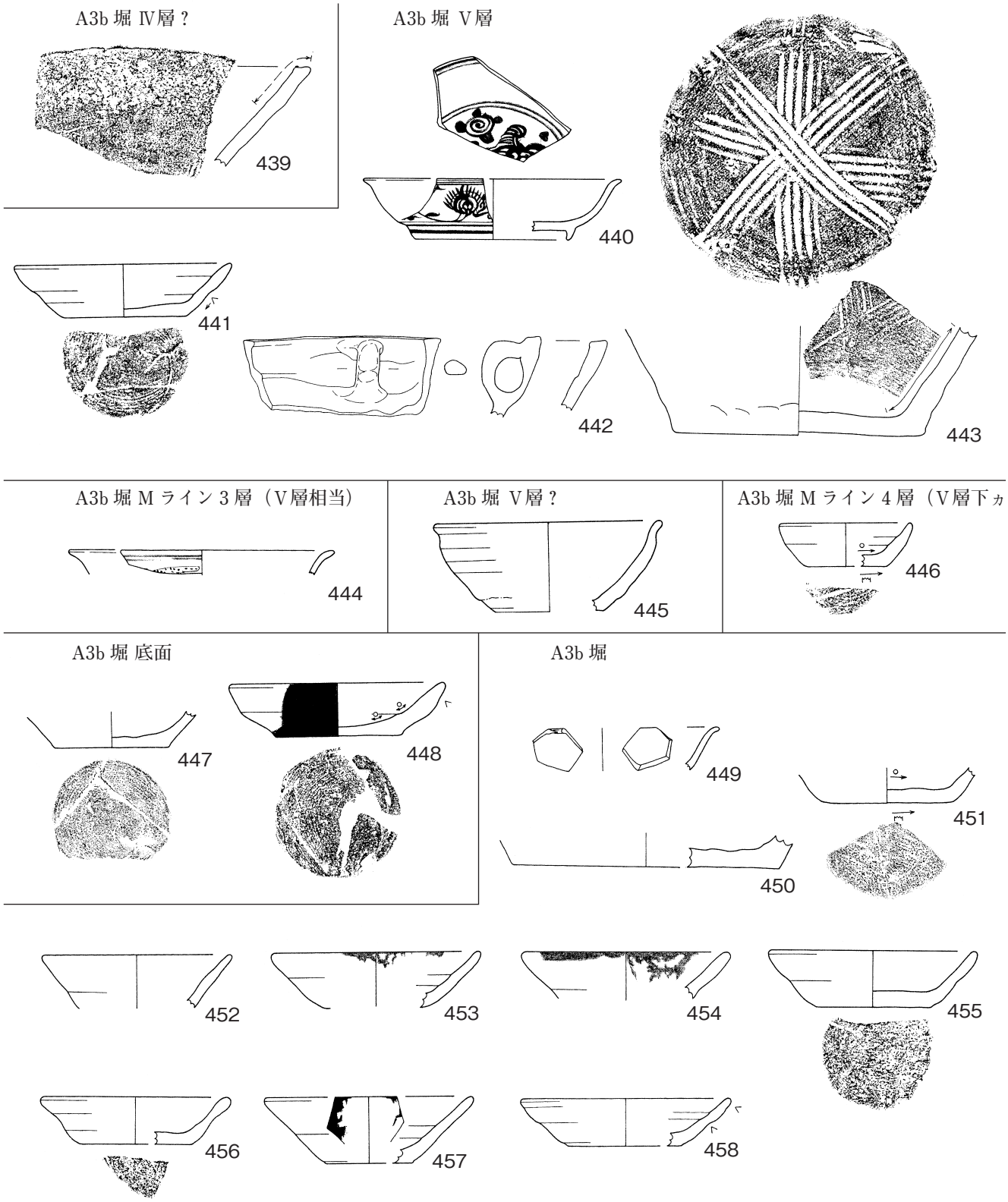
A3b 堀 M ライン 1 層畝上面（Ⅳ層相当）



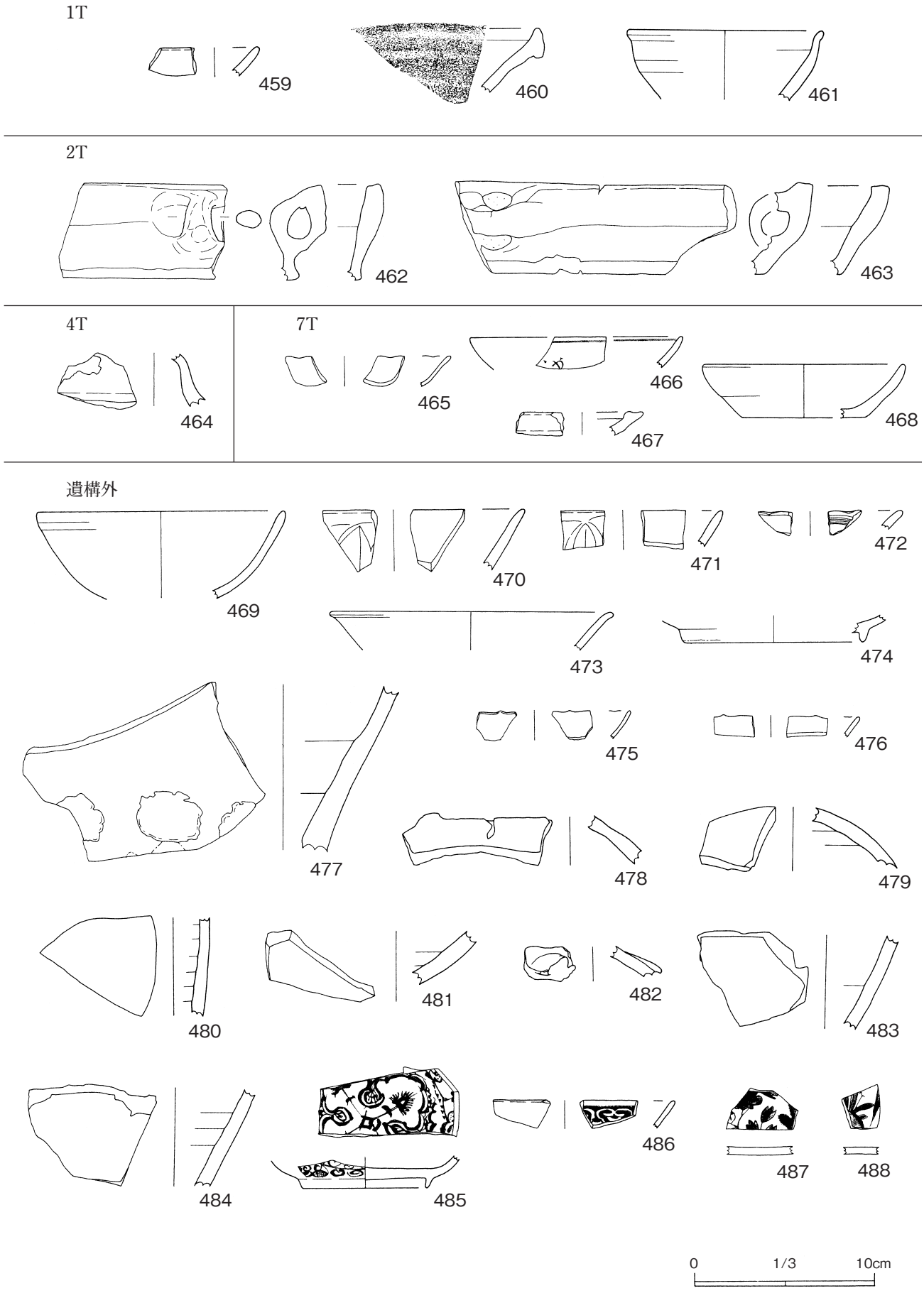
A3b 堀 7T（Ⅳ層・Ⅳ層相当）



第35図　土器類24（A区A３b堀２）

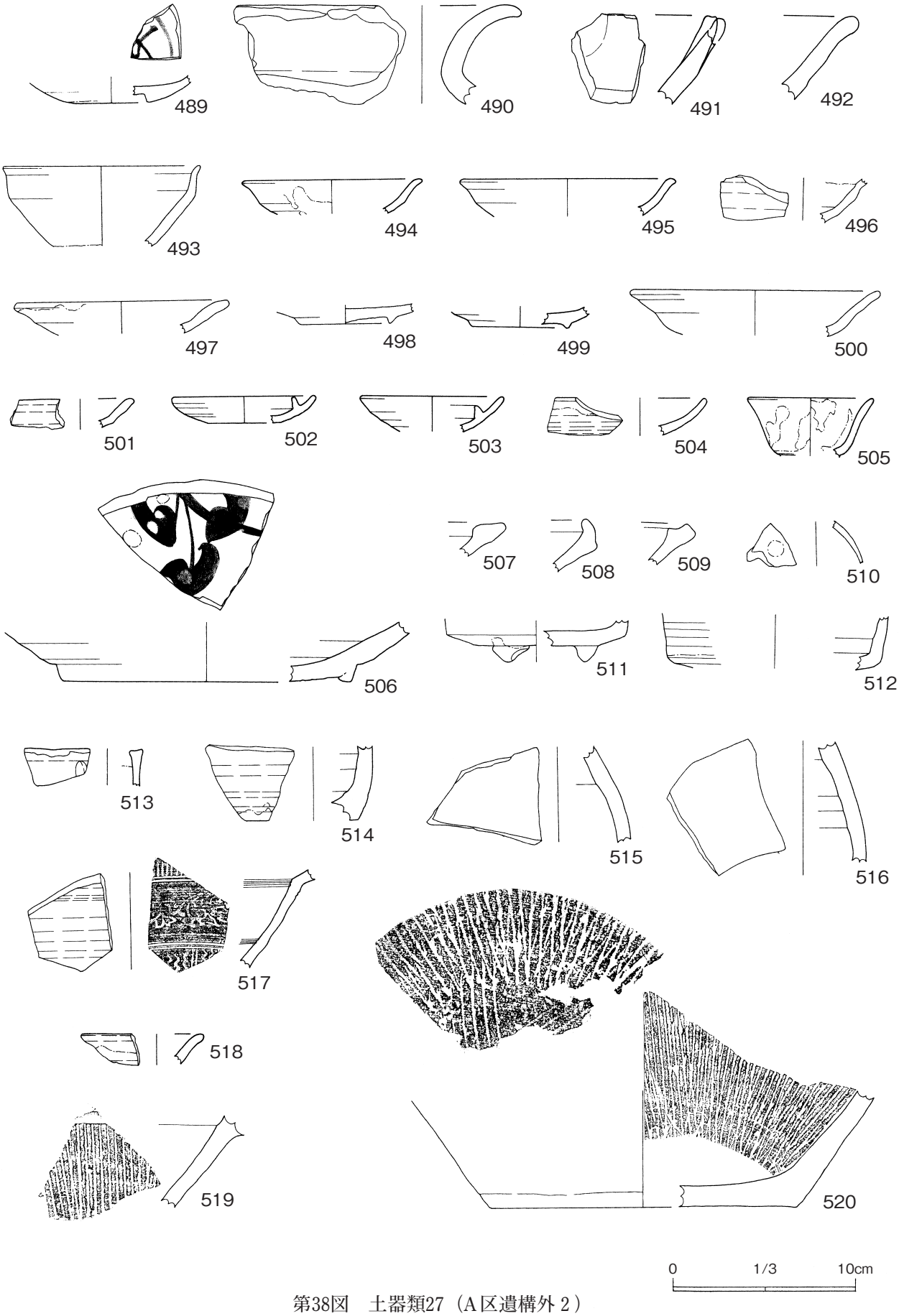


第36図　土器類25（A区A３b堀３）



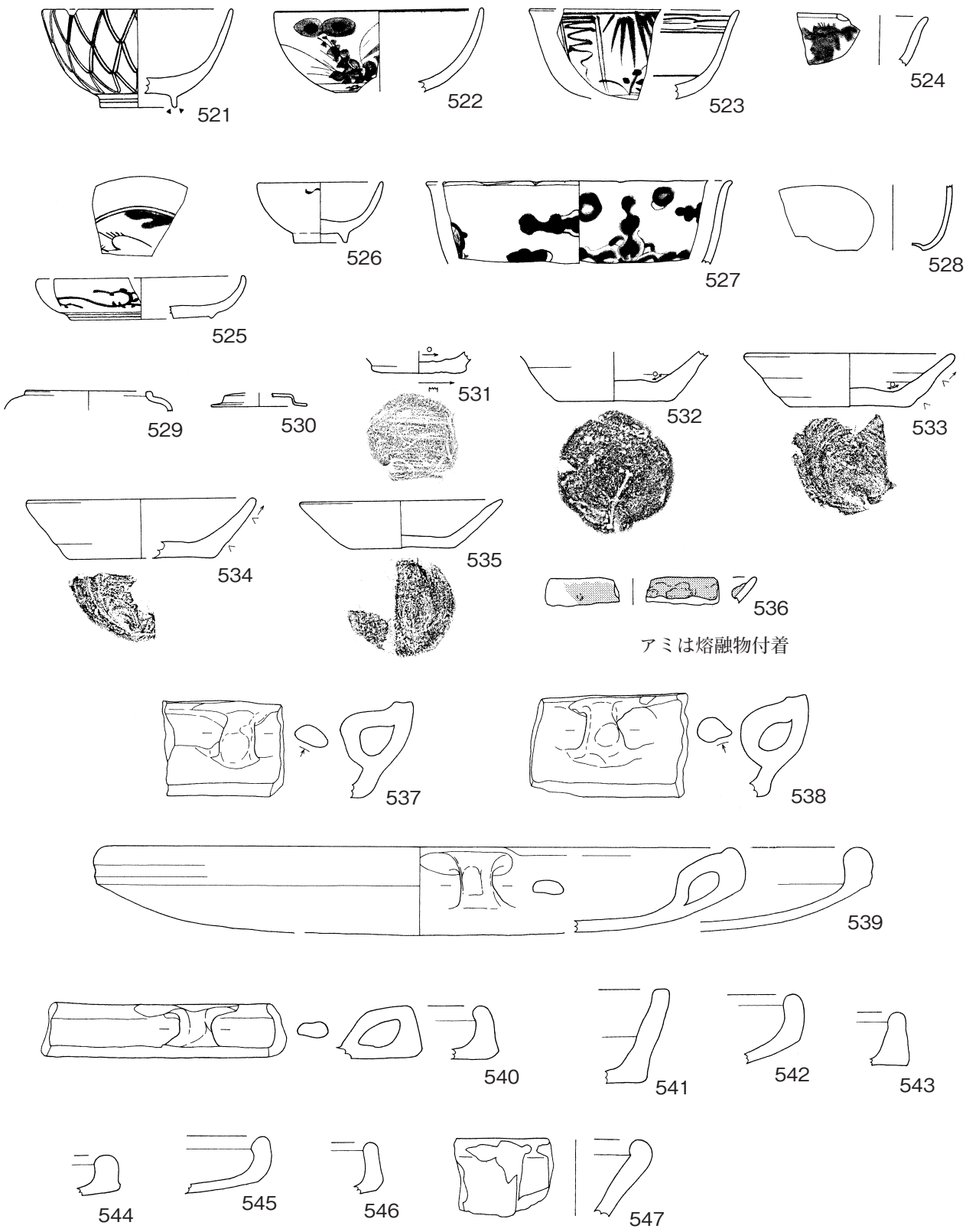
第37図　土器類26（A区ﾄﾚﾝﾁ・遺構外１）

遺構外



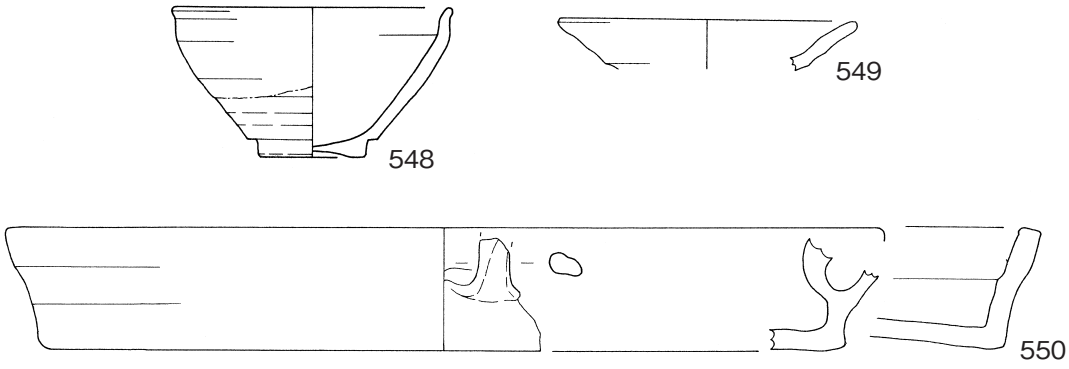
第38図　土器類27（A区遺構外２）

遺構外

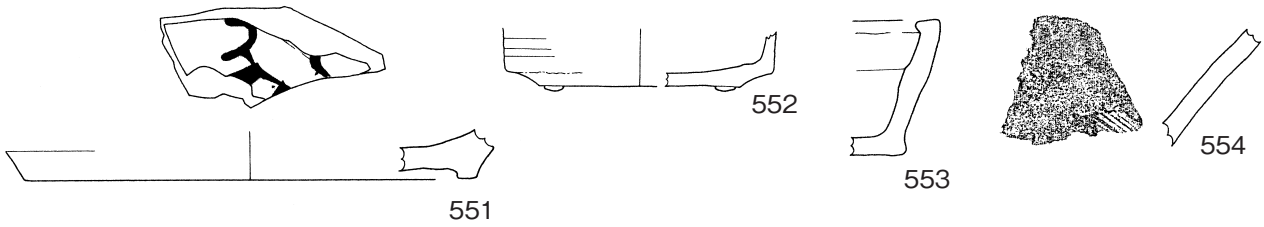


第39図　土器類28（A区遺構外３）

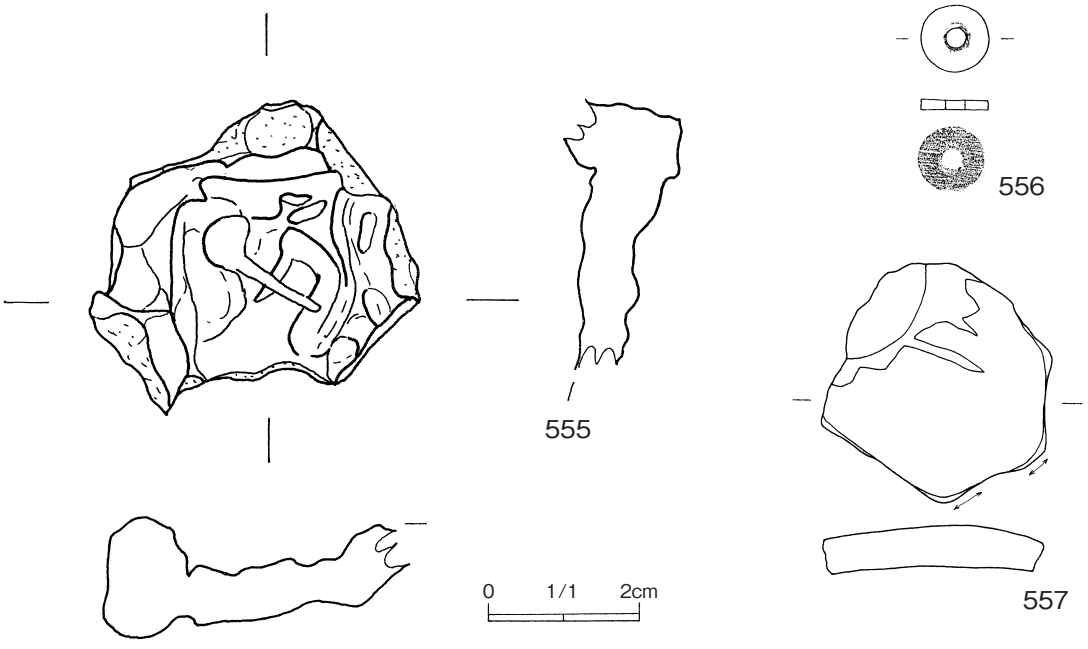
B区1堀



遺構外



土製品



第40図　土器類29（B区1堀・遺構外／土製品）

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
1	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀 イⅠ・Ⅱ層	-	-	-	C１群	15c後～16c前	白08	内外白色の釉	<10
2	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 №210 イⅢ層 かわらけ集中	*35.0	*32.0	5.5			H12	体部内面 回転凹線/体部外面 スス付着	10
3	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	A区 B１堀 イⅣ層	-	-	-	７型式	14c前	鉢06	口唇部に自然釉	<10
4	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B１堀（№483 イⅣ層、ロⅣ層、ニⅡ層、ホ縦10層、ホ縦１層）、A区	12.5	4.4	5.8	大２	16c中	天02	内外鉄釉・高台周辺錆釉/高台畳付ダンゴトチ痕２ヶ所/内反りE類	40
5	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 №145 イⅣ層	*10.0	-	-	大２後	16c中	Ⅲ01	内外鉄釉	10
6	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 №484 イⅣ層	*9.8	*5.4	2.3	大２後	16c中	Ⅲ06	内外鉄釉・体部一部露胎/削込高台/底部外面輪ドチ痕・内面トチン痕１ヶ所	40
7	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B１堀 №187 イⅣ層 かわらけ集中	-	-	-	大２～３前	16c中	鉢12	内外錆釉/口唇部磨痕（縦）	<10
8	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №137 イⅣ層	*11.0	*8.0	2.7			K018	体部外面凹（浅い）/内面体底部境ナデ/糸切不見	10
9	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №142 イⅣ層	*11.0	*5.6	2.5			K019	糸切有	20
10	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №150 イⅣ層、一括	11.6	6.5	2.8			K020	体部外面段下/底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転/口唇部１ヶ所変形	90
11	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №160 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	*7.0	2.8			K021	体部外面凹/内面体底部境ナデ/糸切有/微細な金雲母を微量含む	10
12	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №163 イⅣ層 かわらけ集中	*10.2	6.0	3.0			K022	体部外面上・中位ナデ/底部内面横ナデヵ/底部外面板ナデ・糸切左回転	50
13	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №164 イⅣ層 かわらけ集中	10.4	6.0	2.7			K174	体部外面段下/内面体底部境ナデ/糸切有	95
14	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №165 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	*7.4	2.5			K023	体部外面凹（幅広）/糸切不見	10
15	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №166 イⅣ層	10.2	7.2	2.6			K187	体部外面段下/内面体底部境ナデ/糸切後整形・不見/灯芯油痕/微細な金雲母を微量含む	95
16	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №167 イⅣ層 かわらけ集中	*10.0	*6.6	2.3			K024	体部外面凹/底部内面横ナデヵ/内面体底部境ナデ/糸切有	20
17	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №173 イⅣ層 かわらけ集中	*11.6	*7.0	2.6			K025	体部外面凹/内面体底部境ナデ/糸切有	25
18	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №174 イⅣ層 かわらけ集中	10.4	6.6	3.0			K175	体部外面凹/底部内面横ナデ/内面体底部境弱いナデ/糸切左回転	90
19	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №177・180・182 イⅣ層 かわらけ集中	10.8	6.6	2.8			K026	体部外面凹（浅い）/内面体底部境弱いナデ/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	70
20	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №189 イⅣ層 かわらけ集中	*10.0	*7.0	2.2			K182	体部外面稜上/内面体底部境ナデ/糸切不見	30
21	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №190 イⅣ層 かわらけ集中	*11.4	*7.0	2.5			K176	体部外面上・中位ナデ/内面体底部境ナデ/糸切有/微細な金雲母を微量含む/土26と接合	30
22	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №192 イⅣ層 かわらけ集中	*11.6	*8.0	2.3			K027	体部外面段下/内面体底部境ナデ/底部薄い/糸切不見	30
23	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №193 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	*6.0	3.0			K028	体部外面凹/糸切不見	10
24	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №199 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	*6.0	2.8			K029	体部外面凹/底部内面弱い横ナデ/糸切有/微細な金雲母を微量含む	25
25	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №202 イⅣ層 かわらけ集中	*11.6	*8.0	2.8			K030	体部外面段下/内面体底部境ナデ/糸切不見/微細な金雲母を微量含む	25
26	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №204 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	*7.0	2.8			K031	体部外面上・中位ナデ/内面体底部境ナデ/糸切不見/土21と接合	25
27	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №205 イⅣ層 かわらけ集中	10.5	6.2	2.6			K178	体部外面凹（深い）/内面体底部境ナデ/糸切左回転	70
28	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №211 イⅣ層 かわらけ集中	-	6.2	-			K032	内面体底部境ナデ/糸切左回転	50
29	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №213 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	6.2	2.9			K033	体部外面凹（浅い）/底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切有	70
30	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №214 イⅣ層 かわらけ集中	*10.6	*7.0	2.5			K034	体部外面上・中位ナデ/底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切有	70
31	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №216 イⅣ層 かわらけ集中	9.5	6.0	2.5			K177	体部外面段下/底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転	90
32	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №217 イⅣ層 かわらけ集中	*11.6	*7.0	2.9			K035	体部外面凹/内面体底部境弱いナデ/糸切不見	20

第５表　土器類一覧表１

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
33	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №464 イⅣ層 かわらけ集中	10.0	6.0	3.1			K049	体部外面段下/底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切有/微細な金雲母を微量含む	70
34	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №466 イⅣ層 かわらけ集中	*12.0	*8.0	2.9			K050	体部外面凹/内面体底部境ナデ/糸切有	20
35	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №467 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	*6.5	3.0			K179	体部外面凹/内面体底部境ナデ/糸切有	40
36	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №469 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	*7.0	2.8			K052	体部外面凹/内面体底部境弱いナデ/糸切有	20
37	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №472 イⅣ層 かわらけ集中	11.0	6.5	2.8			K180	体部外面上・中位ナデ/内面体底部弱い境ナデ/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転	100
38	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №473 イⅣ層 かわらけ集中	*11.0	7.0	2.3			K185	体部外面段下/内面体底部境弱いナデ/糸切左回転	95
39	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №475 イⅣ層 かわらけ集中	-	6.5	-			K213	糸切左回転	20
40	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №485 イⅣ層	*11.0	*6.0	2.6			K053	体部外面凹/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	30
41	磁器・碗/染付碗	中国	A区 B１堀 №482 イⅣ層～Ⅴ層	-	-	-	E群ヵ Ⅵヵ	16c中～後	染06	雷文・鳳凰唐草文ヵ	<10
42	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №468 イⅤ層 かわらけ集中	*12.0	*6.6	2.6			K051	底部内面渦巻ナデ/糸切左回転/胎土緻密/微細な金雲母を微量含む	50
43	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №481 イⅤ層	(11.0)	(6.0)	2.7			K214	体部外面凹/糸切不見	20
44	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 イⅤ層	(10.2)	(6.0)	2.9			K215	口縁部外面ナデヵ/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	20
45	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B１堀 ７TイⅠ層	-	-	-	古後Ⅳ新ヵ	15c後	天15	内外鉄釉/口縁部Ｓ字	<10
46	陶器・皿	志戸呂	A区 B１堀 ７TイⅠ層	-	*6.0	-			皿40	内面 暗緑色灰釉・高台錆釉/底部外面トチン痕/削込高台/土518と同一個体ヵ	10
47	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 ７TイⅢ層	*10.0	-	-	大３ヵ	16c後	皿10	内外鉄釉	10
48	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ７TイⅢ層	(11.0)	(6.0)	2.3			K225	体部外面段上（稜下ヵ）/糸切不見/粉っぽい・胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	25
49	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区 B１堀 ７T №９イⅣ層、B１堀、A３b堀	-	-	-			袋14	内面暗褐色、外面黒褐色/胎土緻密	<10
50	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ７T №５イⅣ層	*12.0	*7.6	2.9			K141	体部外面稜下/内面体底部境強いナデ/糸切不見/粉っぽい・胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	30
51	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ７T №６イⅣ層	11.0	7.0	3.2			K142	体部外面稜下/内面体底部境強いナデ/糸切右回転ヵ/粉っぽい・胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	90
52	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ７T №７イⅣ層	*12.0	*7.0	3.0			K143	体部外面凹/内面スス・タール付着・灯芯油痕ヵ/糸切不見	30
53	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 17T イⅠ層	11.8	5.8	3.1			K110	糸切右回転	70
54	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ★７T イⅠ層、一括	*11.0	*6.5	2.7			K111	体部外面凹/内面体底部境ナデ/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	25
55	土器・熔融物付着土器	在地	A区 B１堀 17T イ	-	-	-			K205	被熱/内面に熔融物（黒色）付着	10
56	磁器・皿/染付皿	中国	A区 B１堀 イ東〈かわらけ集中〉	-	-	-	B１群	15c後～16c前	染24	界線、界線・唐草文	<10
57	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀 イ	-	-	-	C１群	15c後～16c前	白11	内外灰白色の釉	<10
58	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 イ	*11.0	*6.5	3.0			K112	器厚薄い/糸切不見・ブラシ痕/粉っぽい・胎土緻密	25
59	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B１堀12Tベルト Ⅳ層	*30.0	-	-	大２	16c中	鉢11	内外錆釉/外面被熱により釉ちぢれ/口唇部磨痕（縦）/胎土に小石（白）含む/片口注口	10
60	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 12Tベルト Ⅳ層	10.2	6.4	3.0			K186	体部外面段下/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転ヵ	95
61	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 12Tベルト Ⅳ層	10.0	6.0	2.8			K191	体部外面段上（稜下ヵ）/内面体底部境強いナデ/底部中央凹/底部外面工具痕ヵ・糸切右回転/粉っぽい・胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	90
62	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 12Tベルト Ⅳ層	*12.0	6.8	2.9			K103	体部外面凹/内面体底部境ナデ/糸切左回転	60

第６表　土器類一覧表２

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
63	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト Ⅳ層	-	6.0	-			K105	底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/糸切有・ブラシ痕/微細な金雲母を微量含む	60
64	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト Ⅳ層	-	6.4	-			K106	底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切有	60
65	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト Ⅳ層	-	5.0	-			K107	外面ロクロ痕/底部内面横ナデ（3本）/底部外面板ナデ・糸切左回転/胎土緻密	60
66	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト Ⅴ層	*11.6	*7.0	2.8			K104	底部内面渦巻ナデヵ/一部黒化/糸切有	60
67	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト Ⅴ層	*11.0	*6.8	3.0			K108	内面中・下位ナデ/糸切有/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	25
68	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 12Tベルト Ⅴ層	*34.5	*30.0	4.8			H06	体部外面 スス付着/底部内面 コゲ付着・回転ナデ痕/底部外面 板状痕	20
69	陶器・水注ヵ	瀬戸美濃	A区 B1堀 12Tベルト	胴径(10)	-	-	大	15c末～17c初	他10	内外鉄釉・外面腰部錆釉	<10
70	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 B1堀 12Tベルト	-	-	-	大1～4	15c末～17c初	袋32	外面 暗赤灰色、断面 灰色/外面ヘラ削り痕/胎土 灰白色小石・白色透明粒子を含む	<10
71	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト	*10.2	*6.0	2.6			K155	糸切有/胎土緻密	30
72	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト	-	7.0	-			K156	糸切有	60
73	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト	*11.0	*6.6	3.0			K157	体部外面段下/糸切不見	20
74	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12Tベルト	*12.0	*8.0	2.4			K158	体部外面段下/糸切有	20
75	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 12Tベルト	-	-	-			H30	-	<10
76	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12T ロⅡ層	10.2	6.5	2.6			K181	体部外面凹/内面体底部境ナデ/底部内面横ナデ/底部外面板ナデヵ・糸切左回転ヵ/微細な金雲母を微量含む	100
77	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12T ロⅣ層	*11.6	*4.6	2.8			K102	内外 砂粒移動痕/底部外面弱い板ナデ・糸切左回転	80
78	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B1堀(12T ロⅤ層、ロⅣ層、ロⅢ層)	*26.0	-	-			鉢38	口縁内面 剥落	10
79	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 12T ロ	*11.0	*6.5	2.7			K154	体部外面凹/糸切不見	30
80	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	*9.5	-	-	C1群ヵ	15c後～16c前	白12	内外淡灰白色の釉・高台端部露胎	<10
81	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	*12.0	-	-			白16	内外白色の釉/口唇部に小突起	<10
82	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	*12.0	-	-			袋13	内外黒褐色/胎土緻密・光沢	<10
83	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	-	-	-			袋17	内面灰赤色、外面にぶい赤褐色/胎土緻密	<10
84	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B1堀(ロⅠ・Ⅱ層、1TⅠ・Ⅱ層)、一括	*12.0	*4.2	5.7	大3	16c後	天07	内外鉄釉・高台周辺露胎/内反り高台/高台脇深い削込	20
85	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	-	-	-	大2・3	16c中～後	皿12	内外鉄釉	<10
86	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	*10.0	*3.6	2.2	大3～4	16c後～17c初	皿36	内外灰釉	10
87	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層、12Tベルト	-	-	-	大1～4	15c末～17c初	袋27	外面 灰被り褐色、断面 灰色/胎土白色透明粒子を含む	<10
88	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層、12Tベルト	-	*16.0	-	大1～4	15c末～17c初	袋36	外面・断面 灰色/底部にトチ痕/胎土白色透明粒子を含む	<10
89	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	-	-	-	大1～4	15c末～17c初	袋28	外面 灰被り褐灰色、断面 灰色/胎土白色小石を含む	<10
90	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	-	-	-	大1～4	15c末～17c初	袋30	外面 灰流れ褐灰色、断面 灰色/外面ヘラ削り痕/胎土 白色透明粒子を含む	<10
91	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	-	-	-	大1～4	15c末～17c初	袋34	外面 灰被り褐灰色、断面 灰色/外面ヘラ削り痕/胎土 白色小石を含む	<10
92	陶器・徳利ヵ	備前	A区 （B1堀 ロⅠ・Ⅱ層、一括）	-	-	-			他07	灰被り（黄ゴマ）/内面2次焼成により剥落	10
93	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	-	6.5	-			K115	内面弱いロクロ痕/底部内面横ナデ/糸切左回転ヵ	60
94	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	*13.0	*7.0	2.5			K116	体部外面上・中位ナデ/内面体底部境ナデ/糸切有	20
95	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	-	(6.0)	-			K216	糸切左回転	20
96	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	(10.0)	(6.0)	2.6			K217	体部外面凹/糸切不見	20
97	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 ロⅠ・Ⅱ層	-	-	5.8			H31	-	<10

第7表　土器類一覧表3

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
98	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀 ロ Ⅲ層	*8.0	-	-	C１群ヵ	15c後～16c前	白15	内外灰白色の釉・高台端部露胎	<10
99	磁器・碗/染付碗	中国	A区 B１堀 ロ Ⅲ層	-	-	-	C群	15c後～16c前	染25	芭蕉葉文・界線	<10
100	磁器・皿/染付皿	中国	A区 B１堀 ロ Ⅲ層	-	-	-	B１群	15c後～16c前	染23	界線・唐草文	<10
101	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	A区 B１堀(ロ Ⅲ層・ハ)	*11.0	-	-	大３	16c後	皿35	内面・外面口縁に灰釉/２次焼成ヵ	10
102	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 B１堀 ロ Ⅲ層	-	-	-	大１～４	15c末～17c初	袋29	外面 灰被り褐灰色、断面 灰色/胎土 白色透明粒子を含む	<10
103	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ロ Ⅲ層	*12.0	*8.0	3.0			K117	体部外面 刷毛状ロクロ痕(広い凹・稜下/糸切不見/粉っぽい・胎土緻密	20
104	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ロ Ⅲ層	*12.0	*8.0	2.8			K119	体部外面 刷毛状ロクロ痕・稜下ヵ/糸切不見/粉っぽい・胎土緻密	20
105	土器・土鍋	在地	A区 B１堀 №62 ロⅢ・Ⅳ層	-	-	-			土鍋１	外面一部剥落	<10
106	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀 ロⅣ層	*10.0	-	-	C１群ヵ	15c後～16c前	白13	内外灰白色の釉・高台端部露胎	<10
107	磁器・碗/染付碗	中国	A区 B１堀 ロⅣ層	-	*5.0	-	B群XIヵ	14c末～15c中	染01	高台端部露胎/界線・「福」、界線・唐草文ヵ	40
108	磁器・皿/染付皿	中国	A区 B１堀 №20 ロⅣ層、A３b堀Ⅳ層	*12.0	-	-	B２群	16c中	染28	断面赤褐色付着物 漆継ぎヵ/四方襷、界線	10
109	磁器・坏/染付小坏	中国	A区 B１堀 ロⅣ層	-	2.5	-			染26	界線・山水文、界線・唐草文	50
110	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B１堀 ロⅣ層	-	-	-	古後Ⅳ新ヵ	15c後	天16	内外鉄釉	<10
111	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区 B１堀(№101 ロⅣ層、№270 ハⅣ層、ロⅠ・Ⅱ層)	*9.6	5.3	2.9	大１	15c末～16c前	皿18	内外灰釉/付高台・逆三角形/印花(カタバミ３弁)/底部外面輪ドチ痕	60
112	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B１堀(№60・64 ロⅣ層、№269 ハⅣ層、№427 ニ縦７層〈Ⅳ層〉、９T №22 ロⅣ層、ロⅠ・Ⅱ層、ホⅡ層、ニ縦８層〈Ⅳ層〉)	*30.0	10.0	11.3	大２～３	16c中～後	鉢09	内外錆釉/櫛目24本・体部8方ヵ/内面トチ痕/内外・断面被熱により一部黒化、釉ちぢれ/口唇部磨痕(縦)/胎土に小石含む/口縁部内面稜、外面ロクロ目強い/土113と同一個体ヵ	50
113	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B１堀(№115 ロⅣ層、二 縦８層〈Ⅳ層〉)	-	-	-	大２～３	16c中～後	鉢13	内外錆釉/外面被熱により釉ちぢれ/口唇磨痕(縦)/土112と同一個体ヵ	<10
114	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 B１堀(ロⅣ層、一括)	-	-	-	大１～４	15c末～17c初	袋37	外面 褐灰色・縦 斜めに灰色の筋あり、断面 灰色/外面ヘラ削り痕/胎土白色小石を含む	<10
115	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №５ ロⅣ層	*11.8	5.8	3.0			K001	体部外面凹/内面体底部境弱いナデ/底部内面横ナデ/底部外面板ナデヵ・糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	75
116	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №29 ロⅣ層、12Tベルト Ⅳ層	(11.5)	(7.0)	3.0			K209	体部外面刷毛状ロクロ痕・稜下/内面体底部境ナデ/底部糸切後削り整形/胎土緻密・粉っぽい・微細な雲母を微量含む	40
117	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №34 ロⅣ層	*11.0	*6.2	2.7			K004	体部外面凹/糸切有	40
118	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №39 ロⅣ層	11.0	6.6	2.6			K173	内面体底部境弱いナデ/底部外面板ナデヵ・糸切左回転ヵ/微細な金雲母を微量含む	70
119	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №47・48 ロⅣ層	*11.0	*5.5	2.9			K195	体部内外７mm幅の平行沈線/内面中・下位ナデ/糸切右回転ヵ/粉っぽい・胎土緻密・微細な雲母を微量含む	40
120	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №49・39 ロⅣ層	11.2	6.6	3.0			K006	内外 刷毛状ロクロ痕/体部外面稜下/内面体底部境強いナデ/底部外面削り整形/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む/堅緻	50
121	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №55 ロⅣ層	*11.0	*6.4	3.0			K007	体部外面凹/内面体底部境ナデヵ/底部内面中央やや凸/糸切不見	25
122	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №76 ロⅣ層	*9.6	*6.0	2.9			K010	内面弱いロクロ痕/糸切左回転ヵ/器厚厚い/胎土緻密・微細な雲母を微量含む/堅緻	25
123	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ロ Ⅳ層	*10.0	*4.6	2.7			K118	糸切有/胎土緻密	20
124	土器・熔融物付着土器	在地	A区 B１堀 №89ロⅣ層	*11.0	*6.0	2.9			K254	内外断面一部に灰白・暗赤褐・黒色/熔融物付着 とりべ/底部外面 板状痕	40
125	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 №33 ロⅣ層	*36.0	*30.4	5.2			H14	-	20
126	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 ロⅣ層	*36.0	*34.0	5.3			H22	体部内面・外面一部 タール付着	10

第８表　土器類一覧表４

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
127	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B１堀(№28・37ロⅣ層、№128・144 イⅣ層)、12Tベルト Ⅳ層	*28.0	13.5	10.4			鉢23	体部内外面被熱による斑状剥落/体部内面磨痕/底部外面ナデ底部内面周辺 黒化・スス付着/擂目 体部縦と斜の交差、間隔は櫛幅の３倍、底部 ３条星形交差、櫛目９本	30
128	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B１堀 №42 ロⅣ層	-	*12.0	-			鉢29	体部 底部内面 磨痕/擂目 底部 格子目、櫛目５本	10
129	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B１堀 №70・84・86 ロⅣ層	*28.0	*11.0	13.7			鉢25	底部外面ナデ/内面体部上半剥落・下半～底部磨痕/擂目	25
130	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B１堀 №107 ロⅣ層	*26.0	-	-			鉢34	口唇～内部剥落顕著/内外被熱による赤化	10
131	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B１堀 №45・96 ロⅤ層	12.5	4.5	5.8	大２	16c中	天01	内外鉄釉・高台周辺一部錆釉/輪高台Ｄ類	90
132	陶器・皿/端反ヵ丸皿	瀬戸美濃	A区 B１堀(№４ ロⅤ層・ホⅢ層)	-	6.4	-	大１ヵ	15c末～16c前	皿19	内外灰釉/付高台・逆三角形/印花なし/底部外面輪ドチ痕	20
133	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №１・２ ロⅤ層	*11.4	*7.0	3.1			K162	口縁部外面ナデ/口縁部内面条線ロクロ痕/体部内面中・下位ナデ/糸切有/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	50
134	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №６ ロⅤ層	8.4	5.5	1.8			K192	内面体底部境ナデ/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転/胎土緻密	95
135	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №６・７ ロⅤ層	*11.0	6.7	3.1			K002	底部内面中央凸/底部外面弱い板ナデ・糸切(中央)/器厚薄い/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	50
136	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №８・23・24 ロⅤ層	10.8	6.5	2.3			K208	灯芯油痕/底部内面指頭渦巻ナデ/底部内面白色物質付着/糸切左回転/粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	80
137	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №10・22 ロⅤ層	11.4	6.5	2.9			K163	口縁部外面ナデヵ/体部内面線条ロクロ痕/体部内面中・下位ナデ/糸切左回転/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	60
138	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №12 ロⅤ層	10.8	6.3	2.9			K003	底部内面渦巻ナデ/糸切(中央左回転ヵ)/微細な金雲母を微量含む	95
139	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №46 ロⅤ層	-	4.5	-			K005	内外面ロクロ痕/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切有	50
140	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀(№56・57 ロⅤ層、№83・87 ロⅣ層)	11.0	6.2	2.5			K008	底部内面弱い渦巻ナデ/内外面酸化物付着/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	80
141	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀(№118 ロⅤ層、№61 ロⅣ層)	11.5	4.8	3.5			K009	内面ロクロ痕/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転	80
142	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №66 ロⅤ層	*10.8	*6.6	3.1			K164	口縁部外面ナデ/体部内面中・下位ナデ/糸切有/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	25
143	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №73 ロⅤ層	*11.0	*7.0	2.6			K165	内面体底部境弱いナデ/底部内面スス付着/糸切有/胎土緻密・粉っぽい	30
144	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №77 ロⅤ層	*11.4	6.0	3.2			K011	器厚薄い/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい・微細な雲母を含む	60
145	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №79・82 ロⅤ層	11.2	4.5	3.1			K012	外面ロクロ痕/内面強いロクロ痕/底部内面横ナデ/糸切右回転/底部高台風/底部内面墨書「新五郎」ヵ	80
146	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №80・81・102 ロⅤ層	12.0	5.0	3.5			K013	内外ロクロ痕/底部内面丁寧な横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転/器厚薄い/微細な雲母を微量含む	70
147	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀(№82・119 ロⅤ層、９T №38 ロⅤ層)	12.2	5.0	3.7			K014	内外面ロクロ痕/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転/器厚薄い/微細な雲母を微量含む	70
148	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №92 ロⅤ層	*11.0	*6.0	-			K166	体部内面ロクロ痕/底部内面横ナデ(１本)/底部外面剥落	30
149	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №98 ロⅤ層	11.8	4.7	3.4			K015	内外ロクロ痕/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転ヵ	100
150	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №108 ロⅤ層	*11.0	*6.5	3.0			K016	内面体底部境ナデ/底部内面凹凸/底部薄い・糸切左回転ヵ/微細な金雲母を微量含む	25
151	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №117 ロⅤ層	11.6	4.4	3.8			K017	口唇部内面内削ぎ/内面ロクロ痕/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転/底部内面墨書「めうほん」	95
152	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №153 ロⅤ層	*12.5	5.0	3.7			K161	底部内面横ナデ/底部外面板ナデヵ・糸切有	60

第９表　土器類一覧表５

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
153	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀(No.16・17 ロV層、No.225 ハIV層)	34.2	30.0	5.0			H18	体部外面タール付着/底部内面回転ナデ	50
154	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 No.18 ロV層	*36.5	-	-			H25	体部外面ス ス付着	<10
155	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 No.43 ロV層	-	-	-			H24	体部内面 コゲ付着/体部外面 ス ス付着	<10
156	土器・鉢/片口鉢	在地	A区 B1堀 No.31 ロV層	-	-	-			鉢33	外面ス ス付着/片口部欠損	<10
157	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B1堀(No.59・72ロV層、ロIV層、ロV層、ニI-III層)	-	*13.5	-			鉢30	内面磨痕/底部外面 黒化 炭化物厚く付着(1mm)、ナデ/擂目 体部斜、底部 格子目、櫛目7本	10
158	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B1堀 No.111 ロV層	-	-	-			鉢32	内面ヘラ痕縦/擂目あり	<10
159	陶器・III/稜III	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロ	*11.0	-	-	大2後～大3前	16c中～後	III09	内外鉄釉	10
160	陶器・III	瀬戸美濃	A区 B1堀 ロ	-	(5.0)	-	大3	16c後	III45	底部内面灰釉・団子トチ痕2ヶ所・中央拭い取り・中心に凹み/高台露胎削出	10
161	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ロ	*11.0	*6.6	3.2			K113	底部内面凹凸/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	50
162	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ロ	*12.0	*7.5	3.3			K114	内面弱いロクロ痕/糸切有/微細な金雲母を微量含む	30
163	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ロ	*11.4	*7.0	3.2			K120	口縁部外面ナデヵ/体部内面中・下位ナデ/糸切不見/粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	30
164	土器・熔融物付着土器	在地	A区 B1堀 ロ	-	*5.0	-			K206	微細な金雲母を微量含む/被熱/金粒子付着	20
165	磁器・III/染付III	中国	A区 B1堀(9TNo.11 ロIII層、ロIV層)	*12.5	*7.5	2.6	B1群VII	15c後～16c前	染07	高台端部露胎/界線・玉取獅子文、界線・牡丹唐草文	40
166	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 9T ロIII層	-	-	-			H35	体部外面ス ス付着	<10
167	磁器・碗/染付碗	中国	A区 B1堀(9TNo.14 ロIV層、ハ)	*12.0	-	-	E群VI	16c中～後	染02	内外貫入/界線、雷文・界線・唐草文	25
168	陶器・III/端反III	瀬戸美濃	A区 B1堀(9TNo.24 ロIV層・ロIV層・ニIV層)	*11.4	6.6	2.7	大1	15c末～16c前	III21	内外灰釉/付高台・逆三角形/印花(カタバミ3弁)/底部外面輪ドチ痕/断面黒色付着物 漆ヵ	40
169	陶器・III/稜III	瀬戸美濃	A区 B1堀9TNo.18 ロIV層	9.5	5.0	2.2	大2後	16c中	III04	内外鉄釉・体部～底部外面一部露胎/削込高台/底部外面輪ドチ痕・内面トチン痕3ヶ所	50
170	陶器・III/稜III	瀬戸美濃	A区 B1堀9TNo.30 ロIV層	*9.5	*5.0	2.1	大2後	16c中	III05	内外鉄釉/削込高台/底部外面輪ドチ痕	30
171	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B1堀(9TNo.12 ロIV層、No.297 ホ1層、No.360 ニ縦4層〈III層ヵ〉)	*27.6	9.0	10.5	大2～3	16c中～後	鉢10	内外錆釉、底部外面釉薄い/櫛目20本/内面炭化物付着/胎土に小石(白)含む	30
172	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 9T No.23・33 ロIV層	*11.0	*7.0	2.9			K149	底面内部平坦/糸切後整形/微細な金雲母を微量含む	40
173	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 9TNo.25 ロIV層	*11.0	*7.0	2.9			K150	体部外面刷毛状ロクロ痕・稜下/糸切有/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	20
174	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 9TNo.28 ロIV層	*11.0	*7.5	2.8			K151	体部外面凹/内面ロクロナデ痕/ブラシ痕/糸切有	25
175	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 9TNo.29 ロIV層	*11.0	*6.0	2.7			K152	内面ス ス・タール付着/糸切有/胎土緻密・微細な雲母を微量含む	10
176	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 9TNo.13・15・17・19 ロIV層	*38.5	*36.0	5.8			H05	体部外面凹/底部外面 板状痕・粒状痕	15
177	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 9TNo.5 ロV層	*11.4	4.5	3.0			K148	内外ロクロ痕/底部内面横ナデ/糸切右回転/底部高台風	70
178	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 9T ロ	*11.6	*7.0	3.0			K153	糸切不見	25
179	磁器・III/染付III	中国	A区 B1堀 No.254 ハIV層	-	-	-	B1群	15c後～16c前	染22	界線、界線・唐草文	<10
180	陶器・III/稜III	瀬戸美濃	A区 B1堀 No.252 ハIV層	-	5.3	-	大2ヵ	16c中	III02	内外鉄釉・底部～高台一部露胎/底部外面輪ドチ痕	20
181	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 No.244 ハIV層	10.0	6.0	2.8			K193	灯芯油痕/糸切左回転ヵ/微細な金雲母を微量含む	40
182	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 No.273・274 ハIV層	*12.0	5.2	3.4			K169	内面体底部境ナデ/底部内面横ナデ(2本)/底部外面板ナデ・糸切左回転/土186と同一個体ヵ	50
183	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀(No.247・248 ハIV層、ニIII層)	*37.0	*34.0	5.7			H13	体部外面タール付着	10
184	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 No.230 ハV層	11.5	4.5	3.8			K036	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転ヵ・粘土粒付着	90

第10表　土器類一覧表6

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
185	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №232 ハV層	11.0	4.5	3.3			K037	口唇部内面 内削ぎ/内面明瞭なロクロ痕/底部内面横ナデ（3本）/底部外面 糸切右回転・粘土粒付着・ススト付着	95
186	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №232 ハV層	*13.0	-	-			K167	土182同一個体ヵ	10
187	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №234 ハV層	*11.4	4.8	3.7			K168	体部内面ロクロ痕/底部内面横ナデ（4本）/糸切右回転ヵ	60
188	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №236 ハV層	*11.0	6.5	2.9			K198	体部外面上・中位ナデ/底部内面渦巻ナデ/糸切左回転/胎土緻密	60
189	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №264 ハV層	12.0	5.0	3.3			K038	内面体底部境ナデ/底部内面弱い横ナデ/底部外面弱い板ナデ・糸切左回転ヵ/器厚薄い	95
190	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №265・266 ハV層	11.6	5.0	3.7			K039	外面砂粒条線/内面弱いロクロ痕/器厚薄い/底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転	80
191	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №275 ハV層、B1堀ロ・ハ	11.5	4.5	3.2			K041	内外面明瞭なロクロ痕（底辺部）/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転/底部高台風/底部内面墨書「幸二郎殿」ヵ	80
192	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №435 ハV層	10.8	5.5	2.8			K048	内面体底部境ナデ/糸切左回転/胎土緻密	90
193	土器・火鉢	在地	A区 B1堀（№233 ハV層、№116 ロV層、№419 ニ畝直上、№421～424 ニ縦12層〈V層ヵ〉、№429 ニ縦10層〈V層〉、12Tベルト V層、ロI・II層、ハ、ニ）	38.5	38.5	13.0			火鉢2	金雲母を含む	50
194	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区 B1堀 ハ	-	-	-	I-4類	12c後～13c前	青05	内外緑色の釉/沈線による区画	<10
195	磁器・皿/青磁稜花皿	龍泉窯系中国	A区 B1堀 ハ	-	-	-		15c中～後	青06	内外青緑色の釉/片切彫り沈線	<10
196	磁器・皿/染付皿	中国	A区 B1堀 ハ	-	-	-			染20	草花文	<10
197	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	A区 B1堀 ハ	-	-	-	大2後	16c中	皿13	内外鉄釉	<10
198	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	A区 B1堀 ハ	*10.0	*6.0	2.2	大3～4	16c後～17c初	皿34	内外灰釉・高台端部一部釉/付高台	20
199	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	A区 B1堀 ハ	*12.0	-	-	大3	16c後	皿38	内外灰釉/2次焼成 白色化ちぢみ/土499と同一個体ヵ	10
200	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ハ	*11.6	4.6	3.3			K121	内面ロクロ痕/底部内面横ナデ/糸切右回転	60
201	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ハ	*11.4	*7.0	2.4			K122	糸切有/微細な金雲母を微量含む	30
202	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ハ	(7.0)	(4.0)	1.7			K218	-	20
203	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B1堀 ハ	-	-	-			鉢37	口唇～口縁部内面 剥落顕著	<10
204	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 13T ニIII層	(11.0)	(7.0)	3.0			K223	糸切有/胎土緻密・粉っぽい	15
205	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 13T ニ	-	(6.0)	-			K224	底部外面厚いスス付着	20
206	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B1堀 ニII層	-	-	-	大3ヵ	16c後	天13	内外鉄釉/口縁部ほぼ直立	<10
207	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	A区 B1堀 ニII層	-	-	-	大3ヵ	16c後	碗02	内外灰釉・高台周辺露胎/高台脇削込	<10
208	陶器・徳利	備前	A区 B1堀（ニII層、ロI・II層、ハ）、A区	-	-	-	中世6期	16c～	袋05	灰被り（黄ゴマ）・内外赤褐色	10
209	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №403 ニII層	11.4	5.6	3.2			K199	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転	70
210	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №404 ニII層	*11.6	*7.0	2.4			K045	糸切左回転	30
211	土器・熔融物付着土器	在地	A区（B1堀 ニIII層、1T）	*12.0	-	-			K203	被熱/熔融物（赤褐色・黒色・緑色・灰白色）が内面に厚く、外面は口縁部のみに付着/銅付着/口縁の一部垂れる	20
212	土器・熔融物付着土器	在地	A区 B1堀（ニIII層、ハ）	-	-	-			K204	被熱/内面に熔融物（赤褐色・黒色・灰白色）付着	10
213	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 ニIV層	-	-	-			H33	体部外面ススト付着	<10
214	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区 B1堀 ニV層	-	-	-	大1	15c末～16c前	皿29	内外灰釉	10
215	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B1堀 №452 ニ縦11層〈II～III層ヵ〉	-	4.5	-	大2ヵ	16c中	天20	内外鉄釉 高台周辺薄い錆釉	50
216	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №326 ニ縦11層〈II～III層ヵ〉	-	7.0	-			K210	底部内面横ナデ/糸切後整形	50
217	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 №344 ニ縦11層〈II～III層ヵ〉	11.0	6.8	2.3			K183	体部外面上・中位ナデ/内面体底部境ナデ/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転	70

第11表　土器類一覧表7

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
218	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 No.354 ニ 縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉	-	6.6	-			K211	糸切左回転	50
219	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 No.451 ニ 縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉	11.0	*6.4	2.2			K184	体部外面上・中位ナデ/内面体底部境強いナデ/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転/微細な金雲母を微量含む/体～底部磨痕（ガジリヵ）	70
220	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 No.346 ニ 縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉	-	-	4.8			H44	-	<10
221	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀 No.396 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	*12.0	-	-	C１群	15c後～16c前	白03	内外乳白色の釉	10
222	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 No.397 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	*10.0	-	-	大１ヵ	15c末～16c前	皿25	内外灰釉	10
223	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 No.408 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	*9.4	5.0	2.1	大２後	16c中	皿03	内外鉄釉・体部～底部外面一部露胎/削込高台/底部外面輪ドチ痕・内面トチン痕２ヶ所	75
224	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 No.318 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	11.0	6.4	2.7			K188	体部外面刷毛状ロクロ痕・稜下/底部内面渦巻ナデ/糸切右回転/胎土緻密・微細な金雲母ヵを微量含む/堅緻	95
225	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 No.351 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	*11.5	7.0	2.9			K043	灯芯油痕/内外ナデ痕/底部内面浅い渦巻ナデ/糸切左回転ヵ	50
226	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 No.365 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	-	6.5	-			K212	体部外面凹/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	50
227	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 No.446 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	*11.0	6.4	3.1			K189	体部外面刷毛状ロクロ痕・稜下/内面体底部境ナデ/糸切右回転/底部内面凸/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む/土288に類似	70
228	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 No.332・335・342・369・371～375 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	35.5	30.5	5.5			H02	体部外面タール付着/底部内面一部黒化/底部外面 粒状痕・弱い板状痕	75
229	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀（No.333・334・336・337・339～341 ニ 縦４層〈Ⅲ層 ヵ〉、ニ 東〈ほうろく集中〉、ニ）	(34.2)	(30.0)	5.0			H56	底部内面回転ナデ痕/体部外面タール付着/内耳左右擦痕	40
230	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀（No.343・347～349 ニ 縦４層〈Ⅲ層ヵ〉、No.345 ニ縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉、９Ｔ No.４ ロⅢ層、ニ東〈ほうろく集中〉）	(34.0)	(30.0)	5.7			H57	底部外面板状痕、内面回転ナデ痕/体部外面タール付着	20
231	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀（No.353・355～357・362・367・368 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉、ニ東〈ほうろく集中〉、ニⅡ層）	36.0	31.0	5.2			H08	底部外面 粒状痕/体部外面スス付着/被熱剥落	50
232	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 No.363・370 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	-	-	5.4			H23	体部外面スス付着	<10
233	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 No.443・447 ニ縦４層〈Ⅲ層ヵ〉	*33.5	*30.0	5.5			H27	底部内面 黒化/体部外面 タール付着	<10
234	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B１堀 No.352 ニ縦７層〈Ⅳ層〉	*12.0	-	-	大１	15c末～16c前	天05	内外鉄釉/外面２次焼成による荒れ、カセ	<10
235	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B１堀（No.444 ニ 縦７層〈Ⅳ層〉、No.324・331・338 ニ 縦４層〈Ⅲ層 ヵ〉、No.401 ニ縦７層〈Ⅳ層〉、ニ）	*28.0	9.0	10.8	大２～３前	16c中～後	鉢08	内外錆釉/底部外面糸切/内面櫛歯22本 体部疎 ８方ヵ底部クロス	40
236	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 No.400 ニ縦７層〈Ⅳ層〉	*11.0	*6.5	2.9			K044	体部内面中・下位ナデ/底部外面ス・炭化物付着・糸切不見/微細な金雲母を微量含む	40
237	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 No.402 ニ縦７層〈Ⅳ層〉	10.6	6.8	2.9			K196	体部外面下半やや強いナデ/内面体底部境ナデ/底部内面強い渦巻ナデ/糸切左回転/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	70
238	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀（No.385・388 ニ 縦８層〈Ⅳ層〉、ニⅢ層）	*36.0	32.0	5.8			H26	ー	10
239	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 No.387 ニ縦８層〈Ⅳ層〉	*33.0	*30.0	5.8			H07	底部内面回転整形痕/底部外面 板状痕/体部外面スス付着	20
240	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B１堀 No.399 ニ縦８層〈Ⅳ層〉	-	*12.0	-			鉢28	底部外面ナデ/擂目 体部 横縦斜の交差、底部 体部とつながる星形ヵ	10
241	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀（No.378・379・389 ニ 縦10層〈Ⅴ層〉、No.380 ニ縦12層〈Ⅴ層ヵ〉、No.387 ニ縦８層〈Ⅳ層〉）	35.0	30.0	5.0			H58	底部内面雑な回転ナデ、外面粒状痕/体部外面スス付着	80
242	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 No.390 ニ縦10層〈Ⅴ層〉	-	-	5.5			H28	体部外面 タール付着	<10

第12表　土器類一覧表８

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
243	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B1堀(No.381・439 ニ縦10層〈V層〉、No.382～384 ニ縦12層〈V層ヵ〉、No.420 ニ 畝 直 上、ニ、ハ、13T ニⅢ層)	*28.0	*12.0	10.5			鉢24	体部下部 底部内面 磨痕/底部外面スス(4mm)付着・ナデ/片口注口/口唇部 内面張り出す/擂目 体部下半 斜交差、間隔は櫛幅、底部周縁交差+中央交差ヵ、櫛目6本ヵ	40
244	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B1堀 No.453 ニ縦10層〈V層〉	-	-	-			鉢36	内外平滑/擂目 櫛目10本	<10
245	磁器・Ⅲ/染付Ⅲ	中国	A区 B1堀(ニ縦12層〈V層ヵ〉、9TロⅢ層、ロⅢ層)	*13.0	*7.4	3.0	B1群Ⅶ	15c後～16c前	染18	界線・玉取獅子文ヵ、界線・牡丹唐草文	25
246	焼締陶器・甕	渥美	A区 B1堀 No.413 ニ縦12層〈V層ヵ〉	-	-	-		12c	袋11	胎土緻密/自然釉/押印文	<10
247	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	A区 B1堀 No.410 ニ縦12層〈V層ヵ〉(★B2堀出土ヵ)	*22.0	-	-	8型式	1350～1400	鉢07	内面自然釉/口縁部ゆがむ。片口ヵ	10
248	陶器・Ⅲ/端反Ⅲ	瀬戸美濃	A区 B1堀 No.414 ニ縦12層〈V層ヵ〉(★B2堀出土)	*10.0	-	-	大1	15c末～16c前	Ⅲ26	内外灰釉	10
249	焼締陶器・壺ヵ	備前ヵ	A区 B1堀 No.415 ニ縦12層〈V層ヵ〉(★B2堀出土)	-	-	-			袋39	外面自然釉、回転ヘラ削り、斜めにヘラナデ/内面叩目(同心円)/胎土にぶい赤褐色、白色粒子を含む	10
250	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 No.411 ニ縦12層〈V層ヵ〉	*11.4	*7.0	3.2			K171	口縁部外面ナデ/体部内面中・下位ナデ・外面一部ススス付着/糸切左回転/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母ヵを微量含む	50
251	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 No.412 ニ縦12層〈V層ヵ〉	*11.5	*5.5	3.4			K197	外面弱いロクロ痕/糸切有	30
252	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 No.425 ニ縦12層〈V層ヵ〉	12.0	5.0	3.7			K172	底部内面横ナデ(2本)/底部外面板ナデ・糸切左回転/微細な金雲母ヵを微量含む	100
253	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 No.430 ニ縦12層〈V層ヵ〉	-	5.0	-			K047	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切有/微細な金雲母を微量含む/内面黒化	50
254	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 No.433 ニ縦12層〈V層ヵ〉	7.5	4.5	7.0			K194	灯芯油痕/底部内面指頭渦巻ナデ/糸切左回転/胎土緻密/微細な雲母ヵを微量含む	90
255	陶器・Ⅲ/縁釉小Ⅲ	瀬戸美濃	A区 B1堀 ニ東〈ほうろく集中〉	-	*5.6	-	古後Ⅰ～Ⅱ	14c後～15c初	Ⅲ32	底部内面灰釉ハケ塗・外面一部灰釉/底部外面糸切	20
256	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ東〈ほうろく集中〉	(11.0)	(7.0)	2.7			K219	糸切左回転	25
257	土器・ほうろく	在地	A区 B1堀 ニ東〈ほうろく集中〉	-	-	-			H32	-	<10
258	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B1堀 ニ東〈ほうろく集中〉	-	-	-			鉢39	口唇部 剥落顕著/焼成 堅緻	<10
259	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	A区 B1堀 ニ	*10.0	-	-	C1群	15c後～16c前	白05	内外淡灰白色の釉	<10
260	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区 B1堀 ニ	-	-	-			袋22	内面黒褐色、外面褐灰色/胎土 緻密/肩部に釉溶着痕	<10
261	磁器・坏/染付小坏	中国	A区 B1堀 ニ	-	-	-			染27	界線・植物文ヵ	<10
262	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B1堀(ニ・9T)	-	*5.0	-	大3	16c後	天09	内外鉄釉・高台周辺錆釉/輪高台/体部直線的に厚い	10
263	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B1堀 ニ	-	-	-	大1後	15c末～16c前	鉢14	内外錆釉/片口注口	<10
264	陶器・建水ヵ	瀬戸美濃	A区(B1堀 ニ、一括)	*24.0	-	-	大ヵ	15c末～17c初	袋01	内外鉄釉	10
265	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*12.0	*7.0	2.4			K123	体部外面上・中位ナデ/底部内面ロクロ削り/糸切左回転ヵ	25
266	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*10.6	*5.0	3.3			K124	底部粘土粒/糸切不見	20
267	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*11.5	7.0	3.2			K126	体部外面段上(稜下ヵ)・刷毛状ロクロ痕/底部内面二重円/底部内面ススス付着/糸切右回転/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	40
268	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*11.4	*7.0	2.6			K127	体部外面上・中位ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切不見/微細な金雲母を微量含む	30
269	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*11.0	*6.2	2.8			K128	体部内面中・下位ナデ/糸切有+粘土粒/器厚薄い	20
270	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*10.0	*6.0	2.8			K129	内面体底部境ナデ/底部内面平坦/糸切有/器厚薄い/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	25
271	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*11.0	*7.0	2.7			K130	糸切左回転ヵ/器厚薄い/胎土緻密	20
272	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*8.0	*5.0	2.1			K131	糸切有/胎土緻密	10
273	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*11.0	*7.0	2.6			K132	内面ロクロ痕/器厚薄い/糸切不見	10
274	土器・かわらけ	在地	A区 B1堀 ニ	*10.4	*8.0	2.8			K133	糸切有	20
275	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B1堀 ニ	*30.0	-	-			鉢42	内面ヘラ痕縦/擂目あり	10

第13表　土器類一覧表9

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
276	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	A区 B１堀 ホⅡ層	-	5.6	-	大１	15c末～16c前	碗01	内外灰釉/高台 方形～三角/底部外面輪トチ痕	30
277	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 ホⅡ層	*9.6	*5.8	2.1	大２後	16c中	皿07	内外鉄釉/削込高台/底部外面輪ドチ痕	10
278	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B１堀 ホⅡ層	-	-	-	大４	16c末～17c初	鉢15	内外錆釉/外面被熱により釉ちぢれ	<10
279	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B１堀 ホⅡ層	-	-	-			鉢40	口唇部磨痕、内面剥落	<10
280	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №308 ホⅣ層	9.0	4.0	2.4			K170	口唇部ス ス付着(灯芯油痕)/体部内面下方整形雑/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転	50
281	陶器・皿/端反ヵ丸皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 №310 ホⅣ層?	-	6.0	-	大１ヵ	15c末～16c前	皿20	内外灰釉/付高台・シャープな逆三角形/印花(菊16弁)/底部外面輪ドチ痕	40
282	磁器・皿/染付皿	中国	A区 B１堀 №304 ホⅤ層	-	4.5	-	B１群Ⅵ	15c後～16c前	染12	十字花文/牡丹唐草文ヵ	25
283	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	A区 B１堀(ホⅤ層、ロⅣ層、ニⅣ層)	*10.8	*5.6	2.5	大２後～大３前	16c中～後	皿08	内外鉄釉・内外一部露胎/削込高台/底部外面トチン痕１ヶ所・内面トチン痕２ヶ所	60
284	磁器・碗/染付碗	中国	A区 B１堀 ホ縦１層〈Ⅱ層ヵ〉	*12.0	-	-	E群ⅦBヵ	16c中～後	染03	内外虫喰い/界線	10
285	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B１堀 ホ縦１層(Ⅱ層ヵ)	-	4.0	-	大１	15c末～16c前	天08	内外鉄釉・高台周辺錆釉/輪高台浅い削込/体部薄い/内面細かい線条痕	10
286	陶器・徳利	瀬戸美濃	A区 B１堀 ホ縦１層(Ⅱ層ヵ)	-	(8.0)	-	大３～４ヵ	16c後～17c初	袋38	外面錆釉・内面鉄釉一部露胎	<10
287	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ホ縦１層(Ⅱ層ヵ)	*8.0	*5.6	1.8			K134	口唇内面タール付着/糸切左回転	30
288	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №314 ホ縦10層〈Ⅱ層ヵ〉	10.4	6.0	3.0			K190	体部外面段上(稜下ヵ)/内面体底部境強いナデ/底部外面板ナデヵ・糸切右回転/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む/土227に類似	100
289	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ニホ縦10層〈Ⅱ層ヵ〉	-	(7.0)	-			K220	内面体底部境弱いナデ/底部内面横ナデ/糸切左回転	25
290	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ニホ縦10層〈Ⅱ層ヵ〉	*11.0	*6.0	3.0			K125	体部外面凹/糸切不見	30
291	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ホ縦２層〈Ⅳ層ヵ〉	-	5.0	-			K221	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切不見	40
292	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ホ縦２層〈Ⅳ層ヵ〉	*11.0	6.8	2.7			K135	底部内面弱い渦巻ナデ/微細な金雲母を微量含む/糸切左回転	60
293	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ホ縦２層〈Ⅳ層ヵ〉	*11.4	*7.0	2.9			K136	内面体底部境強いナデ/底部中央凹/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	40
294	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ホ縦２層〈Ⅳ層ヵ〉	*11.0	*6.4	2.9			K137	底部中央凸/糸切左回転ヵ/微細な金雲母を微量含む	40
295	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ホ縦２層〈Ⅳ層ヵ〉	*11.0	*6.5	3.1			K138	体部内面中・下位ナデ/糸切有/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	20
296	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 №299 ホ縦２層〈Ⅳ層ヵ〉	*36.0	*30.0	5.1			H21	体部外面輪積痕/底部内面回転ナデ痕/底部外面 板状痕	30
297	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 ホ縦２層〈Ⅳ層ヵ〉	-	-	-			H34	体部外面ス ス付着	<10
298	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ホ縦３層〈Ⅳ層ヵ〉	*12.0	*7.0	2.6			K139	糸切有/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	20
299	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀 ホ★Ⅲ層	-	-	5.3			H45	-	<10
300	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B１堀 №296 ホ縦３層〈Ⅳ層ヵ〉	-	*13.0	-			鉢35	内面磨痕/胎土に小石含む	10
301	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀(№285 ホ 縦５層〈Ⅴ層〉、ホⅢ層)	*12.0	*6.4	2.9	C１群	15c後～16c前	白01	内外淡灰白色の釉・高台端部露胎	30
302	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀 №287 ホ縦５層〈Ⅴ層〉	*10.0	-	-	C１群	15c後～16c前	白20	断面赤褐色付着物 漆継ぎヵ	<10
303	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №292 ホ 縦５層〈Ⅴ層〉、B１堀ホ	11.0	4.5	2.4			K040	体部外面 輪積痕・内外面にタール・ス ス付着/底部内面横ナデ/底部外面炭化物付着・糸切不見	80
304	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №312 ホ縦５層〈Ⅴ層〉	*11.0	*6.6	2.9			K042	糸切有/胎土緻密	20
305	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 №312 ホ 縦５層〈Ⅴ層〉、№445 ニ縦７層〈Ⅳ層〉	10.8	6.2	3.2			K200	底部内面強い渦巻ナデ/糸切左回転/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	90
306	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 ホ縦５層〈Ⅴ層〉	-	(6.5)	-			K222	糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	25
307	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀 ホ	*12.0	-	-	C１群	15c後～16c前	白04	内外白色の釉	<10
308	磁器・碗/染付碗	中国	A区 B１堀 ホ	-	-	-	E群Ⅸヵ	16c中～後	染05	界線、界線・唐草文ヵ	<10

第14表　土器類一覧表10

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
309	磁器・皿/染付皿	中国	A区 (B１堀ホ、一括)	-	-	-	B１群Ⅶ	15c後～16c前	染19	玉取獅子文	<10
310	焼締陶器・甕	常滑	A区 B１堀 ホ	-	-	-	5～7型式	1220～1350	袋10	自然釉/押印文帯状	<10
311	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 B１堀 ホ	-	-	-	大２～４	16c中～17c初	天14	内外鉄釉/口縁部直立・体部厚い	<10
312	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 ホ	*12.0	-	-	大１	15c末～16c前	皿33	口縁部内外に灰釉	10
313	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B１堀ホ	-	-	-	大３前ヵ	16c後	鉢16	内外錆釉/外面被熱により釉ちぢれ	<10
314	陶器・茶入ヵ(大海形)	瀬戸美濃	A区 B１堀 ホ	-	-	-	大３前ヵ	16c後	他02	内外鉄釉	<10
315	土器・土釜	在地	A区 B１堀 ホ	-	-	-			土釜１	把手上下に穿孔/内面剥落・刺突痕ヵ	<10
316	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀 ロⅢ層	*12.0	*6.6	3.0	C１群	15c後～16c前	白02	内外乳白色の釉	10
317	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 B１堀	-	-	-	C１群	15c後～16c前	白09	内外灰白色の釉	<10
318	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	A区 B１堀 南	-	-	-	大２後	16c中	皿14	内外鉄釉	<10
319	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 B１堀	-	-	-	古後Ⅳ新	15c後	鉢17	内外錆釉/口唇部磨痕	<10
320	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀 南	*11.6	*6.0	3.8			K109	底部外面板ナデ・糸切右回転/微細な金雲母を微量含む	25
321	土器・かわらけ	在地	A区 B１堀	*10.4	*6.0	3.0			K140	糸切有/胎土緻密	20
322	土器・ほうろく	在地	A区 B１堀	-	-	-			H36	内耳右強い擦痕	<10
323	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 B１堀 南	-	-	-			鉢41	内面ヘラ痕縦/片口部/底部外面ス付着	<10
324	磁器・碗/青磁碗	中国	A区 B２堀 ３層 No.10	-	-	-			青02	内外黄緑色の釉/高台内際ナデ	<10
325	陶器・壺ヵ	瀬戸美濃	A区 B２堀 ３層 No.２	-	*20.0	-	古後ヵ	14c後～15c後	袋02	外面体～底部・内面体部 灰釉、一部剥落	10
326	陶器・瓶子	瀬戸美濃	A区 B２堀 ３層 No.８	-	-	-	古後ヵ	14c後～15c後	袋03	内外灰釉	<10
327	土器・ほうろく	在地	A区 B２堀 ３層 No.５	-	-	-			H41	体部外面 ス付着	<10
328	土器・かわらけ	在地	A区 B２堀 ４層 No.６	10.7	5.3	3.8			K073	底部内面横ナデ/糸切右回転/一部赤化・黒化	80
329	土器・瓦/平瓦	在地	A区 B２堀 ５層 No.４	11.2	9.5	1.9	永福寺１期	1192～1231年頃	瓦１	凹面工具ナデ痕(条線)・離砂・凸面縄目痕(長い縄叩きヵ)・糸切・前面平滑/白色粒子・黒色粒子・長石を含む。焼成堅緻・須恵質。児玉産ヵ	10
330	土器・かわらけ	在地	A区 B２堀 No.１ １層、B２堀(B１堀 No.417)	11.0	5.0	3.5			K046	内外ロクロ痕/内面黒化ス付着/底部内面横ナデ/底部外面炭化物付着・糸切不見	95
331	土器・かわらけ	在地	A区 B２堀	*11.5	*7.0	2.8			K074	糸切有/粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	25
332	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 A２堀 No.10・11 Ⅳ層	*11.5	4.0	6.9	大１	15c末～16c前	天03	内外鉄釉・高台周辺錆釉/内反り高台E類	20
333	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	A区 A２堀 No.28 Ⅳ層	-	5.0	-	古後Ⅲ～Ⅳ	15c前～後	皿31	外面一部灰釉/底部外面糸切/底部外周磨痕/内面赤褐色、２次焼成ヵ	50
334	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.32 Ⅳ層	10.8	6.4	2.9			K060	口縁内部一部黒化/体部外面稜下/内面黒化ス付着/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	95
335	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.35 Ⅳ層	-	6.0	-			K230	体底部境ナデ/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい/焼成不良	30
336	土器・ほうろく	在地	A区 A２堀(No.23 Ⅳ層、ロ)	*36.0	*32.0	5.4			H16	底部内面 コゲ付着/底部外面 板状痕	30
337	土器・ほうろく	在地	A区 A２堀(No.30 Ⅳ層、ロ)	*32.0	31.0	5.7			H15	底部内面 回転ナデ痕/底部補修孔	40
338	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.４ 炭化物層〈Ⅳ層ヵ〉	-	4.5	-			K227	糸切右回転	25
339	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.６ 炭化物層〈Ⅳ層ヵ〉	*12.0	*7.0	3.2			K054	口縁部外面ナデヵ/体部内面中・下位ナデ/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい	20
340	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.８ 炭化物層〈Ⅳ層ヵ〉	*12.0	*7.4	2.6			K055	口縁部厚い/内面体底部境ナデ/糸切有/胎土緻密・粉っぽい	20
341	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.９ 炭化物層〈Ⅳ層ヵ〉	(12.0)	-	-			K228	器厚薄い/焼成良好/堅緻	15
342	陶器・徳利	瀬戸美濃	A区 A２堀 No.38 Ⅴ層	-	-	-	大ヵ	15c末～17c初	袋08	外面鉄釉・錆釉	<10
343	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 A２堀 No.37 Ⅴ層	-	-	-	大２	16c中	鉢18	内外錆釉/片口注口	<10
344	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.17 Ⅴ層	*12.0	*7.0	2.8			K056	口縁部厚い/糸切不見/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	20

第15表　土器類一覧表11

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
345	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.27 Ⅴ層	8.0	5.4	2.0			K058	口縁・底部一部黒化/底部内面弱い渦巻ナデ/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	80
346	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.29 Ⅴ層	*11.4	*6.5	2.6			K059	糸切左回転	20
347	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.40 Ⅴ層	*6.6	*4.4	1.9			K061	灯芯油痕/底部内面横ナデ/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	40
348	土器・ほうろく	在地	A区 A２堀（No.21Ⅴ層、No.13・16 Ⅳ層、ロ）	36.0	31.0	5.3			H01	内面回転ナデ/底部外面 板状痕４条/体部外面ス ス付着	90
349	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 A２堀（No.22 Ⅴ層、ロ）	-	-	-			鉢43	口唇部 剥落顕著/外面ス ス付着/土369・439と同一個体ヵ	<10
350	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.59 Ⅰライン４層〈Ⅴ層類似〉	-	5.6	-			K231	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転ヵ	50
351	土器・ほうろく	在地	A区 A２堀 No.54～58・60～64 Ⅰライン４層〈Ⅴ層類似〉	*34.0	-	-			H19	底部外面 板状痕/体部外面 タール付着	30
352	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.66 堀底面	-	5.0	-			K062	内外ロクロ痕/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転	60
353	土器・ほうろく	在地	A区 A２堀（No.46～53 堀底面、No.45 10T ３層）	*34.5	31.0	5.0			H03	底部内面 回転ナデ痕・コゲ付着/底部外面 板状痕・粒状痕/体部外面 ス ス付着	60
354	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ８T	(11.0)	(6.5)	3.0			K232	糸切不見	15
355	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 イ	*10.0	*3.6	3.3			K063	-	25
356	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 イ	*11.0	*6.0	2.6			K064	口縁部弱いナデ/糸切不見/粉っぽい	30
357	磁器・碗/染付碗	中国	A区 A２堀 ロ	-	-	-	E群ヵ	16c中～後	染11	山水人物文	<10
358	焼締陶器・壺	常滑ヵ	A区 A２堀 ロ	-	-	-	２期新段階	16c後～17c	袋12	自然釉・２次焼成により剥落/内面長石吹出	<10
359	陶器・茶入ヵ（芋子形）	瀬戸美濃	A区 A２堀 ロ	-	-	-	大３前ヵ	16c後	他03	内外鉄釉	<10
360	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ロ	*10.0	*6.0	3.0			K065	糸切不見/胎土緻密・粉っぽい	20
361	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ロ	*10.5	*7.0	2.2			K066	糸切（中央）/胎土緻密・粉っぽい	20
362	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ロ	*11.0	*5.0	2.5			K067	内面やや黒化/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい	20
363	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ロ	(11.0)	(7.0)	3.0			K233	体部外面やや凹む/粉っぽい	20
364	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ロ	-	6.0	-			K234	糸切左回転/堅緻	20
365	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ロ	(12.0)	-	-			K235	口縁部外面ナデヵ/胎土緻密・粉っぽい	10
366	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ロ	(11.0)	-	-			K236	内面強いロクロ痕	10
367	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 ロ	(11.0)	(6.5)	2.4			K237	糸切不見/粉っぽい	10
368	土器・ほうろく	在地	A区 A２堀 ロ	*34.0	*30.8	5.1			H17	体部外面 ス ス付着/底部内面 回転ナデ痕	45
369	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 A２堀 ロ	-	-	-			鉢44	口唇～口縁部内面 剥落顕著/土349・439と同一個体ヵ	<10
370	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 A２堀 ロ	-	-	-			鉢45	擂目 交差、櫛目10本	<10
371	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 A２堀	-	-	-	古後Ⅳ新ヵ	15c後	天17	内外鉄釉	<10
372	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀	(7.6)	(4.2)	2.1			K238	糸切左回転/胎土緻密/粉っぽい	30
373	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀	-	4.0	-			K239	/底部内面横ナデ/底部外面横擦り・糸切不見/全面被熱黒化/微細な金雲母を微量含む	40
374	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.18～20 Ⅴ層〈別の溝ヵ〉	11.0	6.5	2.9			K057	内面体底部境ナデ/底部内面中央凹ヵ/糸切（中央）/器厚薄い/微細な金雲母を微量含む	80
375	土器・かわらけ	在地	A区 A２堀 No.33 Ⅴ層〈別の溝ヵ〉	(11.0)	-	-			K229	-	15
376	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区（A２堀 No.44 ?層〈カクラン?〉、一括）	*11.0	*6.0	2.6	大１ヵ	15c末～16c前	Ⅲ24	内外灰釉/付高台・逆三角形	25
377	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区 A３a堀 No.３ Ｊライン１層	-	-	-	大１～４	15c末～17c初	袋35	外面 にぶい褐色、断面 褐灰色/外面ヘラ削り痕/胎土 白色小石を含む	<10
378	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区 A３a堀 No.18 Ｊライン３層〈Ⅳ層相当〉	*11.6	*6.2	2.8	大１	15c末～16c前	Ⅲ23	内外灰釉/付高台・逆三角形/印花（菊）/底部外面輪ドチ痕/口縁２次焼成、カセ黒化	40
379	土器・かわらけ	在地	A区 A３a堀 No.10 Ｊライン３層〈Ⅳ層相当〉	(12.0)	-	-			K241	口縁部外面凹/外面一部ス ス付着	20
380	土器・かわらけ	在地	A区 A３a堀 No.16 Ｊライン３層〈Ⅳ層相当〉	-	6.6	-			K240	底部内面渦巻ナデ/一部黒化/糸切左回転/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	40
381	土器・かわらけ	在地	A区 A３a堀 No.２ Ｊライン３層〈Ⅳ層相当〉	10.6	6.5	3.0			K068	底部内面指頭押圧痕（凹凸）/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む	90

第16表　土器類一覧表12

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
382	土器・かわらけ	在地	A区 A３a堀 No.29 Jライン３層〈Ⅳ層相当〉(土橋)	11.5	4.5	3.5			K069	底部内面横ナデ/糸切右回転/内外黒化	80
383	土器・かわらけ	在地	A区 A３a堀 No.37 Jライン３層〈Ⅳ層相当〉	-	4.5	-			K070	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切右回転ヵ/底部高台風	70
384	土器・ほうろく	在地	A区 A３a堀 No.２・９・10 Jライン３層〈Ⅳ層相当〉、A区 B１堀 No.156 ロⅡ層、A区	35.0	31.0	5.8			H55	底部内面コゲ付着、外面板状痕/体部外面スス付着/段幅３mm	55
385	土器・ほうろく	在地	A区 A３a堀 No.６・７・９・12・14・17・34 Jライン３層〈Ⅳ層相当〉	*35.5	31.0	5.7			H04	底部内面 回転ナデ痕・コゲ付着/被熱による剥落顕著	70
386	土器・ほうろく	在地	A区 A３a堀 No.20～23 Jライン３層〈Ⅳ層相当〉	*33.4	*30.0	5.6			H20	ー	20
387	土器・ほうろく	在地	A区 A３a堀 No.24 Jライン３層〈Ⅳ層相当〉	-	-	4.7			H29	ー	<10
388	土器・ほうろく	在地	A区 A３a堀 No.31・33 Jライン３層〈Ⅳ層相当〉(土橋)、No.32 畝直上、A２堀、A列 畝直上	*36.7	*32.0	5.5			H09	体部外面スス付着	15
389	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 A３a堀 No.28 Jライン３層〈Ⅳ層相当〉(土橋)、A２堀ロ	*30.0	*13.0	8.7			鉢27	口唇部剥落/底部外面炭化物厚く付着、ナデ/胎土砂粒多/擂目 体部縦、間隔は櫛幅、底部周辺交差ヵ、櫛目10本	25
390	土器・ほうろく	在地	A区 A３a堀 No.４ 畝直上	-	-	-			H47	体部外面スス付着	<10
391	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 A３a堀 南上段	-	-	-	大２	16c中	天12	内外鉄釉・腰部錆釉濃い/輪高台/口縁部直立・体部直線的で薄い	<10
392	陶器・水指	備前	A区 A３a堀 南上段	-	-	-	近世Ⅰ期～	16c第４四半～	袋04	灰被り(黄ゴマ)・赤褐色	<10
393	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 A３a堀	*12.0	-	-	大１	15c末～16c前	天11	内外鉄釉/輪高台/体部直線的/口縁部玉縁・立上り強・体部丸味	<10
394	陶器・鉢/大皿	瀬戸美濃	A区 A３a堀	-	-	-	大４	16c末～17c初	鉢50	内面灰釉・団子トチ痕/底部削込	<10
395	土器・かわらけ	在地	A区 A３a堀	-	5.0	-			K242	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ/糸切不見	10
396	土器・かわらけ	在地	A区 A３a堀	*12.0	*7.0	3.0			K071	底部内面中央凹ヵ/糸切有	20
397	土器・かわらけ	在地	A区 A３a堀	*10.8	*7.0	2.8			K072	糸切左回転/胎土緻密	10
398	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 A３b堀 Ⅱ層	-	-	-	大１後	16c前	天10	内外鉄釉・腰部錆釉/輪高台/体部直線的	<10
399	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区 A３b堀 Ⅱ層	-	-	-	大１	15c末～16c前	皿30	内外灰釉	<10
400	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区 A３b堀 No.60 Ⅳ層	-	-	-			袋16	内外暗褐色/胎土 緻密/耳 右側遺存	<10
401	磁器・碗/染付碗	中国	A区 A３b堀 No.39 Ⅳ層	-	4.2	-	E群Ⅵヵ	16c中～後	染04	高台端部露胎/界線・「正」、界線・唐草文ヵ	10
402	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区 A３b堀(No.48 Ⅳ層・一括)	*11.0	5.8	2.6	大１	15c末～16c前	皿22	内外灰釉/付高台・方形/底部外面輪ドチ痕/２次焼成、ヒビ黒化	50
403	陶器・皿	瀬戸美濃	A区 A３b堀 Ⅳ層	-	(5.0)	-	大	15c末～17c初	皿44	内外被熱白化・灰釉ヵ・釉ちぢれ/底部内面・外面露胎/底部外面スス付着/付高台	10
404	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.40 Ⅳ層	*12.0	*8.0	2.7			K085	糸切不見	25
405	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.43 Ⅳ層	-	5.8	-			K250	明赤褐色/内面体底部境凹/糸切右回転/金雲母を含む/焼成良好/堅緻	60
406	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.52 Ⅳ層	*12.0	*8.0	3.0			K086	体部外面稜下/内面体底部境ナデ/糸切不見・底部外面擦痕/胎土緻密・粉っぽい	40
407	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.54 Ⅳ層	*11.0	7.0	3.2			K087	体部外面凹(深い)/底部内面横ナデ/底部外面弱い板ナデ・糸切左回転/胎土緻密	60
408	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.56 Ⅳ層	*11.0	6.8	3.0			K088	体部外面段下/底部外面弱い板ナデ・糸切(中央)左回転ヵ	50
409	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.56 Ⅳ層 、一括	10.6	6.5	2.9			K089	体部外面凹/底部内面横ナデ/内面体底部境弱いナデ/糸切左回転/微細な金雲母を微量含む/内外一部赤化	80
410	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.57 Ⅳ層	10.2	6.4	2.8			K090	体部外面凹(浅い)/糸切左回転	90
411	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.58 Ⅳ層	*11.2	*7.0	3.0			K091	内面体底部境ナデ/糸切左回転	30
412	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.71 Ⅳ層	*10.0	*6.0	2.8			K093	体部外面段上(稜下ヵ)/体部内面中・下位ナデ/糸切有/粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	30
413	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.72 Ⅳ層	*11.0	*6.5	3.1			K094	体部外面稜下/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	50

第17表　土器類一覧表13

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
414	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.76 Ⅳ層	-	(6.0)	-			K252	糸切有	20
415	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.77 Ⅳ層	*11.0	*6.4	2.6			K095	体部外面刷毛状ロクロ痕・稜下/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい	20
416	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.79 Ⅳ層	-	(6.6)	-			K253	糸切不見/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	20
417	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.81 Ⅳ層	11.2	65	3.0			K096	体部外面刷毛状ロクロ痕・稜下/内面体底部境ナデ/糸切右回転/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	100
418	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 Ⅳ層	(10.0)	(5.0)	2.2			K244	糸切不見	20
419	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 Ⅳ層	*11.0	*7.0	3.2			K100	体部外面段上(稜下ヵ)/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	20
420	土器・ほうろく	在地	A区 A３b堀 No.55 Ⅳ層	-	-	-			H46	体部外面スス付着	<10
421	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 A３b堀 No.42 Ⅳ層	-	-	-			鉢46	口唇部剥落/内面ヘラ痕縦	<10
422	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 A３b堀 No.18 Mライン１層〈Ⅳ層相当〉	*7.0	-	-	C１群ヵ	15c後～16c前	白07	内外白色の釉・高台端部露胎	<10
423	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.１・３・８ Mライン１層〈Ⅳ層相当〉、一括	*10.4	6.6	3.3			K075	灯芯油痕/体部外面凹/体底部境弱いナデ/底部外面板ナデヵ・糸切有	80
424	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.19 Mライン１層〈Ⅳ層相当〉	*10.6	*6.0	2.9			K080	一部赤化/体部外面凹/糸切不見	20
425	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.22 Mライン１層〈Ⅳ層相当〉	*11.2	6.5	3.0			K081	体部外面凹/底部内面弱い渦巻/底部外面板ナデ・糸切左回転ヵ	70
426	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.23 Mライン１層〈Ⅳ層相当〉	-	6.5	-			K082	体部外面段上(稜下ヵ)/内面体底部境強いナデ/内面・断面スス付着/底部内面横ナデ/糸切右回転ヵ/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	80
427	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.28・30 Mライン１層〈Ⅳ層相当〉	-	6.6	-			K243	糸切左回転/胎土緻密/堅緻	40
428	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.29 Mライン１層〈Ⅳ層相当〉	-	6.0	-			K249	内面体底部境ナデ/底部外面糸切による凹み・切左回転ヵ	40
429	土器・ほうろく	在地	A区 A３b堀 No.24 Mライン１層〈Ⅳ層相当〉	-	-	5.2			H10	体部外面スス付着	<10
430	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.５・６ Mライン１層畝上面〈Ⅳ層相当〉	10.4	6.0	3.0			K076	灯芯油痕/体部外面凹(深い)/内面体底部境ナデ/底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転ヵ・微細な金雲母を微量含む	100
431	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.12 Mライン１層畝上面〈Ⅳ層相当〉	*10.4	*6.6	2.2			K077	底部内面二重円ナデ/糸切不見	50
432	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.13 Mライン１層畝上面〈Ⅳ層相当〉	-	6.0	-			K078	体部外面稜下ヵ/糸切右回転/一部赤化/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	50
433	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.14 Mライン１層畝上面〈Ⅳ層相当〉	*11.0	*6.5	2.9			K079	口縁部欠損ヵ/底部内面横ナデヵ/糸切有	50
434	磁器・皿/染付皿	中国	A区 A３b堀 ７T No.11 Ⅳ層	*12.0	-	-	B１群	15c後～16c前	染09	界線、界線・唐草文	10
435	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 ７T No.10 Ⅳ層	*11.0	*6.8	3.1			K144	糸切有/胎土緻密・微細な金雲母ヵを微量含む	20
436	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 ７T No.14 Ⅳ層相当	*11.0	6.4	2.9			K145	底部内面横ナデ/糸切不見	80
437	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 ７T No.18 Ⅳ層相当	7.0	5.0	1.9			K146	糸切左回転ヵ	60
438	土器・火鉢	在地	A区 A３b堀 ７T No.15 Ⅳ層相当	-	-	-			火鉢１	方形/上段に印文(三ッ巴、花文)を二列、下段に格子目文	10
439	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 A３b堀 No.68 Ⅳ層?	-	-	-			鉢47	口唇～口縁部内面 剥落顕著/土349・369と同一個体ヵ	<10
440	磁器・皿/染付皿	中国	A区 A３b堀 No.82 Ⅴ層	*13.5	*8.0	3.2	B１群Ⅶ	15c後～16c前	染08	口縁端部露胎/界線・玉取獅子文、界線・牡丹唐草文	25
441	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.37 Ⅴ層	*11.4	6.5	2.8			K084	体部外面段下/底部内面二重円ナデ/糸切(中央)/器厚薄い/胎土緻密・粉っぽい	60
442	土器・ほうろく	在地	A区 A３b堀 No.59 Ⅴ層	-	-	-			H11	体部外面スス付着	<10
443	土器・鉢/擂鉢	在地	A区 A３b堀 No.63 Ⅴ層	-	13.0	-			鉢26	体部内面磨痕/底辺部外面 爪痕ヵ、黒化・スス付着/底部外面ナデ/擂目体部斜交差、間隔は櫛幅の1.5倍、底部 ４条星形交差、櫛目５本	15
444	磁器・皿/染付皿	中国	A区 A３b堀 No.27 Mライン３層〈Ⅴ層相当〉	*14.0	-	-	B１群ヵ	15c後～16c前	染10	界線	<10
445	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区 A３b堀 No.66 Ⅴ層?、A区 B１堀ニ	*12.0	-	-	大３後	16c後	天06	内外鉄釉・高台周辺露胎	20

第18表　土器類一覧表14

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
446	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.33 Mライン４層〈V層下ヵ〉	*7.0	*4.4	2.3			K092	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切有	30
447	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀 No.65 堀底面	-	6.0	-			K251	底部内面強い渦巻ナデ/糸切左回転(中央に近い)/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む/焼成良好	40
448	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀(No.85 堀底面、No.32・34 Mライン４層〈V層下ヵ〉)	11.5	6.6	2.8			K083	口縁部外面ナデ/内外回転ナデ痕/体部内面中・下位ナデ/外面スス付着/底部高台風/糸切左回転/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	80
449	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 A３b堀	-	-	-	C１群	15c後～16c前	白10	内外白色の釉	<10
450	陶器・建水	瀬戸美濃	A区 A３b堀	-	*14.0	-	大３	16c後	袋09	内外錆釉/回転ヘラ削り調整	10
451	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀	-	(7.0)	-			K245	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切左回転	20
452	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀	(10.0)	-	-			K246	胎土緻密・粉っぽい	15
453	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀	(11.0)	-	-			K247	口縁部内外タール付着	10
454	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀	(11.0)	-	-			K248	内面・口縁部外面タール付着	<10
455	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀	*11.0	*6.0	3.0			K097	糸切有・微細な金雲母を微量含む	30
456	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀	*10.0	*6.0	2.5			K098	糸切不見	20
457	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀	*11.0	*4.5	3.5			K099	内外スス付着/糸切有	20
458	土器・かわらけ	在地	A区 A３b堀	*11.0	*6.0	2.5			K101	体部外面上・中位ナデ/糸切有・微細な雲母を微量含む	20
459	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	A区 １T	-	-	-	大２・３	16c中～後	皿11	内外鉄釉	<10
460	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 １T	-	-	-	大２後	16c中	鉢19	内外錆釉	<10
461	陶器・碗/天目	初山	A区 １T	*11.0	-	-	大３ヵ		天18	内外鉄釉/体部丸味	10
462	土器・ほうろく	在地	A区 ２T	-	-	-			H37	体部外面スス付着	<10
463	土器・ほうろく	在地	A区 ２T	-	-	5.0			H49	体部外面スス付着	<10
464	陶器・袋物	初山	A区 ４T	-	-	-			袋06	内外鉄釉	<10
465	磁器・皿/白磁皿	中国	A区 ７T	-	-	-			白18	内外白色の釉	<10
466	磁器・皿/染付皿	中国	A区 ７T	*12.0	-	-	C群ヵ	15c後～16c前	染21	界線、界線・文字ヵ	<10
467	陶器・鉢/卸目付大皿	瀬戸美濃	A区 ７T	-	-	-	古後Ⅲ	15c前	鉢49	口縁内面・外面灰釉/被熱剥落	<10
468	土器・かわらけ	在地	A区 ７T	*11.4	*7.0	3.0			K147	糸切有/胎土緻密・粉っぽい	25
469	磁器・碗/青磁碗	中国	A区 南東	*14.0	-	-	A-Ⅱ類	13c末～14c初	青01	内外淡青緑色の釉	10
470	磁器・碗/青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	A区	-	-	-	B-１類	13c後～14c前	青03	内外淡青緑色の釉	<10
471	磁器・碗/青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	A区	-	-	-	B-１類	13c後～14c前	青04	内外青緑色の釉	<10
472	磁器・皿/青磁稜花皿	龍泉窯系中国	A区	-	-	-		15c中～後	青07	内外緑色の釉/片切彫り沈線	<10
473	磁器・皿/白磁皿	中国	A区	*16.0	-	-	C２群ヵ	15c後～16c前	白06	内外淡灰白色の釉	<10
474	磁器・皿/白磁皿	中国	A区	*10.0	-	-	C１群ヵ	15c後～16c前	白14	内外灰白色の釉・高台端部露胎	<10
475	磁器・皿/白磁皿	中国	A区	-	-	-			白17	内外白色の釉/口唇部に小突起	<10
476	磁器・皿/白磁皿	中国	A区	-	-	-			白19	内外白色の釉/口唇部に小突起	<10
477	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区	-	-	-			袋15	内面暗褐色、外面にぶい黄褐色/外面下部にトチン痕/胎土 緻密	<10
478	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区	-	-	-			袋18	内面黒褐色、外面にぶい赤褐色/胎土 緻密	<10
479	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区	-	-	-			袋19	内面黒褐色、外面にぶい赤褐色/胎土 緻密	<10
480	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区	-	-	-			袋20	内面黒褐色、外面にぶい赤褐色/胎土 緻密	<10
481	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区	-	-	-			袋21	内面暗赤褐色、外面にぶい赤褐色/胎土 緻密	<10
482	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区	-	-	-			袋23	内面黒褐色、外面褐灰色/胎土 緻密/耳 遺存	<10
483	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区	-	-	-			袋24	内面黒褐色、外面褐灰色/胎土 緻密	<10
484	陶器・壺/褐釉四耳壺	中国ヵ	A区	-	-	-			袋25	内面黒褐色、外面褐灰色/胎土 緻密	<10
485	磁器・皿/染付皿	中国	A区	-	-	-	B１群Ⅷ	15c後～16c前	染13	アラベスク文/細かな唐草文	25

第19表　土器類一覧表15

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
486	磁器・皿/染付皿	中国	A区	-	-	-			染14	ダミ文	<10
487	磁器・皿/染付皿	中国	A区	-	-	-			染15	花文	<10
488	磁器・皿/染付皿	中国	A区	-	-	-			染16	植物文	<10
489	磁器・皿/染付皿	中国	A区	-	*4.0	-	C群Ⅲ	15c後～16c前	染17	界線、界線・文字	10
490	焼締陶器・甕	渥美	A区	-	-	-		12c後～末	袋26	肩に自然釉	<10
491	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	A区 南西	-	-	-	7型式	14c前	鉢04	内面自然釉	<10
492	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	A区	-	-	-	5・6a型式	1220～1275	鉢05	内外自然釉	10
493	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	A区	(11.0)	-	-	大3	16c後	天19	内外鉄釉・腰部錆釉ヵ	20
494	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区 A列	*10.0	-	-	大1	15c末～16c前	Ⅲ28	内面・外面口縁部に灰釉/一部2次焼成ヵ	10
495	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区 南西	*12.0	-	-	大1	15c末～16c前	Ⅲ27	内外灰釉	10
496	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	A区	-	-	-	古後Ⅳ(旧)	15c中	Ⅲ42	口唇部内面灰釉/内外面スス付着	<10
497	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	A区	(11.0)	-	-	大1	15c末～16c前	Ⅲ43	内面・口唇部外面灰釉/被熱一部白化	10
498	陶 器・皿/端 反・丸皿	瀬戸美濃	A区	-	5.0	-	大2～3	16c中～後	Ⅲ48	内外灰釉/底部外面輪ドチ痕	25
499	陶器・皿/丸皿ヵ	瀬戸美濃	A区	-	*5.5	-	大	15c末～17c初	Ⅲ37	内外灰釉/付高台/2次焼成 白色化ちぢみ/土199と同一個体ヵ	10
500	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	A区	(14.0)	-	-	大4	16c末～17c初	Ⅲ47	内外長石釉・貫入・被熱白化	10
501	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	A区 A列	-	-	-	大4～登1	16c末～17c初	Ⅲ39	内外長石釉	<10
502	陶器・皿/灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	A区	*8.0	*4.0	1.5	登8～11	18c後～19c後	Ⅲ15	内外錆釉/桟部にカットあり	20
503	陶器・皿/灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	A区	*8.0	-	-	登8～11	18c後～19c後	Ⅲ16	内外錆釉/桟部にカットあり	10
504	陶器・皿/灯明皿(油皿)	瀬戸美濃	A区	-	-	-	登8～11	18c後～19c後	Ⅲ17	内面・口縁部外面錆釉/底部内面輪ドチ痕	10
505	陶器・坏/小坏	瀬戸美濃	A区	*7.0	-	-	大2	16c中	他01	内外鉄釉・灰釉流し掛けヵ・腰部露胎	20
506	陶器・鉢/鉄絵鉢	瀬戸美濃	A区	-	*16.0	-	(赤津B窯ヵ)	1610～	鉢01	内外長石釉/鉄で植物文・左上に緑釉(4点列)/底部内外ピン痕/付高台/一部黒化	10
507	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区	-	-	-	大2後～3前	16c中～後	鉢20	内外錆釉	<10
508	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区 南西	-	-	-	古後Ⅳ新	15c後	鉢21	内外錆釉/外面被熱により釉ちぢれ	<10
509	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	A区	-	-	-	大4	16c末～17c初	鉢51	内外鉄釉	<10
510	陶器・茶入	瀬戸美濃	A区	-	-	-	大ヵ	15c末～17c初	他9	外面鉄釉・釉滴付着/被熱剥落ヵ	<10
511	陶器・香炉	瀬戸美濃	A区	-	*7.0	-			香01	外面灰釉/内面黒色物付着 墨ヵ	10
512	陶器・香炉	瀬戸美濃	A区	-	-	-	登ヵ	17c初～	香03	外面灰釉	10
513	陶器・香炉	瀬戸美濃	A区	-	-	-	登6～	18c～	香04	外面灰釉/丸ノミによる半菊文	<10
514	陶器・片口ヵ	瀬戸美濃	A区 南西	-	-	-	登ヵ	17c初～	袋07	外面鉄釉・底部錆釉	<10
515	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区	-	-	-	大1～4	15c末～17c初	袋31	外面 褐灰色、断面 灰色	<10
516	陶器・壺/祖母懐壺	瀬戸美濃	A区	-	-	-	大1～4	15c末～17c初	袋33	外面 褐灰色・斜めに灰色の筋あり、断面 灰白色/外面ヘラ削り痕/胎土白色小石を含む	<10
517	陶器・鉢	肥 前(唐津)	A区	-	-	-			鉢03	内外透明釉・白土が散る/印花文	<10
518	陶器・皿	志戸呂	A区	-	-	-			Ⅲ41	内面・口縁部外面 暗緑色灰釉・口縁下部 錆釉/土46と同一個体ヵ	<10
519	焼締陶器・鉢/擂鉢	備前系	A区 A列	-	-	-			鉢22	-	<10
520	焼締陶器・鉢/擂鉢	備前系	A区	-	*17.0	-			鉢31	底部外面ヘラナデ	10
521	磁器・碗/染付碗	肥前	A区	*10.0	*4.0	-		17c末～18c初	伊01	二重網目文	40
522	磁器・碗/染付碗	肥前	A区	*11.0	-	-		18c～	伊02	染付青い/蝶に植物文	30
523	磁器・碗/染付碗	肥前	A区	*11.0	-	-	V期	19c初～中	伊03	-	20

第20表　土器類一覧表16

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　　<10は10％以下

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率％
524	磁器・碗/染付碗	肥前	A区	-	-	-			伊04	コンニャク判	10
525	磁器・皿/染付皿	肥前	A区	-	-	-		18c中～19c中	伊07	体部内面青磁/唐草文/蛇ノ目凹形高台	20
526	磁器・坏/小坏	肥前	A区	6.6	2.8	3.2			伊05	底部内面突	75
527	磁器・鉢	肥前	A区	*16.0	-	-			伊06	染付	15
528	陶器・急須	萬古系	A区	-	-	-			他04	黒褐色	10
529	陶器・茶入ヵ	萬古系	A区 2P	*6.6	-	-			他05	黒褐色	<10
530	陶器・蓋	萬古系	A区	*5.0	-	-			他06	黒褐色	20
531	土器・かわらけ	在地	A区 A列	-	5.0	-			K226	底部内面横ナデ/底部外面板ナデ・糸切不見	50
532	土器・かわらけ	在地	A区	-	*6.0	-			K159	体部外面稜下ヵ/内面体底部境強いナデ/糸切不見/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	80
533	土器・かわらけ	在地	A区	*11.0	*6.0	2.8			K160	外面ロクロ痕/体部外面稜下/内面体底部境ナデ/糸切右回転/胎土緻密・粉っぽい・微細な金雲母を微量含む	60
534	土器・かわらけ	在地	A区	*12.0	*8.6	3.1			K201	体部外面稜下/糸切右回転/胎土緻密・微細な金雲母を微量含む	20
535	土器・かわらけ	在地	A区	*10.6	5.6	2.5			K202	糸切左回転	40
536	土器・熔融物付着土器	在地	A区	-	-	-			K207	被熱/内外に熔融物（淡黄色・黒色）付着	10
537	土器・ほうろく	在地	A区南東	-	-	-			H38	-	<10
538	土器・ほうろく	在地	A区南東	-	-	5.3			H39	体部外面スス付着	<10
539	土器・ほうろく	在地	A区	*34.0	-	-			H42	体部外面スス付着	10
540	土器・ほうろく	在地	A区	-	-	2.8			H43	ー	<10
541	土器・ほうろく	在地	A区	-	-	4.8			H48	-	<10
542	土器・ほうろく	在地	A区	-	-	-			H50	体部外面スス付着	<10
543	土器・ほうろく	在地	A区	-	-	2.8			H51	-	<10
544	土器・ほうろく	在地	A区	-	-	-			H52	体部外面スス付着	<10
545	土器・ほうろく	在地	A区	-	-	-			H53	体部外面スス付着	<10
546	土器・ほうろく	在地	A区	-	-	-			H54	体部外面スス付着	<10
547	土器・鉢/片口鉢	在地	A区	-	-	-			鉢48	-	<10
548	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	B区 1堀 No.17	*11.2	4.3	6.0	大3前	16c後	天04	内外鉄釉・高台周辺薄い錆釉/内面細かい線条痕/高台畳付線条痕/内反り高台E類	30
549	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	B区 1堀 No.5	(12.0)	-	-	大3	16c後	皿46	内外灰釉/体部下方ヘラ削りによる稜・露胎	10
550	土器・ほうろく	在地	B区 1堀（No.10～14・16）	*35.0	*32.0	4.7			H40	体部外面タール付着	20
551	陶器・鉢/鉄絵鉢	瀬戸美濃	B区	-	*18.0	-	（赤津B窯ヵ）	1610～	鉢02	内外長石釉/鉄で文様/高台にトチン痕	10
552	陶器・香炉	志戸呂ヵ	B区	-	*8.0	-			香02	外面灰釉	10
553	土器・ほうろく	在地	B区	-	-	5.4			H59	-	<10
554	土器・擂鉢	在地	B区	-	-	-			鉢52	-	<10
555	土器・土製製品	在地	A区 B1堀 No.253 ハⅣ層	(4.2)	(4.2)	(1.6)				上辺・逆辺 棒状工具による枠とり/中 棒状工具により押し引き/四角いものを押したものではない	
556	土器・灯芯押さえ	在地	A区 B1堀 No.391 ニ 縦4層〈Ⅲ層ヵ〉	2.7	-	0.4			素他30	穿孔部周縁ス付着/表裏平滑・裏面ナデ痕	100
557	土器・土製円盤	在地	A区	9.5	9.2	1,6			他08	在地甕/内面黒化/断面一部磨耗（使用によるもの）	-

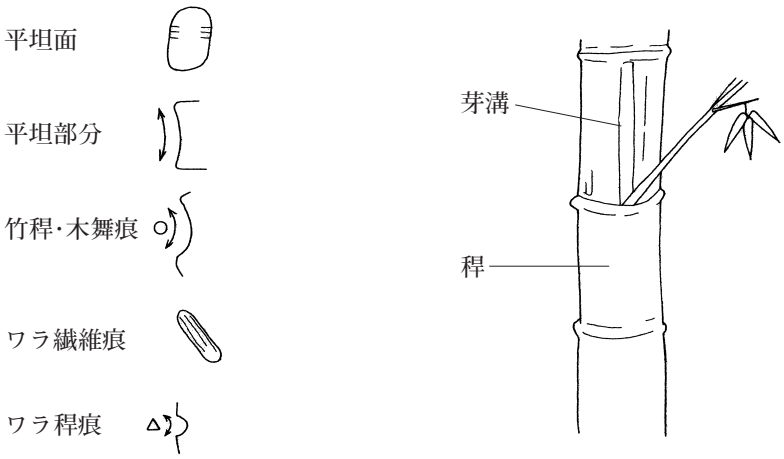
第21表　土器類一覧表17

第２節　土壁片

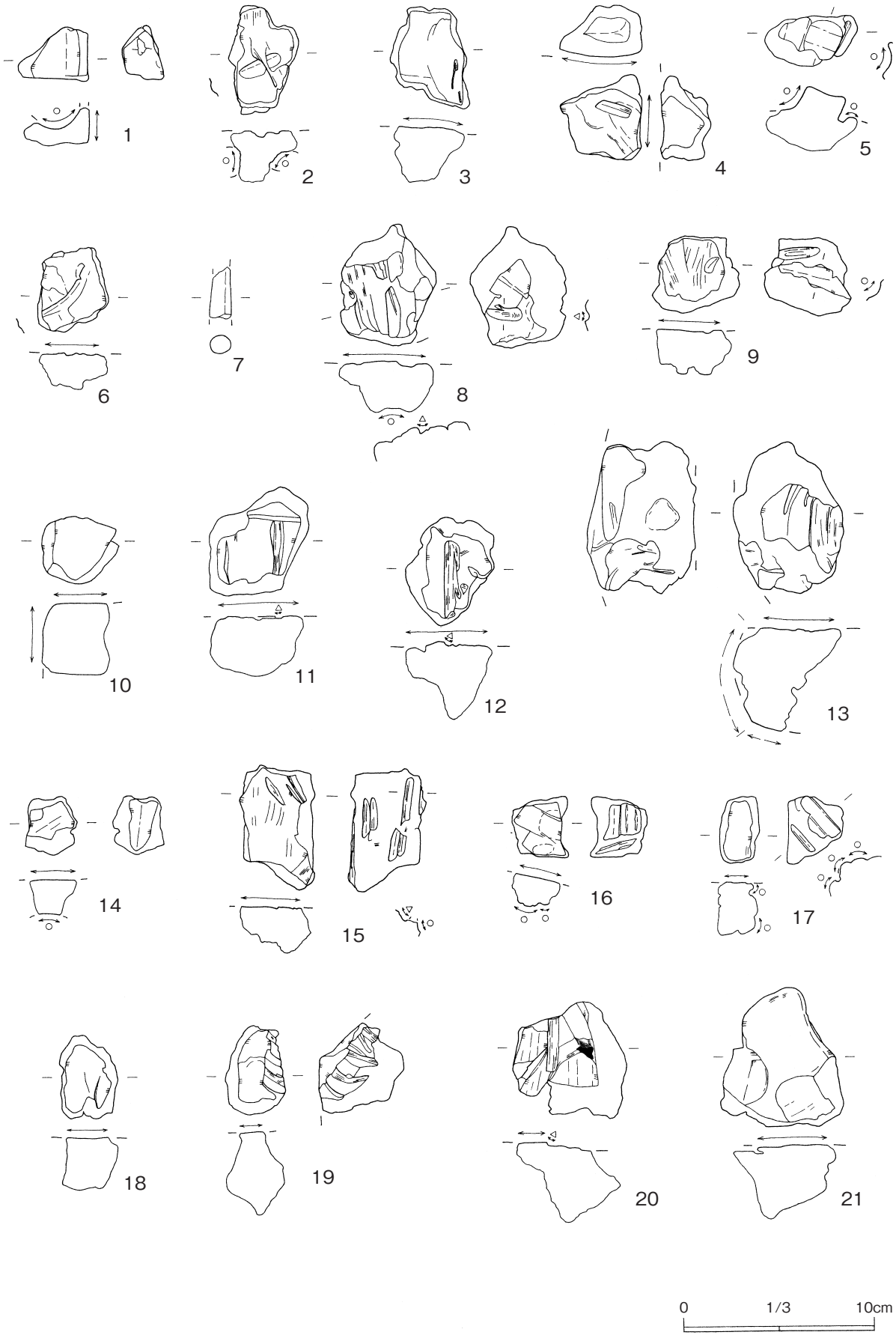
調査時は、焼土塊として取り上げたものである。土壁片としたものは、素焼の土塊に竹や藁などの繊維痕跡が認められ、平坦部分（壁表面ヵ）を有するものを主とする。これまでの調査ではKB15区で僅かに、19区では大量に出土した。13次でもＡ区Ｂ１堀を主に出土している。

なお、計量値は全て採取したものではなくサンプリングされた重量で、判別が困難なものもあり土壁以外のものも含む可能性がある。総重量3,947.9g(27Ｌ入収納箱１/２箱）で、詳細は第22表のとおりである。Ｂ１堀2,819.8ｇ、Ａ２堀43g、Ａ３a堀7.7g、Ａ３ｂ堀312.5gほかで、土器類同様Ｂ１堀で多量に出土する。

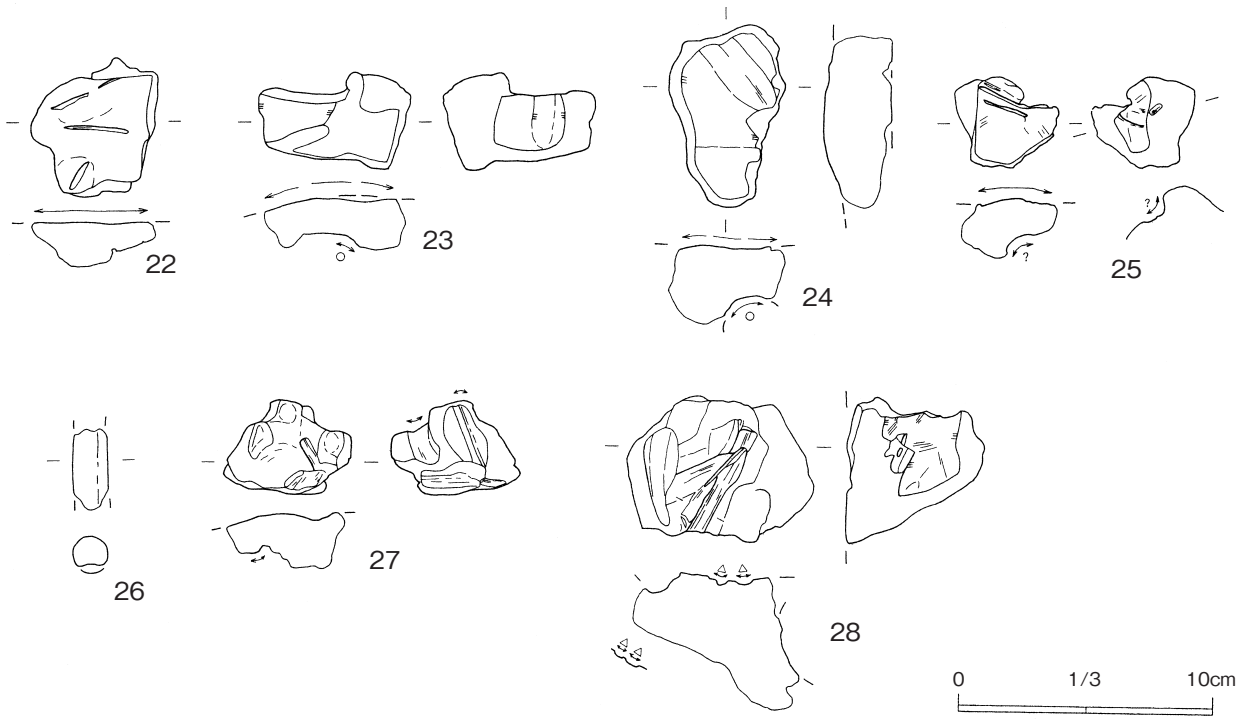
図化したものは主に平坦面を有するもので土壁片と認定した。７・26は円筒状で土壁に伴うものか。堅緻に焼き締まったものや焼成の甘いものがある。１～19はＢ１堀出土。20・21はＡ３ｂ堀出土で、20は堅緻である。22～24はトレンチ、25はＡ列（Ａ１～３堀)、26～28はＡ区一括出土。隣接して２面平坦面があるもの（４・10)、表裏に平坦面があるものヵ（13）がある。壁厚は表裏平坦のものから５cm前後と思われる。



土壁片　凡例



第41図　土壁片 1



第42図　土壁片 2

遺構	区	層位	重量(g)	遺構	区	層位	重量(g)
B 1 堀	イ	Ⅰ層	11.5		ニ	Ⅰ～Ⅲ層	230.8
		Ⅰ・Ⅱ層	191.1			東	5.1
		Ⅲ・Ⅳ層	109.7			一括	273.5
		Ⅳ層	58.4		小計		509.4
		東	53.4		ホ	2 層	111.6
		一括	151.8			一括	703.5
	17 T	一括	83.9		小計		815.1
	12 T	Ⅰ層	38.1		一括		58.2
		Ⅳ層	21.6		合計		2819.8
		一括	52.4	A 2 堀	8 T		23.6
		ベルト	15.4		ロ		15.1
	小計		787.3		一括		4.3
	ロ	Ⅰ・Ⅱ層	41		合計		43
		Ⅱ層	44.7	A 3 a 堀	一括		7.7
		Ⅲ層	75.8	A 3 b 堀		Ⅳ層	75.6
		Ⅲ・Ⅳ層	59.4			Ⅴ層	87.8
		Ⅳ層	94.6		一括		149.1
		Ⅴ層	5		合計		312.5
		一括	37.1	A 列障子堀	一括		16.1
	9 T	Ⅳ層	60.9	1 T	一括		21.4
		一括	16.5	7 T		Ⅰ層	24.5
	小計		435			Ⅳ層	8.2
	ハ	一括	175		一括		75.4
	13 T	一括	39.8	8 T	一括		4.1
	小計		214.8	10 T	一括		56.7
				20 T	一括		17
				南西	一括		27.3
				A 区	一括		514.2
総合計							3947.9

第22表　土壁片出土地点別重量集計表

（ ）は残存値、法量の単位はcm

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	器高	遺物ID	備考
1	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 イⅠ・Ⅱ層	(2.9)	(3.7)	(1.9)	素他04	右側面平坦/正面に竹稈痕/8.4g
2	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 イⅣ層	(5.9)	(3.8)	(2.8)	素他02	正面平坦/正面に植物茎痕、両側面に竹稈痕/29.2g
3	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 ７T No.２ イⅢ層	(5.5)	(4.2)	(3.0)	素他22	正面平坦ナデ痕/全面水洗時ブラシ痕/29.6g
4	土器・土壁片	在地	A区 B１堀17T イ	(4.5)	(4.4)	(2.7)	素他25	正面平坦やや凸凹あり、右側面平坦、上断面凹あり/正面に植物(ワラヵ)繊維痕/24.1g
5	土器・土壁片	在地	A区 B１堀17T イ	(2.7)	(5.0)	(3.5)	素他26	正面平坦/右側面に植物茎内面痕/22.3g
6	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 イ	(4.5)	(3.8)	(2.0)	素他03	正面平坦/正面に植物茎痕ヵ/水洗時ブラシ痕/19.2g
7	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 ロⅢ層	(2.8)	-	径1.1	素他07	円筒形/中空植物茎によるものか/2.2g
8	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 ロⅢ・Ⅳ層	(6.5)	(5.1)	(2.7)	素他05	正面平坦/正面に植物(ワラヵ)繊維痕・茎痕、裏面に竹稈痕/54.4g
9	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 ロⅣ層	(4.1)	(4.7)	(2.4)	素他06	正面平坦・ナデ痕/裏面に竹稈痕・植物(ワラヵ)茎痕/30.4g
10	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 ハ	(3.6)	(4.1)	(3.8)	素他09	正面・左側面平坦/全面水洗時ブラシ痕/34.9g
11	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 ニⅢ層	(5.2)	(5.3)	(3.2)	素他10	正面平坦/正面・右側面・下面に植物(ワラヵ)茎痕縦方向/57.4g
12	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 ニⅠ～Ⅲ層	(5.8)	(4.7)	(4.1)	素他12	正面平坦/正面に植物(ワラヵ)茎痕/39.4g
13	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 No.329 ニ縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉	(8.0)	(5.8)	(5.5)	素他01	正裏側面平坦/正面に植物繊維痕顕著/106.4g
14	土器・土壁片	在地	A区 B１堀 ニ	(3.1)	(2.7)	(1.9)	素他11	正面平坦・ナデ痕/裏面に竹稈痕/9.2g
15	土器・土壁片	在地	A区 B１堀ホ２層	(6.6)	(4.0)	(2.4)	素他13	正面平坦/正面に植物(ワラヵ)繊維痕、裏面に植物(ワラヵ)茎痕/30.9g
16	土器・土壁片	在地	A区 B１堀ホ	(3.2)	(3.0)	(1.7)	素他14	正面平坦・ナデ痕/裏面に植物茎内面痕/9.3g
17	土器・土壁片	在地	A区 B１堀ホ	(3.6)	(2.1)	(2.8)	素他15	正面 交差する方向の竹稈痕・植物茎内面痕/12.8g
18	土器・土壁片	在地	A区 B１堀ホ	(4,5)	(3.1)	(2.8)	素他16	正面平坦/20.9g
19	土器・土壁片	在地	A区 B１堀ホ	(4.8)	(3.2)	(4.4)	素他17	正面凸凹/右側面に植物(ワラヵ)茎痕/31.2g
20	土器・土壁片	在地	A区 A３b堀 No.49 Ⅳ層	(6.0)	(6.0)	(4.3)	素他18	正面平坦・ナデ痕/正面に植物(ワラヵ)茎痕/赤黒色粒子含有/63.2g
21	土器・土壁片	在地	A区 A３b堀 No.51 Ⅴ層	(7.4)	(6.6)	(3.9)	素他19	正面平坦・一枚剥落ヵ/正面に植物(ワラヵ)繊維痕/87.8g
22	土器・土壁片	在地	A区 ７T	(5.5)	(5.0)	(1.8)	素他21	正面平坦弱い凸凹/正面に細かい植物繊維痕/28g
23	土器・土壁片	在地	A区 ７T	(3.9)	(6.1)	(2.0)	素他23	正面やや凸凹ヵ/裏面に竹稈痕/25.1g
24	土器・土壁片	在地	A区 10T	(7.3)	(4.7)	(3.2)	素他24	正面平坦やや凸凹あり、ナデ痕/裏面に竹稈痕ヵ/正裏水洗時ブラシ痕/赤黒色粒子含有/56.7g
25	土器・土壁片	在地	A区 A列	(3.7)	(4.3)	(2.4)	素他20	正面平坦、裏面凹み/正・裏面に細かい植物茎痕/水洗時ブラシ痕/16.1g
26	土器・土壁片	在地	A区	(3.3)	-	径1.4	素他27	円筒形ヵ/3.9g
27	土器・土壁片	在地	A区	(3.8)	(5.1)	(2.8)	素他28	正面凸凹あり/正面に植物(ワラヵ)茎痕、裏面に植物(竹)内面痕・稈痕ヵ/22.2g
28	土器・土壁片	在地	注記なし(A区 B１堀ハヵ)	(5.8)	(7.5)	(6.0)	素他08	正面に植物(ワラヵ)茎痕、右側面にナデ痕・植物茎痕/90.9g

第23表　土壁片一覧表



A区A２・３堀　調査

第３節　木製品類

１）概要

本報告騎13次の調査では、生活用具・生業の道具・その他、製品名の確定はできないが未成品とは考えられないもの、加工がなされている材、橋に伴う杭など、多種の遺物が出土している。

なお、Ａ区Ｂ１号堀は南北方向に延びているため、遺物をイからホ地点に分けて取り上げた。また、各地点の層序の対照関係がまだ決定していないため地点ごとに取り扱った。トレンチ取り上げの遺物のうち可能なものは各地点に割り振った。

図版のNoが太字で斜字のものは、漆器の分析を行っている。分析は、漆器文化財科学研究所　四柳嘉章氏に依頼した。なお、分析結果については、後日改めて報告をする予定である。

○生活に関するもの

「衣」では下駄が出土している。

１～７は全て**Ａ区Ｂ１号堀**出土の下駄類である。

１はロ地点Ⅴ層出土の連歯下駄。平面形はやや隅丸で、緒穴は円形。台表を丁寧に整形し、台表に線刻を施している。「二」ヵ。前歯は大きく欠損しているが、後歯は一部欠損のみで歯の形がよく残る。また、台面のかすかな窪みは使用痕か。樹種はクリ。芯持ち材を使用している。

２はハ地点Ⅴ層出土の連歯下駄。歯は前後とも欠損し、特に前の歯が大きく欠損している。平面形はやや隅丸で緒穴は円形。台表に「×」を施している。刻印ヵ。前緒穴周辺を中心に茶褐色の付着物があるが、未分析のため詳細は不明。樹種はカエデ。１と同様芯持ち材を使用している。

３はニ地点10層出土の連歯下駄。平面形は方形に近いが隅はやや丸い。前後ともに歯はほとんど残らず、台裏は大きく欠損。緒穴は方形。

４はホ地点縦セクション５層出土の連歯下駄。台表の平面形はやや隅丸で緒穴は円形。右側を大きく欠損しているが歯はよく残る。歯には面取りを施している。１．２と同様芯持ち材を使用している。

５・６もホ地点縦セクション５層出土の連歯下駄。発掘調査時は一括で取り上げられたが、接合個所が確認できず、別個体として掲載した。同一個体の可能性が高い。遺物の遺存状態は非常に悪く詳細は不明であるが、歯には芯持ち材を使用している。

５は歯の破片。小破片のため詳細は不明。

６は右緒穴から後歯周辺の破片。緒穴は円形。平面形は不明。

７はホ地点縦セクション５層出土の差歯下駄の歯。大きく欠損し半分程度残存か。肉眼観察により多孔質であることを確認。他調査で出土のケンポナシの差歯に非常に類似していることから樹種はケンポナシと推測する。騎西城跡出土の差歯下駄の歯はいずれもケンポナシである。

「貯蔵」では桶類が出土。

８～12は**Ａ区Ｂ１号堀**出土、**13**は**Ａ区Ａ３ａ号堀**出土。

８・９はロ地点Ⅴ層出土の側板。

８は下部が大きく欠損。内外面ともに面を整えている。なお、欠損部から劣化が進行している。

９は全体に大きく欠損し劣化が進行している。

10～12はニ地点10層出土。

10は側板。上部を大きく欠損し劣化が進行中。２箇所の孔があるが製作・使用時のものかは不明。

11は小型の桶または曲物類の底板。柾目取りで小型なため柄杓の底板か。

12も全体に乾燥し縮んでいるため詳細は不明であるが底板の可能性が高い。側面には木釘孔は確認できなかった。遺物の遺存状態が非常に悪い。

13は側板。Ａ３ａ号堀出土。下部は欠損しているが状態は良好でタガの痕も観察できる。

側板は全て板目取り。

「食膳」では14～31までの漆器類・白木皿類と33～38の折敷がある。

14はＡ区７トレンチⅣ層出土の漆皿であるが、Ａ区Ｂ１号堀イ地点に相当するためここでは**Ｂ１号堀**出土として扱った。漆塗膜分析の結果、総赤色（皆朱）の漆皿であることが判明した。口縁部は玉縁で

布着せは未確認であるが漆下地には地の粉下地を用い、上塗りの赤色漆層を含め３層の漆層からなる上質品である。木取りも柾目取りである。高台裏は黒色系漆。朱で「一井」を描く。騎西城跡・騎西城武家屋敷跡出土の漆器類の中で漆下地を使用した皆朱の器は現在この１点のみである。

15～27はＡ区Ｂ１号堀出土である。

15はロ地点Ⅴ層出土の漆椀の胴部破片である。漆塗膜分析により、内面赤色外面黒色系漆椀と判明。下地は炭粉渋下地ではあるが、下地の上に精製漆を塗り、その上に朱を用いるなど見た目には高級品に見える。胴部外面に赤で「双鳥」を描く。

16～18はＡ区Ｂ１号堀ハ地点Ⅴ層出土である。

16は漆塗膜分析により総黒色系漆椀と判明。見込・胴部外面に「三つ巴」を、高台裏に「四つ菱」を朱で描く。口径は比較的大きいが高台は低い。樹種はハンノキ属ヤシャブシ亜科。

17は漆椀破片で、内面赤色外面黒色塗り。高台を作り出す屈曲と思われる部分が残っているため底部付近の可能性が高い。外面には赤色施文の痕跡が残り施文があったと推測。内外面ともに遺存状態が非常に悪い。

18は浅いため皿として扱った。口縁部が一部大きく欠損している。内外面黒色塗り。見込には赤で「丸に鶴」、外面１か所に「鳥ヵ」を、高台裏に「一」を施す。樹種はハンノキ。全体に漆膜が薄い。

19～21はＢ１号堀ニ地点10層出土。

19は漆塗膜分析では内面赤色外面黒色系漆椀とされる。炭粉渋下地に朱漆を上塗りしている。遺存状態が悪く破片化しているが、胴部外面・高台裏に朱で施文。外面の文様は不明だが高台裏は「四つ菱ヵ」。ヨコ木取りで高台は低い。

20も漆塗膜分析では総黒色系漆椀とされる。炭粉渋下地に朱漆で上塗り。見込・外面・高台裏に朱で施文。見込は「楓または笹」、胴部外面は「笹」を２箇所、高台裏には「四つ菱」を施文。ヨコ木取り。樹種はトチノキ。高台は低く、やや浅めの椀。漆の剥落が進み状態は不良。なお四柳氏から、漆器分析時の観察により「修理した可能性が高い」ことを報告される。破損しても修理して使用か。

21は胴部破片。内外面黒色塗りで内外面に赤色で施文。胴部外面には「双鳥」を施文か。一部のみ遺存のため文様構成は不明。漆の剥落が進行し遺存状態悪し。

22～27はホ地点縦セクション５層出土。

22・23は白木皿。

22は大きく欠損しているが、ロクロ挽痕や側面の面取りも明確に観察できる。樹種はサワグルミ。

23もロクロ挽痕、面取り等の加工痕が良く残る。樹種はエノキ属。

この２点の白木皿は、加工途中か完成品として使用されたかは不明。

24は口縁から胴部にかけての破片。内外面黒色塗りで、漆膜は非常に薄い。器厚が厚いため大型椀であった可能性が高い。胴部外面の赤色の施文は「扇面ヵ」。

25は内面赤色外面黒色塗りのやや深めの椀。１/２ほど残存。胴部外面１箇所と高台裏に赤で施文。胴部は「円弧ヵ」。または「丸に鶴」の可能性もある。高台裏は「四つ菱」。樹種はハンノキ属。

26は内外面黒色塗りのやや深い椀。口縁から胴部にかけて大きく欠損。漆は内外面ともに剥落が進行しているが、見込と胴部外面２個所に赤で施文。外面の意匠は「丸に鶴ヵ」。見込部分の施文の意匠は不明であるが､外面が「丸に鶴」であれば見込も「鶴」の可能性がある。高台の掘り込みは浅く、施文の痕跡は確認できなかった。高台はやや高い。

27も内外面黒色塗り。浅い椀の破片か。口縁部と高台部の一部が残る。見込には赤色の施文の痕跡があり、胴部外面には赤色で「鳥ヵ」。漆塗膜は肉眼観察であるが他の漆器類より硬質に感じられる。

28は**Ａ区10号トレンチ**出土の炭化椀の小破片か。椀であるならば腰の張るタイプであると思われる。全面炭化し小破片のため詳細は不明。

29～32はＢ区１号堀出土。

29と30は発掘調査時には一括で取り上げられ、同一Noを付けられているが、接合個所が確認できず別々に掲載した。同一個体の可能性は高い。

29は内外面黒色塗りの胴部破片。漆塗膜はやや硬

質で腰が張る器形の可能性あり。

30も内外面黒色塗りの高台部。やはり漆塗膜は薄くやや硬質。

31は内外面黒色塗りの椀で口縁と高台を欠損。含水率高く崩壊寸前で、漆の剥落も進行。胴部外面には赤色の施文の痕跡があるが詳細は不明。

32は杓子に類似するが器種名を確定できなかった。片面全面は黒褐色付着物が認められ、赤色や黒色で施文があると思われるが詳細は不明。黒褐色の部分は柿渋か。また、彩色がされている面を表として扱うと右側面には木釘孔があり、他の板とつながっていたか、再利用されたものと考えられる。裏面には彩色は確認されず傷みも激しい。両面には線状痕が多数あり転用時についたものか。樹種はスギ。下部中央に窪みがあり柄のようなものを取り付けた可能性もある。

33～38はＡ区Ｂ１号堀出土の折敷の破片である。

33～35はロ地点出土。

33・34はⅤ層出土。33は底板と縁の一部が残る。乾燥が進み一部縮み歪んでいる。一部炭化。樹種はヒノキ。

34は縁の一部か。破片化し劣化が進行中。１箇所孔を確認。

35は底板の一部か。非常に薄く柾目取り。両面ともに丁寧に整えている。

36・37は二地点Ⅴ層出土。

36は底板の一部か。小破片のため詳細は不明であるが、非常に薄い柾目板で面を丁寧に整えている。

37も底板の一部か。非常に薄い柾目板で丁寧に面を整えている。片側短片の一部に浅い線が入る。縁との接点か。

38はホ地点縦セクション５層出土。底板の一部か。遺存状態が非常に悪く、実測後に崩壊した。そのため遺物写真（図版27）は取り上げ後の遺物のカード作成時に撮影したものを使用した。非常に薄い柾目取りの板で一部炭化。

○いくさに関するもの

39～41は武具ヵ。42・43は馬鎧である。小破片も含めて５点ある。

Ａ区Ｂ１号堀とＡ区Ａ３ｂ号堀から出土している。

39はイ地点Ⅳ層、40・41はロ地点Ⅳ層からの出土でいずれも小破片である。片面に金箔を施している。

42・43はＡ区Ａ３ｂ号堀出土。

42は全体の１／４ほど残る。明確な孔は確認できない。43は１／２程度残存。孔は確認できた。

２点とも片面に金箔を施している。

○その他の製品

44～46は製品であるが名称・用途が不明のもの。

すべてＡ区Ｂ１号堀出土。

44はロ地点Ⅴ層出土。細い板状のもので側面に木釘孔があり、転用しているものか。白色の付着物があり科学分析を行ったが、炭酸塩が検出されたのみで何であるかは判明しなかった。

45もロ地点Ⅴ層出土。一方の端部から反対端部に向けてやや広がる杓子状の板である。一部欠損し反対側の端部は炭化している。両面とも丁寧に加工し面を整えている。用途は不明。

46はニ地点10層出土である。角柱材に２箇所の方形枘穴を持つ。面には丁寧な加工を施す。何かの部材であろう。

○加工材（47～66）

47～66は加工材、あるいは加工痕が確認できたものである。47～64は全てＡ区Ｂ１号堀出土で65・66はＢ区１号堀出土。

47～51はロ地点Ⅴ層出土。52・53はロ地点出土であるが層位は不明。

47は樹皮が一部残る自在鉤のような形をした丸木。一部加工痕があり、片側端部は炭化している。なお、かわらけが伴って出土。

48は竹を片側端部斜めに切断。用途は不明。

49は薄い板目取りの板。木っ端の可能性も高いが、両面を丁寧に加工しているため加工材として扱った。

50は小角材。芯持ち材。４面のなかで２面のみ丁寧に面を整え加工。

51は角材片。大きく切断しただけでなく、一部には面を整えている。

52は小丸棒材を加工したものであるが、含水率高く崩壊寸前。遺物取り上げ直後の写真では細かな加工が確認できる。先端を特に加工。

53は片側端部を斜めに切断した板材片。反対側端部は欠損。乾燥が進み全体に歪む。節の周辺を特に丁寧に整形。斜めに切断した面も加工。

54～57はハ地点出土で、57を除きⅤ層出土。

54は半截材に大きな抉りを作り片面を丁寧に整形、加工。欠損しているため詳細は不明であるが未成品や失敗品の可能性もある。

55は芯持ちの小角材を半截して加工。先端を面取りで尖らせ、各面も整形している。

56は板材小片を加工。片側を大きく抉る。両面の平らな面を丁寧に整形。

57は丸材を加工。端部を荒く割り、工具で削った加工痕が良く残る。用途は不明。片側が欠損。加工途中のものか。

58～64はニ地点出土。58はⅤ層出土。59～62は10層出土で63・64の出土層位は不明。

58は角材を加工したもので、１面に脚のような凸を２個所作り出す。各面丁寧に面を加工し整えている。何かの部材か。

59は板材の小片を加工。丁寧に加工しているが小破片のため詳細は不明。

60は板材。柾目に近い薄い板状のものだが破片化が進み詳細は不明。両面は丁寧に整えている。

61は細めの丸棒材を加工か。両端を斜めに加工し、全体に面も整えているが、枝の部分がわずかに残る。

62は58に類似。芯持ち材の角材を加工したもの。片側端部を面取りで尖らせ、各面も丁寧に整形加工している。実測時には含水率が高く劣化が進行。

63は角材小片を加工したものか。含水率が高く崩壊寸前であるが、遺物取り上げ直後の写真では加工痕は明確であった。

64は小丸材を加工したもの。全面を細かく整形して面を整えている。両端は切断か欠損かは不明。

65・66はＢ区１号堀出土。

65は小角材片。両端を切断。１面のみ面取りなど丁寧な加工を施すが他は割ったままの状態である。

66は角材を薄くスライスしたような形であるが、細長い２面を整形している。

○その他

67～71は杭である。杭として打ち込まれていたものを調査時に取り上げ、状態の良いものを図化した。

いずれも上部は欠損している。

全てＡ区出土である。67～70は杭群Ⅱのもので、71は杭群Ⅲのものである。

67は上部欠損の細い杭で節も多く残っている。先端は簡単に尖らせている。

68は比較的大型であるが乾燥が進み遺存状態が悪い。上部は腐食が進んでいる。出土時も上部は残っていなかった。丸材の１面のみ平らに加工している。平面を意識しているものか。先端は丁寧に加工を施している。

69も大型である。68と同様１面のみを平らにしてはいるが、あまり明確ではない。先端は丁寧に加工している。腐食が進行し上部は大きく欠損している。

70は68・69に比べやや細めではあるが、やはり１面のみ平らに整形している。遺在状態が悪く上部は大きく欠損。

71は細めの丸木を利用している。枝を払い先端は半截しただけの簡単な杭であるが、発掘調査時の写真から実際に杭として使用していたことが確認されている。

以上が図化できたものである。

この騎13次では、この他に遺物の遺存状態が悪く、図化できなかったものも多数存在している。その中で観察できたものを一覧表の後半に掲載した。以下はその補足である。その中で現在は崩壊してしまった漆器類を中心に、取り上げ直後に遺物の管理のため撮影した写真を掲載した。

「生活に関するもの」では下駄が１点、漆器類は５点で、１点は小杯ヵ、他４点は椀または皿である。他に折敷、杓子カがある。その内容は以下のとおりである。

下駄はＡ区Ｂ１号堀出土。破片化し乾燥による縮

もみられるが連歯下駄の可能性が高い。

漆小杯ヵ（口絵18　写４）はＡ区Ｂ１号堀ハ地点Ⅰ層出土で内外面黒色塗り。漆塗膜のみ残り土と一体化し、その後崩壊した。

漆椀類は、Ａ区Ｂ１号堀から２点、Ａ区Ａ２号堀、Ａ区Ａ３ｂ号堀から各１点ずつ出土。

Ａ区Ｂ１号堀からは、１点は土の中に内面だけがかろうじて残存。観察するために一時的にPEG溶液を含侵したがその後崩壊。黒色の内面に赤色で「帆掛け船」（口絵18　写２）を見込に描いている。もう１点（口絵18　写３）は内外面黒色塗りの小破片。浅い椀か皿の可能性が高い。外面にわずかに赤色の痕跡があり、施文の可能性が高い。木胎部は崩壊し漆塗膜のみ残存。

Ａ２号堀からは土に黒色塗膜が混じって残る状態で出土。状態は非常に悪く、土と漆塗膜の分離はできなかったため詳細は不明。

Ａ区Ａ３ｂ号堀からは外面赤色、高台裏のみ黒色の椀（口絵18　写１）が出土。木胎は残存せず漆塗膜のみであるが、形をとどめており、浅い椀か皿と推測できる。高台裏には赤色の施文の痕跡がある。文字か。前述した隣接するＡ区Ｂ１号堀イ点地点（７Ｔ）出土の皿（図No14）と類似している。

他には折敷の底板ヵがＡ区Ｂ１号堀ニ地点出土。非常に薄い。取り上げ直後の写真では小さな孔が４箇所確認されている。小破片で含水率が高く実測時には崩壊していた。

杓子状製品（口絵19）は前述の折敷底板ヵと同様Ａ区Ｂ１号堀ニ地点で出土している。取り上げ時にはすでに劣化が進行し土との分離はできなかった。観察するため一時的にPEG溶液を含侵したが崩壊した。一部には茶褐色に変色している部分があるが、付着物か汚れかは不明。

以上が生活に関係するものである。このほかに加工の痕跡があるものもある。

Ａ区Ｂ１号堀ロ地点からは、丸木材であるが一部平坦面を作り出しており片側先端を尖らせているものがあり、柵杭等の未成品か。調査区外に続いていたため切断して取り上げた。遺存状態が非常に悪く、実測前に崩壊した。なお出土時には皇宋通宝が張り付いていた。

他に竹を切断したものが４点あり、うち３点はロ地点、残り１点はハ地点で出土している。ロ地点のものは両端を垂直に切断したもので、ハ地点のものは割れた破片である。いずれも含水率が高く実測前に崩壊した。

更にＡ区の中の杭列には取り上げはできたが状態が悪く実測ができない杭が２点存在する。１点は杭列Ⅱ群-No10、もう１点は同じⅡ群-No33である。No10の上部は腐食していたが、４面を均等に加工し先端も丁寧に尖らせていた。No33は土に埋まった部分のみ残存。腐食が進み含水率も高かった。

以上が木製品である。

さらにＡ区Ａ３ｂ号堀７Ｔからは小破片であるが漆塗膜ヵと思われるものや炭化材片がある。また、植物遺体でＡ区Ｂ１号堀ロ地点からひょうたんの破片があり、容器として利用されていた可能性もある。

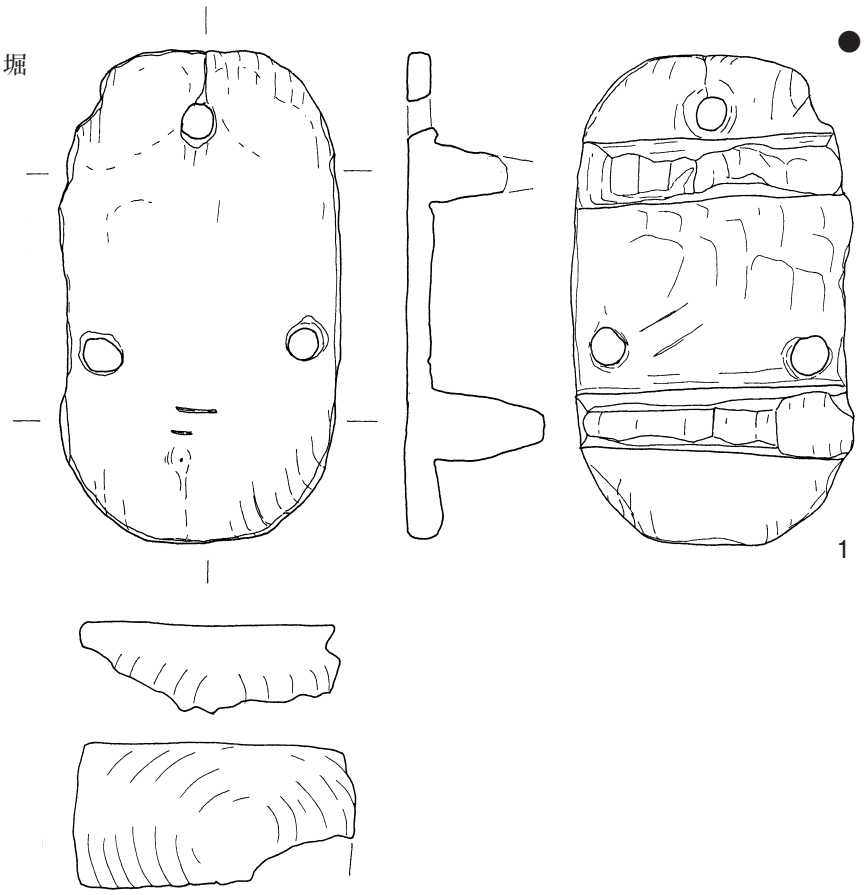
今回報告の騎13次調査では、前回掲載（17集）のKB19区ほどではないがやはり多くの木製品類が出土している。

下駄は刻印が施されたものも出土し、形態は類似しているものが多かった。桶類等が少ないのは調査地点の違いを考える必要がある。漆器類では、KB19区のような大型椀はほとんど見られず、中型椀や浅い椀または皿類が主流を占めている。椀を使用する者の都合か時期差かは現時点では判明していない。その中で漆下地を使用した皆朱の皿（図No14）は上級食器であり、城郭内での出土は騎西城の位置づけの鍵の一つであろう。

その一方でKB19区と同様の丁寧な加工痕が明確でありながら破片の状態で多くの材が出土していることを考える必要がある。製品が加工途上で破棄された可能性が高いが、城郭部の堀からの出土の意味を今後考えるべきと思っている。

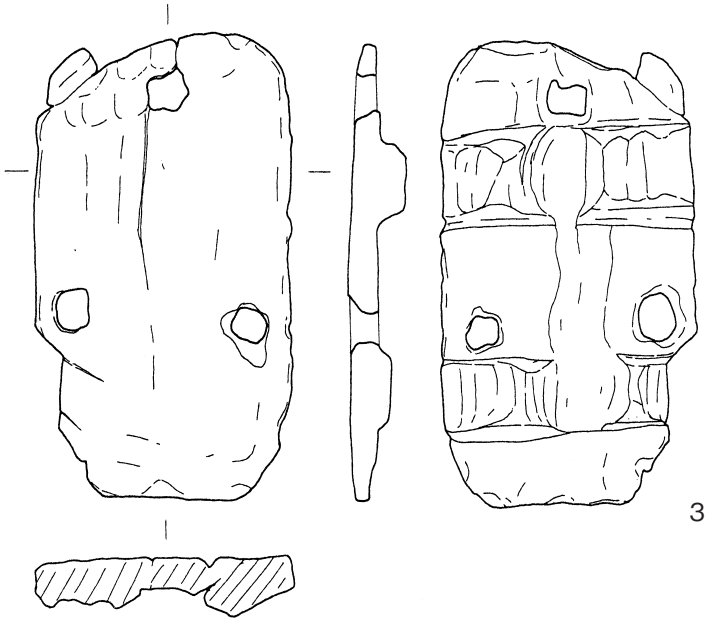
●樹種分析
▲漆塗膜分析

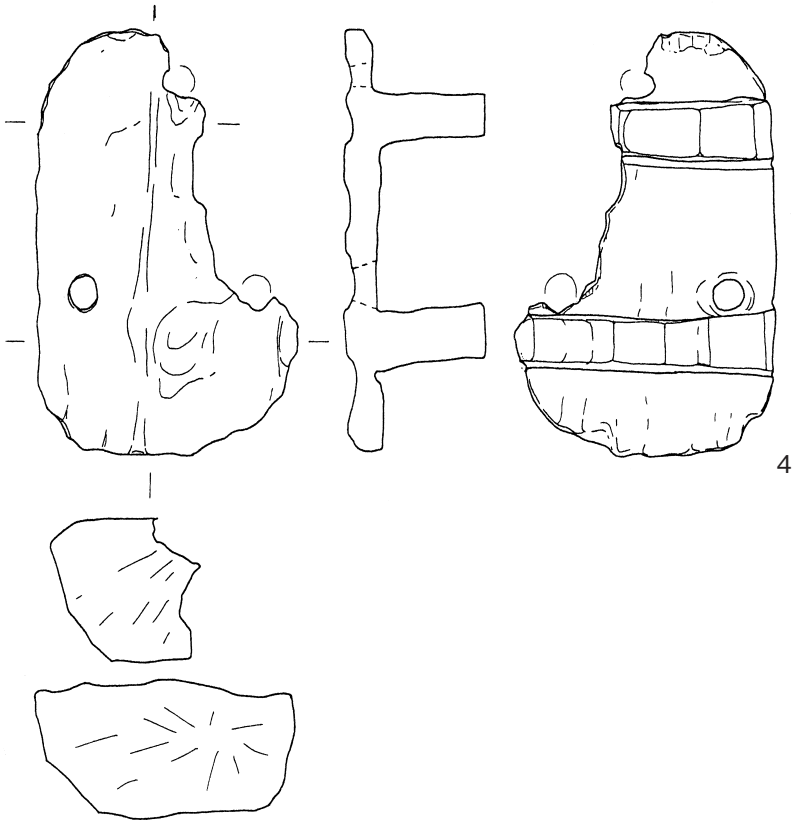
A区 B1 堀

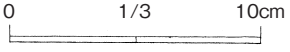


第43図　木製品類１（下駄１）

A区 B1 堀

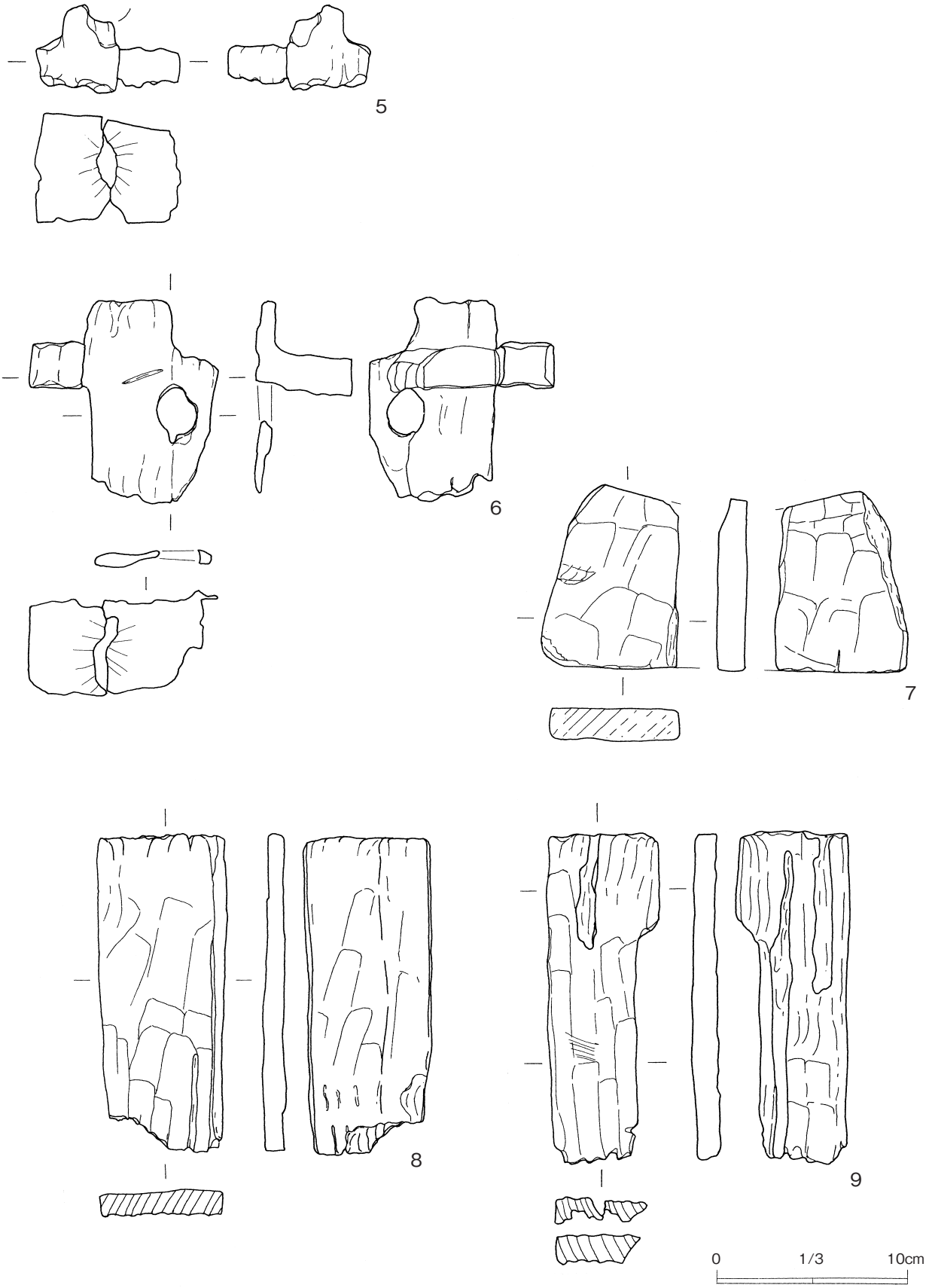






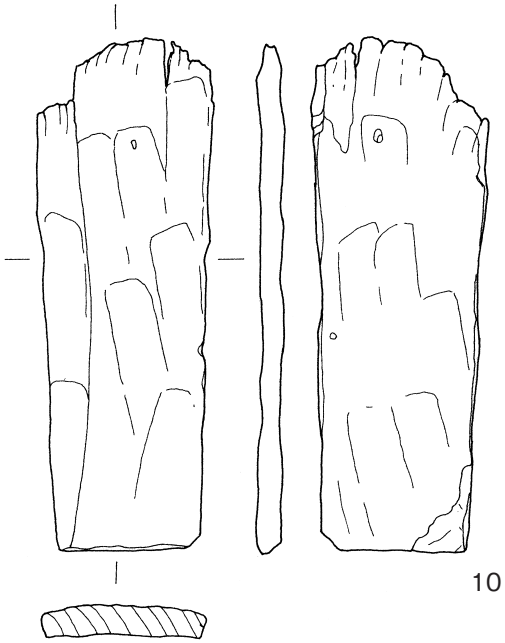
第44図　木製品類２（下駄２）

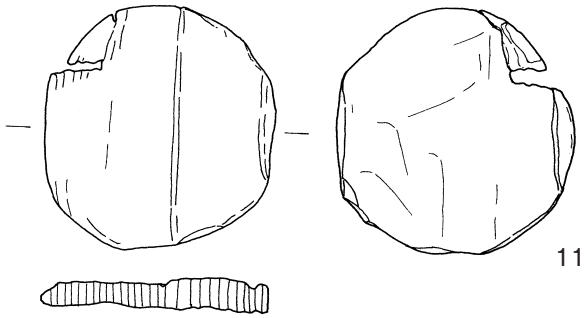
A区 B1 堀

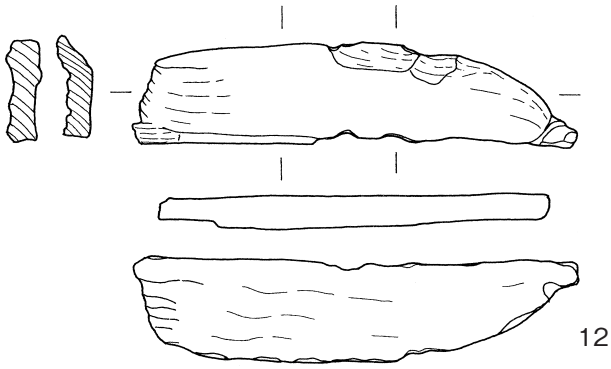


第45図　木製品類３（下駄３・桶）

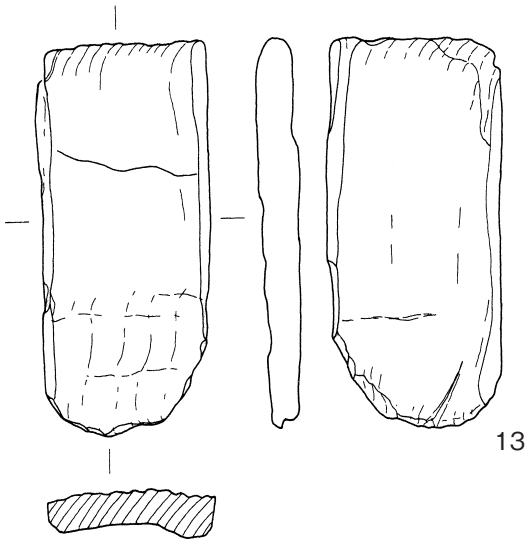
A区 B1 堀

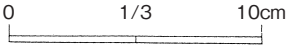






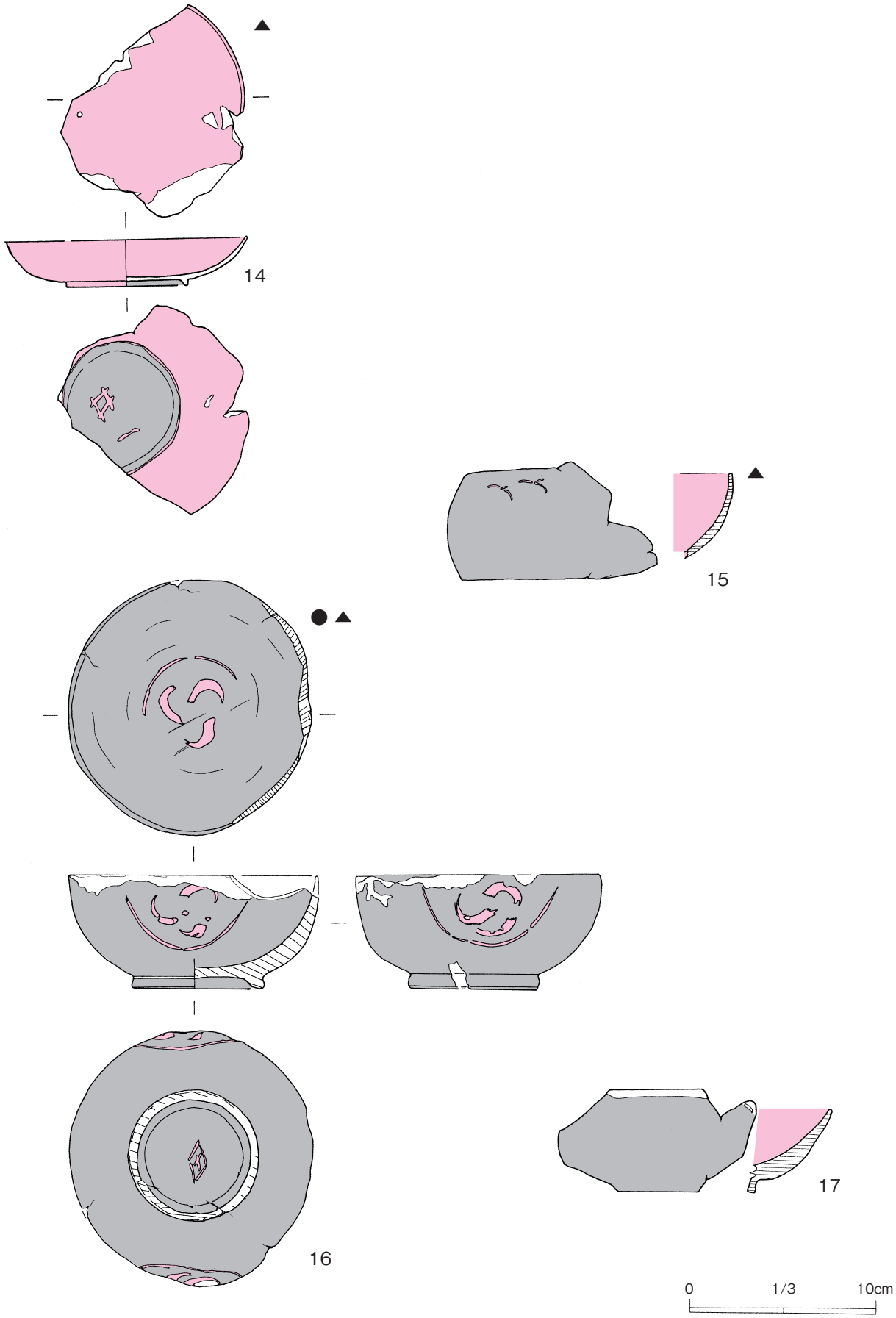
A区 A3a 堀





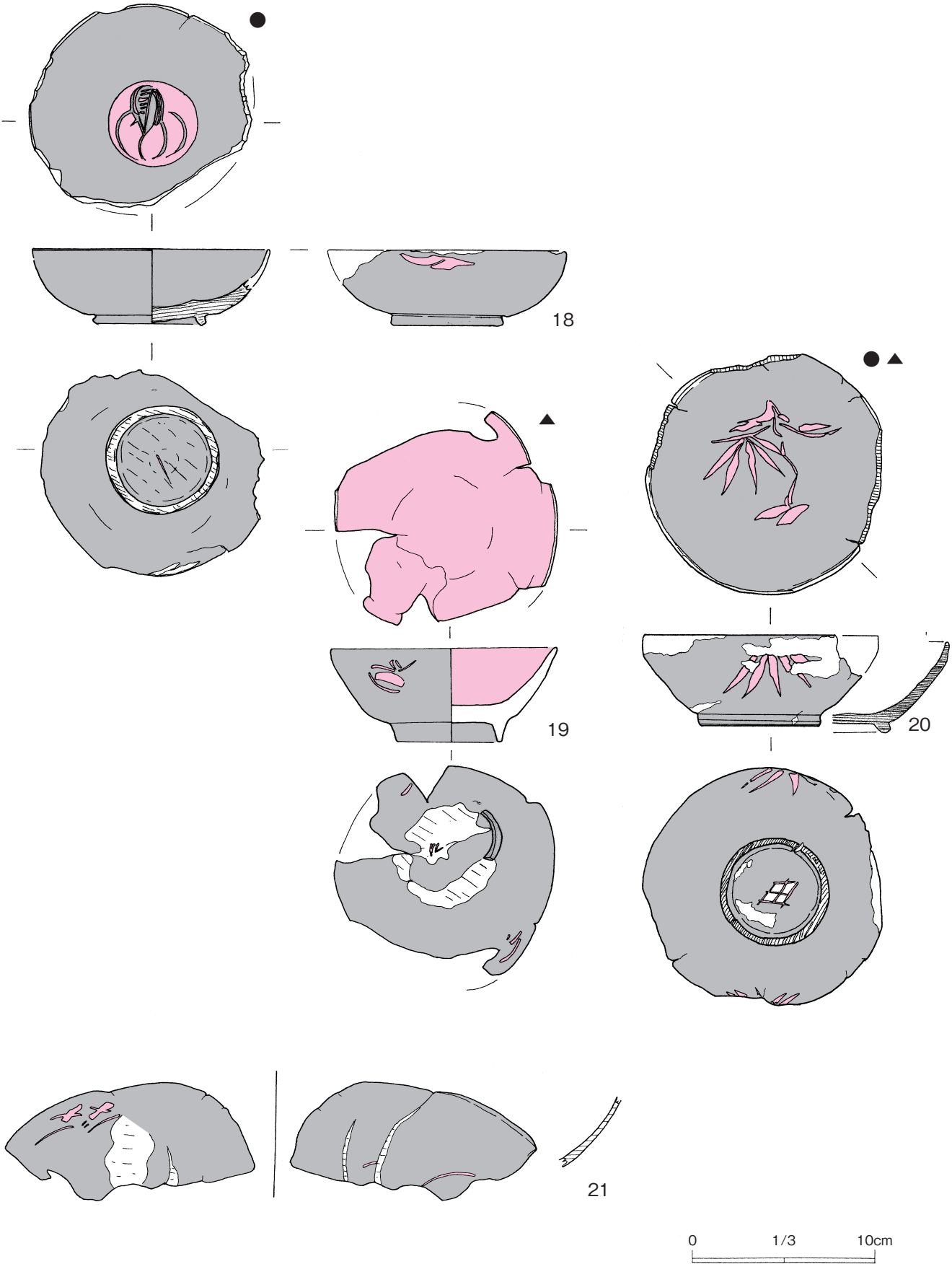
第46図　木製品類 4 （桶類）

A区 B1 堀



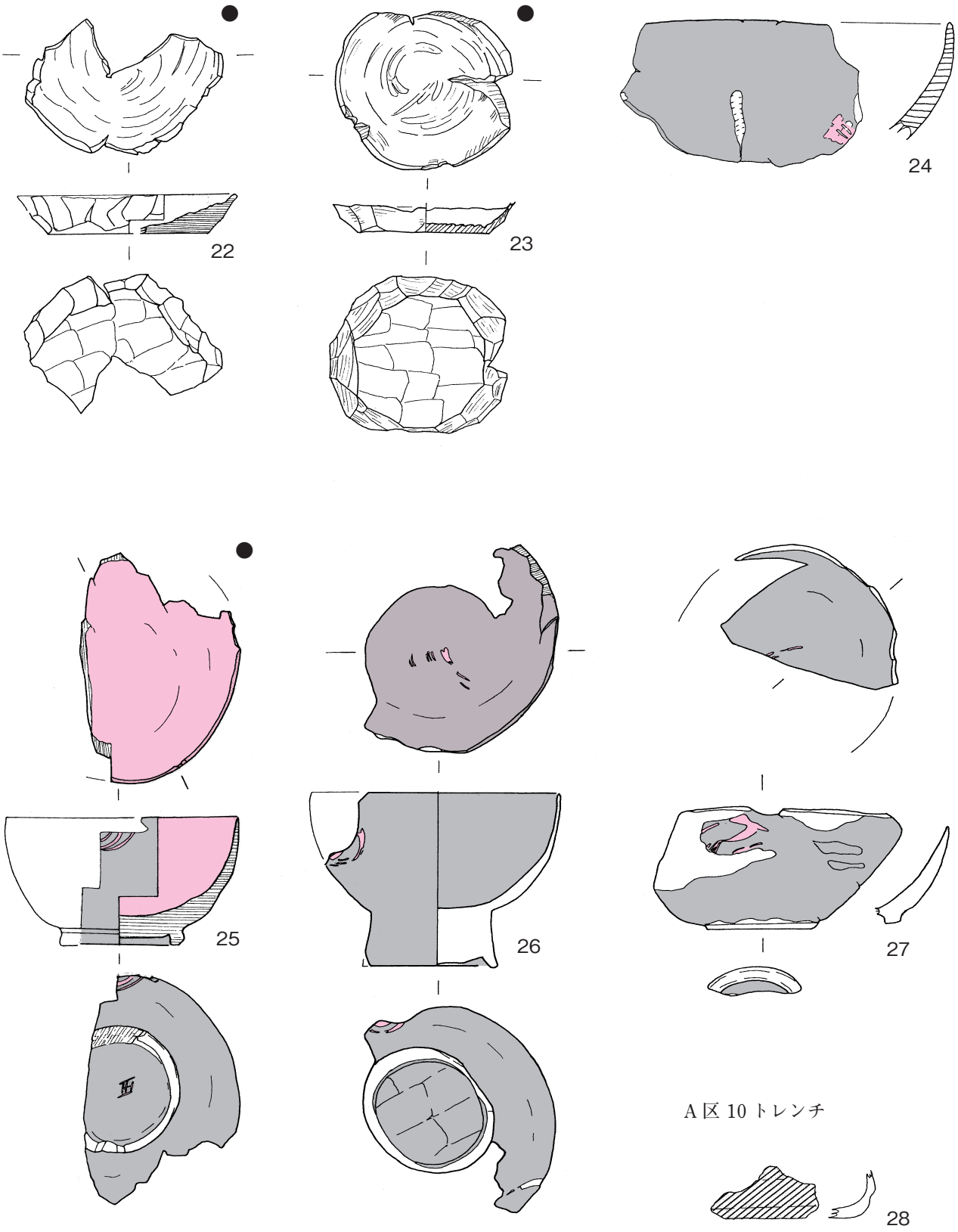
第47図　木製品類５（漆椀１）

A区 B1 堀



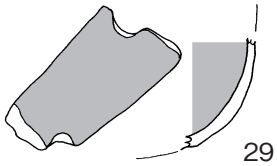
第48図　木製品類 6 （漆椀 2 ）

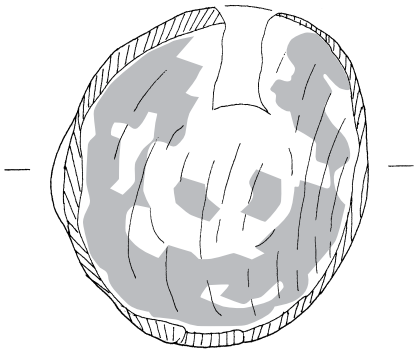
A区 B1 堀

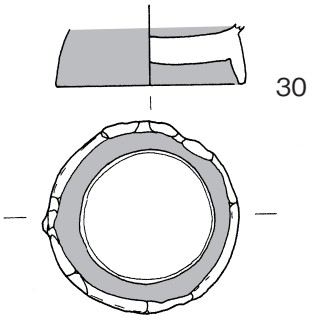


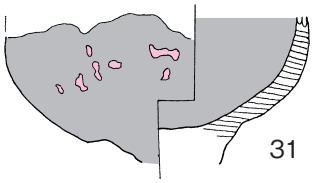
第49図　木製品類7（漆椀3・他）

B区1堀



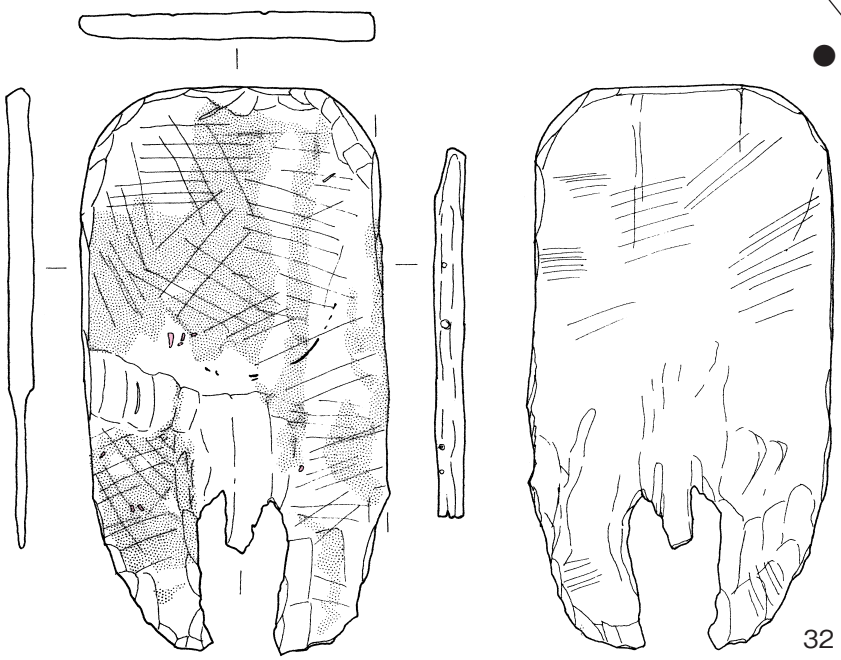








A区B1堀

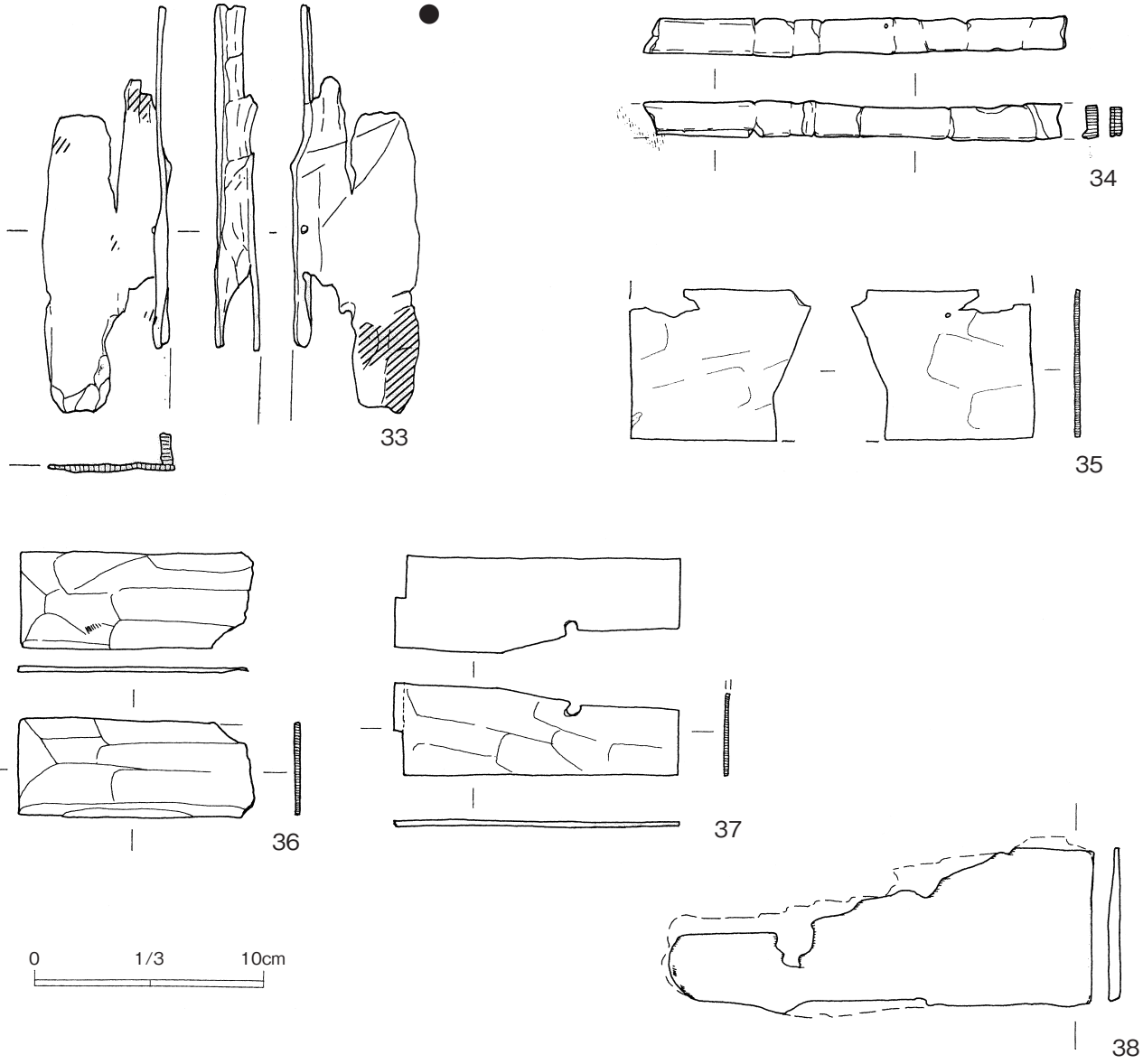


黒褐色付着物

0 1/3 10cm

第50図　木製品類8（漆椀4・他）

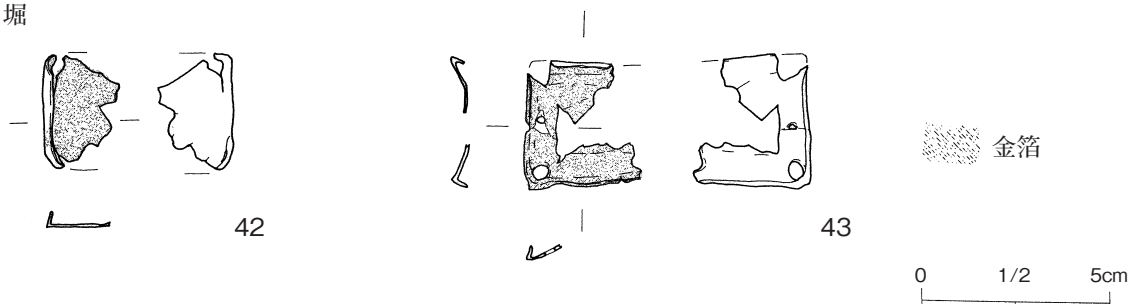
A区 B1堀



A区 B1堀

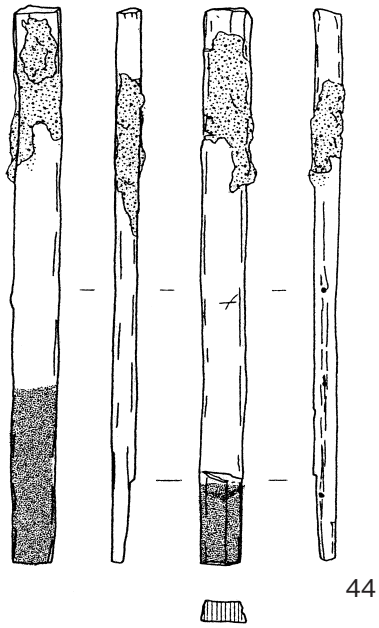


A区 A3b堀



第51図　木製品類9（折敷・武具ヵ・馬鎧）

A区 B1 堀





白色付着物

茶色付着物

0 1/3 10cm

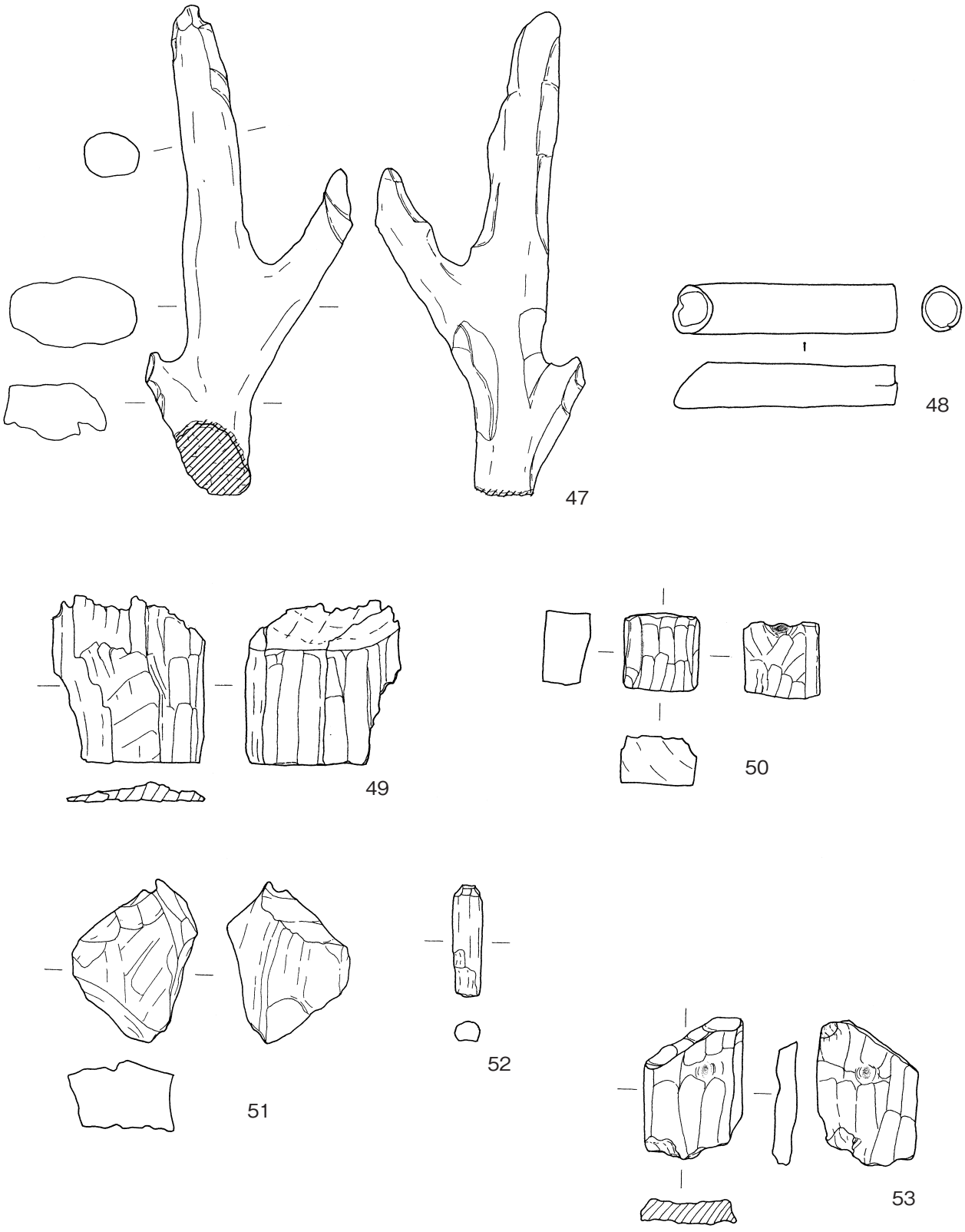
A区 B1 堀



0 1/4 10cm

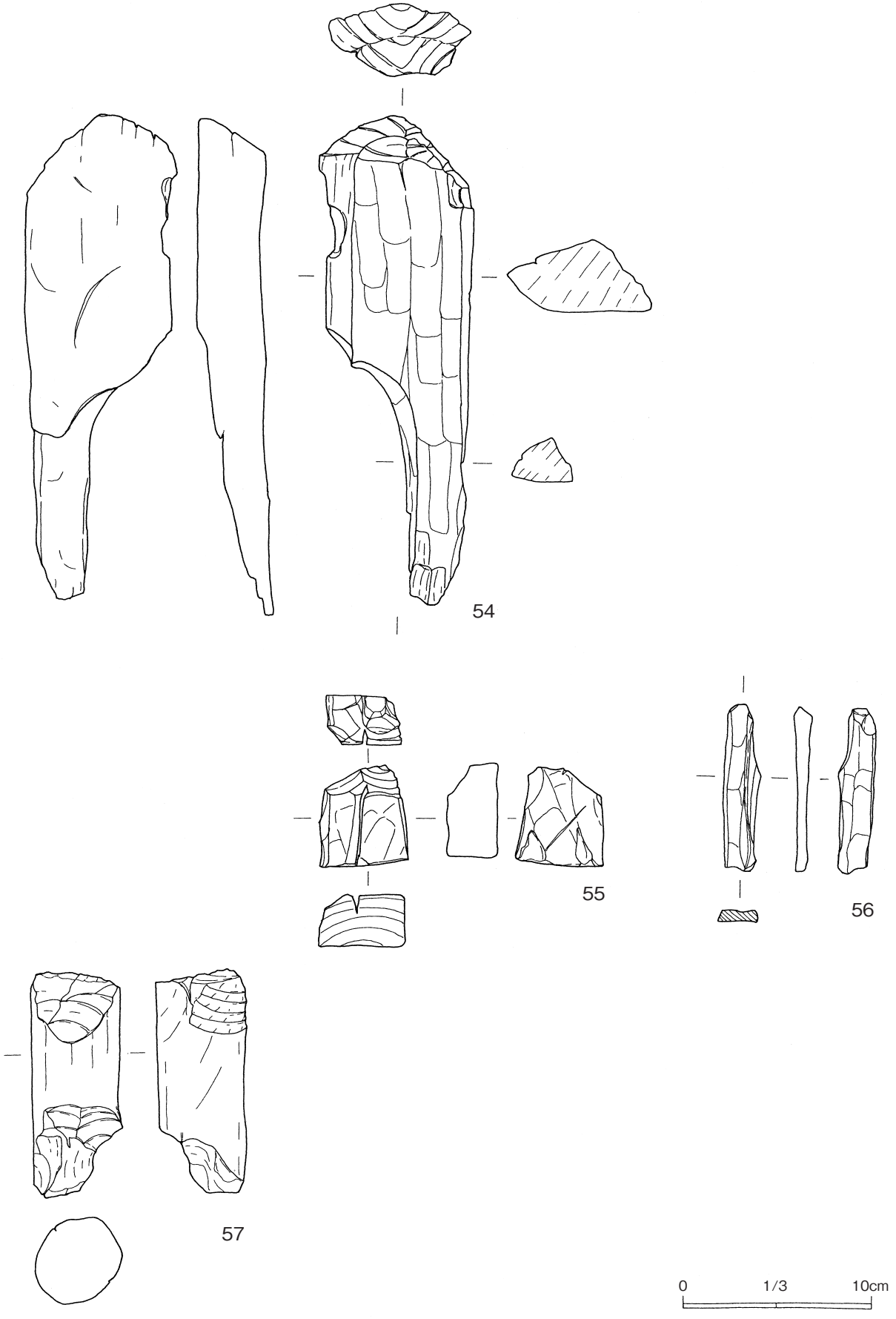
第52図　木製品類10（名称不明製品）

A区 B1 堀



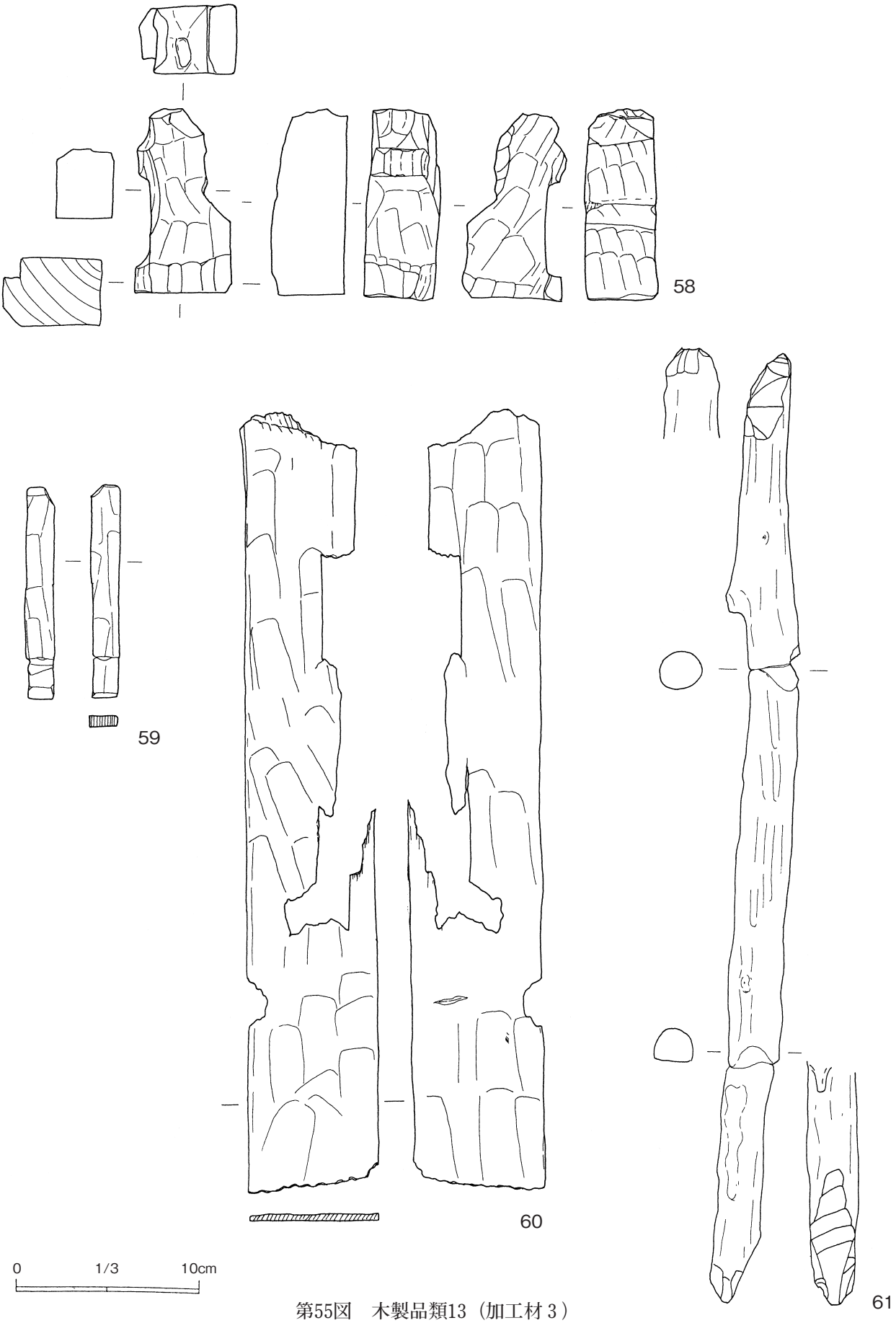
第53図　木製品類11（加工材１）

A区 B1 堀



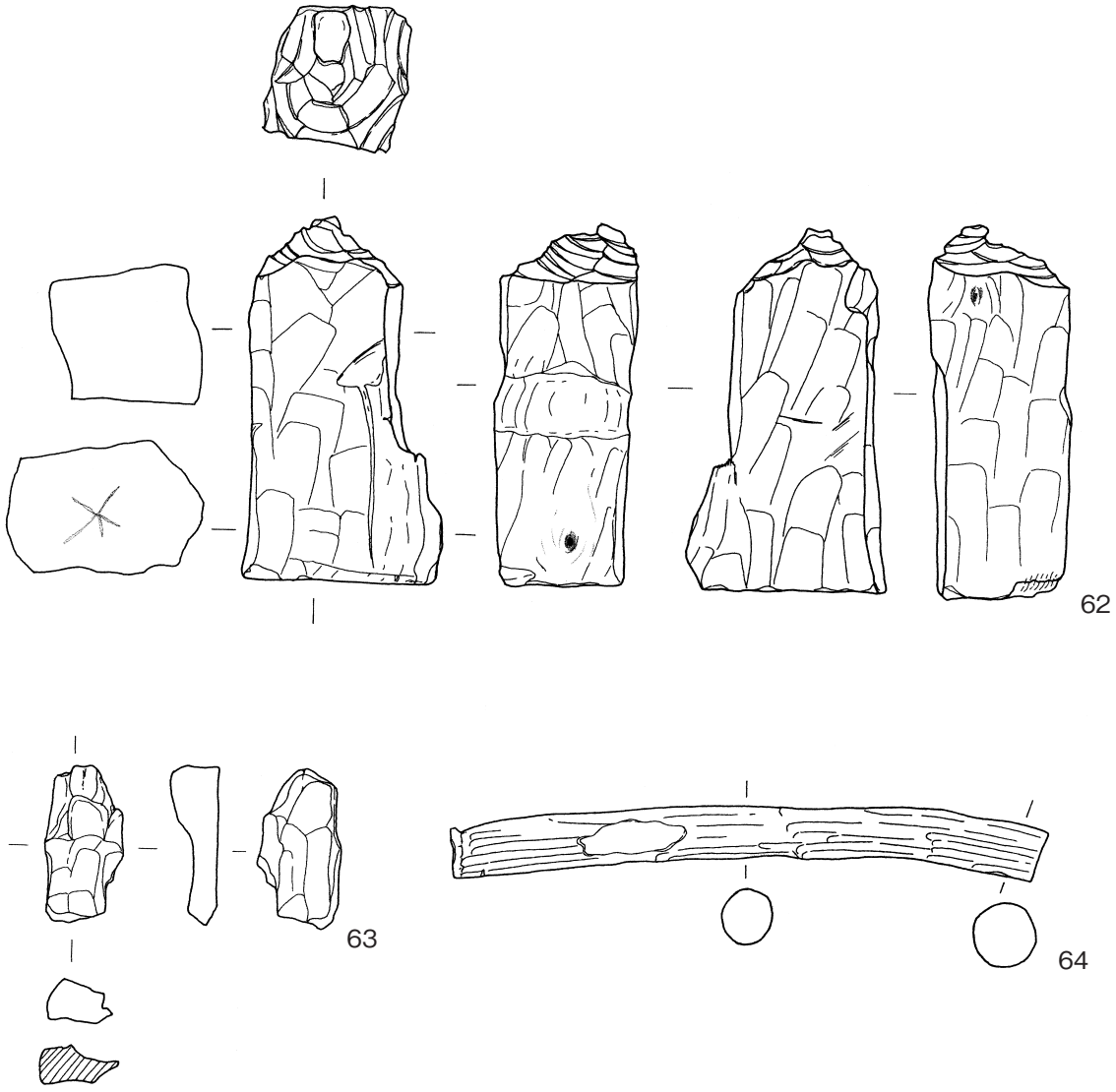
第54図　木製品類12（加工材２）

A区 B1 堀

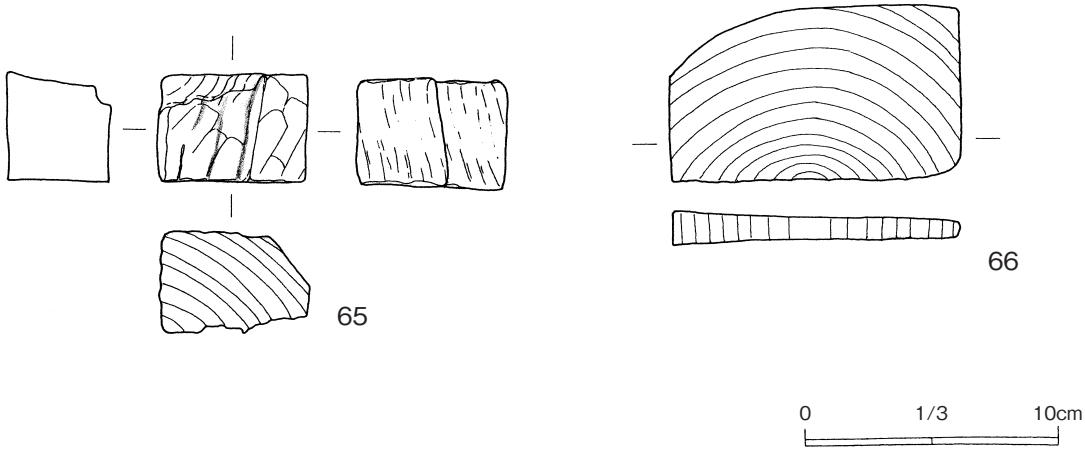


第55図　木製品類13（加工材３）

A区 B1 堀

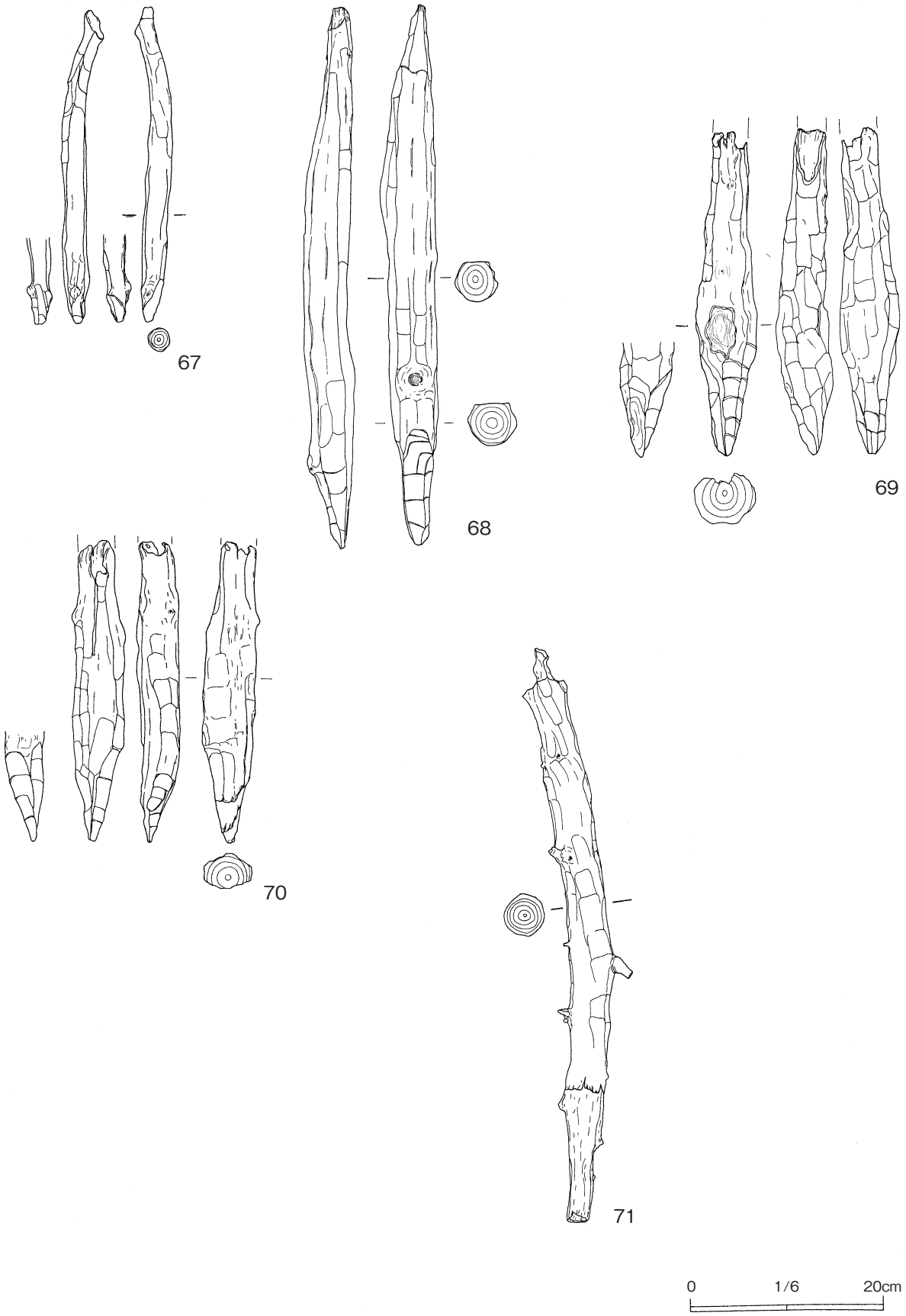


B区 1 堀



第56図　木製品類14（加工材 4 ）

A区　杭群Ⅱ・Ⅲ



第57図　木製品類15（杭）

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	注記	状態	法量(cm)	樹種	備考	遺物ID (661-0104)	保存処理№
01	下駄	A区B1号堀No106	一部欠損	長さ19.5/幅11.2/高さ5.5	クリ	連歯下駄。芯持材・台表に「二」ヵ。前緒穴辺り摩耗	-0013-0009	309
02	下駄	A区B1号堀No229	一部欠損	長さ19.2/幅11.4/高さ(5.5)	カエデ属	連歯下駄。台表に「×」と刻印。台表に付着物	-0013-0011	310
03	下駄	A区B1号堀№459	一部欠損	長さ(18.2)/幅10.0/高さ(2.2)		連歯下駄。板目。歯はほぼ残らず	-0013-0037	431
04	下駄	A区B1号　堀№281-1	一部欠損	長さ16.5/幅10.0/高さ(5.6)		連歯下駄。芯持材。状態悪し	-0013-0017	428
05	下駄	A区B1号　堀№281-2	破片	長さ(4.7)/幅(7.5)/高さ5.6		連歯下駄。状態悪く破片化	-0013-0018-1	
06	下駄	A区B1号　堀№281-2	破片	長さ(10.5)/幅(9.8)/高さ5.6		連歯下駄。状態悪く破片化	-0013-0018-2	
07	下駄-歯	A区B1号堀№288	破片	高さ9.5/幅(7.0)/厚さ1.5	多孔質,ケンポナシに類似(肉眼観察)	差歯下駄の歯ヵ。両面を丁寧に整形	-0013-0020	
08	桶-側板	A区B1号堀No38	一部欠損	長さ(16.6)/幅6.0/厚さ1.2		板目。面を整形	-0013-0004	
09	桶-側板	A区B1号堀No53	一部欠損	長さ17.0/幅(5.8)/厚さ1.0		板目	-0013-0005	
10	桶-側板	A区B1号堀№454	一部欠損	長さ20.0/幅7.0/厚さ1.0		板目。2個所の穴は製作・使用時からか	-0013-0032	
11	枘杓-底板ヵ	A区B1号堀№392	一部欠損	径9.5/厚さ1.3		何の底板ヵは不明	-0013-0028	
12	桶-底板ヵ	A区B1号堀№462	大きく欠損	長さ(17.5)/幅(4.0)/厚さ1.2		抉りは製作・使用時のものか。含水率高く崩壊寸前	-0013-0039	
13	桶-側板	A区A3a堀	一部欠損	長さ(15.5)/幅(7.2)/厚さ1.6		板目。タガ痕あり	-0013-0044	
14	漆皿	A区7TN№4	一部欠損	口径13.0/器高5.0/高台径6.0		総赤色漆塗り。口縁部は玉縁。高台裏は黒。赤で「一井」。分析済み	-0013-0049	429
15	漆椀	A区B1号堀No75	破片	口径・底径不明/器高4.5		内面赤色外面黒色系椀。外面に「双鳥」。漆分析済み	-0013-0007	443
16	漆椀	A区B1号堀№238	一部欠損	口径≒13.4/器高6.0/高台径7.0	ハンノキ属ヤシャブシ亜科	内外面黒色。赤で胴部外面、見込に「三つ巴」を、高台裏に「四つ菱」を赤で施文	-0013-0012	303
17	漆椀	A区B1号堀№257	破片	口径・底径不明/器高(4.5)		内面赤色外面黒色。高台の一部分がわずかに残る	-0013-0014	
18	漆皿	A区B1号堀№242	一部欠損	口径≒13.0/器高≒4.0/高台径6.0	ハンノキ属	内外面黒色。外面に「鳥ヵ」、見込に「丸に鶴」、高台裏に「一」	-0013-0013	334
19	漆椀	A区B1号堀№456	大きく欠損	口径12.2/器高5.0/高台径5.8		内面赤色外面黒色系。胴部外面と高台裏に赤で施文。高台裏は「四つ菱」。状態非常に悪し。分析済み	-0013-0033	
20	漆椀	A区B1号堀№358	一部欠損	口径13.0/器高5.0/高台径6.6	トチノキ	総黒色系。外面・見込・高台裏に赤で施文。胴部外面は「笹」、見込は「楓ヵ」、高台裏は「四つ菱」。分析済み	-0013-0026	307
21	漆椀	A区B1号堀№395	破片	口径・器高・高台径不明		内外面黒色。胴部に赤で「双鳥」。漆薄く状態悪し	-0013-0030	
22	白木皿	A区B1号堀№282	一部欠損	口径11.4/器高2.2/底径8.2	サワグルミ	外面・底部に面取り、見込にロクロ痕	-0013-0019	308
23	白木皿	A区B1号堀№277	一部欠損	口径5.5/底径7.0/器高(2.0)	エノキ属	外面に面取り、見込にロクロ痕。荒型ヵ	-0013-0015	301
24	漆椀	A区B1号堀№280	破片	口径・底径不明/器高(6.2)		内外面黒色。胴部外面に赤で「扇面」ヵ。器厚が厚い	-0013-0016	
25	漆椀	A区B1号堀№307	大きく欠損	口径不明/器高(6.5)/高台径6.5	ハンノキ属	内面赤色外面黒色。胴部外面と高台裏に赤で施文。高台裏は「四つ菱」	-0013-0023	336
26	漆椀	A区B1号堀№311	大きく欠損	口径13.0/器高9.0/高台径7.0		内外面黒色。外面2箇所と見込に赤で施文	-0013-0024	440
27	漆椀	A区B1号堀№293	破片	口径11.8/器高5.0/高台径不明		内外面黒色。外面に「鳥」。見込には赤の痕跡	-0013-0022	439
28	炭化椀ヵ	A区10T	破片	口径・底径不明/器高(2.5)		全面炭化。腰の張るタイプの椀ヵ	-0013-0090	

第24表　木製品一覧表1

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	注記	状態	法量（cm）	樹種	備考	遺物ID（661-0104）	保存処理№
29	漆椀	B区１堀№26	破片化	胴部厚さ0.5		内外面黒色。漆は硬質	-0013-0052	
30	漆椀	B区１堀№26	破片化	器高(2.4)/高台径7.4		内外面黒色。漆は硬質。高台部のみ	-0013-0052	
31	漆椀	B区１堀No18		口径13.5/器高(5.8)		内外面黒色で胴部外面に赤色の施文の痕跡。状態非常に悪く実測後に崩壊	-0013-0050	
32	杓子状製品	A区B１号堀№290	一部欠損	長さ22.0/幅11.0/厚さ0.8	スギ	1面に付着物あり、柿渋ヵ。かすかに施文あり。反対面は荒れる。側面に孔あり	-0013-0021	302
33	折敷-縁・底板	A区B１号堀№36	破片	長さ(18.0)/幅(5.7)/高さ2.0	ヒノキ	木釘孔あり。状態悪い	-0013-0003	311
34	折敷-縁ヵ	A区B１号堀ロⅤ層	破片化	長さ(18.1)/幅1.5/厚さ0.7		柾目。細片化しているが接合個所は確認。孔あり	-0013-0061	
35	折敷-底板ヵ	A区B１号堀ロ	破片	長さ(7.8)/幅(5.5)/厚さ0.2		非常に薄い。柾目。面を整える	-0013-0040	
36	折敷-底板ヵ	A区B１号堀ニⅤ層	破片	長さ(10.4)/幅(4.2)/厚さ0.2		非常に薄い。柾目。面を整える	-0013-0042	
37	折敷-底板ヵ	A区B１号堀№377	破片	長さ(12.5)/幅(4.1)/厚さ0.2		柾目。片面に浅い線あり、枠の接点ヵ	-0013-0027	
38	折敷-底板ヵ	A区B１号堀№317	破片	長さ(19.0)/幅(7.5)/厚さ0.5		腐食進行し、実測時に崩壊	-0013-0025	
39	武具ヵ	A区B１号堀No158	破片	長さ(1.4)×(2.0)/厚さ0.08		片面に板目状の線	0013-0092	
40	武具ヵ	A区B１号堀　ロⅣ層	破片	長さ(1.5)×(1.6)/厚さ0.08		円弧部の縁に金箔	0013-0091	
41	武具ヵ	A区B１号堀No90	破片	長さ(1.0)×(1.3)/厚さ0.16		胎部は木質ヵ	0013-0093	
42	馬鎧	A区A３b堀No35	一部欠損	長さ3.0×3.0/厚さ0.08/高さ0.4		大きく欠損し、詳細は不明	0013-0095	
43	馬鎧	A区A３b堀No35	一部欠損	長さ3.4×3.4/厚さ0.08/高さ0.4		大きく欠損しているが形は判明	0013-0094	
44	白色物質付着板	A区B１号堀№15	完形	長さ22/幅1.8/厚1.0	ヒノキ	樹脂状のものが付着。分析するが不明	-0013-0001	300
45	杓状製品	A区B１号堀No65	一部欠損	長さ(23.8)/幅(4.5)/厚さ1.5		一部炭化。面を丁寧に整形	-0013-0006	
46	部材	A区B１号堀№393	一部欠損	長さ(57.2)/幅4.8/厚さ4.9		ほぼ方形でホゾ孔あり。いずれの面も整える	-0013-0029	438
47	材/加工材ヵ	A区B１号堀No85	一部欠損	長さ(25.0)/幅6.3/厚さ3.3		自在鉤ヵ。端部炭化。先端を加工	-0013-0082	
48	竹	A区B１号堀No63		長さ(11.2)/径2.0		片側を斜めに切断	-0013-0055	
49	材/加工材ヵ	A区B１号堀ロⅤ層	小破片	長さ(8.5)/幅(7.7)/厚さ1.0		板目の薄い板。面に加工あり	-0013-0062	
50	材/加工材	A区B１号堀ロⅤ層		長さ3.9/幅3.8/厚さ2.3		芯持ちの角材を加工	-0013-0064	
51	材/角材片	A区B１号堀ロⅤ層		長さ(8.2)/幅(6.3)/厚さ3.5		一部面を整えている	-0013-0065	
52	材/丸棒材	A区B１号堀ロⅤ層	破片	長さ(5.8)/径1.2		先端を尖らせる。丁寧に加工。含水率高く詳細不明	-0013-0063	
53	材/板材	A区B１号堀ロ	板材破片	長さ(7.4)/幅5.0/厚さ1.0			-0013-0066	
54	材/加工材	A区B１号堀No228	大きく欠損	長さ(25.8)/幅(8.3)/厚さ(3.8)	針葉樹ヵ（肉眼観察）	大きく抉りを作る。面を丁寧に加工	-0013-0010	
55	材/加工材	A区B１号堀ハⅤ層	角材片	長さ(5.3)/幅(4.7)/厚さ(2.8)		先端を尖らせる。丁寧に加工	-0013-0069	
56	材/加工材ヵ	A区B１号堀ハⅤ層	板材破片	長さ(8.9)/幅(1.9)/厚さ(1.1)		加工面があり面を整える	-0013-0068	
57	材/加工材	A区B１号堀ハ	大きく欠損	長さ(11.9)/径4.5		両端を荒く加工。表面は丁寧に整える	-0013-0070	
58	部材ヵ	A区B１号堀ニⅤ層	一部欠損	長さ(10.4)/幅5.2/厚さ3.4		全面を細かく加工。2箇所突起状のものを作り出している。加工途中ヵ	-0013-0043	
59	材/板材	A区B１号堀№457-2	小破片	長さ(9.0)/幅1.0/厚さ0.5		丁寧に面を整える	-0013-0035	
60	板材ヵ	A区B１号堀№457	大きく欠損	長さ(42.5)/幅7.0/厚さ0.4		曲げ物の側板の可能性もあるが、厚い	-0013-0034	

第25表　木製品一覧表２

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	注記	状態	法量（cm）	樹種	備考	遺物ID (661-0104)	保存処理№
61	材/丸棒材	A区B１号堀No463		長さ(51.8)/径2.5		先端を細かく加工	-0013-0060	
62	材/加工材	A区B１号堀№426	破片ヵ	長さ(14.6)/幅8.0/厚さ5.5	クリヵ(内眼観察)	芯持ち材の角材を加工。面を整え、端部を大きく削り尖らせる	-0013-0031	
63	材/加工材ヵ	A区B１号堀ニ	角材片	長さ(6.3)/幅(3.1)/厚さ(1.8)		面を整形	-0013-0074	
64	材/加工材	A区B１号堀ニ		長さ(23.5)/径2.6		全面に細かい加工	-0013-0073	
65	材/角材	B区１堀No24		長さ4.2/幅5.8/4.0		面を大きく作り出し、丁寧に加工	-0013-0051	
66	材/角材	B区１堀No29		長さ6.8/幅11.3/厚さ1.4		薄くスライス	-0013-0053	
67	杭	A区杭№Ⅱ-11		長さ(43.4)/径3.0		簡単な整形	-0013-0045	
68	杭	A区杭№Ⅱ-14		長さ(74.8)/径6.5×6		先端を尖らせ、一面のみ全体に平らに整形	-0013-0077	
69	杭	A区杭№Ⅱ-15	上部欠損	長さ(45.0)/径6.2×8.5		上部腐食。先端を尖らせ、一面のみ全体に平らに整形。含水率高く状態悪し	-0013-0046	
70	杭	A区杭№Ⅱ-16	上部欠損	長さ(40.5)/径7.0×6.0		上部腐食。先端を尖らせ、一面のみ全体に平らに整形。含水率高く状態悪し	-0013-0047	
71	杭	A区杭Ⅲ-13	枝が残る	長さ(79.0)/径6.0×5.5		丸木の枝を払い簡単に加工。先端はとがっていないが、現場では実際に使用されていた	-0013-0078	
	下駄	A区B１号堀№461	破片化	計測せず		連歯下駄ヵ。腐食により不明	-0013-0038	
口絵18写真2	漆椀ヵ	A区B１堀No６	土と一体化	不明		内面黒色で赤で「帆掛け船」を描く。法量他不明。椀ヵ皿ヵ	-0013-0089	
口絵18写真4	漆小坏ヵ	A区B１号堀ハI層	漆膜のみ	口径≒7.0/器高(3.5)		内外面黒色。土と一体化し詳細不明	-0013-0088	
口絵18写真3	漆皿ヵ	A区B１号堀ハ	破片	厚さ0.5		内外面黒色。椀か皿ヵ。実測前に崩壊	-0013-0041	
	漆椀	A区A２堀	土と一体化	不明		外面黒色。土と一体化し詳細不明	-0013-0084	
口絵18写真1	漆椀ヵ	A区A３b堀No38	土と一体化	口径13.5/器高3.5/高台径7.0		外面赤色・高台裏黒色。内面不明。高台裏に赤で施文　図14と同類ヵ(椀ヵ皿ヵ)	-0013-0085	
	折敷-底板ヵ	A区B１号堀№458	小破片	長さ(11)/幅(6.0)		実測前に崩壊、詳細不明	-0013-0036	
口絵19写真5	杓子ヵ	A区B１号堀No460	土と一体化	≒16		実測前に崩壊、詳細不明	-0013-0087	
	材/丸木材	A区B１号堀No121		≒105		保存状態悪く崩壊	-0013-0057	
	竹	A区９TN№８		≒6.8		両端を切断。実測前に崩壊	-0013-0075	
	竹	A区B１号堀No９		≒18		実測前に崩壊、詳細不明	-0013-0054	
	竹	A区B１号堀No71		≒11.5		両端を切断。実測前に崩壊	-0013-0056	
	竹	A区B１号堀No238	破片	≒18		破片化。実測前に崩壊	-0013-0058	
	杭	A区杭№Ⅱ-10		長さ≒87/径6.0		先端を尖らせ、均等に面を加工。保存状態悪く実測できず	-0013-0076	
	杭	A区杭№Ⅱ-33		≒12		崩壊	-0013-0048	
	漆ヵ	A区A３b号堀７T	破片			未分析のため詳細不明		
	炭化材	A区７TNo19		計測せず		詳細不明		
図版34写真6	ひょうたん	A区B１号堀No104	破片	計測せず			-0013-0008	
図版34写真7	ひょうたん	A区B１号堀ロ(02)	破片	計測せず		先端を斜めにカット。両面に丁寧に加工	-0013-0067	

第26表　木製品一覧表３

（2）自然科学分析　ー木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 試料

試料は騎13次出土の木製品11点である。試料の詳細は樹種同定結果と共に第27表に表記した。

2 方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを制作する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察、同定する。

3 結果

樹種同定の結果を第27表に示す。騎13次の木製品は針葉樹 2 種類（スギ・ヒノキ）、広葉樹 9 種類（クリ・カエデ属・ハンノキ属ヤシャブシ亜属・ハンノキ属・トチノキ・サワグルミ・エノキ属・ハンノキ属ハンノキ亜属・ケヤキ）に分類された。主な解剖学的特徴を以下に示す。

試料 1　クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は 1 ～ 4 列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、 1 ～15細胞高。

試料 2　カエデ属（*Acer*）　カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および 2 ～ 3 個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、 1 ～ 5 細胞幅、 1 ～40細胞高。細胞壁の厚さが異なる 2 種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

試料 3　ハンノキ属ヤシャブシ亜属（*Alnus* subgen. *Alnaster* sp.）　カバノキ科

散孔材で、道管は単独もしくは 2 ～ 6 個が放射方向に複合する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、 1 ～30細胞高。

試料 4　ハンノキ属（*Alnus*）　カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または 2 ～ 4 個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、 1 ～30細胞高。

試料 5　トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）　トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または 2 ～ 3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、 1 ～15細胞高で階層状に配列する。

試料 6　サワグルミ（Pterocarya rhoifolia Sieb. et Zucc）　クルミ科サワグルミ属

散孔材で、道管は比較的大径で、単独または 2 個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性、 1 ～ 2 細胞幅、 1 ～30細胞高。

試料 7　エノキ属（*Celtis*）　ニレ科

環孔材で、孔圏部は 1 ～ 3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、 1 ～15細胞幅、 1 ～50細胞高で鞘細胞が認められる。

試料 8　ハンノキ属ハンノキ亜属（*Alnus* subgen. *Alnus*）　カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または 2 ～ 4 個が放射方向

に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、１～30細胞高のものと集合放射組織とがある。

試料９　スギ（*Cryptomeria japonica*（L.f.）D. Don）
スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

試料10・11　ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、１分野に１～３個。放射組織は単列、１～15細胞高。

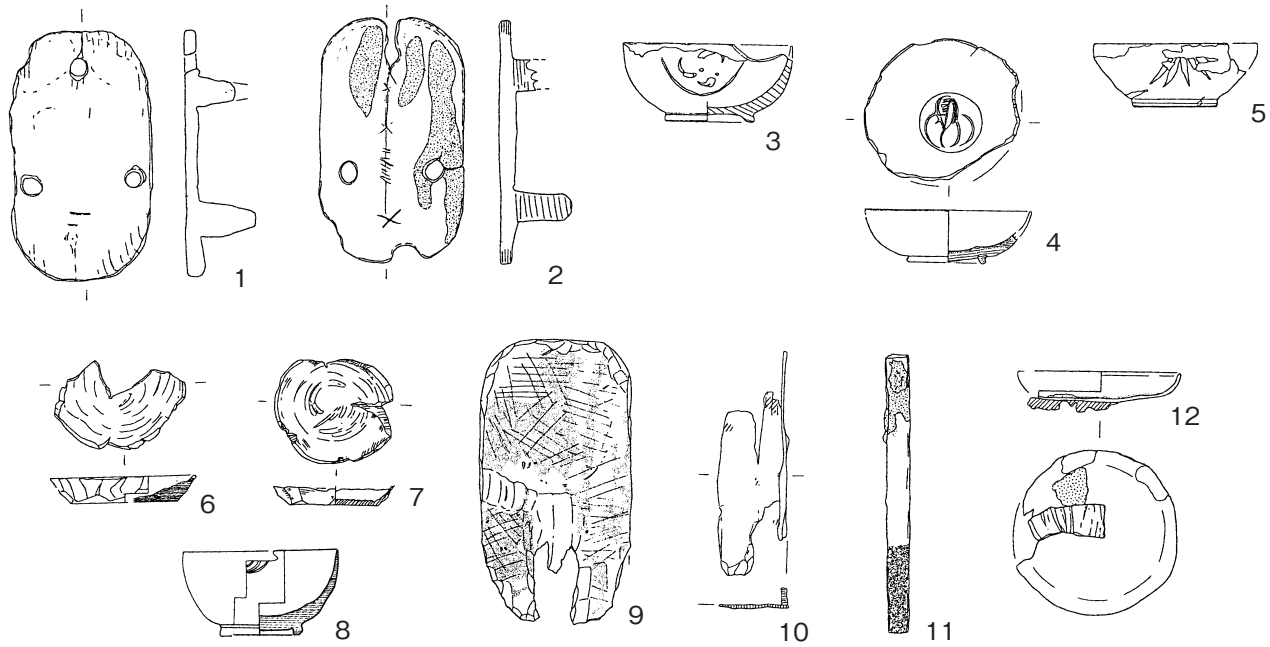
試料12　ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）
ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、１～10細胞幅、１～60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

*なおこの分析については、木製品の保存処理に伴うもので、試料No12は2002年度、試料No１～３、５～７、９～11は2003年 度、試 料No４、８は2004年度に分析報告を受領したものである。



A区B１堀　漆椀（木－16・18）



第58図　木製品樹種同定資料

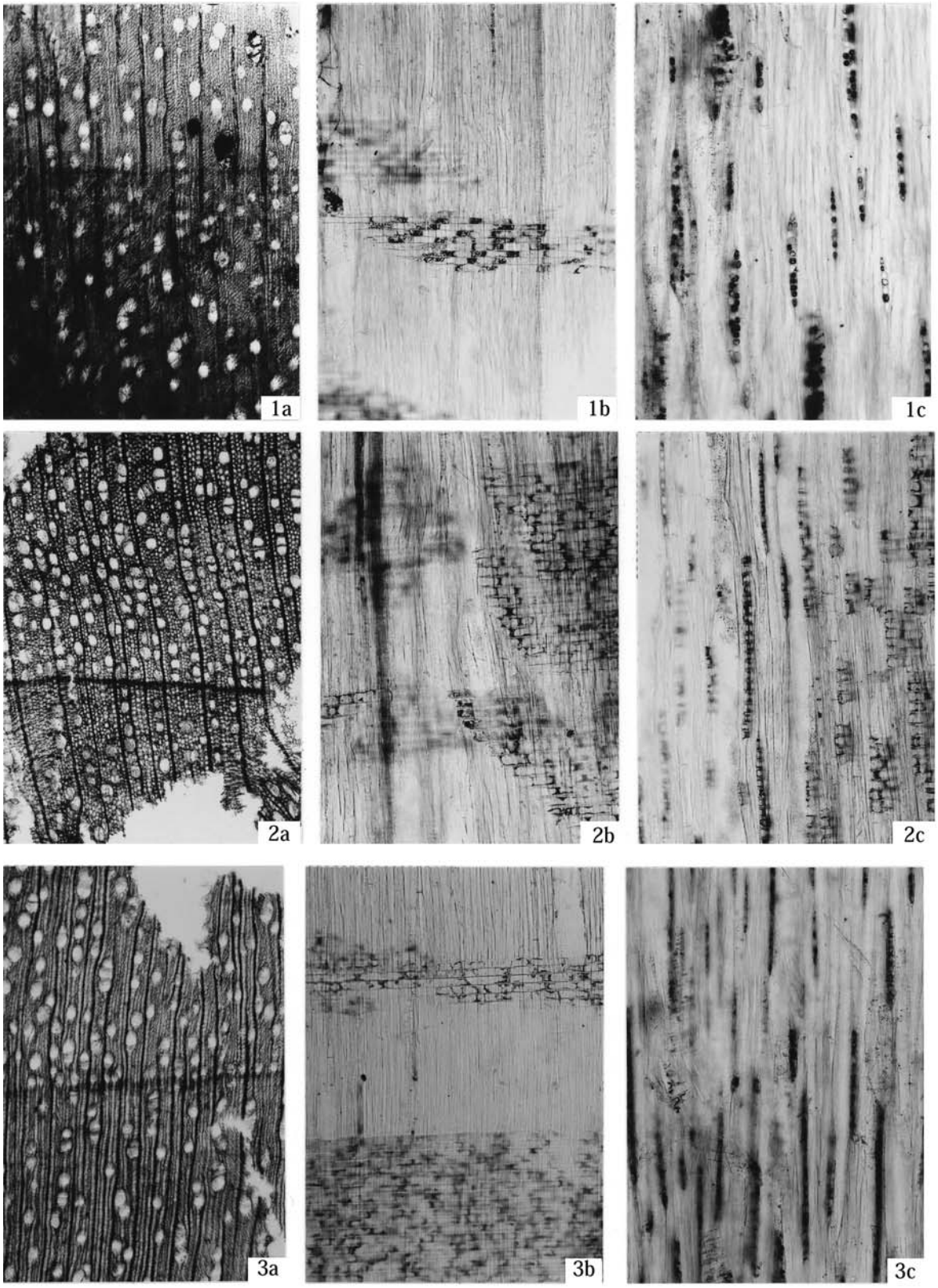
試料No	遺物名	樹種	図No	遺物ID（661-0104-）
1	下駄	クリ	1	0013-0009
2	**下駄**	**カエデ属**	**2**	0013-0011
3	**漆椀**	**ハンノキ属ヤシャブシ亜科**	**16**	0013-0012
4	**漆皿**	**ハンノキ属**	**18**	0013-0013
5	**漆椀**	**トチノキ**	**20**	0013-0026
6	**白木皿**	**サワグルミ**	**22**	0013-0019
7	**白木皿**	**エノキ属**	**23**	0013-0015
8	**漆椀**	**ハンノキ属**	**25**	0013-0023
9	**杓子状製品**	**スギ**	**32**	0013-0021
10	折敷	ヒノキ	33	0013-0003
11	**白色物質付着板**	**ヒノキ**	**44**	0013-0001
12	*木質付き銅製皿*	*ケヤキ*	*金属-71*	*663-0104-0013-0024*

太字は顕微鏡写真掲載
斜体は第４節金属製品に掲載

第27表　木製品樹種同定結果



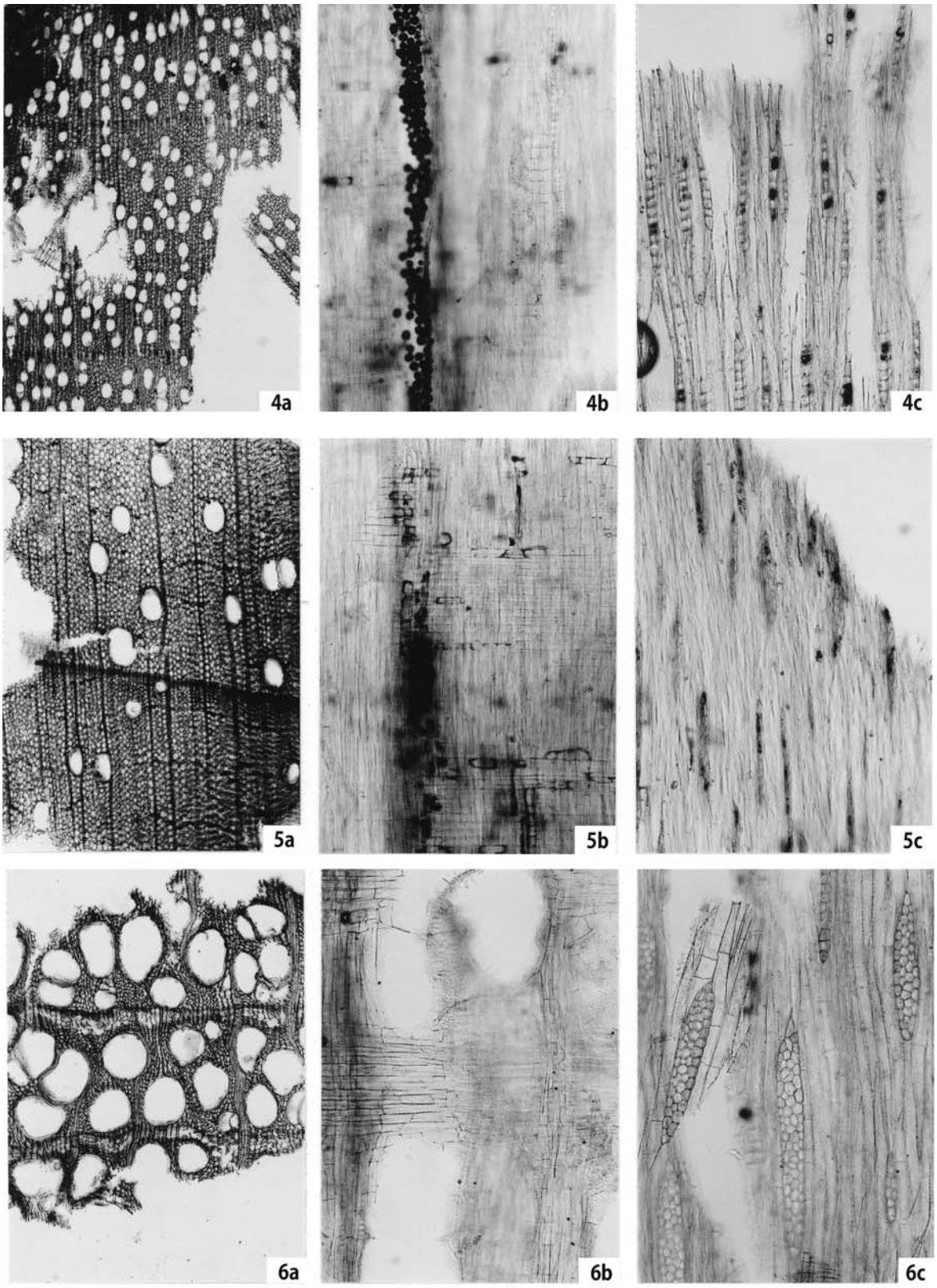
A区Ｂ１堀　下駄（木－１）



1.カエデ属（試料番号2）
2.ハンノキ属ヤシャブシ亜科（試料番号3）
3.ハンノキ属（試料番号4）
a：木口，　b：柾目，　c：板目

200 μ m:a
200 μ m:b, c

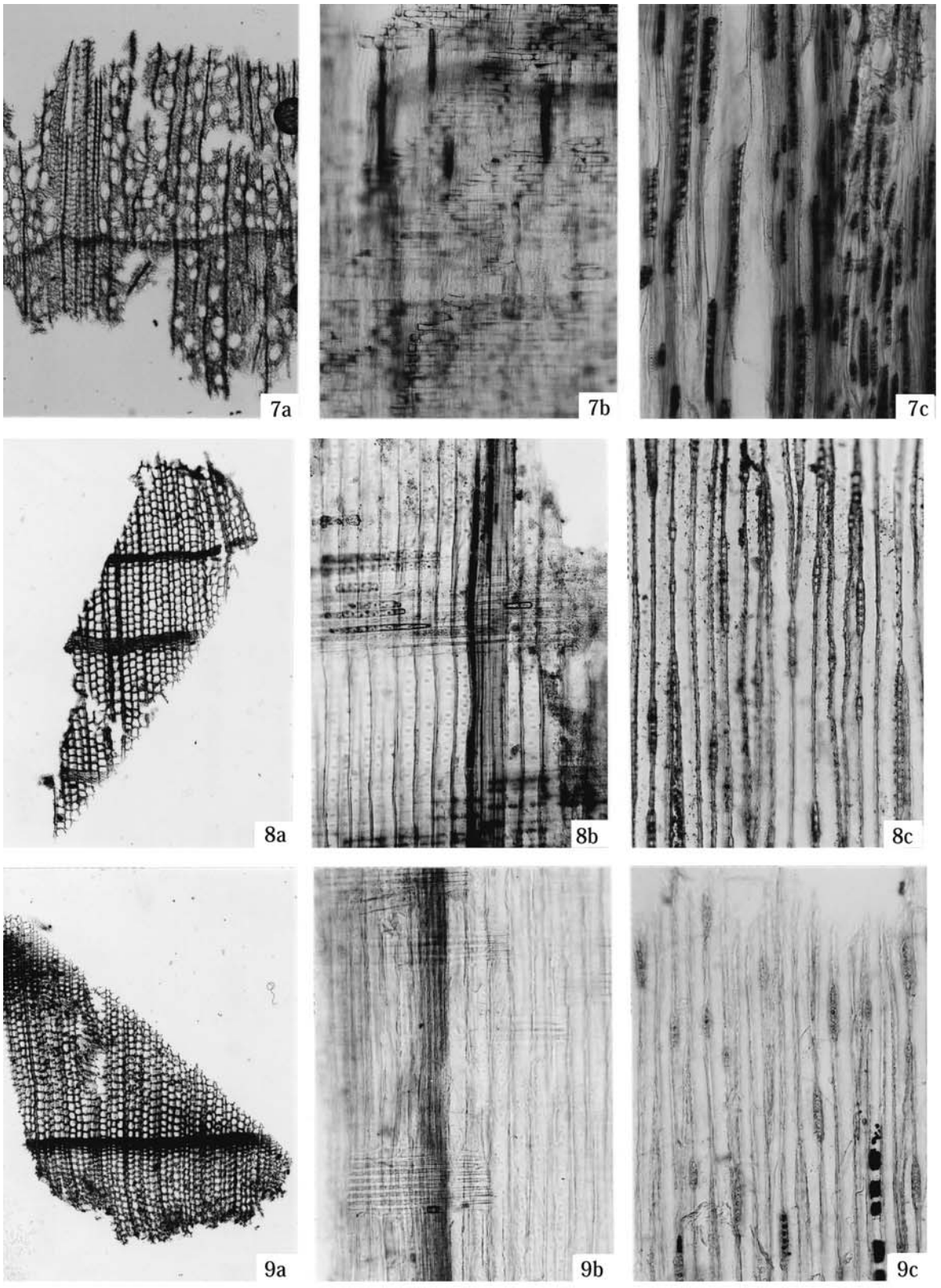
写真１　木製品　顕微鏡写真１



4.トチノキ（試料番号5）
5.サワグルミ（試料番号6）
6エノキ属（試料番号7）
a：木口, b：柾目,　c：板目

200 μ m:a
200 μ m:b, c

写真２　木製品　顕微鏡写真２



7.ハンノキ属（試料番号8）
8.スギ（試料番号9）
9.ヒノキ（試料番号11）
a：木口, b：柾目, c：板目

200 μ m:a
200 μ m:b, c

写真３　木製品　顕微鏡写真３

第４節　金属製品

金属製品は、鉄製品と非鉄金属製品がある。それぞれ用途別に記述するが、銭貨は別項を設けた。

（１）鉄製品

○生活に関するもの

「調理」の刀子（１～10）は、他の生活具や小柄・武具の可能性もある。１～３・５～９は断面二等辺三角形で、１・２・７は刀身と茎が想定される。10は断面不明瞭だが切っ先か。１～４はＢ１堀、５は９Ｔ、６～10はＡ区出土。

「暖房」では火箸（11・12）があり、11は下部で屈曲しているが長さ35.6cm（復元長39.2cm）で断面矩形で辺0.4cmである。頂部は楕円形に丸められ持ち手部は18cmほど捻られる。12は頂部を丸め断面矩形であるため火箸頭部の可能性がある。11はＢ１堀、12はＡ区出土。

「灯り」では火打金（13～15）があり、いずれも山形。13は長さ9.7cmと大きく頂部は尖る。14は高さ2.2cmと小さく左側欠損。実測後錆化が進行し崩壊。15はほぼ完形で長さ6.4cmと小さく両肩に環形突起を有する。厚さは0.3cmと薄く実用に耐えうるか。13・14はＢ１堀、15はＡ３ｂ堀出土。

「住」の釘（16～42）は、欠損が多く不明瞭なものが多いがほぼ断面矩形。16～18・20・24・26・31・35・38・39・41は頭部を作り出す。釘でないものも含むか。16～25はＢ１堀、26はＡ２堀、27はＡ３ａ堀、28・29はＡ３ｂ堀、30～34は13T、35～42はＡ区で出土。

○生業に関するもの

「加工」の小刀（43・44）は用途を判別しがたいがここに置く。43は先端・茎を欠損し、刃部は長さ17.8cmを超える。身幅は先と元でほぼ同じで錆によるものか非常に薄い。44は屈曲し復元長は17.3cm。刃部は切っ先より区（マチ）にかけて幅広となり、茎は欠損し細い。いずれもＢ１堀ニⅡ～Ⅲ層出土。

○いくさに関するもの

「甲冑」の小札（45～50）の45は本小札で幅2.7cmの中型で、札頭が斜め。１ヶ所縅孔か。46は上下欠損するが長方形で孔は確認できない。屈曲する。47は左上・右側の瘤が大きいが本小札斜めの札頭か。幅２cmと小さい。48は小札ではない。49は出土時内屈していたが保存処理後外れたのでそのまま実測した。上・右部欠損。右端に孔があり３列三目札。黒色漆付着か。裏面孔の縁がバリ状に立つ。50は上下欠損が確認できず完形ヵ。小札ではないか。45～48はＢ１堀、49・50はＡ区で出土した。

「刀類」の小柄（51～56）　51は刀身部完形で長さ21.2cm刃部12.8cm茎は8.4cmである。切っ先は鋭い。KB10区出土のもの（加須市10集金19）とほぼ同寸で遺跡内では大きい。52は右の身幅が0.8cmと狭く茎部か。左が刃部か。53は強く彎曲する。54は刃部か。55は緑青が見られ、左に青銅の柄部と右に刃部がある。56は刀身部が弱く彎曲し先端も欠損か。51～54はＢ１堀、55はＡ３ｂ堀で、56はＡ列障子堀出土。

「弓矢」の鉄鏃ヵ（57・58）は、いずれも発錆顕著で不明瞭。いずれもは下部が矩形で上部は膨らむ。58の鏃身は平根か。57はＢ１堀、58は１Ｔ出土。

○不明　環状製品（59・60）の59は右上部に矩形の断面が見え、開放環か。60は直径３mmで下部に円形断面あり。棒状製品（61～63）の61は断面矩形で釘か。62・63は断面矩形で２本の棒状製品が錆着する。板状製品（64～69）の64は発錆弱く鍛造か。65は錆によるものか一部赤色。断面長方形。強く彎曲する。66は長方形で芯の厚さ３mmと厚く重い。67と69は同一個体。斜線部は黒色で木質か。いずれも褐色の錆に覆われるが磁着無し。70は塊状品で不整形で重さ8.3ｇ。59はＢ１堀、60はＡ３ｂ堀で、61はＢ１堀、62・63はＡ３ａ堀　で、64～67はＢ１堀、68はＢ２堀、69はＡ３ｂ堀で、70はＢ１堀で出土した。

（２）非鉄金属

○生活に関するもの

「灯り」の皿（71）は、直径９cm高さ2.2cmを計

る。縁の低い皿で左側が欠損する。下面に4cm×1.3cm厚さ5mmの長方形柾目の木質が付着し、内面の底面に褐色物質、体部に白色物質、下面の一部に緑白色物質が付着する。褐色物質は科学分析を実施したが不明（次集報告予定）。用途は灯明皿か。X線写真（111p）で鋲等は見られない。B1堀出土。銅製。

以下小分類不明だが端金物（72）は八角形で内径5mm。A2堀出土。隅金具(73)は厚さ2mmのしっかりした作りで正方形になるか。A3b堀出土。金具（74）は上辺を内側に折り込み、下部に直径2mmの孔が2ヶ所空けられる。A区出土。金具ヵ（75）は、銅板をS字状に三つ折りする。半円形の孔、裏面・右側面に四角形の孔を空け、いずれも孔の縁が同一面にめくれる。折り曲げる前に空けたものか。B1堀出土。把手状製品（76）は厚さ4～6mmでS字状に屈曲する。鍛造で建具か仏具か。B1堀出土。全て銅製

「嗜好・遊び」では、煙管の吸口（77）で胴部は小口から2.5cm程ほぼ同じ径で緩やかに細くなる。吸口端部は厚くなる。羅宇が遺る。A区出土。銅製。

○いくさに関するもの

「刀類」の刀装具ヵ（78）は正面下部がやや尖る楕円形で側面は緩やかに屈曲する。内面下部には幅6mm長さ7mm厚さ2mmの突起が付く。鐺としては、突起が鞘尻を割り、刀身先端に当たり適当でない(注1)。A3b堀出土。KB18区に同一例あり（未報告）。はばき（79）は横幅が1.4cmと狭く（騎西城例は2～2.5cm)、頂部に方形切込はない。頂部は稜を持ち厚さ4mmと厚い。A3b堀出土。小柄の柄（80）は裏面扁平、上部破損は押圧による。A3b堀出土。

「火縄銃」の弾丸（81～85）は、いずれも剥落により粉を吹いており原形が不明瞭。81は一部緑青が見られ特に小さい。崩落か。85は下面が平坦で射撃時のものか。81は銅製でA3b堀出土、他は鉛製でB1堀出土。

「馬具」の野沓（86）はL字形で長さ25.2cm幅6.2cm身幅1.4～1.8cm厚さ3mmを計る。側面と裏面の縁は平坦で、裏面中央は凹む。径4mmの穿孔が4ヶ所（図版37参照）なされる。穿孔部に下鞍に取り付けるための金具を設けるがいずれも上部を欠損する。長辺中程の孔は金具が脱落したものか。下鞍の左右に付くが乗り手から見て右側のもの。B1堀出土。

○ほか

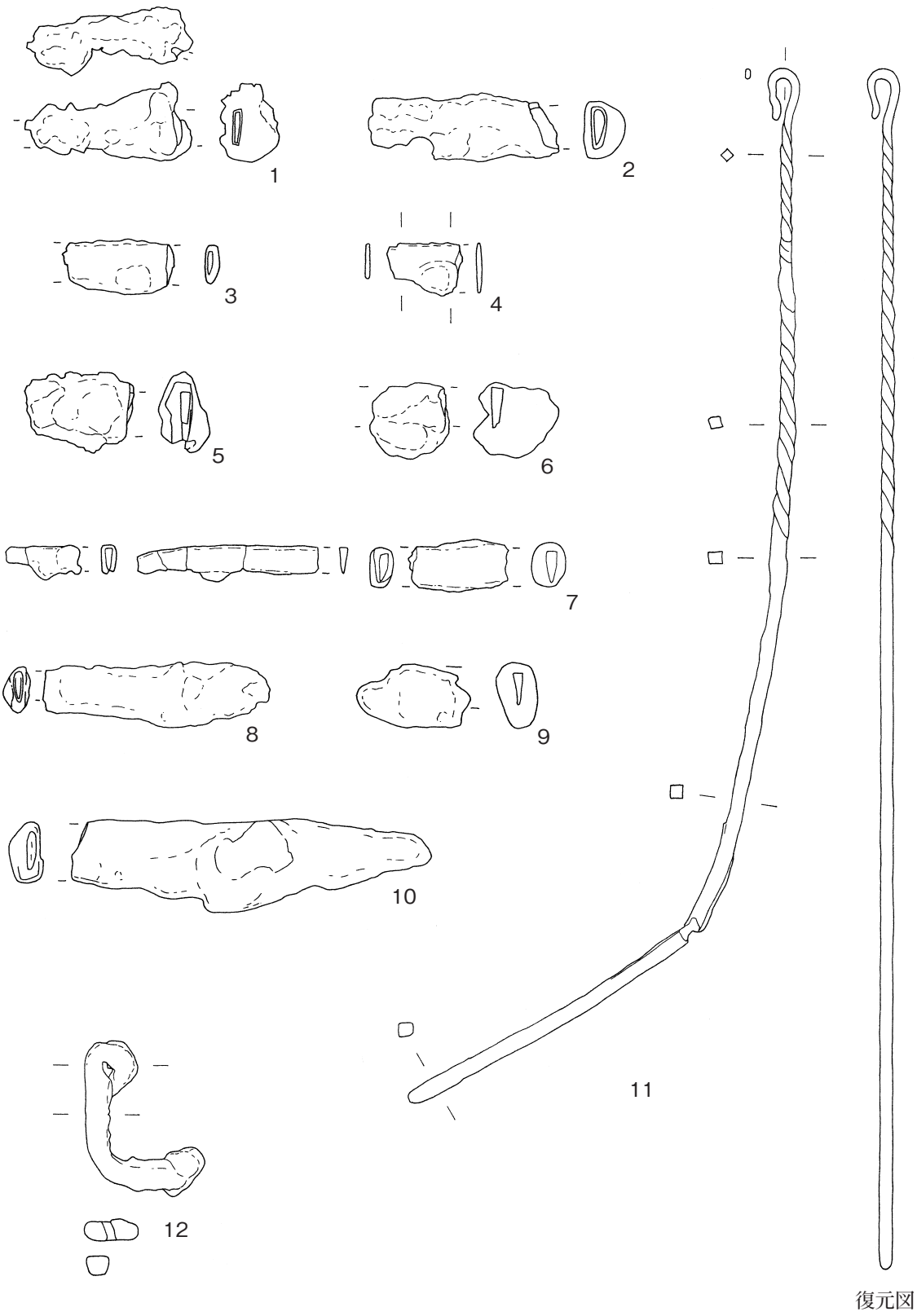
筒状製品（87）は、底面不正円形で丸みを持つ。体部は歪み1.5cm立ち上がる。底面内部に厚さ2mm両面に黒色物（漆ヵ）が付着する円板状木製品を敷く。底部に1ヶ所突起状のものがあるが銅破片の付着の可能性もある。1ヶ所は腐食による孔。B1堀出土。板状製品（88～91）は厚さ1mmで凹凸がある。88は下部がめくれ表裏に気泡痕がある。91は表面に擦条痕がある。いずれもB1堀出土。（92）は稜があり断面多角形ものと思われる。筒状製品ヵ。A区出土。

（3）銭貨

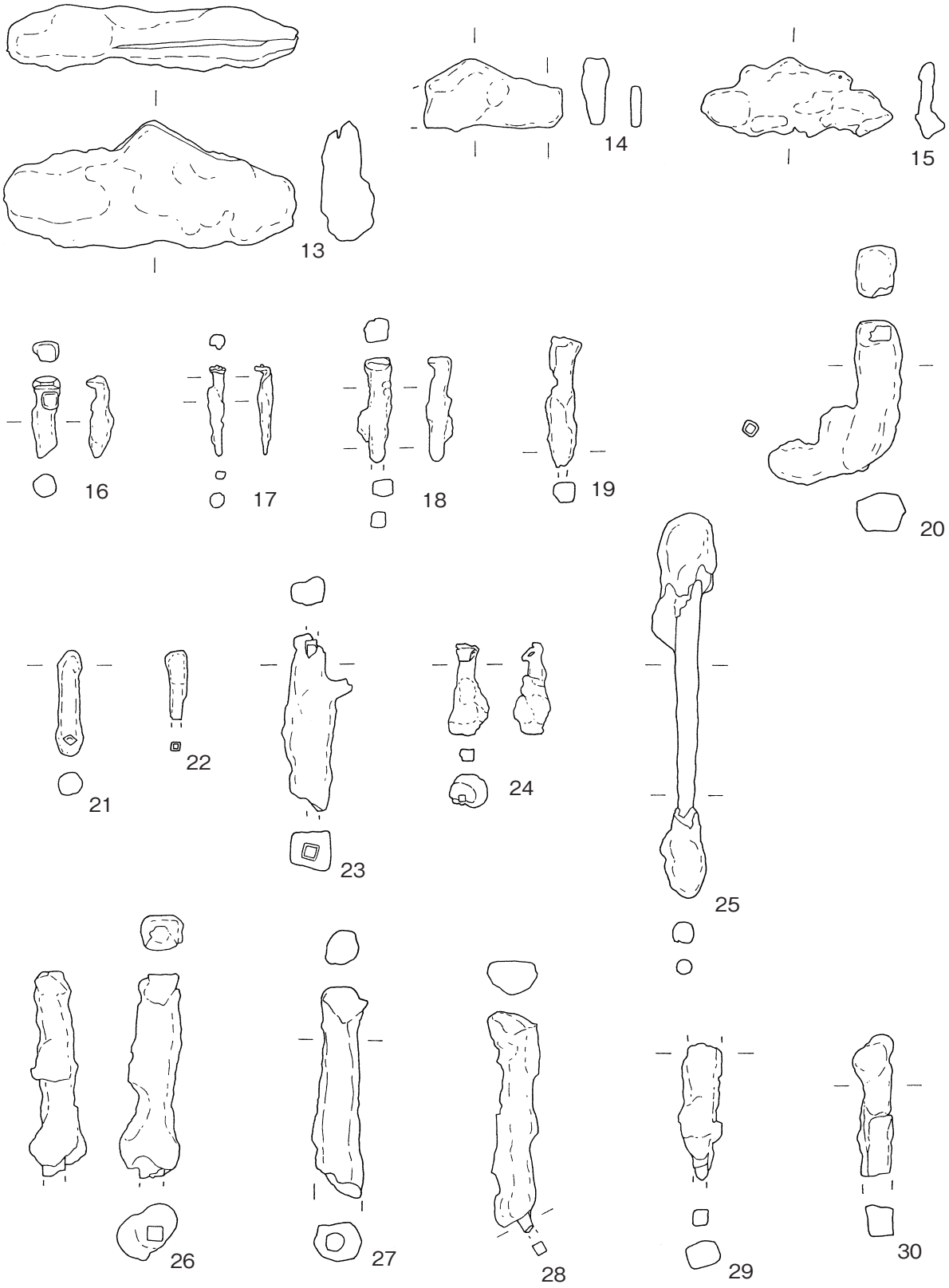
93～169まで77点ナンバーを振ったが錆着・熔着による概数を含め総数143点ある。破片化したものなど状態の悪いものが多く、錆着しているものは脆弱で剥離できなかった。銭種名別にみると開元通宝6・至道元宝2・咸平元宝1・景徳元宝5・祥符元宝1・天聖元宝1・皇宋通宝5・熙寧元宝5・元豊通宝4・元祐通宝1・政和通宝1・咸淳元豊1・洪武通宝9・永楽通宝16・嘉靖通宝1・光順通宝1・文久永宝1・寛永通宝3・不明79（錆着・熔着・判読不明）である。初鋳造では、中国元以前が34点、明以降（洪武・永楽・嘉靖1522年）26点、安南後黎（光順1460年）が1点で、永楽銭が16点と一番多い。115～148はA2堀Ⅴ層で一括出土した。

また日本近世の寛永通宝が3点、文久永宝1点で、堀外出土。背面は11波。105は熔着したもので火災による被熱あるいは弾丸等を製造するため熔融した可能性がある。

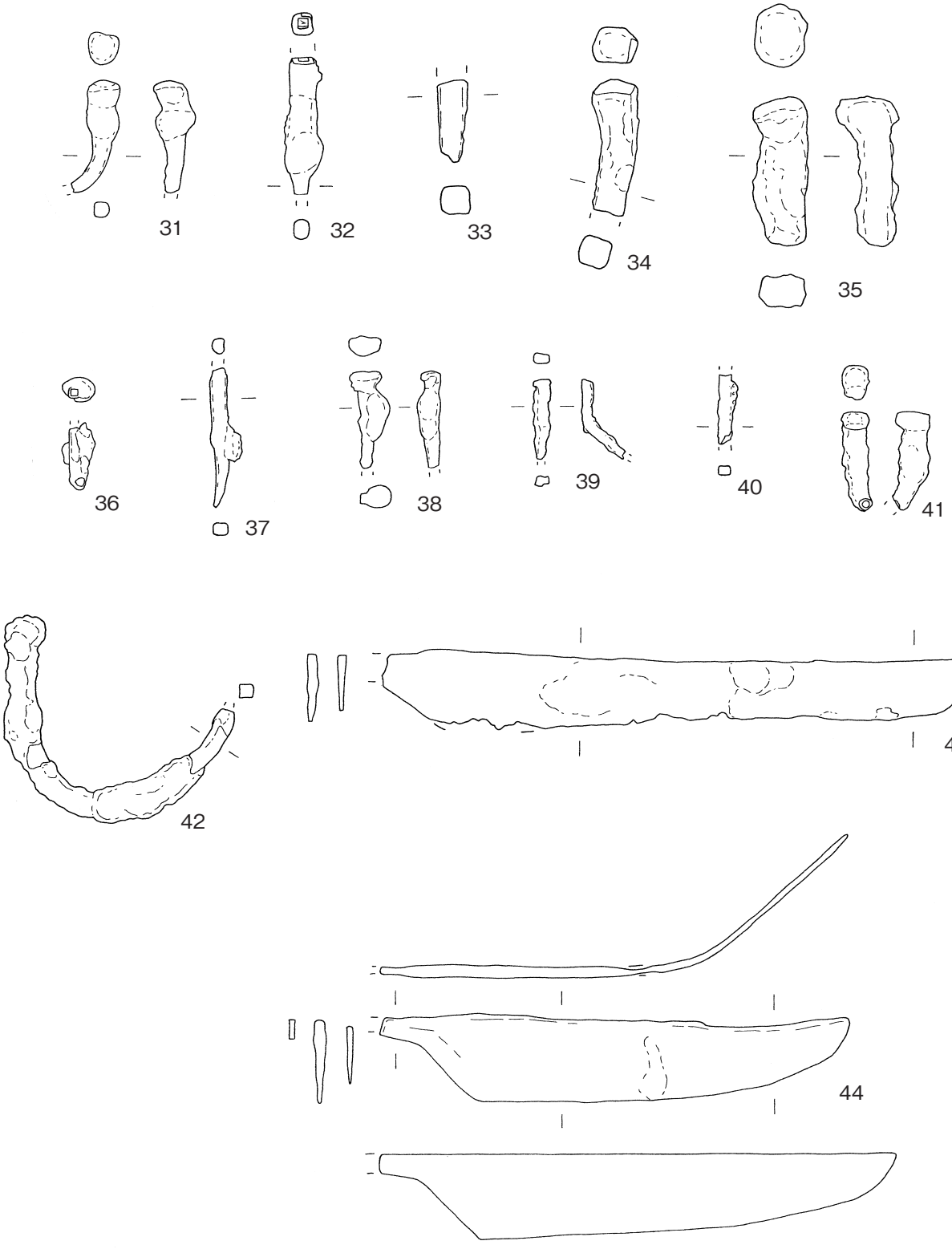
注1　豊田勝彦氏御教示



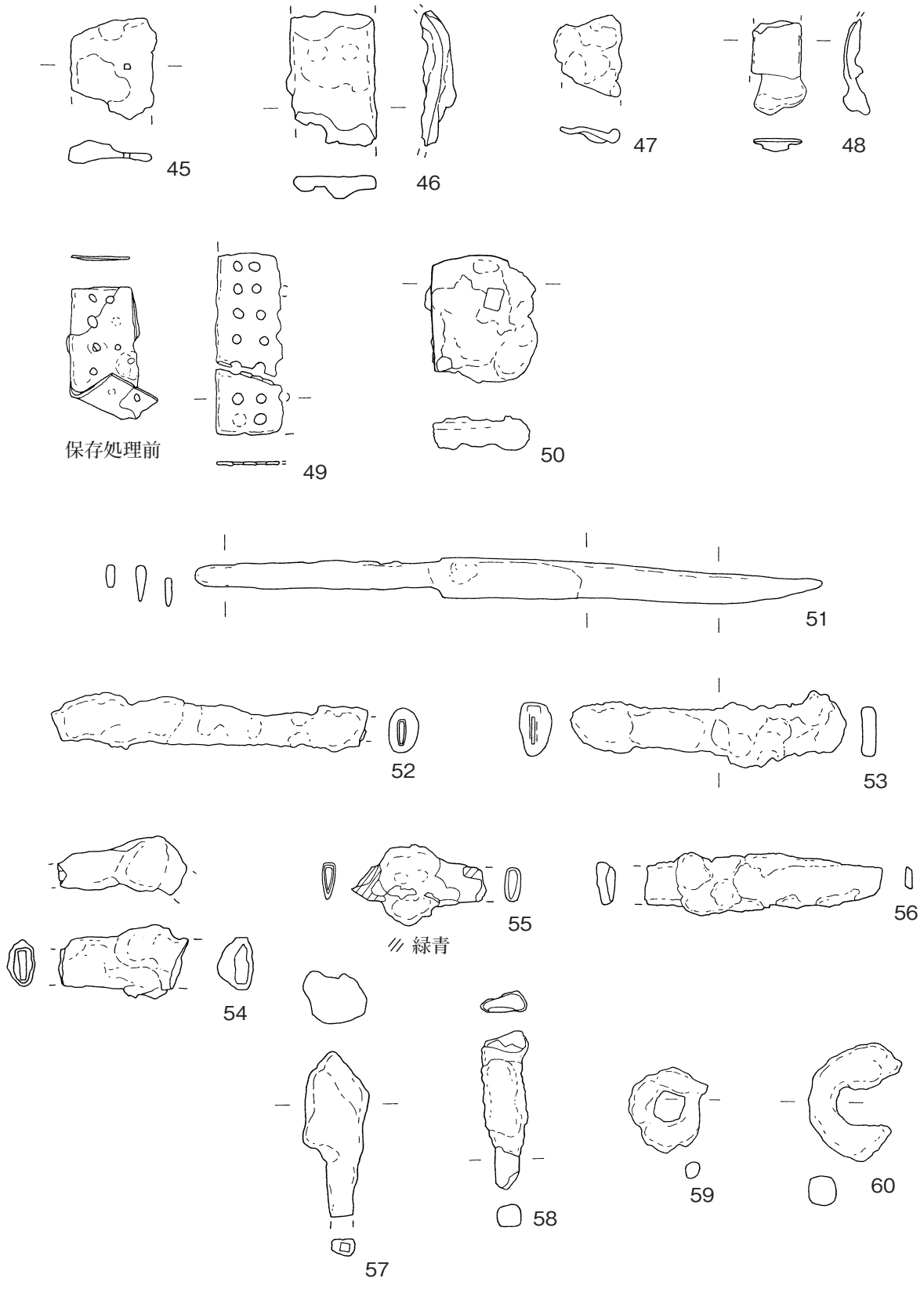
第59図　金属製品類１（鉄１）



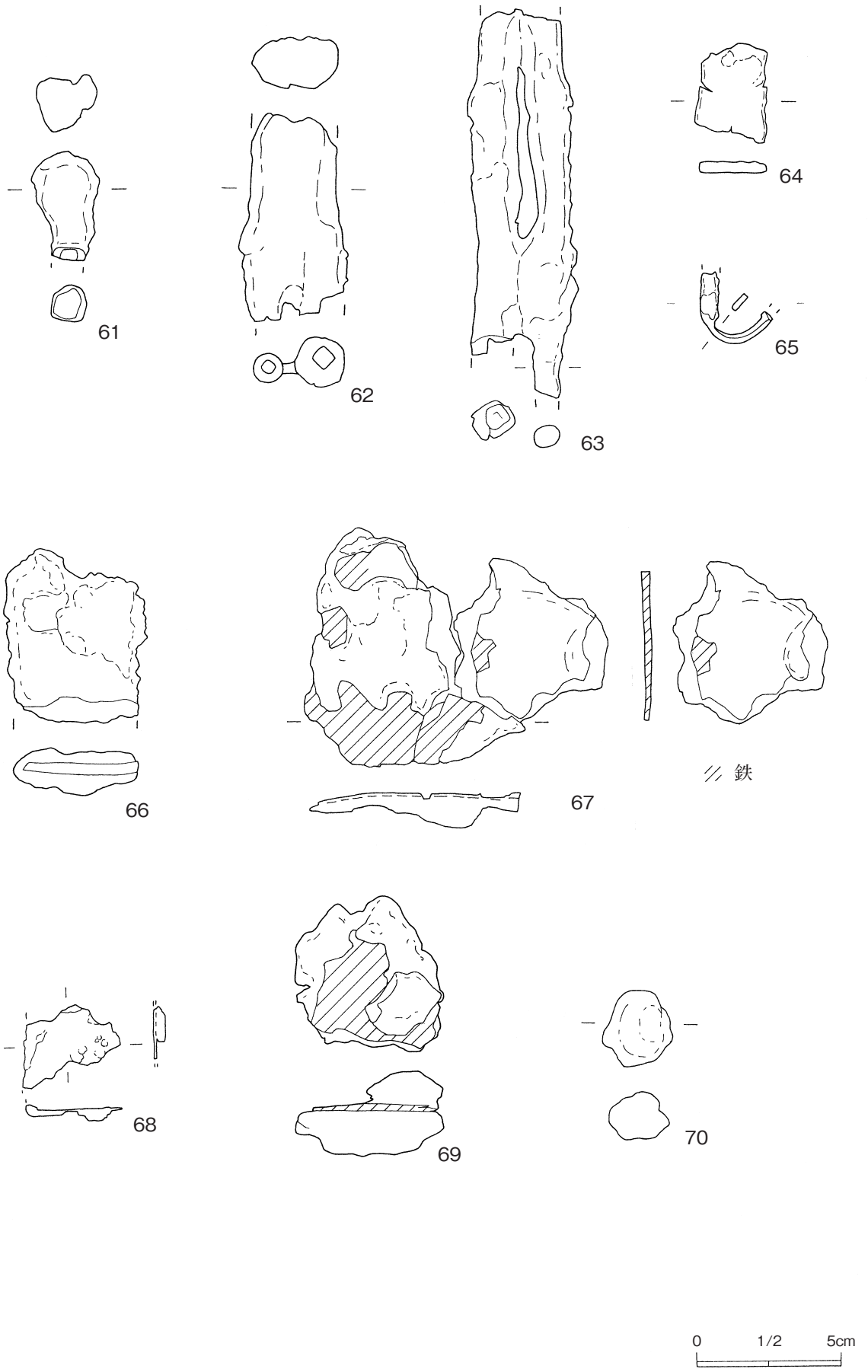
第60図　金属製品類２（鉄２）



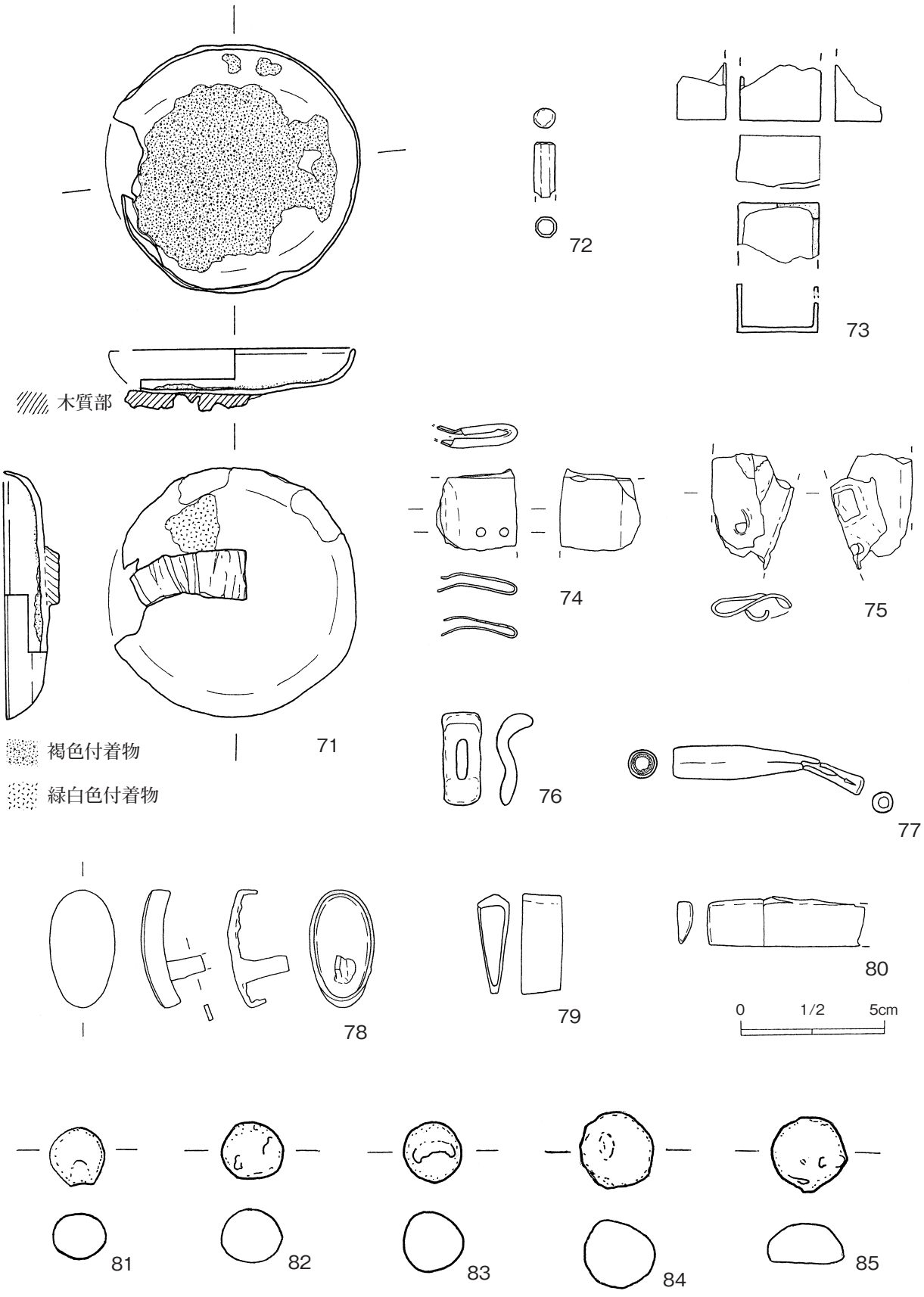
第61図　金属製品類３（鉄３）



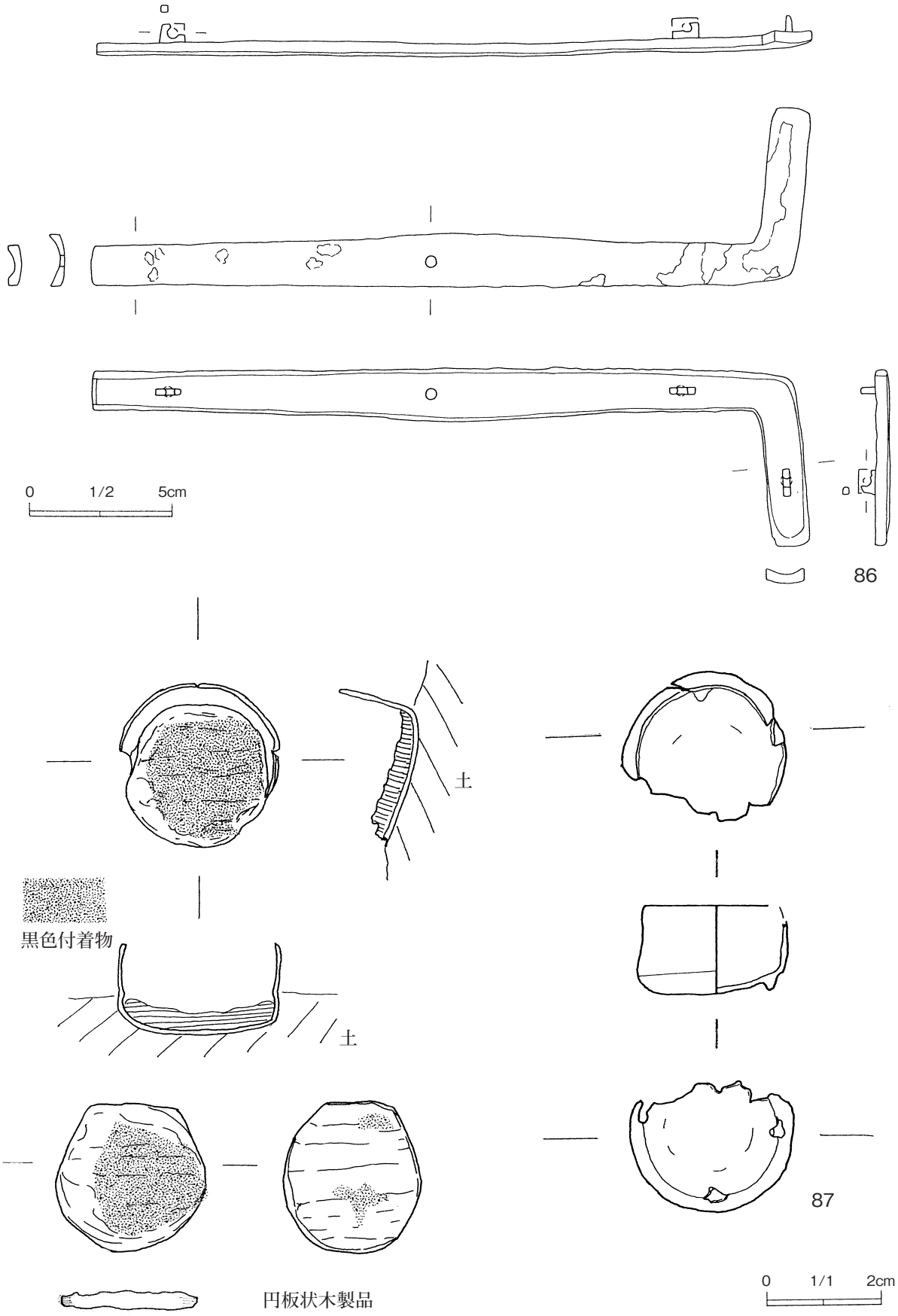
第62図　金属製品類４（鉄４）



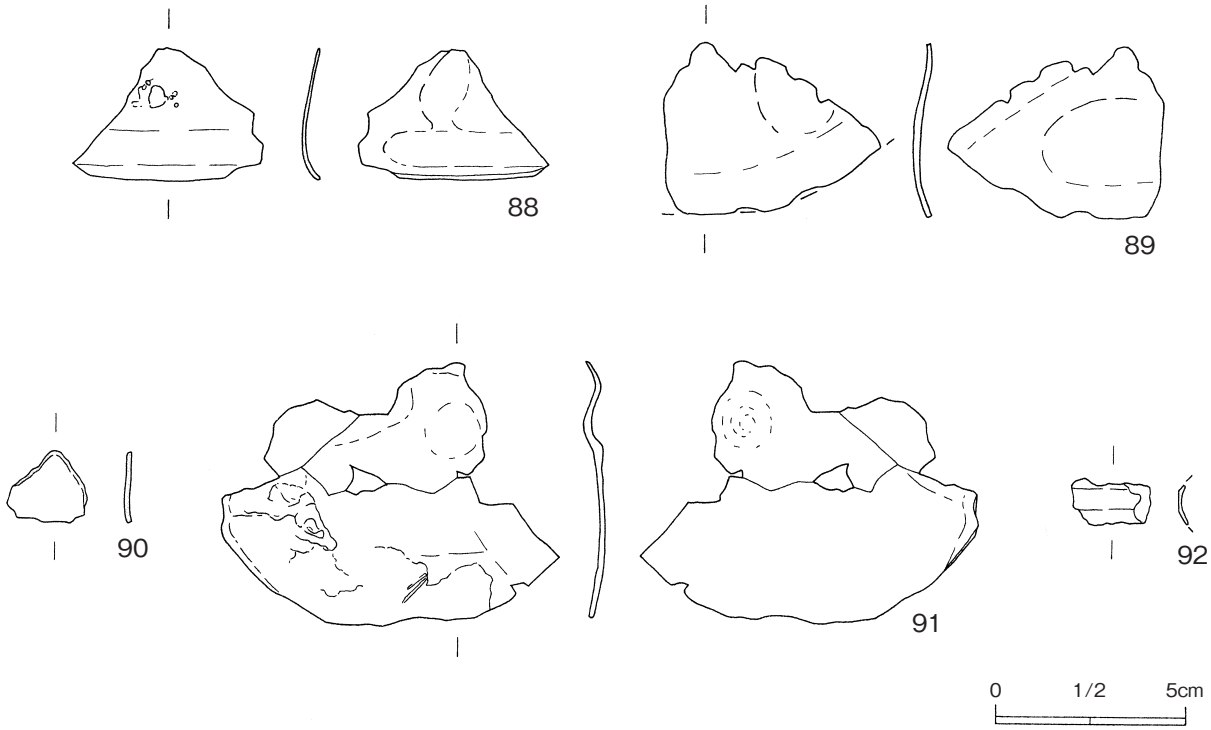
第63図　金属製品類５（鉄５）



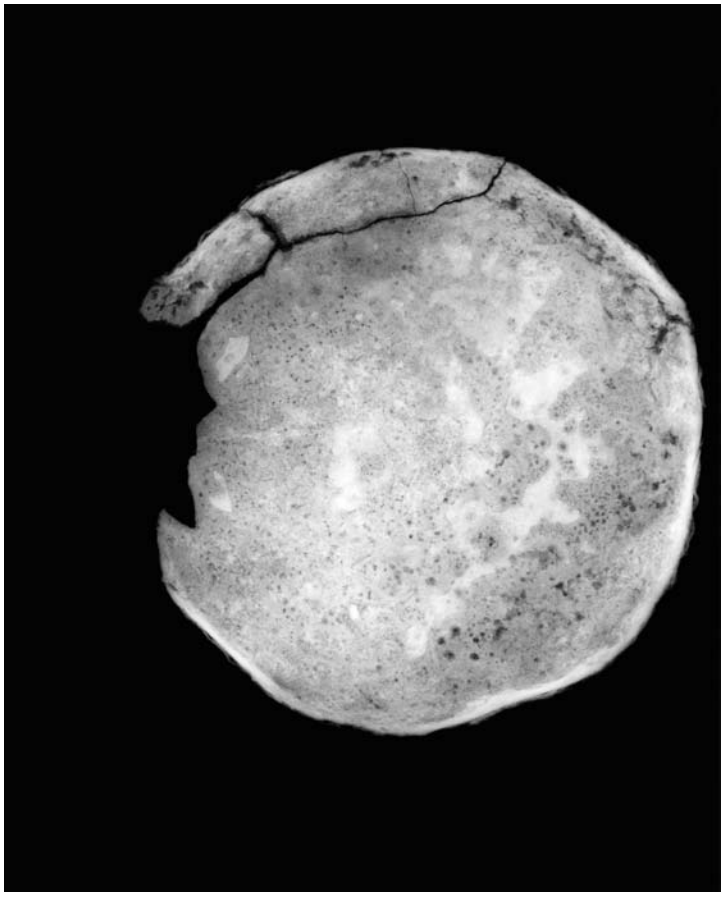
第64図　金属製品類６（非鉄金属１）



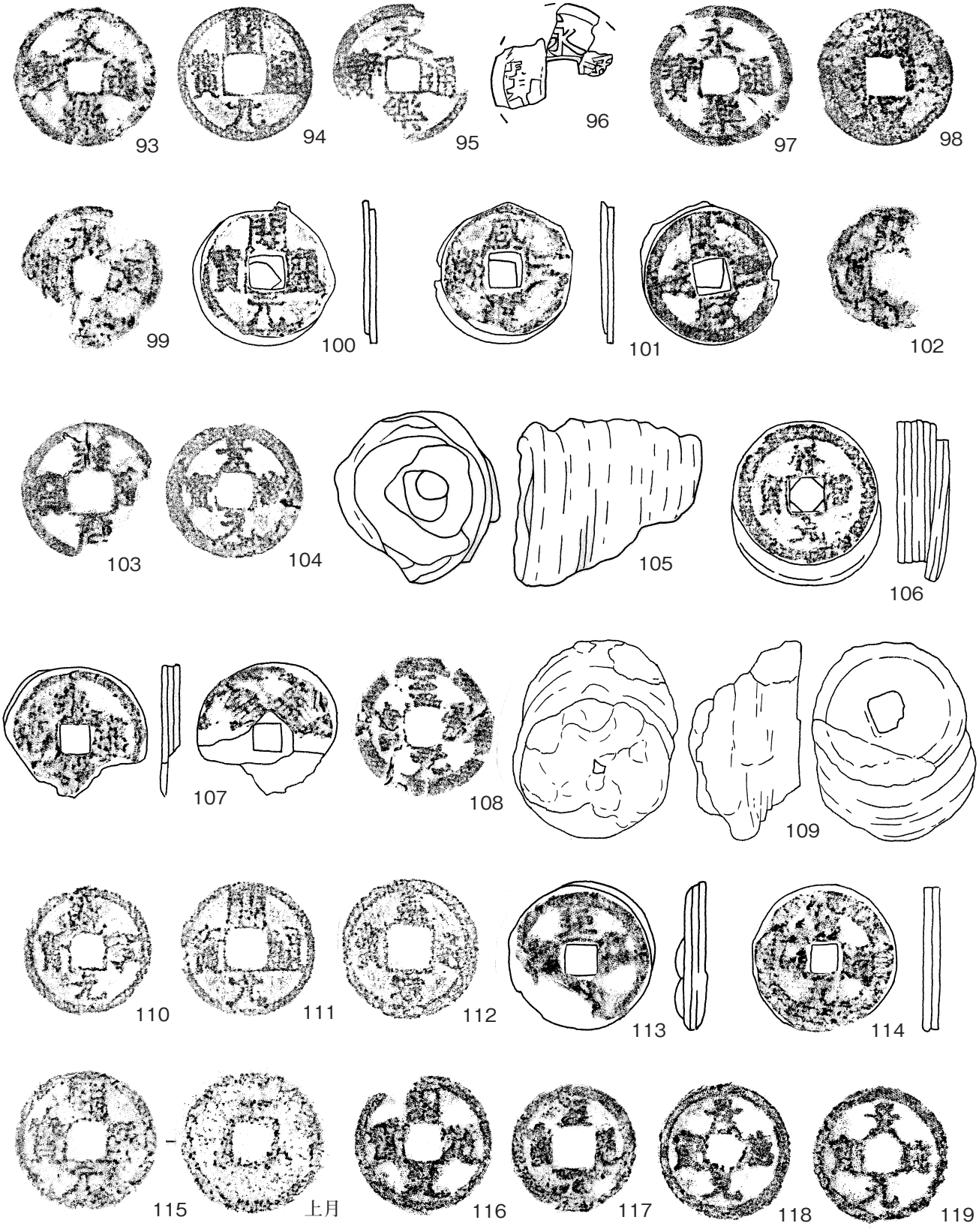
第65図　金属製品類７（非鉄金属２）



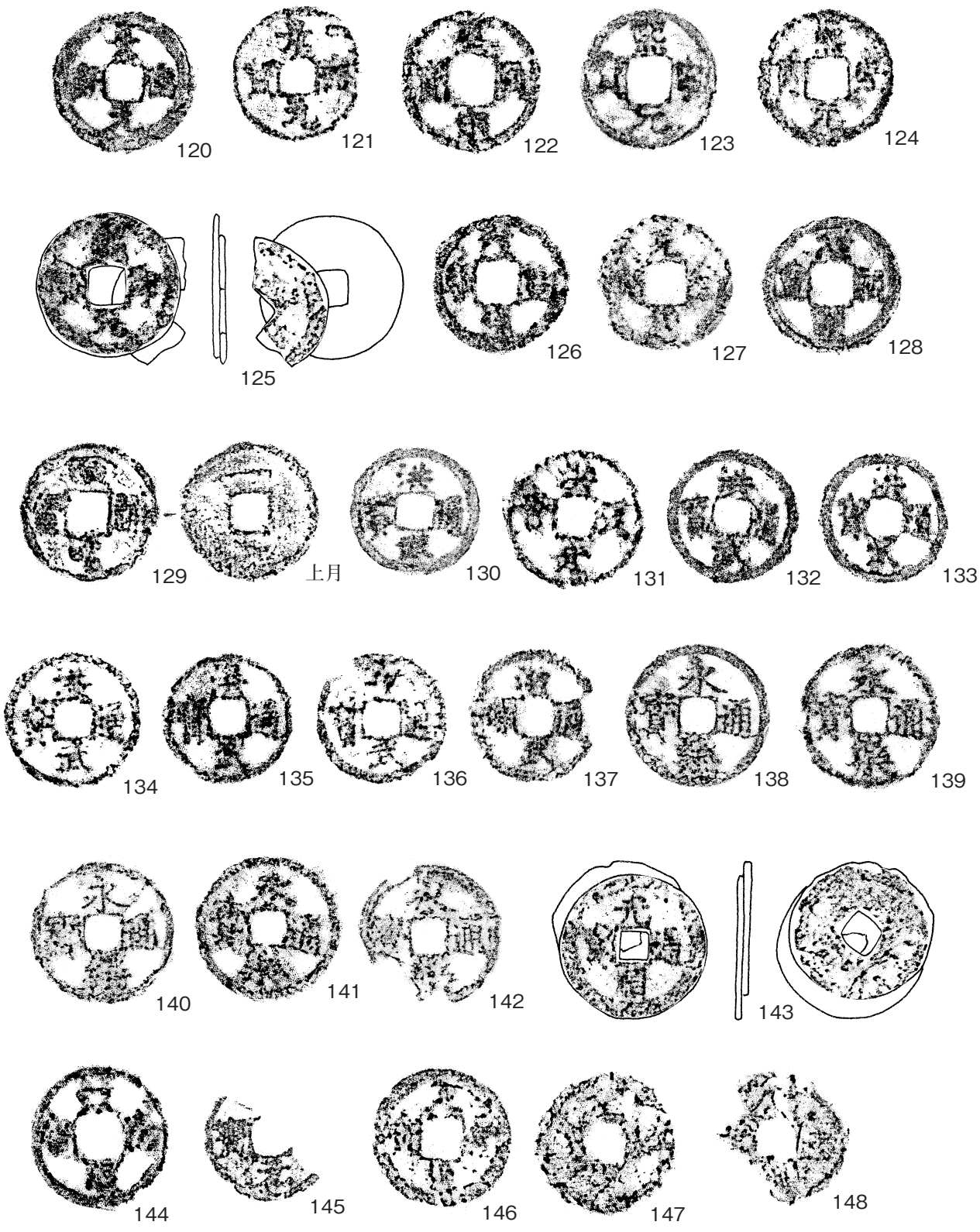
第66図　金属製品類８（非鉄金属３）



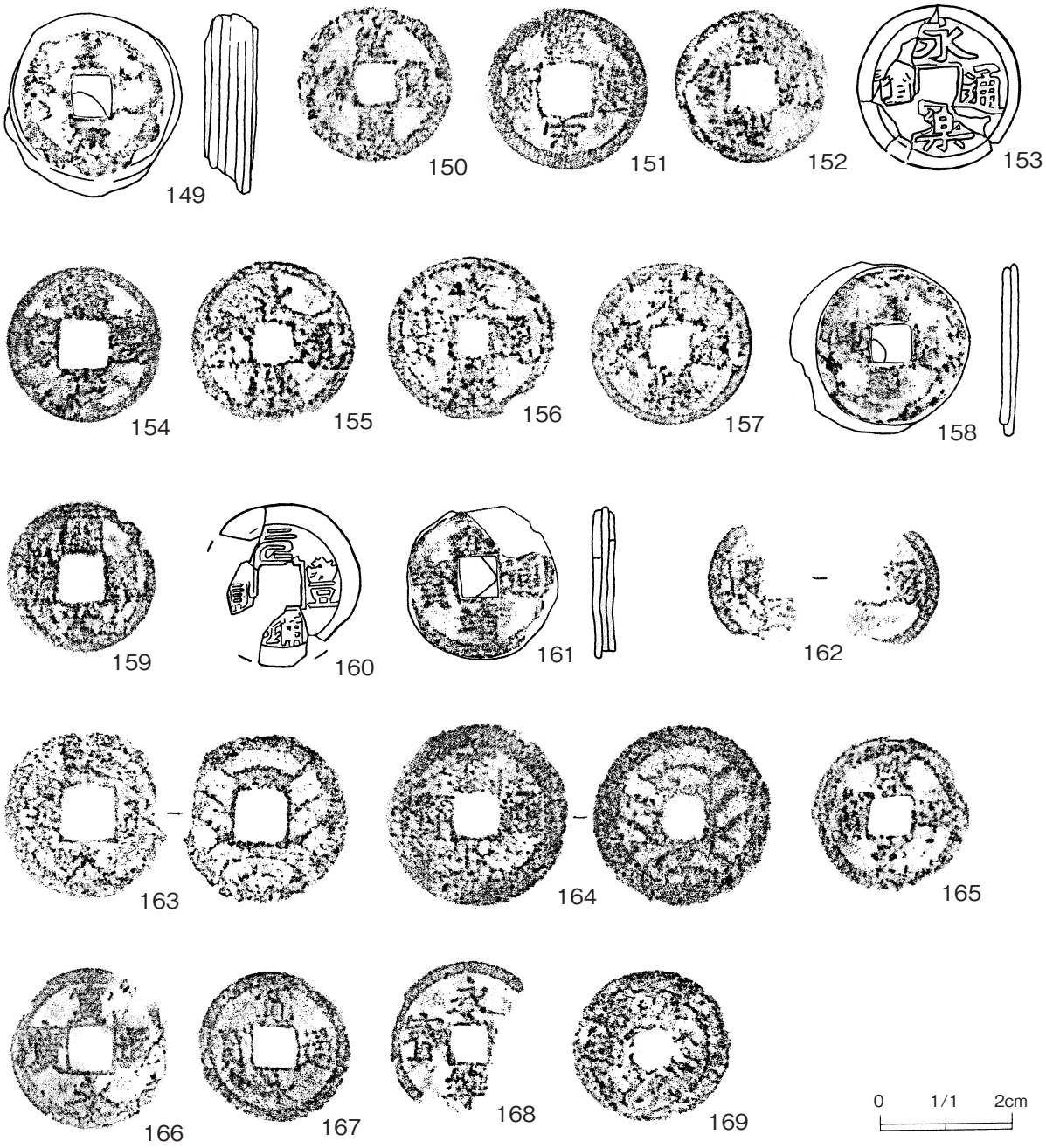
皿（金71）X線写真



第67図　金属製品類９（銭貨１）



第68図　金属製品類10（銭貨２）



第69図　金属製品類11（銭貨３）

（ ）は残存値、法量の単位はcm

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 鉄662-0104 非鉄663-0104	備考	保存処理No.
1	刀子ヵ	鉄	A区B1堀12T ロ	(5.3)	(1.2)	0.3	0013-0039	断面二等辺三角形/上面観屈曲/左茎・右刃部ヵ	
2	刀子ヵ	鉄	A区B1堀12T ロ	(6.1)	1.3	0.5	0013-0046	断面二等辺三角形/上面観屈曲/左茎・右刃部ヵ	
3	刀子ヵ	鉄	A区B1堀12T ロ	(3.6)	1.2	0.4	0013-0047	断面二等辺三角形	
4	刀子状製品	鉄	A区B1堀12T ロ	(2.4)	1.6	0.1	0013-0040	断面平坦/左茎ヵ	
5	刀子(茎ヵ)	鉄	A区9T ロ	(3.6)	2.7	0.3	0013-0052	断面二等辺三角形	
6	刀子	鉄	A区 南	(2.5)	1.3	0.4	0013-0061	断面二等辺三角形	
7	刀子(柄)	鉄	A区	①2.4	0.8	0.5	0013-0005	断面二等辺三角形	
				②5.6	1.0	0.3			
				③3.1	1.2	0.6			
8	刀子	鉄	A区	(7.3)	1.0	0.3	0013-0068	断面二等辺三角形	
9	刀子	鉄	A区	(3.7)	2.1	0.3	0013-0084	断面二等辺三角形	
10	刀子ヵ	鉄	A区	(11.6)	1.2	0.3	0013-0089	断面不明瞭	
11	火箸	鉄	A区B1堀 No.325 ニ 縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉	35.6	-	0.4	0013-0013		346
12	火箸ヵ	鉄	A区	(4.6)	-	0.7	0013-0065		
13	火打金	鉄	A区B1堀 ロⅢ層	9.7	4.2	2.2	0013-0023		
14	火打金ヵ	鉄	A区B1堀 ホ	4.6	2.2	0.3	0013-0036		
15	火打金ヵ	鉄	A区A3b堀 No.67 Ⅳ層	6.4	2.7	0.3	0013-0007		
16	釘	鉄	A区B1堀12T ロ	2.7	-	0.4	0013-0044	頭部作出(頭巻)	
17	釘	鉄	A区B1堀12T ロ	2.9	-	0.3	0013-0045	断面矩形/頭部作出(頭巻)	
18	釘	鉄	A区B1堀	(3.5)	-	0.5	0013-0048	断面矩形/頭部屈曲(頭巻)	
19	釘ヵ	鉄	A区B1堀 ロⅡ層	(4.3)	-	0.7	0013-0020	断面矩形ヵ	
20	釘ヵ	鉄	A区B1堀 ロⅤ層	(5.5)	-	0.3	0013-0024	断面矩形/頭部屈曲/発錆顕著	
21	釘ヵ	鉄	A区B1堀 ハ	3.5	-	0.3	0013-0029	断面矩形/屈曲する	
22	釘ヵ	鉄	A区B1堀 ニ	(2.3)	-	0.3	0013-0033	断面矩形	
23	釘ヵ	鉄	A区B1堀 ニ	(5.8)	-	0.5	0013-0032	断面矩形/発錆顕著	
24	釘ヵ	鉄	A区B1堀 ニ	3.1	-	0.4	0013-0030	断面矩形/頭部作出(頭巻)	
25	釘ヵ	鉄	A区B1堀 縦11層	12.7	-	0.7	0013-0038		
26	釘	鉄	A区A2堀 No.25 Ⅳ層	(6.8)	-	0.5	0013-0001	断面矩形/頭部折返し	
27	釘ヵ	鉄	A区A3a堀 No.26 Jライン5層〈Ⅳ層相当〉	(6.9)	-	1.1	0013-0003		
28	釘ヵ	鉄	A区A3b堀 No.47 Ⅳ層	(7.2)	-	0.4	0013-0006	断面矩形/上端は頭ヵ/発錆顕著	
29	釘ヵ	鉄	A区A3b堀	(4.5)	-	0.5	0013-0011	断面矩形	
30	釘ヵ	鉄	A区13T ニ	(4.7)	-	1.0	0013-0055	断面矩形/頭部屈曲ヵ	
31	釘ヵ	鉄	A区13T ニ	(3.7)	-	0.5	0013-0056	断面矩形/頭部屈曲(頭巻)	
32	釘ヵ	鉄	A区13T ニ	(4.5)	-	0.7	0013-0057	断面矩形	
33	釘ヵ	鉄	A区13T ニ	(2.7)	-	1.0	0013-0058	断面矩形	
34	釘ヵ	鉄	A区13T ニ	(4.5)	-	1.0	0013-0059	断面矩形/上端欠損ヵ	
35	釘ヵ	鉄	A区	4.9	-	1.0	0013-0062	断面長方形/頭部作出	
36	釘ヵ	鉄	A区	(2.2)	-	0.4	0013-0069	断面矩形	
37	釘ヵ	鉄	A区	(4.5)	-	0.4	0013-0070	断面矩形	
38	釘	鉄	A区	(3.2)	-	0.5	0013-0073	断面矩形/頭部作出(頭巻)	
39	釘	鉄	A区	(2.6)	-	0.3	0013-0080	断面矩形/頭部作出(頭巻)	
40	釘ヵ	鉄	A区	(2.3)	-	0.4	0013-0083	断面矩形	
41	釘ヵ	鉄	A区	(3.2)	-	0.4	0013-0086	断面矩形ヵ/頭部作出	
42	釘ヵ	鉄	A区	(6.8)	-	0.5	0013-0064	断面矩形ヵ	
43	小刀	鉄	A区B1堀 No.366 ニ縦4層〈Ⅲ層ヵ〉	19.4	2.4	0.3	0013-0015	断面二等辺三角形	372
44	小刀	鉄	A区B1堀 No.450 ニ縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉	15.5	2.8	0.3	0013-0016		316
45	小札	鉄	A区B1堀 ハ	(3.4)	2.7	0.2	0013-0027	札頭斜	
46	小札ヵ	鉄	A区B1堀 ハ	(4.5)	2.9	0.4	0013-0026		
47	小札ヵ	鉄	A区B1堀 ホ	(2.7)	2.0	0.2	0013-0034	札頭斜	
48	小札状製品	鉄	A区B1堀 ホ	(3.2)	1.6	0.1	0013-0037	屈曲する	
49	小札	鉄	A区	5.0	2.2	0.1	0013-0090	繊穴3列ヵ/黒色漆遺存/裏面の孔の縁立つ	375
50	小札ヵ	鉄	A区	4.3	3.5	0.1	0013-0067	上部丸味/完形ヵ	
51	小柄	鉄	A区B1堀ロ Ⅲ層	21.2	1.4	0.3	0013-0021		352
52	小柄	鉄	A区B1堀12Tローム下層	(10.6)	0.8	0.3	0013-0041	断面長方形	
53	小柄	鉄	A区B1堀12T ロ	(9.2)	1.6	0.4	0013-0042	断面二等辺三角形/上面観屈曲	
54	小柄	鉄	A区B1堀 ニ	(4.2)	1.6	0.3	0013-0031	断面二等辺三角形/左茎・右刃部ヵ	
55	小柄	鉄	A区A3b堀 No.70 Ⅳ層	(4.4)	1.3	0.4	0013-0008	鉄に銅を巻いている	

第28表　金属製品一覧表1（鉄製品）

（ ）は残存値、法量の単位はcm

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 鉄662-0104 非鉄663-0104	備考	保存処理No.
56	小柄	鉄	A区A列障子堀	(8.0)	1.2	0.4	0013-0012		
57	鉄鏃ヵ	鉄	A区B1堀 ロI・Ⅱ層	(5.6)	-	0.8	0013-0018		
58	鉄鏃ヵ	鉄	A区南灰粘1T	5.1	-	1.5	0013-0051		
59	環状製品	鉄	A区B1堀12T ロ	径2.9	-	0.5	0013-0043		
60	環状製品	鉄	A区A3b堀	径4.0	-	1.0	0013-0010		
61	棒状製品	鉄	A区B1堀 9T ロ	(3.8)	-	1.0	0013-0054	断面矩形	
62	棒状製品	鉄	A区A3a堀No.27 Jライン0層〈Ⅱ層ヵ〉	(7.2)	3.0	1.8	0013-0004	右側断面矩形/2本錆着/63と同一個体ヵ	
63	棒状製品	鉄	A区A3a堀 No.25 Jライン5層〈Ⅳ層相当〉	(13.5)	3.5	1.4	0013-0002	左側断面矩形/2本錆着	
64	板状製品	鉄	A区B1堀ハ	3.4	2.5	0.4	0013-0028		
65	板状製品	鉄	A区B1堀 9T ロ	(2.4)	0.7	0.2	0013-0053		
66	板状製品	鉄	A区B1堀 No.455 ニ縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉	(6.0)	4.9	0.9	0013-0017		
67	板状製品	鉄	A区B1堀	8.2	10.5	0.2	0013-0049	69と同一個体ヵ	
68	板状製品	鉄	A区B2堀+表土	(2.8)	3.4	0.1	0013-0050		
69	板状製品	鉄	A区A3b堀 No.75 Ⅳ層	5.4	5.2	0.2	0013-0009	67と同一個体ヵ	
70	塊状品	鉄	A区B1堀 ロⅢ層	2.6	2.0	1.7	0013-0022	8.3g	
71	Ⅲ	銅	A区B1堀 No.243 ハⅣ層	径9.0	高(2.2)	-	0013-0024	木質付着	299
72	端金物	銅	A区A2堀 ロ	(2.0)	0.8	-	0013-0001		
73	隅金具	銅	A区A3b堀 No.21 Mライン1層〈Ⅳ層相当〉	(2.0)	1.7	2.8	0013-0002		
74	金具	銅	A区	(2.8)	(2.8)	0.8	0013-0022		
75	金具ヵ	銅	A区B1堀 No.438 ニⅣ層	4.0	2.9	1.4	0013-0008		
76	把手状製品	銅	A区B1堀 ロⅢ層	2.9	1.9	1.0	0013-0010		
77	煙管(吸口)	銅	A区	6.7	1.0	-	0013-0018		
78	刀装具ヵ	銅	A区A3b堀 No.20 Mライン1層〈Ⅳ層相当〉	4.1	2.2	2.2	0013-0023		
79	はばき	銅	A区A3b堀 No.61Ⅴ層	3.6	1.4	1.2	0013-0004		
80	小柄(柄)	銅	A区A3b堀 No.64 Ⅴ層	(5.6)	1.7	0.6	0013-0005		
81	弾丸	銅	A区A3b堀 No.36 Ⅴ層	1.0	-	-	0013-0003	3.1g	
82	弾丸	鉛	A区B1堀 ロI・Ⅱ層	1.0	-	-	0013-0013	4.6g	
83	弾丸	鉛	A区B1堀 ロⅢ層	1.0	-	-	0013-0011	5.6g	
84	弾丸	鉛	A区B1堀 ロⅢ層	1.2	-	-	0013-0012	7.4g	
85	弾丸	鉛	A区B1堀 9T西 Ⅳ層	1.2	-	0.8	0013-0014	6.5g	
86	野沓	銅	A区B1堀 No.226 ハⅣ層	25.2	6.2	1.1	0013-0006		382
87	筒状製品	銅	A区B1堀 No.276 ハⅢ層	径2.8	高1.5	0.8	0013-0025	中に円板状木製品	338
88	板状製品	銅	A区B1堀 No.480 イⅣ層	3.5	5.0	0.1	0013-0009		
89	板状製品	銅	A区B1堀12T ロI層	4.6	5.7	0.1	0013-0015		
90	板状製品	銅	A区B1堀 9T ロ	1.9	2.1	0.1	0013-0016		
91	板状製品	銅	A区B1堀 No.437 ニ縦11層〈Ⅱ～Ⅲ層ヵ〉	7.0	8.9	0.1	0013-0007		
92	筒状製品ヵ	銅	A区	2.1	1.2	0.3	0013-0019		

第29表　金属製品一覧表2（鉄製品・非鉄金属）

No.	出 土 地 点	銭種(銭貨名は番号順)	遺物ID (651-0104-0013)
93	A区 B１堀 イⅠ層	永楽通宝	0001
94	A区 B１堀 7T No.8 イⅣ層	開元通宝	0002
95	A区 B１堀 イ	永楽通宝	0003
96･97	A区 B１堀 ロⅢ層	永楽通宝２	0004･５
98	A区 B１堀 No.67 ロⅣ層	不明	0006
99	A区 B１堀 No.113 ロⅣ層	永楽通宝	0007
100･101	A区 B１堀 No.141 ロⅣ層	開元通宝+不明(錆着)、咸淳元宝+□□通宝(錆着)	0008･９
102	A区 B１堀 No.68 ロⅤ層	不明	0010
103	A区 B１堀 ハ	天聖元宝	0011
104	A区 B１堀 No.330 ニ４層〈Ⅲ層ヵ〉	景徳元宝	0012
105	A区 B１堀 No.361 ニ４層〈Ⅲ層ヵ〉	不明(熔着)約25	0013
106～108	A区 B１堀 ニ	祥符元宝+不明(錆着)７、永楽通宝+皇宋通宝+不明(錆着)、至道元宝	0014～16
109	A区 B１堀 ホ縦２層〈Ⅳ層ヵ〉	不明(錆着)約18	0017
110	A区 B１堀 ホ縦３層〈Ⅳ層ヵ〉	熙寧元宝	0018
111･112	A区 B１堀 ホ	開元通宝、皇宋通宝	0019･20
113･114	A区 B１堀 縦10層	天□□□+不明(錆着)２、□通元宝〈右廻〉+不明(錆着)	0021･22
115～148	A区 A２堀 No.24 Ⅴ層	開元通宝２、至道元宝ヵ、景徳元宝４、皇宋通宝、熙寧元宝３+不明(錆着)、元豊通宝２、元祐通宝、政和通宝、洪武通宝８、永楽通宝５、光順通宝+不明(錆着)、□□元宝〈右廻〉２、□□通宝〈右廻〉、不明２	0023～56
149	A区 A３b堀 No.41 Ⅳ層	皇宋通宝+不明(錆着)６	0057
150	A区 A３b堀 No.50 Ⅳ層	元豊通宝	0058
151	A区 A３b堀 No.74 Ⅳ層	皇宋通宝	0059
152	A区 A３b堀 No.80 Ⅳ層	熙寧元宝ヵ	0060
153	A区 A３b堀 Ⅳ層	永楽通宝	0061
154	A区 A３b堀 No.17 Mライン１層〈Ⅳ層相当〉	□□□宝	0062
155･156	A区 A３b堀 7T No.16 Ⅳ層相当	永楽通宝２	0063･64
157	A区 A３b堀 7T No.20 Ⅳ層相当	永楽通宝	0065
158	A区 A３b堀 No.83 Ⅴ層	不明(錆着)２	0066
159～162	A区 A３b堀	開元通宝、元豊通宝、嘉靖通宝+不明(錆着)２、洪武通宝	0067～70
163	A区 南 西端落込 ２層	文久永宝	0071
164	A区	寛永通宝	0072
165～169	A区	咸平元宝、寛永通宝２、永楽通宝、不明	0073～77

第30表　金属製品一覧表３（銭貨）



銭貨（金115～148）

第５節　金属の生産

本調査区では熔融物付着土器・鞴の羽口・金属加工滓が出土した。これまでは時間等の制約から主に金属加工滓の出土重量の報告であったが、本報告では他の資料や滓の図についても扱いたい。

熔融物付着土器（１～６）土器類より再掲

１は被熱硬化し内面に発泡痕のある黒色熔融物が付着する。土師質だが丸底・堅緻で専用土器か（土55)。２は内外断面に発泡する灰白色・暗赤褐色光沢・黒色光沢の熔融物、外面に黒色・灰白色の熔融物が付着する。かわらけ転用の取瓶（土124)。３は被熱硬化し黒色部分に微細な金粒子が付着する。かわらけ転用坩堝か（土164)。４は内面に発泡する黒色～暗赤褐色光沢物質に灰白色～緑白色（緑青）物質が付着する。底辺部に付着が見られない。口縁部が被熱変形する。かわらけ転用（土211)。５は内面に発泡する暗赤褐色物質、微細な黒色・緑白色物質が付着する。体部が丸みを帯び専用土器か（土212)。６は内外面に発泡する黒～暗赤褐色物質が、内面にはさらに淡黄色物質が付着する。かわらけ転用（土536)。１～５はＢ１堀、６はＡ区一括出土。

鞴の羽口（７・８）

７は断面が内部から外面にかけて赤褐色・黒色となり表面は白色である。発泡痕のある黒色付着物のある左側がホド（炉側）に近い部分。外径８～10cm程度か。Ｂ１堀出土。８は左側に黒色の熔融物が付着する。外径７cmか。Ａ区一括出土。

金属加工滓（９～27）

金属加工滓は概略、騎西城で主体を占める褐色錆に覆われた滓（褐色錆滓)、黒色光沢物質が見られる滓（黒色光沢滓)、黒色で中実の滓（黒色中実滓/割れ口に鈍い光沢があるものあり)、白色物質が付着する滓（白色滓)、赤褐色物質が付着する滓（赤褐色滓）に大別する。いずれも共存するものがあるが特徴的なものを優先する。さらに磁着の有無を確認する。

本報告では、褐色滓のなかでも大型のものや椀形滓、比較的大型の黒色中実滓などを図化・掲載する。

褐色錆滓のうち椀形滓と思われるものは、12・13・16～18・20～22・24・27、黒色中実滓では14・19が、白色滓では15が該当するか。

黒色中実滓は、９～11・25・26でいずれも上面の発泡が顕著で25は特に堅緻・緻密である。15は光沢のない暗灰色滓の上面に白色物質が付着する。16は炭化物・植物質・小石が付着する。

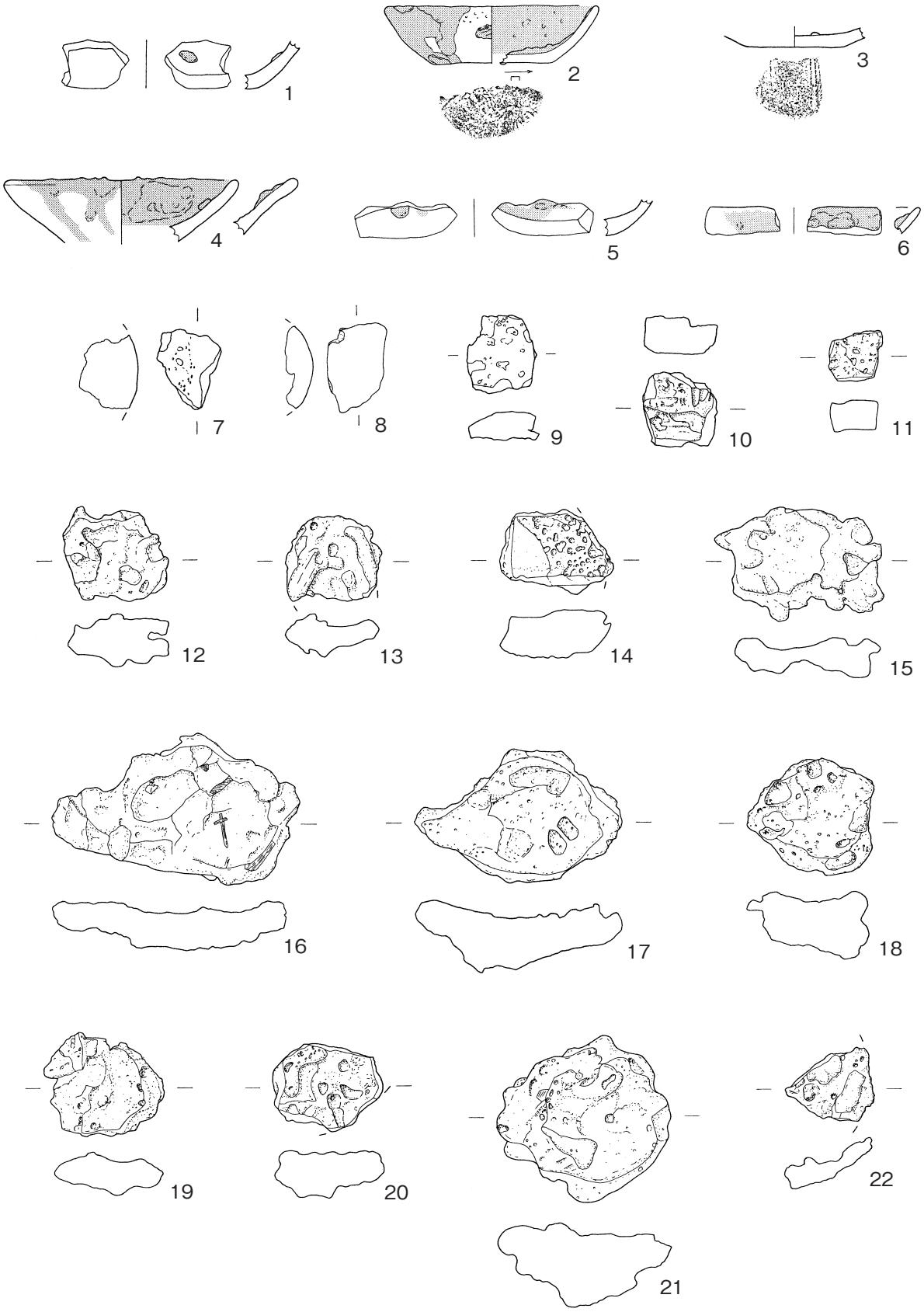
23は天地不明瞭で上面は立ち上がり黒色光沢部を持ち、下面は細かい霰煎餅状である。

滓を先述の分類で遺構ごとに重量を集計すると（第31表)、種別では褐色錆滓の磁着ありが1,252g、遺構別Ｂ１号堀で1,716gと一番多く出土している。総量2,214gである。

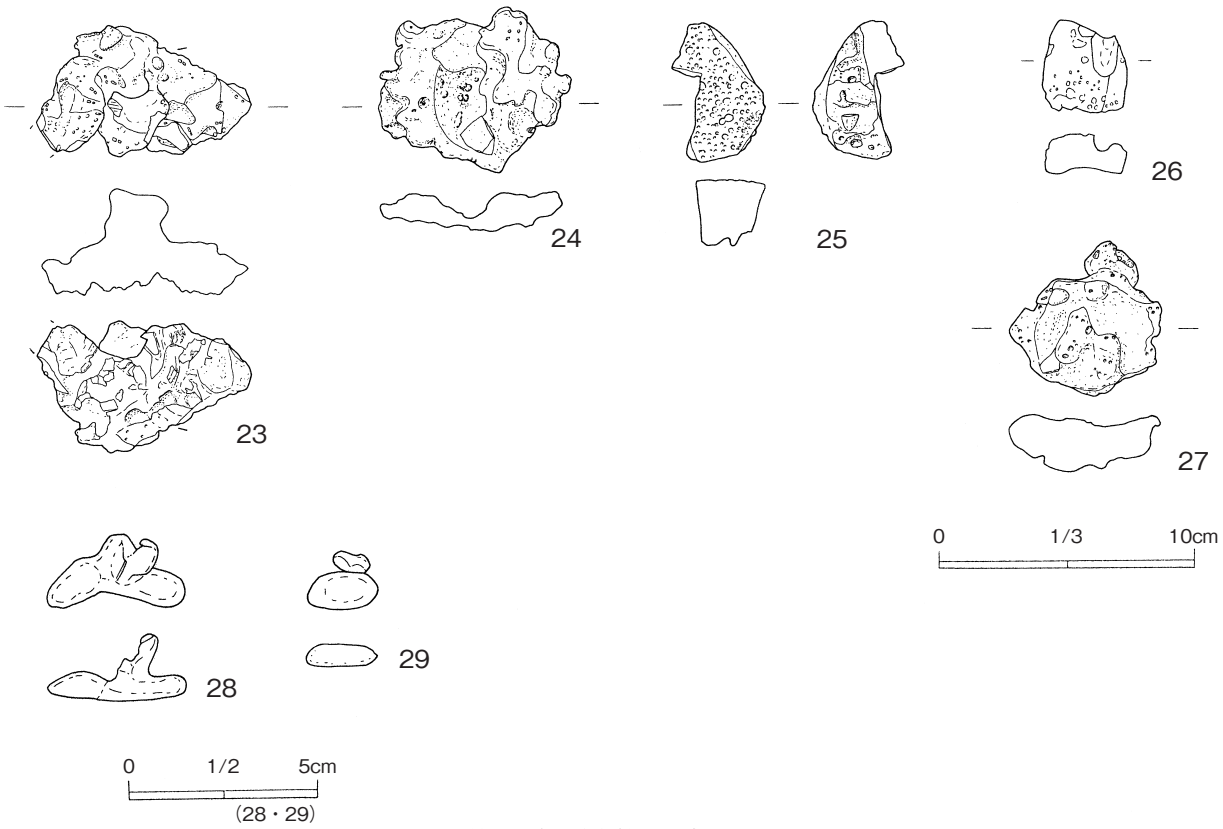
また、銅の塊状品28・29、銭貨の金105は高熱により熔融したものである。28・29はＡ区一括出土で年代は下る可能性はあるが、105を含め戦火あるいは、弾丸などの制作による熔融の可能性を有する。

	褐色錆滓		黒色光沢滓		黒色滓		白色滓		赤褐色滓		（単位ｇ）	
	磁着有	磁着無	磁着有	磁着無	磁着有	磁着無	磁着有	磁着無	磁着有	磁着無	小計	
Ｂ１堀	1016	202		20	288	26	110	19	33	5	1716	
Ｂ２堀	30											
Ａ３ａ堀						100						
Ａ３ｂ堀	68							5			5	
Ａ区	65	63		20	58	126				7	331	
Ｂ区	30											
一括	43		5								48	
小計	1252	265	5	39	346	251		23	33		2214	
										※図掲載分を含む		

第31表　金属加工滓出土地点別重量集計表



第70図　金属加工滓１



第71図　金属加工滓２



A区Ｂ１堀　調査

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm

図No.	器種	産地（材質）	出土地点	長さ・口径	幅・底径	厚さ・器高	遺物ID	備考
1	土器・熔融物付着土器	在地	A区 B１堀 17T イ	-	-	-	K205	被熱/内面に熔融物（黒色）付着/土55
2	土器・熔融物付着土器	在地	A区 B１堀 No.89ロⅣ層	*11.0	*6.0	2.9	K254	内外断面一部に熔融物（灰白色・暗赤褐色・黒色）付着とりべ/底部外面 板状痕/土124
3	土器・熔融物付着土器	在地	A区 B１堀 ロ	-	*5.0	-	K206	被熱/金粒子付着/土164
4	土器・熔融物付着土器	在地	A区（B１堀 ニⅢ層、１T）	*12.0	-	-	K203	被熱/熔融物（暗赤褐色・黒色・緑白色・灰白色）が内面に厚く、外面は口縁のみに付着/銅付着/口縁一部垂れる/土211
5	土器・熔融物付着土器	在地	A区 B１堀（ニⅢ層、ハ）	-	-	-	K204	被熱/内面に熔融物（暗赤褐色・黒色・緑白色）付着/土212
6	土器・熔融物付着土器	在地	A区	-	-	-	K207	被熱/内外に熔融物（淡黄色・黒色）付着/土536
7	土器・鞴の羽口	在地	A区 B１堀 No.251ハⅣ層	(3.3)	-	(4.0)	素他31	表面熔融物付着/白色
8	土器・鞴の羽口	在地	A区	(3.1)	-	(1.4)	素他29	ホド側に金属熔融物が付着
9	滓・黒色中実	在地	A区 B１堀 イⅠⅡ層	4.0	3.5	1.4	鋳01	39.9g/上面発泡顕著/下面比較的平坦シワあり
10	滓・黒色中実	在地	A区 B１堀 12Tベルト	3.8	3.7	2.0	鋳19	38.2g/黒色無光沢/上面に大小の気泡痕/下面 霰煎餅痕/弱い磁力あり
11	滓・黒色中実	在地	A区 B１堀 12T ロⅠ層	2.5	2.7	1.6	鋳15	25.7g/暗灰色/中実/上面気泡痕多数/下面弱い凹凸/褐色錆/磁着なし
12	滓・褐色錆（椀型滓ヵ）	在地	A区 B１堀 ロⅠ・Ⅱ層	4.8	5.4	2.5	鋳05	71.2g/ほぼ全面褐色錆/一部細かい気泡痕/下面細かい凹凸/磁着あり/欠損なし
13	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	A区 B１堀 No.103 ロⅣ層	4.4	5.0	2.2	鋳04	39.7g/ほぼ全面褐色錆、一部黒色無光沢/小石付着/下面細かい凹凸/弱い磁着あり/一部欠損
14	滓・黒色中実（椀型滓ヵ）	在地	A区 B１堀 No.139 ロⅤ層	4.3	5.8	2.5	鋳17	99.1g/上面褐色錆、一部黒色無光沢/上下面 大～小の気泡痕/下面浅い凹凸/磁着あり/欠損
15	滓・白色（椀型滓）	在地	A区 B１堀 ロⅤ層	5.9	8.5	2.0	鋳03	109.5g/暗灰色無光沢/上面一部に白色物質、上下面に褐色錆付着/下面細かい凹凸/磁着あり/欠損なし
16	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	A区 B１堀 No.249 ハⅣ層	7.8	12.7	2.5	鋳06	138.0g/ほぼ全面褐色錆/植物質?、炭、小石付着/付着物を残すため錆落とし未着手/磁着なし/欠損なしヵ
17	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	A区 B１堀 No.253 ハⅣ層	6.9	10.6	3.8	鋳07	245.0g/ほぼ全面褐色錆、一部黒色無光沢/気泡痕/下面浅い凹凸/磁着あり/欠損なし
18	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	A区 B１堀 No.253 ハⅣ層	6.0	6.5	3.5	鋳08	141.1g/ほぼ全面褐色錆、一部黒色無光沢/全面に大小の気泡痕/下面凹凸/磁着あり/欠損なしヵ
19	滓・黒色中実（椀型滓）	在地	A区 B１堀 No.263 ハⅣ層	5.4	6.1	2.2	鋳18	89.9g/上面頂部黒色光沢、他黒色無光沢、一部白色/下面浅い凹凸、一部黒色無光沢/上下面 大～小の気泡痕/磁着あり
20	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	A区 B１堀 ニ	4.5	5.6	2.5	鋳09	81.0g/上面ほぼ黒色無光沢一部赤褐色、下面ほぼ褐色錆/上面大小の気泡痕/下面浅い凹、植物質痕/磁着あり/一部遺存
21	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	A区 B１堀 ホ	8.5	9.0	4.3	鋳10	321.0g/上下面ほぼ褐色錆、一部白色物質、木質、小石付着/上下面大小の気泡痕/下面凹凸、粟粒状凸/磁着あり/欠損なし
22	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	A区 B２堀+表土	3.7	4.5	2.6	鋳11	30.4g/上下面褐色錆付着、断面黒色無光沢、小さい気泡痕/下面粟粒状凸/磁着あり/一部遺存
23	滓・黒色中実	在地	A区 A３a堀 No.38	5.2	7.5	4.2	鋳12	99.7g/上面黒色光沢部多い、一部褐灰色/下面黒色、暗赤褐色、赤褐色/上面一部鳥肌状/下面木質痕/磁着なし/全面欠損部多
24	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	A区 A３b堀 No.84	6.6	7.7	1.5	鋳13	67.7g/上下面褐色錆、一部黒色無光沢/下面細かい凹凸、粟粒状凸/小石付着/磁着あり/欠損なし
25	滓・黒色中実	在地	A区 ７T	5.5	3.5	2.6	鋳16	80.2g/青黒色/中実/上面全面気泡痕/下面鋭い凹凸/側断面弱い凹凸/褐色錆/磁着なし
26	滓・黒色中実	在地	A区	3.6	3.4	1.5	鋳02	36.3g/上面発泡顕著/下面比較的平坦/磁着なし
27	滓・褐色錆（椀型滓）	在地	B区 １堀 No.２	6.2	6.0	2.0	鋳14	76.2g/ほぼ全面薄い褐色錆、一部黒色無光沢/上下面中小の気泡痕/下面細かい凹凸/磁着あり/欠損なし
28	塊状品	銅	A区	3.6	2.0	1.8	0013-0017	15.1g
29	塊状品	銅	A区	1.9	1.5	0.6	0013-0020	4.7g

第32表　金属生産関連遺物一覧表



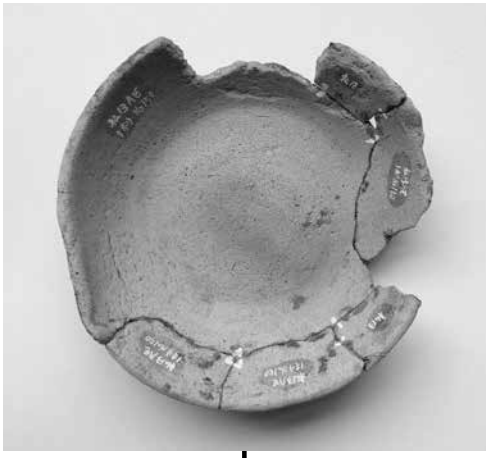
A列障子堀　調査



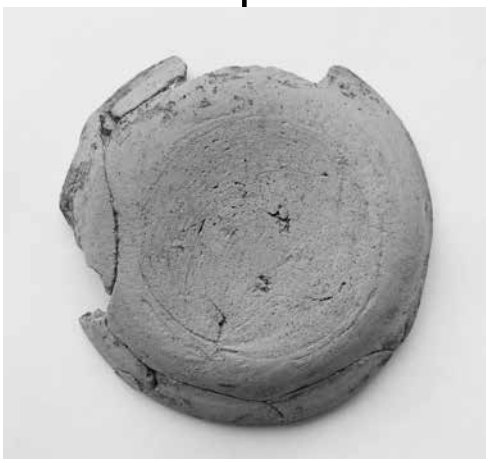
A列障子堀　完掘

図　　版

図版 1　　出土遺物　土器類 1





















かわらけ





















かわらけ

図版 3　　出土遺物　土器類 3





















かわらけ





















かわらけ

図版 5

出土遺物　土器類 5

















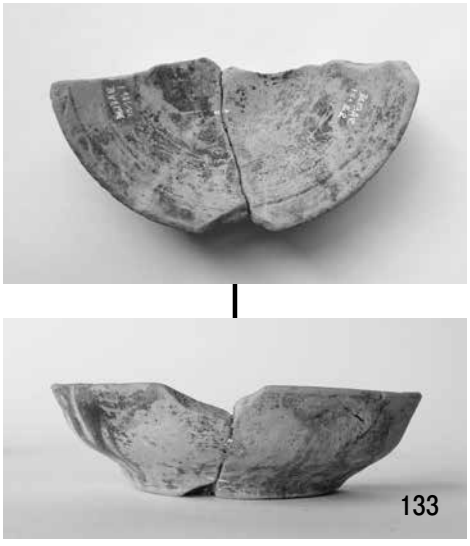


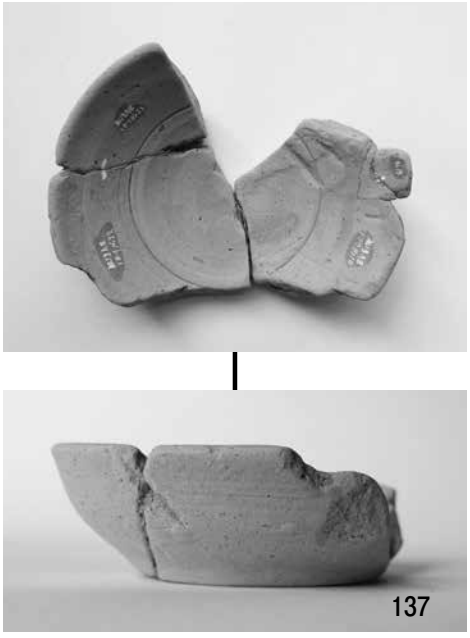


かわらけ







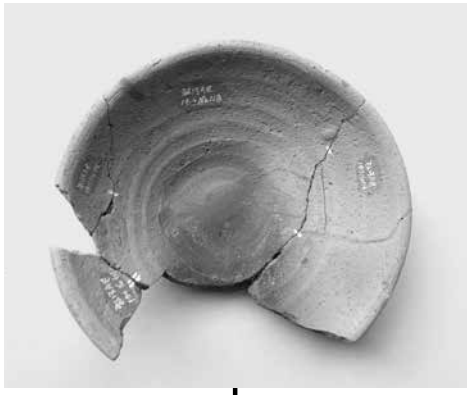


かわらけ

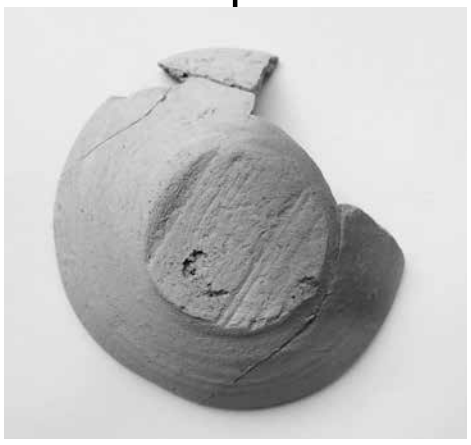




















かわらけ















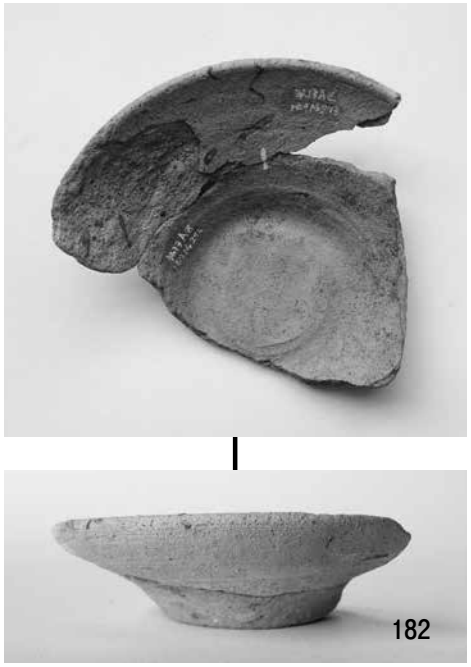






かわらけ

















かわらけ





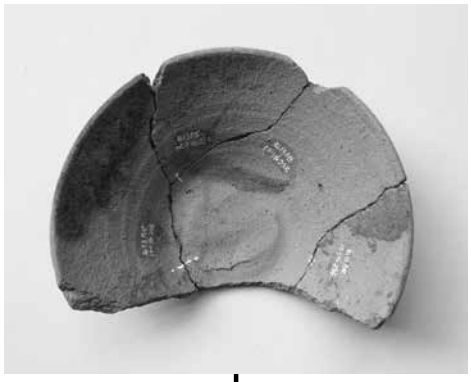














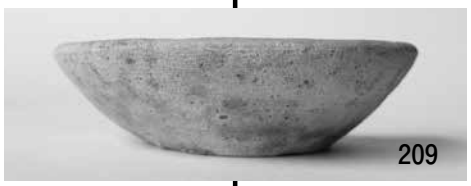


かわらけ

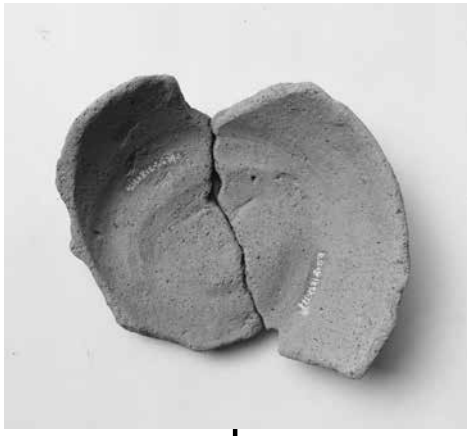


















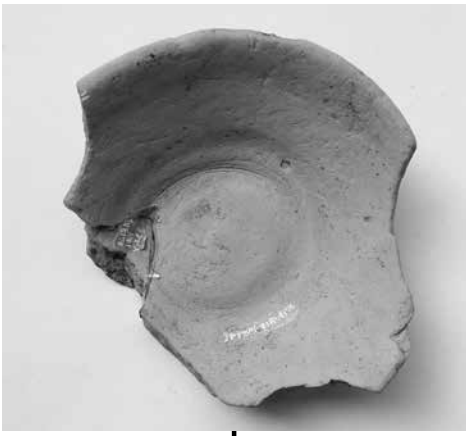


かわらけ





















かわらけ







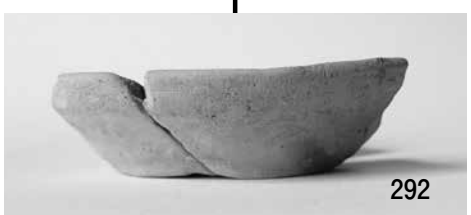












かわらけ





















かわらけ













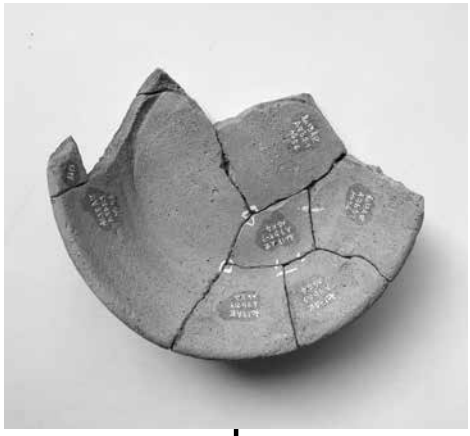








かわらけ









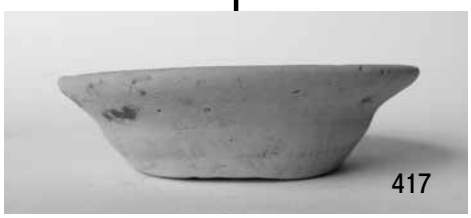












かわらけ

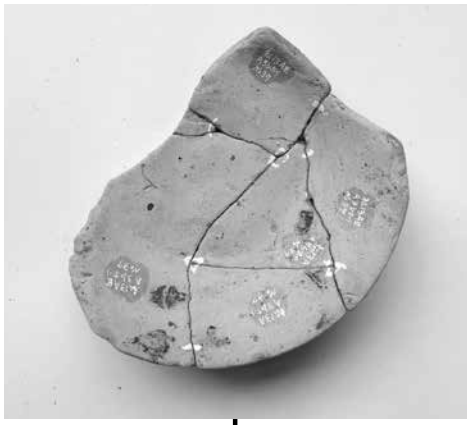




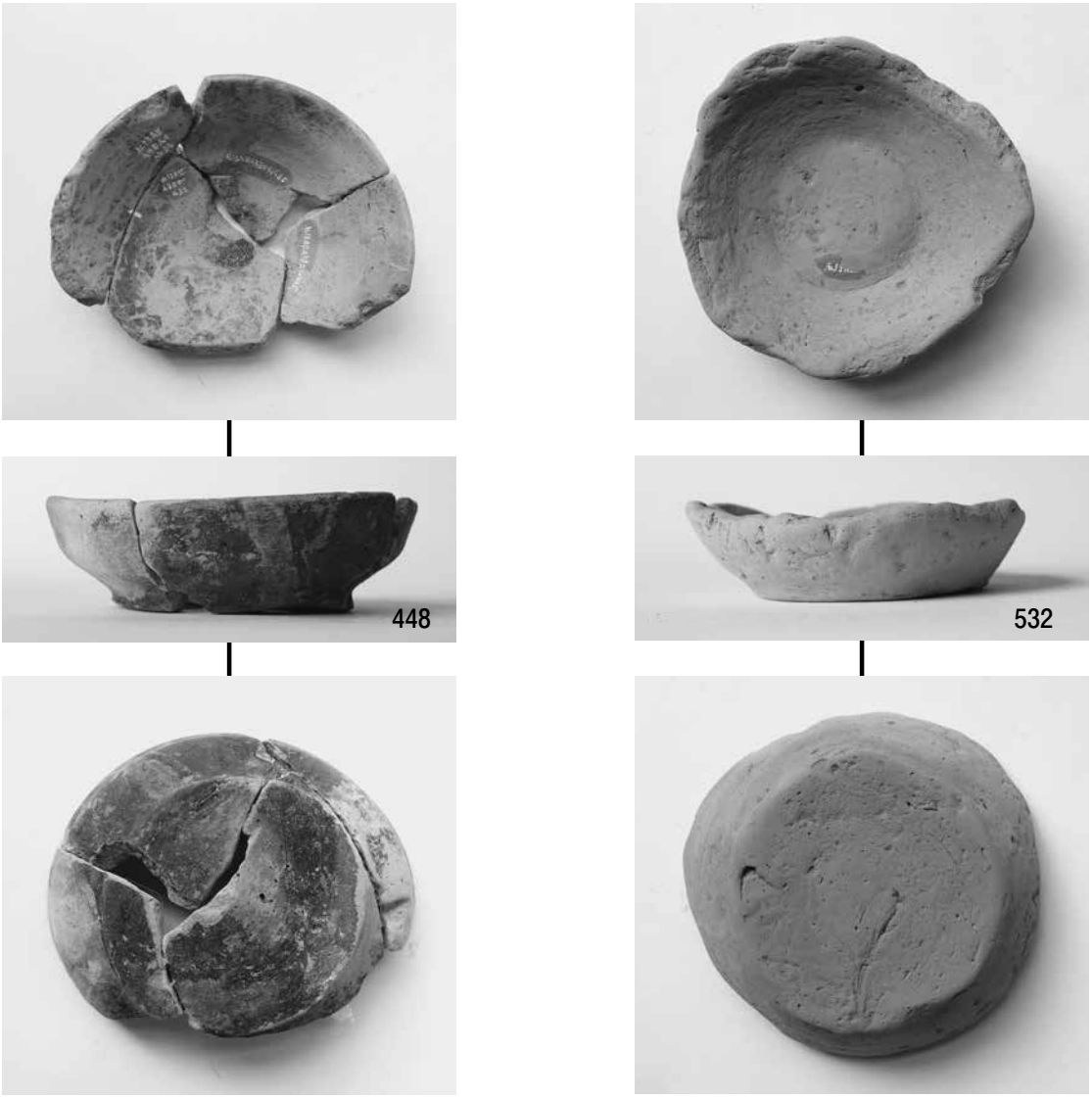







かわらけ



かわらけ



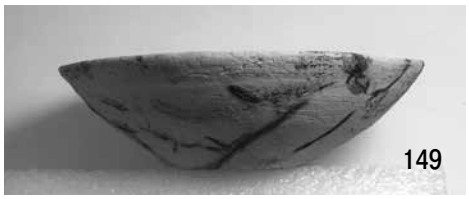
1堀　ホ　縦セクション



稜下



段上





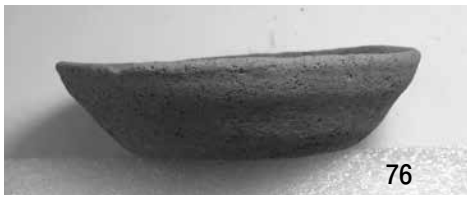
椀形



口縁部外面ナデ



凹（深い）



凹（並）



凹（浅い）



凹（外反）



薄手・灰白色

かわらけ分類





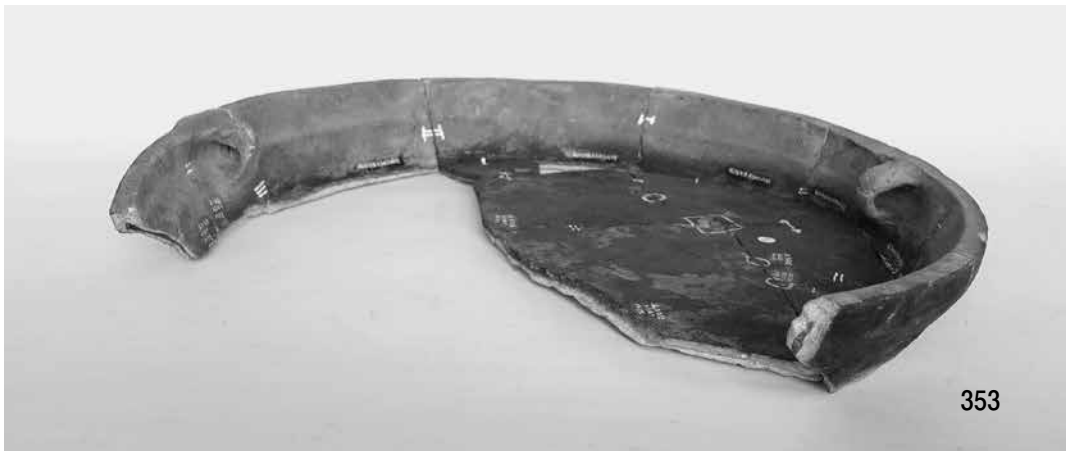






ほうろく


348

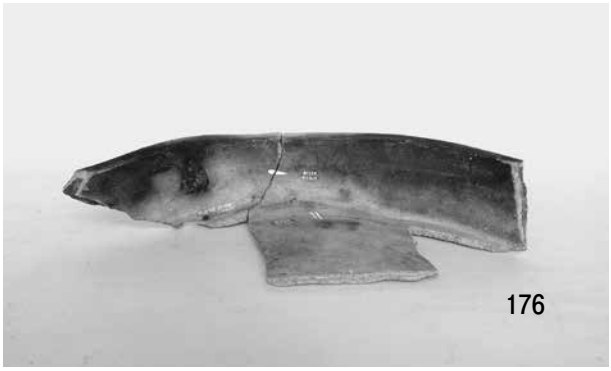

353

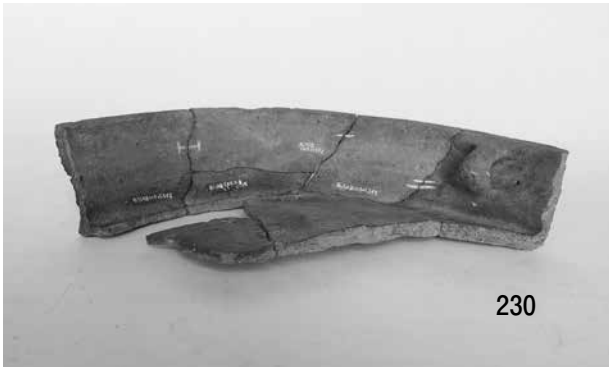

384


385

ほうろく


68


176


230


239


351


539


540



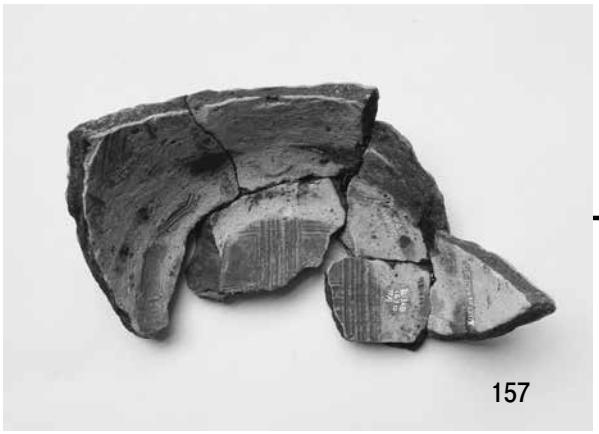




火鉢


127


129


157




323

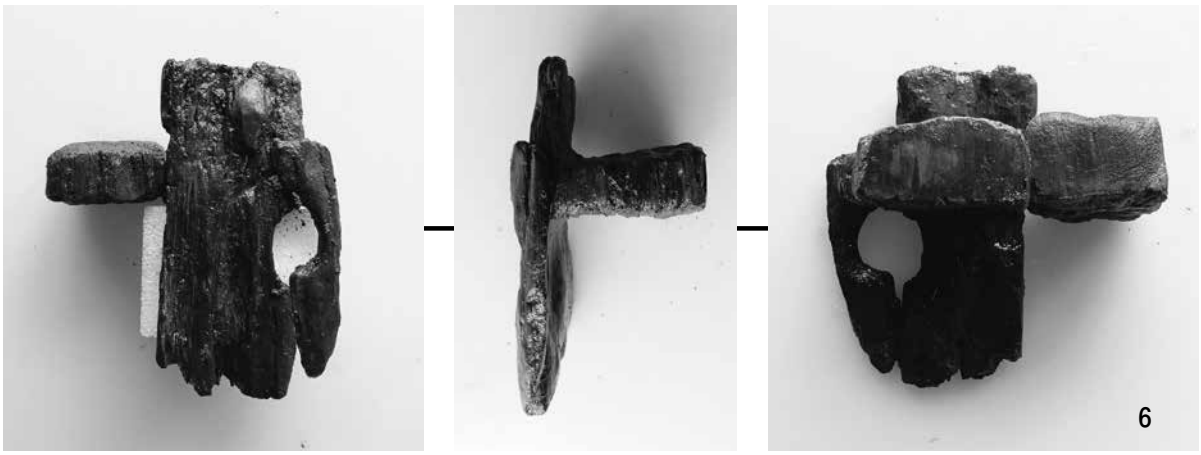



389

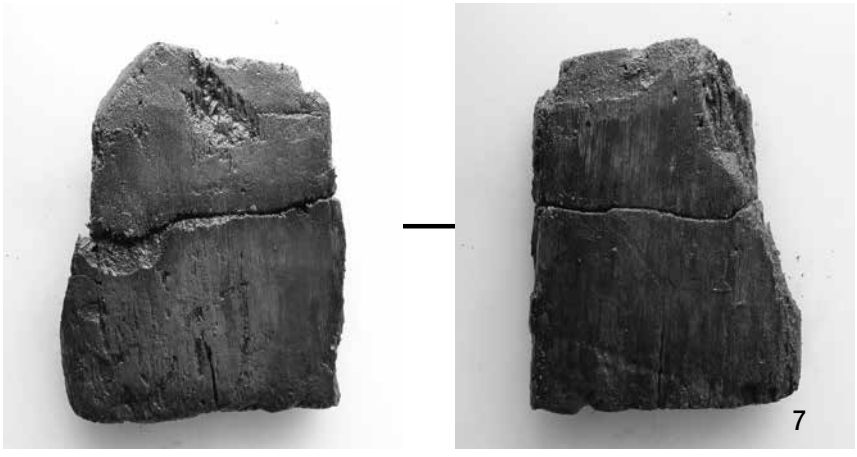
在地　擂鉢

出土遺物　木製品 1





連歯下駄



差歯下駄－歯



8



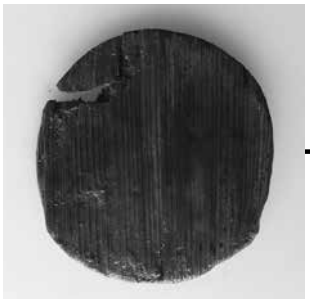
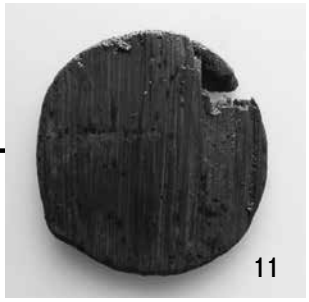
9

側板

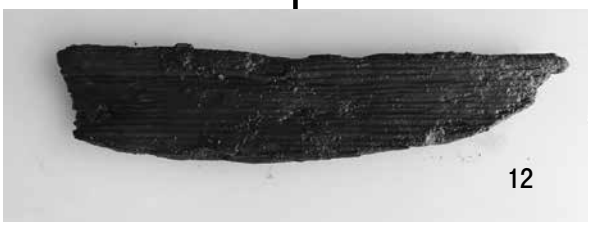


10

側板



11

底板



12

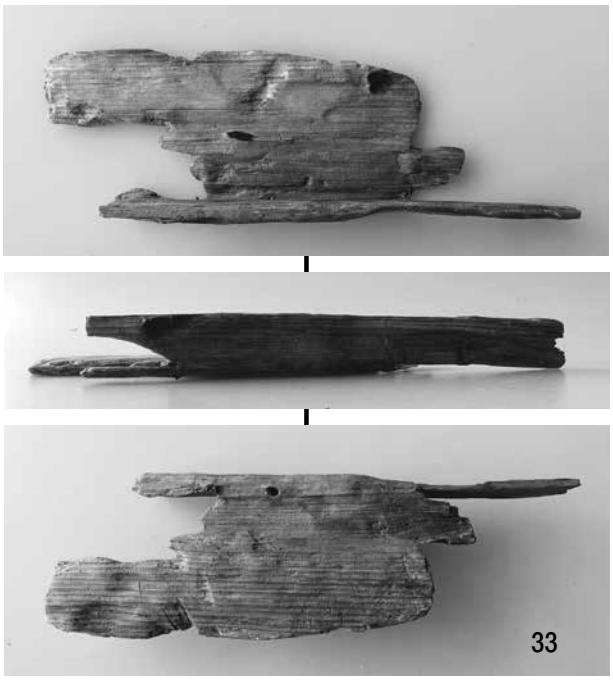
底板



13

側板

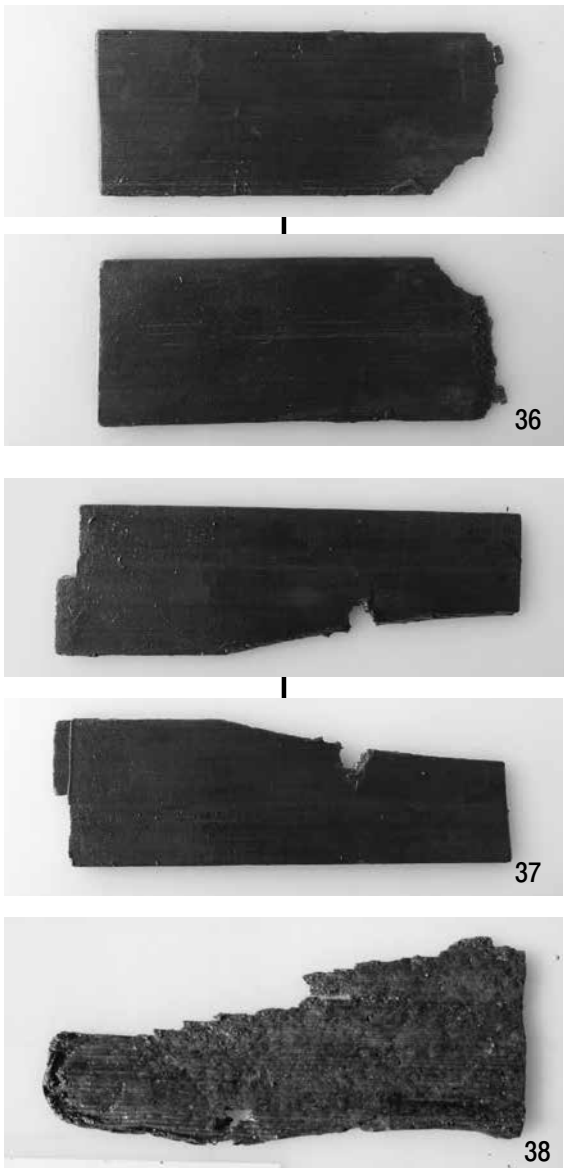
桶類



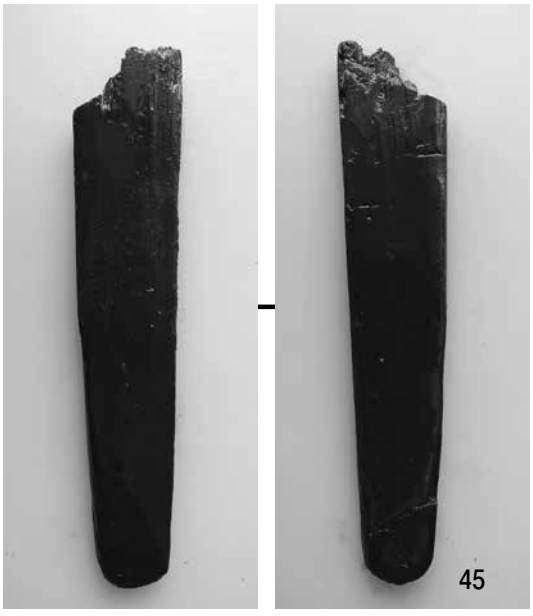
折敷 - 縁・底板



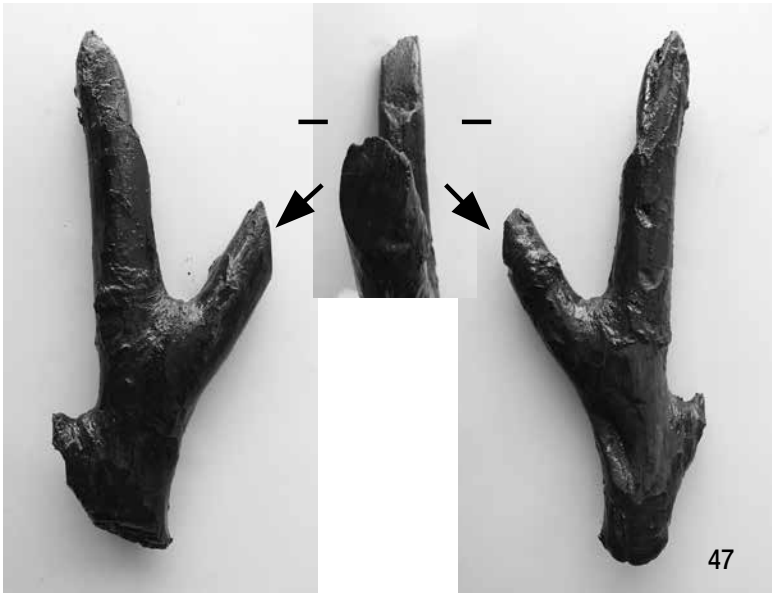
折敷 - 縁

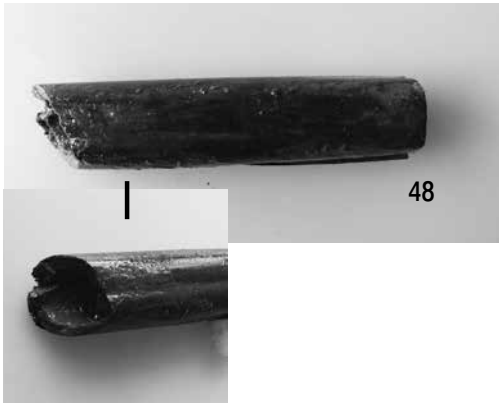


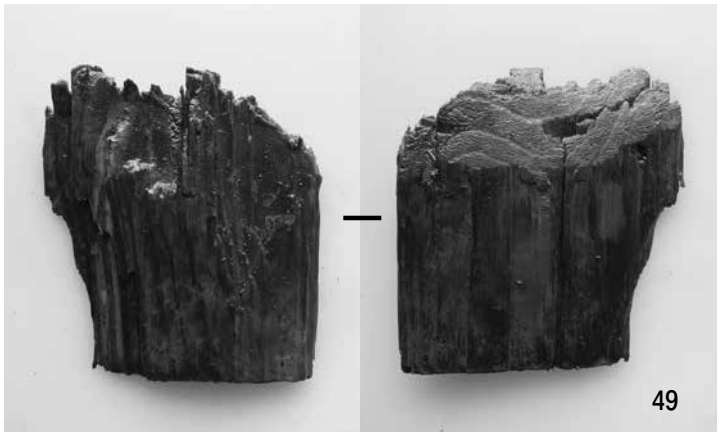
取り上げ直後

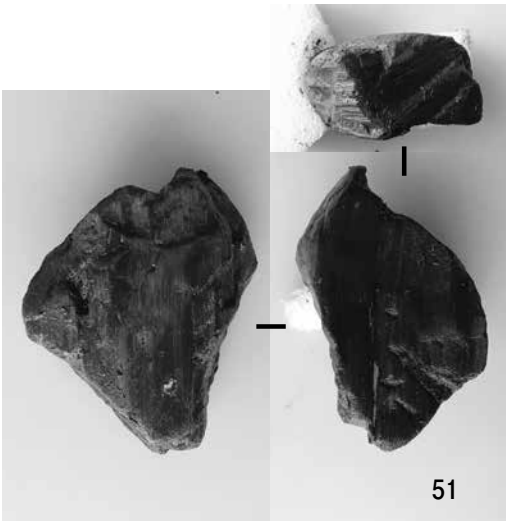


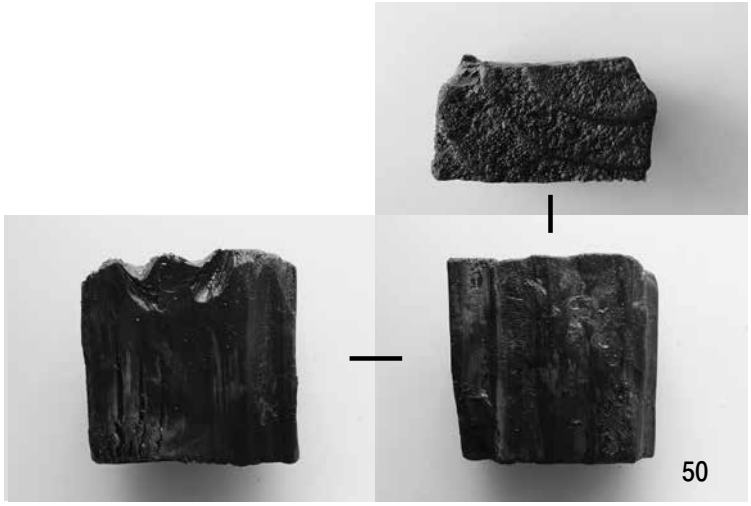
杓子状製品

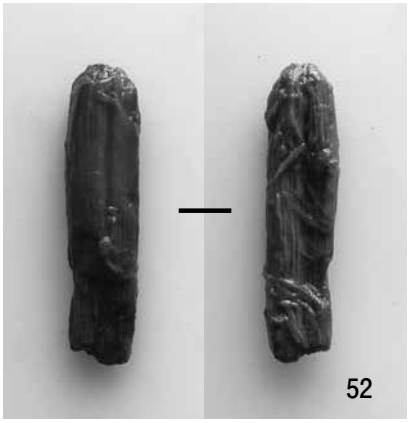




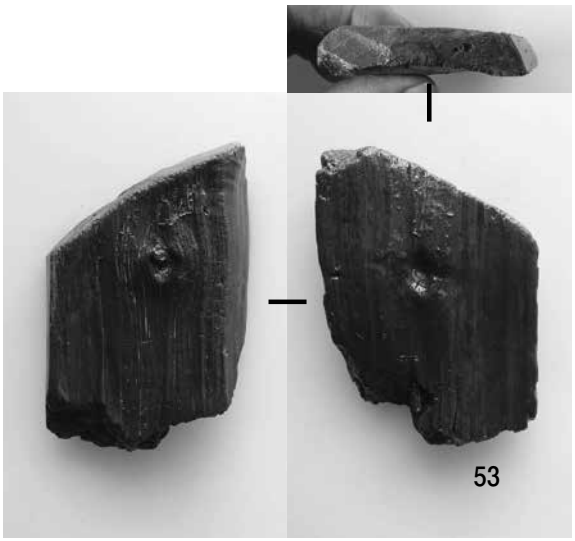


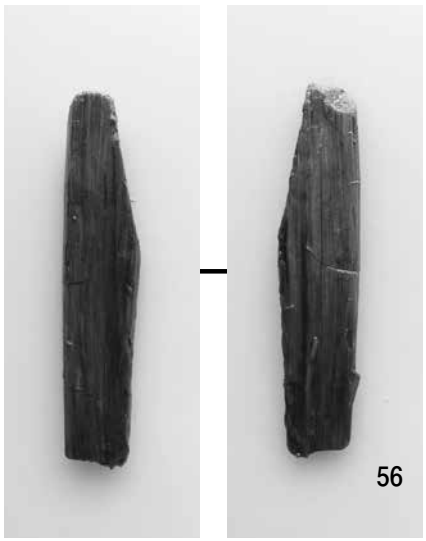




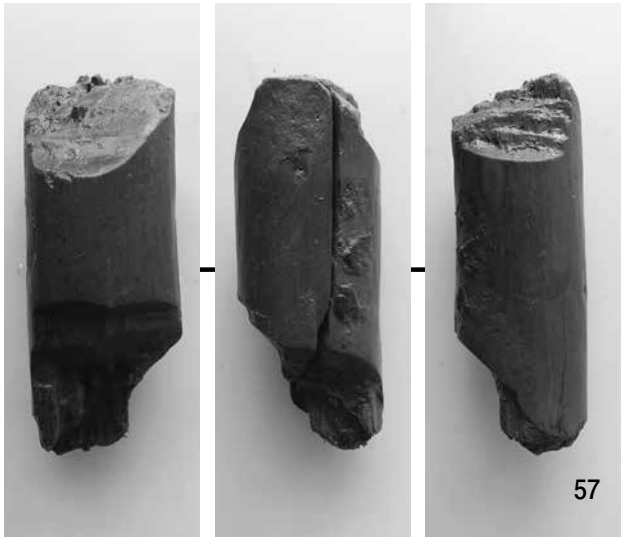


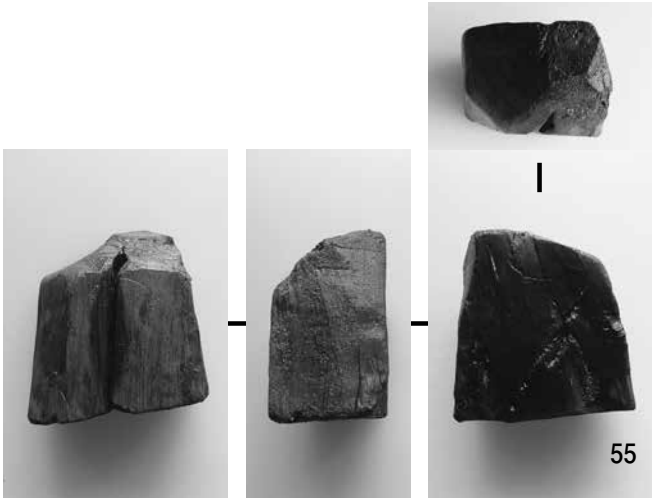
材／加工材

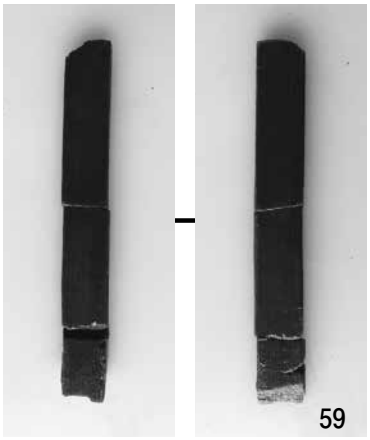






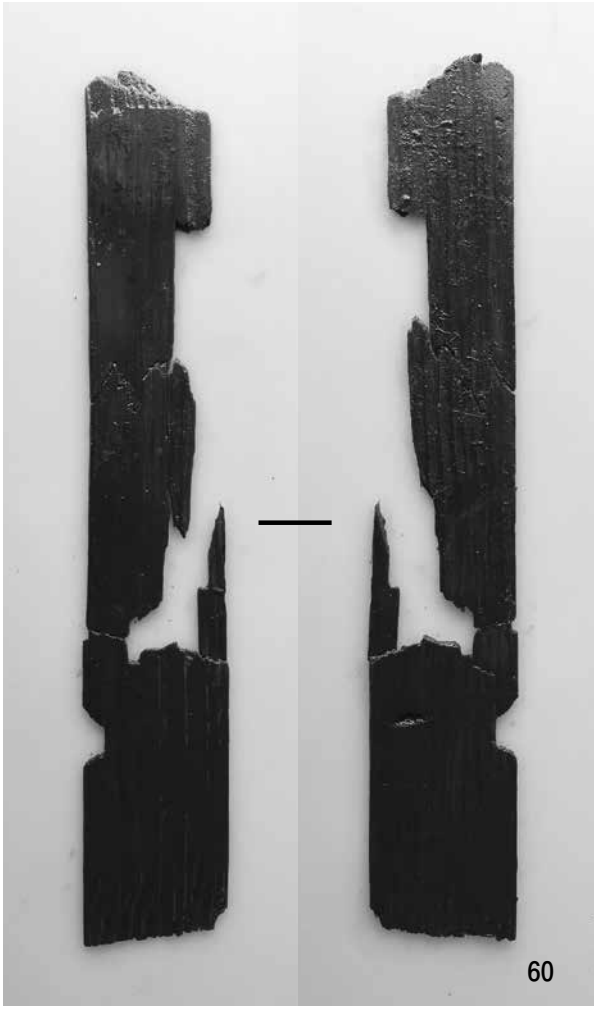






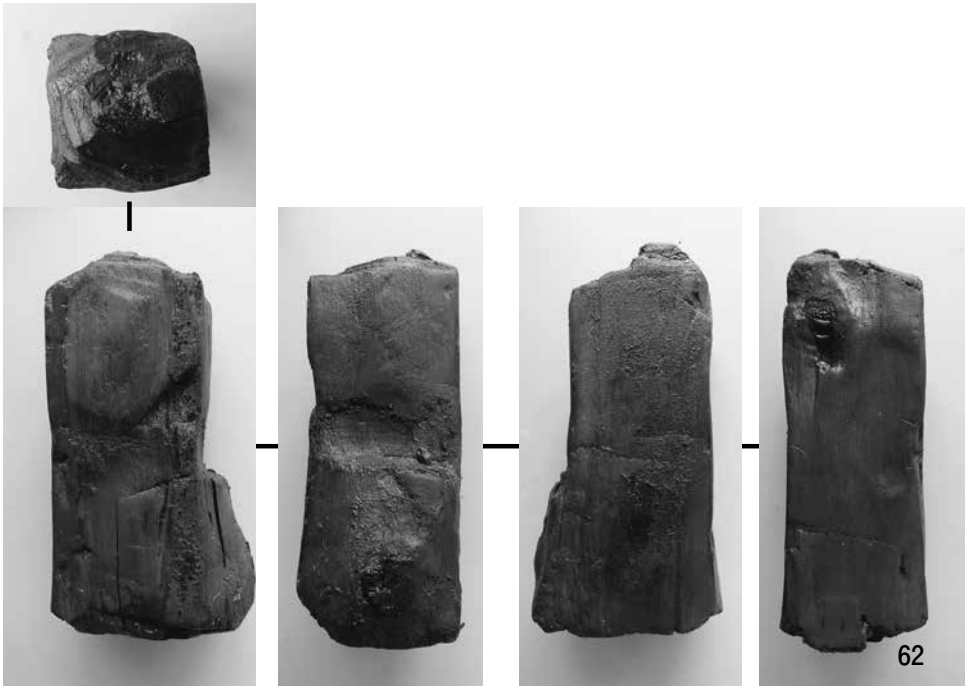
材／加工材



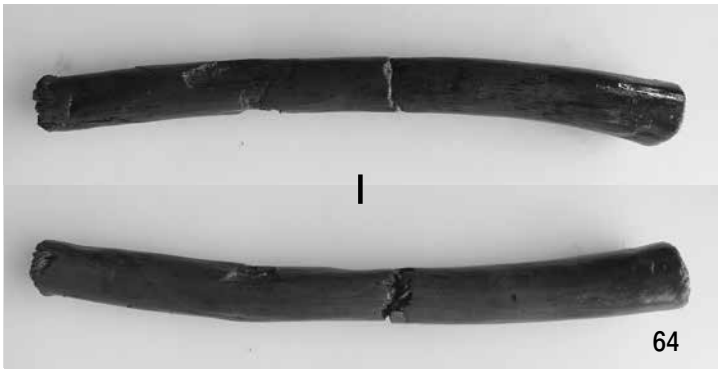


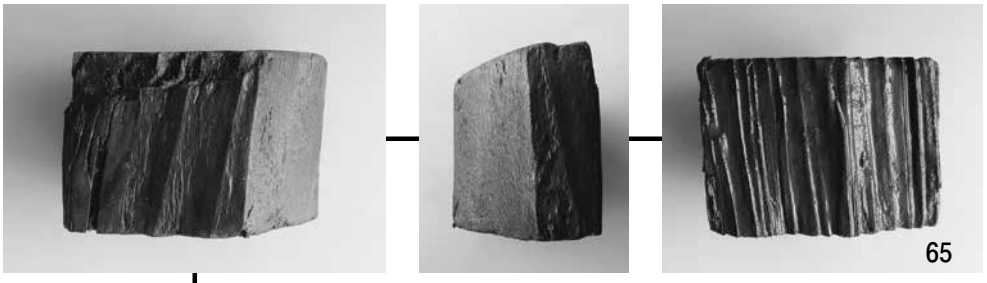


材／加工材

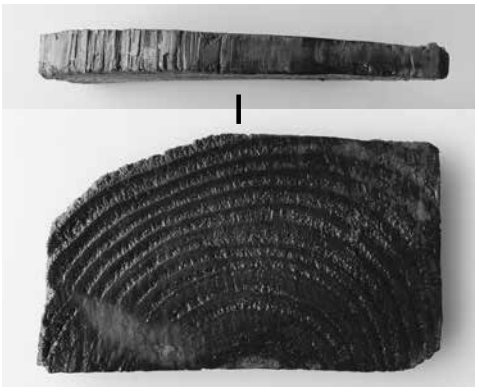

62


63


64

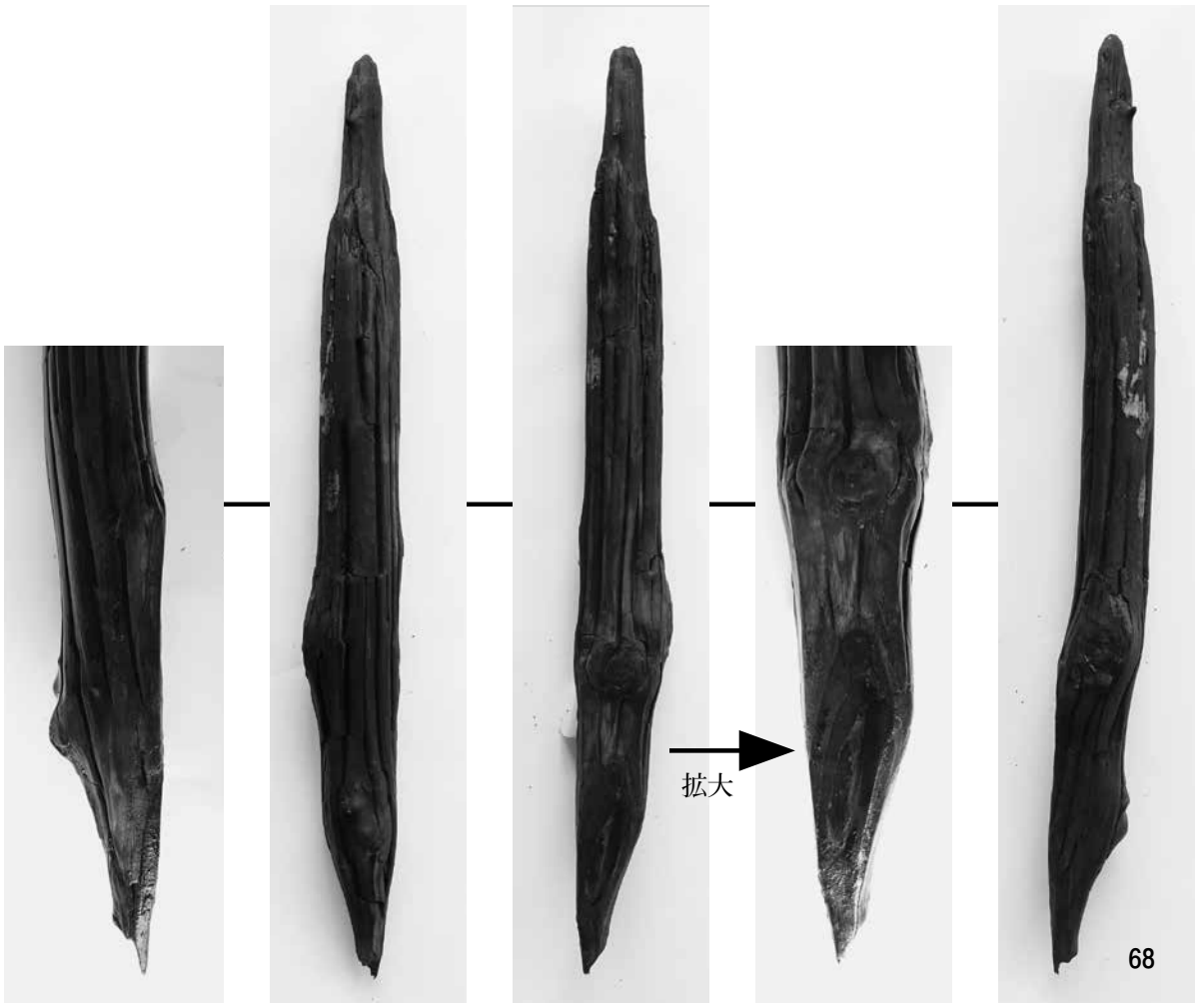

65



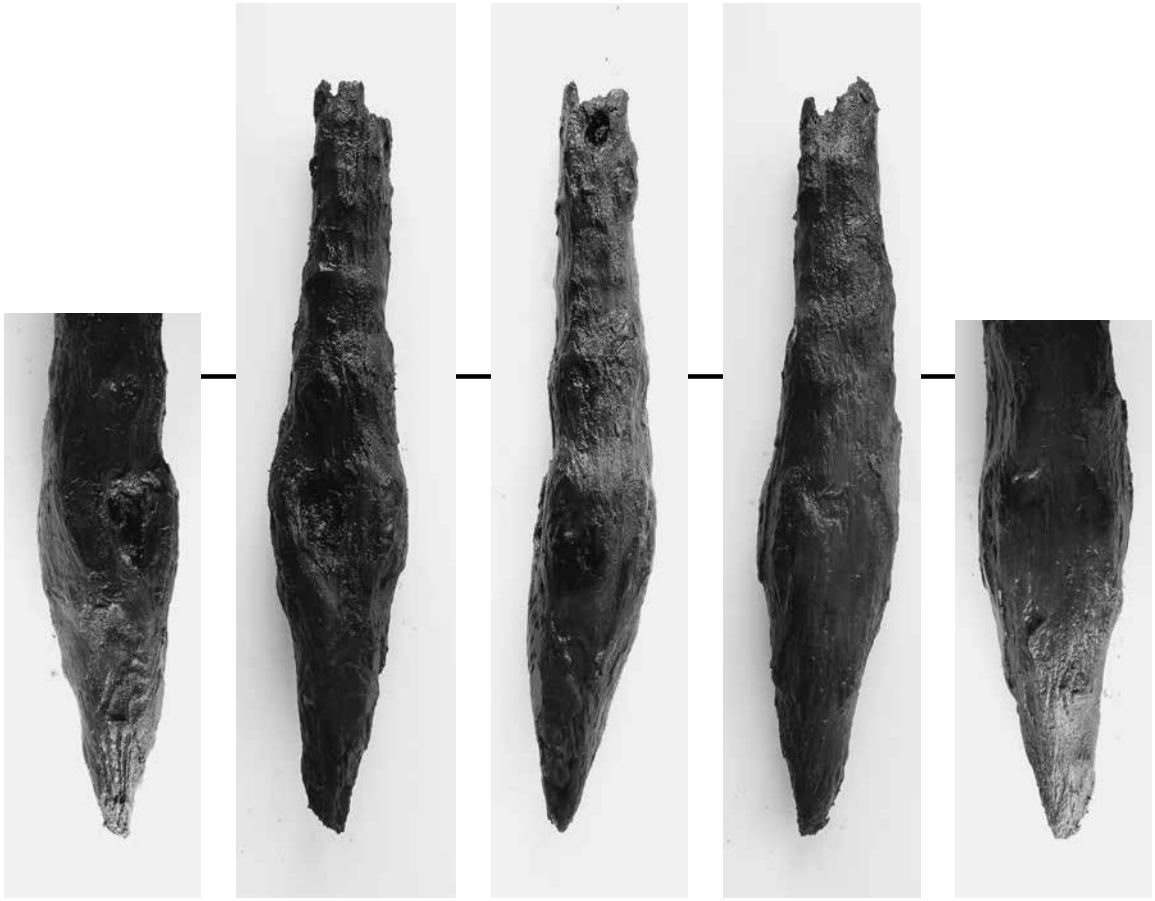

66

材／加工材





杭



69



70

杭



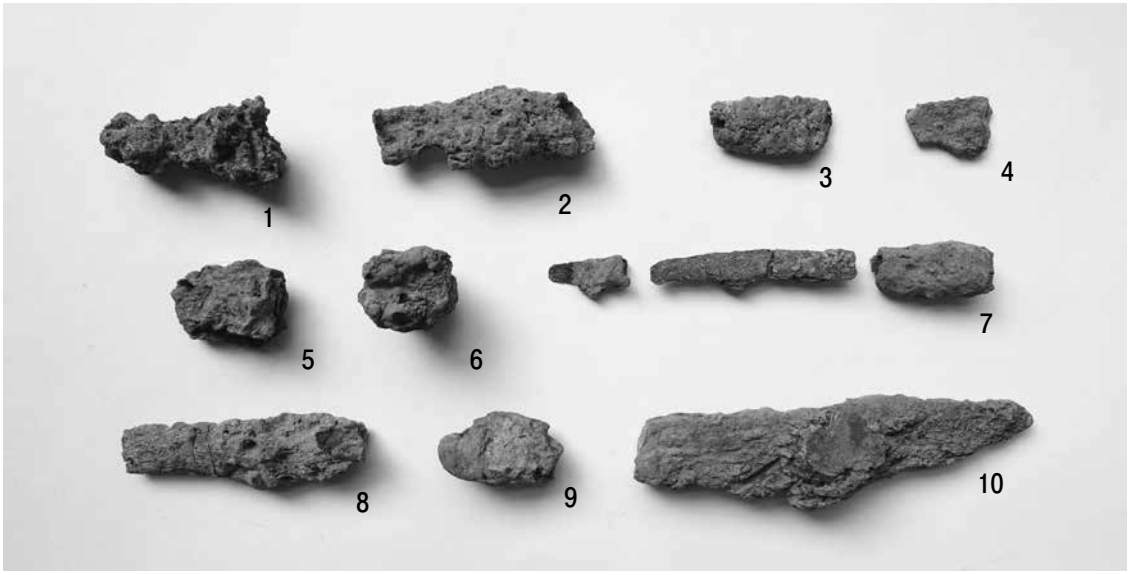
杭





ひょうたん

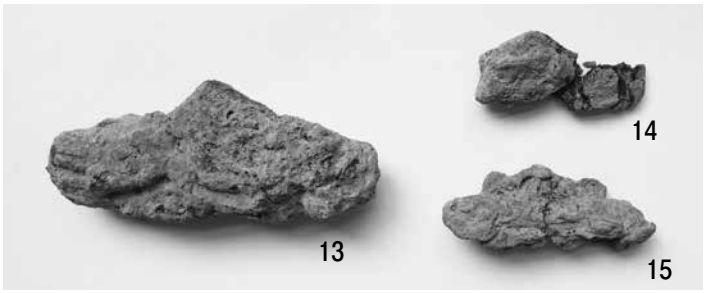
図版 35　　出土遺物　金属製品 1



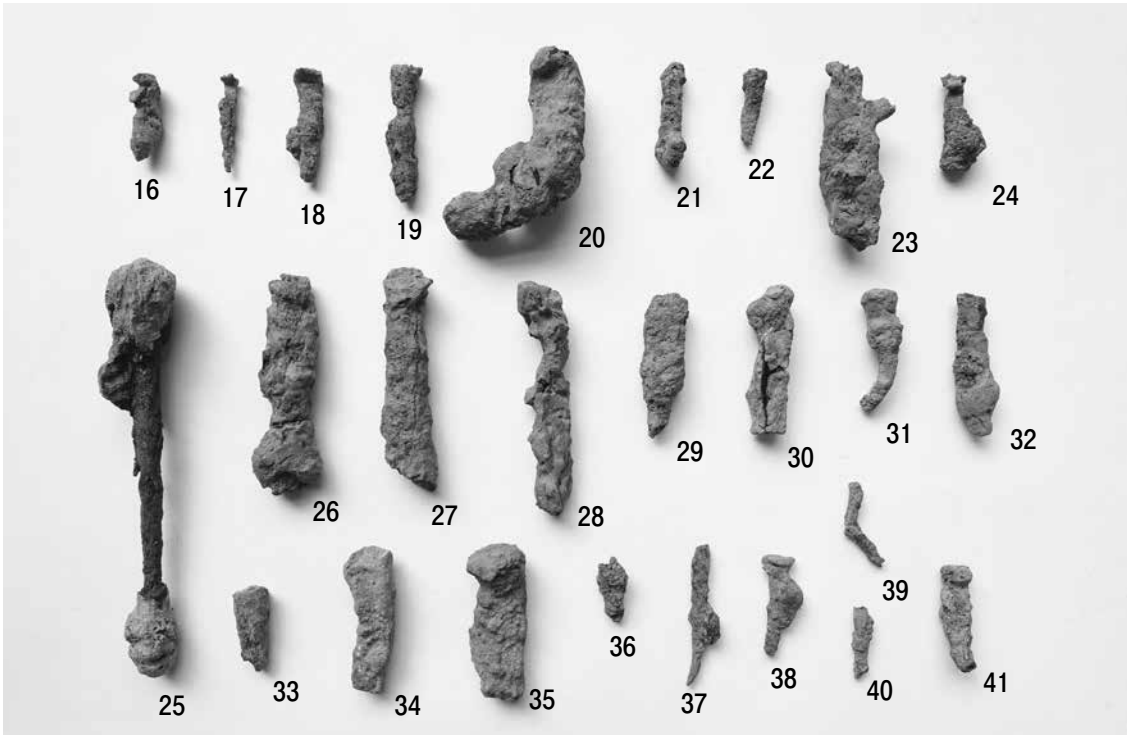
刀子



火箸



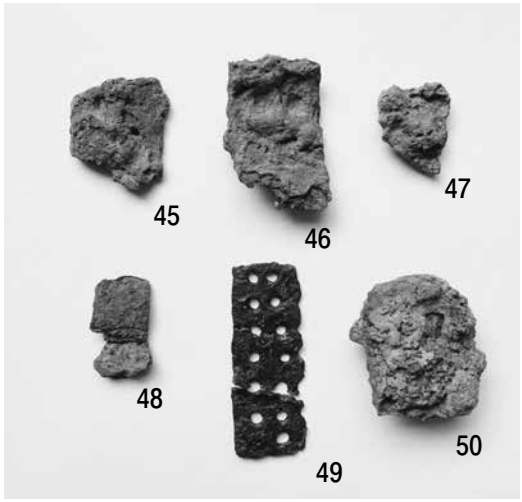
火打金



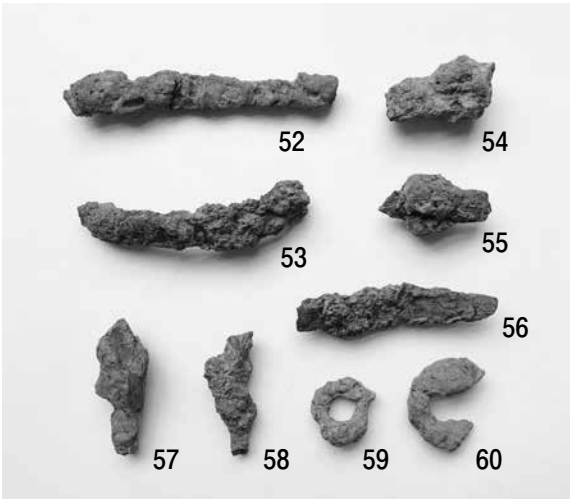
釘



釘ヵ・小刀



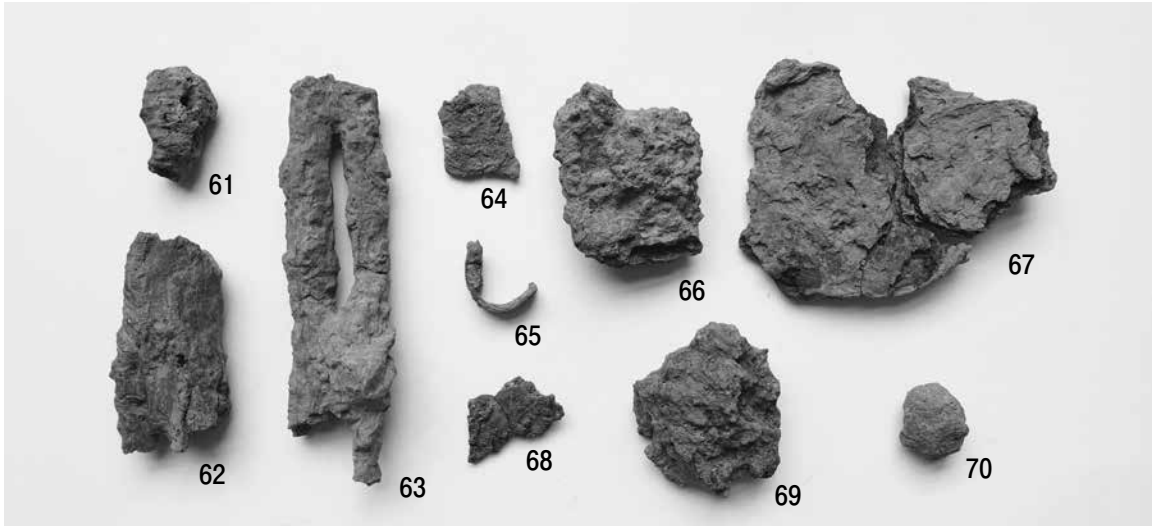
小札



小柄・鉄鏃・環状製品



小柄

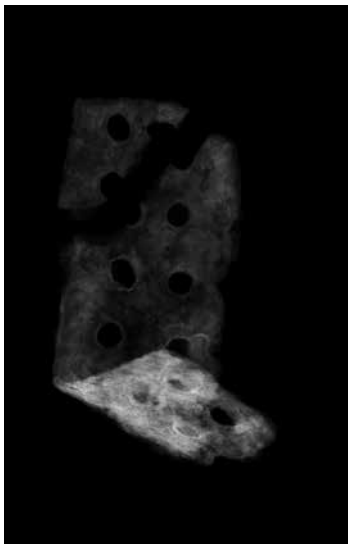


棒状製品・板状製品・塊状品

図版 37　　出土遺物　X 線写真

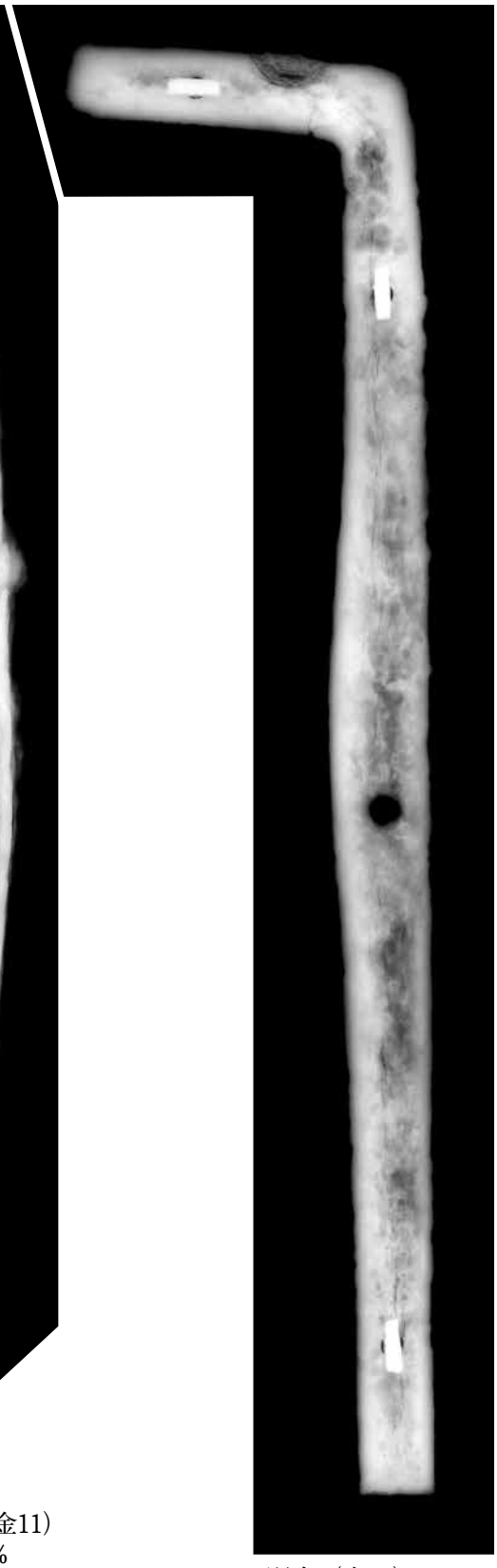


小柄（金51）　100％



小札（金49）　100％

火箸（金11）
60％



野沓（金86）　80％

報 告 書 抄 録

フ リ ガ ナ	キサイジョウアト
書 名	騎西城跡　第13次調査　－中近世編－　遺物１
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	加須市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第19集
編 著 者 名	嶋村英之・嶋村薫
編 集 機 関	加須市教育委員会
所 在 地	〒347－8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
発 行 年 月 日	西暦2026年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
私市城跡 （きさいじょうあと）	埼玉県加須市 （かぞし） 根古屋 （ねごや） 633－３～５・ ７・10・11	11421	010	A区 36°6′17″ B区 36°6′19″	139°35′4″ 139°35′4″	A区 20020218～ 20020927 B区 20020510～ 20020611	1,250 A区950 B区300	生涯学習センター建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
私市城跡	城館跡	中近世	A区 堀５／溝１／橋跡１ B区 堀１	A区 陶磁器（中国青磁・白磁・染付・褐釉四耳壺・瀬戸美濃〈＊祖母懐壺〉・常滑・渥美・備前・志戸呂・初山）・かわらけ・墨書土器・ほうろく・在地火鉢・火箸・土壁片・下駄・漆椀・白木皿・馬鎧・野沓・熔融物付着土器・銅製皿・瓦・金属加工滓 B区 陶磁器（瀬戸美濃・志戸呂）・ほうろく 在地擂鉢・金属加工滓

要 約	調査区はA・Bの２区である。江戸時代初期の絵図によるとA区は城郭部の西にある天神曲輪に、B区は二ノ丸南の堀にあたる。A区では障子堀が検出された。B１・２堀は南北方向にA１～３堀は東西方向に走行し、A３堀とB１堀が直角に接する。障子堀は１列又は２列である。 遺物はB１堀での出土が多く、その密度は騎西城の中でも屈指である。時期は16世紀に収まり、種別では在地土器、特にかわらけが多く、そのうち３点は墨書がある。貿易陶磁や火鉢・火箸、馬具、金属加工滓なども出土し、生活・武具・生業と多種に亘る。

印刷仕様

【印刷】　オフセット印刷
【製本】　並製本　糸かがり
【組版】　本文写真植字　横組　10ｐ　明朝体（23字×40行）　段組２段
【用紙】　紙　質：中性紙
表　紙：レザック66（うすあい）四六判　215kg
見返し：色上質　特厚口　アイボリー
扉　：上質紙　　Ａ判70.5kg
口絵カラー図版：アートＡ判70.5kg
巻末写真図版　：ハイコート　Ａ判70.5kg
本　文：上質紙　Ａ判57.5kg

加須市埋蔵文化財調査報告書　第19集

騎西城跡

第13次調査

－中近世編－

遺物１

令和８年３月31日発行

発　行　加須市教育委員会
〒347－8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
印　刷　関東図書株式会社